

5 看護学部看護学科(専門基礎科目)

遺伝学
栄養学
疫学
保健統計学
保健社会調査論
健康科学
臨床心理学
精神保健学
東洋医学概論
保健社会学
保健医療福祉行政論Ⅰ
保健医療福祉行政論Ⅱ
公衆衛生学

2 看護学部看護学科(専門科目)

専門科目

生態機能看護学Ⅰ
生態機能看護学Ⅱ
生態機能看護学Ⅲ
看護生化学
病態看護学Ⅰ
病態看護学Ⅱ
看護薬理学
感染・免疫看護学演習
生態・病態看護学実験
基礎看護学概論
基礎看護技術論
シンプトンマネジメント論
フィジカルアセスメント論
看護過程
看護研究
看護倫理学
基礎看護学実習Ⅰ
基礎看護学実習Ⅱ
精神看護学概論
精神看護学
精神看護学演習Ⅰ
精神看護学演習Ⅱ
精神看護学実習
成人看護学概論
成人急性看護学
成人慢性看護学
成人看護学演習Ⅰ
成人看護学演習Ⅱ
成人急性看護学実習
成人慢性看護学実習
老年看護学概論
老年看護学
老年看護学演習Ⅰ
老年看護学演習Ⅱ
老年看護学実習Ⅰ
老年看護学実習Ⅱ
小児看護学概論
小児看護学
小児看護学演習Ⅰ
小児看護学演習Ⅱ
小児看護学実習

女性看護学概論
女性看護学
女性看護学演習Ⅰ
女性看護学演習Ⅱ
女性看護学実習
在宅看護学概論
在宅看護学
在宅看護学演習Ⅰ
在宅看護学演習Ⅱ
在宅看護学実習
チーム医療論
災害看護学
国際看護学
医療安全
看護管理論
看護教育学
看護実践論
教師論
看護情報学
キャリア像確立講義Ⅰ
キャリア像確立講義Ⅱ
統合実習
専門看護学ゼミ
卒業研究
公衆衛生看護学Ⅰ
公衆衛生看護学Ⅱ
公衆衛生看護学Ⅲ
公衆衛生看護技術論Ⅰ
公衆衛生看護技術論Ⅱ
組織協働活動論
公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ
公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ
公衆衛生看護管理論
公衆衛生看護学実習Ⅰ
公衆衛生看護学実習Ⅱ
家族看護学
養護概説
学校保健学
教職実践演習(養護教諭)
養護実習事前事後指導
健康教育論
養護実習
東洋看護学演習

I. 科目情報

科目名（日本語）	遺伝学		単位	2 単位
科目名（英語）	Genetics		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	1 年次	開講時期	後期	
担当教員	芋川浩			
授業概要	本講義では、染色体やDNAの構造や機能といった遺伝学の基礎的な知識を学び、さまざまな疾病や生命現象を分子生物学的に分析・判断できることの重要性を理解する。また、ヒトゲノム解読など人類の遺伝学やゲノム医学の発展を概観するほか、クローン技術や再生医療など、遺伝学に基礎をおく最新の生命医療技術とその応用についての疑問点やその未来を理解・考察できる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生物学、看護生化学			
テキスト	ライフサイエンス 生命の神秘（芋川浩著、木星舎出版）			
参考図書・教材等	細胞の分子生物学 第6版（Newton Press）、 フロンティア生命科学(京都大学大学院生命科学研究科編、講談社)、 よくわかるゲノム医学(服部成介、水島-菅野純子、菅野純夫編、羊土社)、 e-learning に載せたスライド資料、 その他の配布資料			
実務経験を生かした授業	各種臨床検査に関わった実務経験に基づいて、疾患に関する症状の具体例などを紹介しながら、代謝にかかわる疾患の状態や症状を紹介する。また、国立研究所勤務時に実施していた遺伝病などに関する具体的な解析方法の一端を体験できるように工夫している		授業中の撮影	×
学習相談・助言体制	質問は随時受付ける（教員室訪問・メールなど）。回答方法はその内容等によって教員が随時指導助言する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	細胞遺伝学を学び、染色体の構造や細胞分裂など染色体の挙動を理解できる。また、染色体や遺伝子の異常によって引き起こされるさまざまな遺伝子疾患についての理解も深める。
	思考・判断・表現	(DP3)	遺伝子DNAを中心とした「分子遺伝学」を学び、遺伝子の構造や複製機構、がんや老化のしくみなど、生命現象を遺伝子レベルで分析するための基本事項を理解できる。さらに、遺伝子組み換え技術やクローン技術、再生医療など遺伝学を基礎とした最新の医療技術を理解し、応用できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		

①染色体と遺伝形質、②がんやがん関連遺伝子、③がんの発症メカニズム、③遺伝子突然変異、④遺伝子疾患と遺伝子治療、⑤伴性遺伝と集団遺伝、⑥老化と寿命、⑦遺伝子発現、⑧ヒトの遺伝学、⑨最先端バイオテクノロジーと今後の医療などなどについて十分に理解しわかりやすく説明できる(定期試験で90%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る)。定期試験やレポートの記述では、上述した各代謝や遺伝情報の発現などを具体的に日常生活および自分まわりの生命現象としっかりと結び付けて他者にわかりやすく説明できる。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
①染色体と遺伝形質、②がんやがん関連遺伝子、③がんの発症メカニズム、③遺伝子突然変異、④遺伝子疾患と遺伝子治療、⑤伴性遺伝と集団遺伝、⑥老化と寿命、⑦遺伝子発現、⑧ヒトの遺伝学、⑨最先端バイオテクノロジーと今後の医療などについて理解し説明できる(定期試験で60%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る)。定期試験やレポートの記述では、上述した各代謝や遺伝情報の発現などを日常生活および自分まわりの生命現象と結び付けて他者に説明できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 定期試験で90%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
A：80～89	履修目標を達成している。 定期試験で80%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 定期試験で70%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
C：60～69	到達目標を達成している。 定期試験で60%以上得点し、小テスト、レポート等でも同等の評価を得る
不可：～59	到達目標を達成できていない。 定期試験で60%以下であり、小テスト、レポートでも未提出等目標に到達できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15				15	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	50	10			10	70
思考・判断・表現	(DP3)	20	5			5	30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	小テストやレポートは、授業到達度業状況に応じて実施する。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	<p style="text-align: center;">事前・事後学習</p> <p>【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)</p>
1	オリエンテーション (講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介) (芋川 浩)	初回講義であるため、オリエンテーションとして、①これからの講義内容、②成績評価方法、③教科書や参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、今後の講義にスムーズに入れるようにする。初回の講義内容としては、遺伝学総論として、①遺伝とは何か、②遺伝病、③遺伝子と疾患などについて学習する。	<p>事前学習:初回の講義部分(遺伝学総論)に相当する教科書(未定)や参考書を読み、重要なポイントや疑問点などをまとめる。(90分)</p> <p>事後学習:初回の講義(遺伝学総論)における内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
2	細胞遺伝学① (染色体と遺伝形質、染色体と性の関係を解説する) (芋川 浩)	<p>遺伝の本体である染色体や DNA とは何か、染色体の構造やそれらの異常にかかわる遺伝病の概要などを以下の項目を中心に説明する。</p> <p>①染色体とは何か ②染色体数が意味するもの ③染色体の構造 ④体細胞分裂の基本 ⑤染色体によって決まる性</p> <p>a. 性染色体とは何か b. 雄性決定遺伝子 SRY c. 伴性遺伝 d. 性染色体以上 e. 性染色体によらない性の決定など</p>	<p>事前学習:染色体(や DNA)とそれにかかわる染色体異常などに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習:講義で実施した小テストの復習に加え、染色体(や DNA)とそれにかかわる染色体異常などに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
3	分子遺伝学① (がんやがん遺伝子について解説する) (芋川 浩)	<p>がんとは何か、およびがん化の原因などを解説し、がん遺伝子とがんとの関係についても以下の項目を中心に説明する。</p> <p>①がんとは何か a.がんという病気 b.がん細胞と正常細胞</p> <p>②がん化の原因 a.ウイルス説 b.突然変異説 c.環境要因説</p> <p>③がん遺伝子 ④がん遺伝子は正常細胞にも存在する</p>	<p>事前学習:がんやがんの発症のメカニズムに関する部分に相当する教科書(生命の神秘 p88~97)や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習:講義で実施した小テストの復習に加え、がんやがんの発症のメカニズムに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
4	分子遺伝学② (がんの発症メカニズムについて解説する) (芋川 浩)	<p>がん化の原因、およびがん発症のメカニズムを解説し、がん化の機序などを以下の項目を中心に説明する。</p> <p>①がん抑制遺伝子 a.がん原遺伝子とがん抑制遺伝子 b.家族性網膜芽細胞腫(Rb)</p> <p>②がん化の原因 2 a.突然変異説 b.環境要因説</p> <p>③がん形成のメカニズム a.高齢者になると未熟になる b.がんと突然変異数の関係 c.大腸がん d.p53 遺伝子</p> <p>④がんへの対応:がんを抑えるために</p>	<p>事前学習:がん抑制遺伝子やがん発症のメカニズムに関する部分に相当する教科書(生命の神秘 p97~105)や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習:講義で実施した小テストの復習に加え、がん抑制遺伝子やがん発症のメカニズムなどに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>

5	分子遺伝学③ (遺伝子や突然変異などについて解説する) (芋川 浩)	遺伝子や突然変異などに関するDVDを見ながら解説し、配布資料を記入することで理解を深める。前半三分の一では、これまで学習したことの復習することもできる。主に以下の項目を中心にDVDを見て学習する。 ①染色体遺伝子発現の概要 ②遺伝子発現 ③突然変異	事前学習：遺伝子や突然変異などに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子や突然変異などに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
6	分子遺伝学④ (遺伝子疾患や遺伝子治療について解説する) (芋川 浩)	遺伝子疾患や遺伝子治療などについてDVDを見ながら解説し、配布資料を記入することで理解を深める。後半では、主に以下の項目を中心にDVDを見て学習する。 ①遺伝性疾患 ②優性遺伝と劣性遺伝 ③伴性遺伝 ④遺伝子検査や遺伝子治療	事前学習：遺伝子疾患や遺伝子治療などに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子疾患や遺伝子治療などに関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
7	細胞遺伝学② (伴性遺伝と集団遺伝について解説する) (芋川 浩)	伴性遺伝と集団遺伝などについて以下の項目を中心に解説する。 ①性以外での男女の不平等 a.伴性遺伝 b.酵素の基質特異性 c.色覚異常と血友病 d.酵素反応に影響を及ぼす因子 ②集団の遺伝 a.遺伝子頻度と表現型の比 b.色覚異常と血友病の場合 c.ABO式血液型の場合 d.遺伝子疾患の場合	事前学習：伴性遺伝と集団遺伝などに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、伴性遺伝と集団遺伝などに関する講義内容、その質問や課題を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
8	細胞遺伝学③ (DNAの複製とウイルスの感染様式などを解説する) (芋川 浩)	DNAの複製とウイルスの感染様式などを以下の項目を中心に説明する。 ①DNAの複製 a.DNAポリメラーゼの働き b.DNAポリメラーゼの特徴 ②リーディング鎖とラギング鎖 ③テロメア ④DNA断片の増幅(PCR法) ⑤ウイルスの感染様式と潜在化 ⑥レトロウイルス	事前学習：DNAの複製とウイルスの感染様式などに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、DNAの複製と遺伝子発現などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
9	細胞遺伝学④ (遺伝子の形質発現を解説する) (芋川 浩)	遺伝情報の発現として、遺伝子の形質発現(転写や翻訳)などを以下の項目を中心に説明する。 ①転写 a.mRNAの働き b.RNAポリメラーゼとその働き c.センス鎖とアンチセンス鎖 d.セントラルドクマ ②翻訳 a.組織特異的タンパク質 b.タンパク質の構造 c.翻訳過程 ③ゲノム内の遺伝子分布と遺伝子数	事前学習：遺伝子の形質発現(転写や翻訳)などに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子の形質発現(転写や翻訳)などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)

10	分子遺伝学⑤（細胞死などに関わる遺伝子について解説する） (芋川 浩)	細胞の死としてのアポトーシスとネクローシスなどについて以下の項目を中心に説明する。 ①生きること、死ぬこと ②ネクローシスとアポトーシス ③アポトーシスとアヒル ④ネクローシスとアポトーシスの違い ④アポトーシスの例 a.カエルの変態 b.神経のネットワーク形成 ⑤アポトーシスの実働部隊：カスパーゼ ⑥アポトーシスの引き金 a.細胞外からの引き金 b.細胞内からの引き金	事前学習：細胞の死としてのアポトーシスとネクローシスなどに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、細胞の死としてのアポトーシスとネクローシスなどに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
11	分子遺伝学⑥（老化などに関わる遺伝子について解説する） (芋川 浩)	老化とは何か、およびその老化のメカニズムなどについて以下の項目を中心に説明する。 ①老化とは a.すべての生物は老化するのか ②早老症 a.プロジェリア症候群 b.ウェルナー症候群 ③老化とカロリー制限 ④サーチュイン遺伝子	事前学習：老化とは何か、およびその老化のメカニズムなどに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、老化とは何か、およびその老化のメカニズムなどに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
12	ゲノム医学①（ヒトの染色体およびゲノムの構造と機能について解説する） (芋川 浩)	ヒトの染色体およびゲノムの構造と機能などを以下の項目を中心に解説する。 ①染色体とは ②ヒト染色体の構造 a.ヒト染色体の構造と名称 b.染色体の必須要素—人工染色体— c.染色体の特殊な存在様式 ③染色体とクロマチン a.ヒストンとは—ヒストンの種類— b.ヌクレオソームとは c.クロマチンとは d.クロマチンから染色体へ ④ゲノム DNA とは	事前学習：ヒトの染色体およびゲノムの構造と機能などにかかわる部分について教科書や参考書等を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、ヒトの染色体およびゲノムの構造と機能などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
13	ゲノム医学②（ヒトの遺伝子疾患とその治療について最先端の内容を解説する） (芋川 浩)	クロマチン構造と遺伝子発現などにおける医学・生命科学の最先端の内容を以下の項目を中心に解説する。 ①クロマチン構造と遺伝子発現 a.クロマチン構造によりコンパクトに凝縮されたゲノム DNA は、その状態で機能できるのだろうか？ ②遺伝子発現—最先端の現状— a.プロモーターとその構造 b.RNA ポリメラーゼとその種類 c.エンハンサーとサイレンサー d.転写調節因子 e.遺伝子発現が起こるためには ③分化した細胞種の違いは何か？	事前学習：クロマチン構造と遺伝子発現などにかかわる部分について教科書や参考書等を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、クロマチン構造と遺伝子発現やエピジェネティクスなどに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)

		<p>a.すべての細胞の遺伝子は同じである④遺伝子としての DNA の種類</p> <p>a.遺伝子の数と種類 b.ユニーク配列と反復配列 c.同じ遺伝子からの異なる遺伝子発現 d.遺伝子ファミリー</p> <p>④塩基配列に支配されない遺伝子発現</p> <p>a.ゲノムのインプリンティング b.エピジェネティクス c.ユークロマチンとヘテロクロマチン d.ヒストンのアセチル化・脱アセチル化 e.DNA のメチル化・脱メチル化 f. インプリンティングのリセット</p>	
14	<p>遺伝子工学①（遺伝子工学による最先端医療について解説する） (芋川 浩)</p>	<p>バイオテクノロジーとこれからの医療などに関する最先端の内容を以下の項目を中心に解説する。</p> <p>①ヒトβヘモグロビン遺伝子</p> <p>a. 翻訳開始部位と翻訳終了部位 b.エキソンとイントロン c.プロモーター</p> <p>②遺伝子組み換え</p> <p>a.プラスミドとファージ b.制限酵素と DNA リガーゼ c 制限酵素とは d.遺伝子組み換えの実際 e.遺伝子発現が起こるためには f.遺伝子のクローニング</p> <p>③トランスジェニックニック生物</p> <p>a.細胞への遺伝子導入 b.レトロウイルスベクター c.トランスジェニックニック生物 d.ノックアウト生物 f.クローン生物</p> <p>④医療とバイオテクノロジー</p> <p>a.遺伝子診断 b.遺伝子治療 c.再生医療</p> <p>⑤未来の医学</p> <p>a.抗体医薬 b.RNA 干渉と RNA 医薬</p>	<p>事前学習：遺伝子工学などバイオテクノロジーなどにかかわる部分について教科書や参考書等を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子工学や遺伝子組み換えなどバイオテクノロジーに加え、これからの医療などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
15	<p>まとめ (芋川 浩)</p>	<p>最後の講義であるため、これまで学習してきた遺伝子の構造や遺伝子発現に加え、遺伝病などに関するこれまでの講義と関連する内容を復習整理する。</p> <p>①遺伝子やゲノムの重要ポイントのまとめ ②遺伝子発現の重要ポイントのまとめ ③遺伝病のまとめと整理 ④バイオテクノロジーと医療の最前線の解説</p>	<p>事前学習：これまで学習してきた遺伝子の構造や遺伝子発現に加え、遺伝病などにかかわる教科書や参考書、および授業資料を読み、重要ポイントや疑問点を再確認し、まとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、これまで学習してきた遺伝子の構造や遺伝子発現に加え、遺伝病などなどに関する半年間の講義内容、およびその質問や疑問点を各自で再確認し、しっかりと整理・身につける。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、講義終了後でも質問し、解決する。(90分)</p>

備考	講義への参加度なども重視しているため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるため、携帯電話等を持っていること。高等学校で生物学などを学んでいた方がよい。また、本学の看護生化学に関する知識をより深めるために、遺伝子発現と代謝疾患、遺伝子疾患などの内容もより詳細に解説するため、看護生化学を受講したものはこの遺伝学を受講を強く勧める。
----	---

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	栄 養 学		単位	2
科目名（英語）	Nutrition Science		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	青 木 哲 美			
授業概要	人間にとって「食べることは生きること」という視点から、食のもつ特性や役割について基礎知識を得ると共に、社会と疾病構造の変化による健康・栄養問題を知る。これにより食を総合的にとらえ、健康を保持・増進し、QOL（生活の質）の向上を目指した望ましい食生活のあり方について、看護にかかわる者としての役割を理解する。栄養チーム医療の一員として、栄養ケアプランの作成、実施、評価方法を修得する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	なし			
テキスト	テキスト：尾岸恵三子他編「看護栄養学」医歯薬出版、参考文献：「新ビジュアル食品成分表」大修館書店、「糖尿病食品交換表」「糖尿病性腎症食品交換表」日本糖尿病協会・文光堂			
参考図書・教材等	「新ビジュアル食品成分表」大修館書店、「糖尿病食品交換表」「糖尿病性腎症食品交換表」日本糖尿病協会・文光堂			
実務経験を生かした授業	病院 NST 専従として勤務している経験より、NST チームの構成、チーム医療の実際について講義する。(15 回目)	授業中の撮影		
学習相談・助言体制	毎回の授業終了時に書いてもらう「出席カード」にて質問し、次回の授業時に質問に答える。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	看護学における栄養学の位置づけを理解し、自らの意見を述べるができる。 食べることは生きる原点であることの意味を深く、考えることができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	栄養状態の評価・判定ができる。 疾病と栄養との関連性を理解し、自ら調べ、考えることができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
食のもつ特性や役割について基礎知識を得ると共に、社会と疾病構造の変化による健康・栄養問題を理解する事が出来る。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

自らの食への知識や食生活を省み、食を総合的にとらえ、望ましい食生活のあり方について、看護にかかわる者としての役割を理解する事が出来る。栄養チーム医療の一員として、栄養ケアプランの作成ができ、実施、評価ができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 食のもつ特性や役割について基礎知識を理解でき、社会と疾病構造の変化による健康・栄養問題を理解する事が出来、栄養チーム医療の一員としての、栄養ケアプランの作成、実施、評価ができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 食のもつ特性や役割について基礎知識を理解でき、社会と疾病構造の変化による健康・栄養問題を理解する事が出来、実践できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 食のもつ特性や役割について基礎知識を理解でき、社会と疾病構造の変化による健康・栄養問題を理解する事が出来る。
C：60～69	到達目標を達成している。 食のもつ特性や役割について基礎知識が理解できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 食のもつ特性や役割について基礎知識が理解できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	授業態度・授業への参加度	合計
総合評価割合	60		20			20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○	○			○	
思考・判断・表現	(DP3)	○	○			○	
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	看護学における栄養学の流れと位置づけ・QOLと食生活	講義。看護学における栄養学の紹介	テキスト Chapter 1,2
2	ライフサイクルと栄養（乳幼児期）～（老年期）	講義。ステージごとの特徴を概説する	テキスト Chapter 3

3	食べる行動・何を食べたらよいか	講義。心の状態と食べる行動の関わり	テキスト Chapter 4-①②
4	どれだけ食べたらよいか日本人の食事摂取基準(エネルギー)	講義、演習。実際に自分の必要量を知る	テキスト Chapter 4-③④
5	日本人の食事摂取基準(たんぱく質、脂質、等)	講義、演習。実際に自分の必要量を知る	テキスト Chapter 4-⑤
6	取り込まれた食物のゆくえ	講義。各栄養素の消化吸収の理解	テキスト Chapter 5
7	健康と栄養 健康寿命の延伸の経過、背景、課題	講義。健康寿命延伸の経緯の理解	テキスト Chapter 6
8	疾病と栄養： 栄養アセスメントと栄養療法	講義、演習。栄養アセスメントを行う	テキスト Chapter 7-①②
9	疾病と栄養： 疾患とライフサイクル、循環器疾患	講義。疾患と栄養の関連性を概説	テキスト Chapter 7-③ 1,2
10	疾病と栄養： 内分泌・代謝疾患、	講義。演習。糖尿病の交換表利用する	テキスト Chapter 7-③3
11	疾病と栄養： 腎疾患・痛風	講義。演習。腎臓病の交換表利用する	テキスト Chapter 7-③4
12	疾病と栄養： 消化器疾患	講義。消化器疾患と栄養の関連性を概説	テキスト Chapter 7-③ 5
13	疾病と栄養： 食物アレルギー、褥瘡、摂食嚥下障害	講義。疾患と栄養の関連性を概説	テキスト Chapter 7-③6～8
14	精神疾患、呼吸器疾患、がん	講義。疾患と栄養の関連性を概説	テキスト Chapter 7-③ 9～11
15	在宅患者の栄養管理、チーム医療：栄養サポートチームの実際	講義。栄養管理の必要性理解を勧める。NST におけるチーム医療説明。	テキスト Chapter 7-④⑤
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他(エネルギー等自分の必要量の算出)							○	○										
内容				各自、自分の栄養必要量を算出し、自分の必要量を知る。また結果を発表し、性別、体格、による必要量の違いを理解する。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	疫学			単位	2tann
科目名（英語）	Epidemiology			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状		
標準履修年次	2年次	開講時期	後期		
担当教員	増満 誠				
授業概要	疫学の基本的事項を理解することを目的に、疫学の考え方、疫学指標と疫学研究について学ぶ。あわせて、疫学研究で用いられる概念、用語、統計学的手法についても解説する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	統計学を履修し統計に関する基礎的知識を有し、さらに保健統計学を履修していることが望ましい。				
テキスト	大木秀一「看護疫学入門」医歯薬出版株式会社				
参考図書・教材等	田中平三「疫学入門演習-原理と方法-」南山堂 中村好一「基礎から学ぶ 楽しい疫学」医学書院				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	授業は受講者のレディネスや授業進行に伴う理解度、個々人の到達目標に合わせ集団又は個別に演習を進めていきます。相談がある場合は、授業終了直後かメールでの対応、または直接研究室を訪ねてください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	疫学とは何かについて述べることができる。
		(DP 2)	疫学で用いられる各種指標を理解し、計算できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
疫学の概念と疫学研究方法について十分に理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を適切に述べるができる。さらには、その示す指標を改善するために必要なアプローチについて主体的に探究し考え、表現することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
疫学の概念と疫学研究方法について理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を適切に述べることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

疫学概念と疫学研究方法について十分に理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を適切に述べることができる。さらには、その示す指標を改善するために必要なアプローチについて考え、表現することができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
疫学概念と疫学研究方法について十分に理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を述べることができる。また、その示す指標について改善方法を考えることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
疫学概念と疫学研究方法について理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を述べることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
疫学概念と疫学研究方法について理解し、各疫学の指標を求めることができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
疫学概念と疫学研究方法について理解が不十分であり、各疫学の指標を求めることが十分ではない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	15			5		100
知識・理解	(DP1)	30	5			5		40
	(DP2)	50	10					60
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	疫学の概要 (増満 誠)	以下の内容について講義する。 1) 疫学の語源や定義 2) 疫学の対象と領域 3) 疾病と曝露 (要因)	事前学習: 疫学の歴史について、海外とわが国それぞれにおける「疫学の父」について調べたうえで授業に臨む。(90分) 事後学習: 私たちの生活の中での「疾病と曝露」について、その要因について調べ、振り返る。(90分)

2	疾病頻度の指標（増満 誠）	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 危険因子と予防因子 2) 疾病の自然史 3) 疾病頻度の指標（割合・率・比） 4) 有病率、累積罹患率 	<p>事前学習：疾病頻度の各指標（割合・率・比、有病率、累積罹患率）について、どのような場面で使用されているのかをまとめてくる。（90分）</p> <p>事後学習：授業で提示された指標の数値と実際の任意の行政等の数値を比較し考察する。（90分）</p>
3	疾病頻度の測定（増満 誠）	<p>以下の内容について演習を交えて講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 死亡率、罹患率、致命率 2) 人年法 	<p>事前学習：疾病頻度の各指標（死亡率、罹患率、致命率）について、どのような場面で使用されているのかをまとめてくる。（90分）</p> <p>事後学習：授業で提示された指標（数値）と実際の任意の行政等の数値を比較し考察する。（90分）</p>
4	スクリーニング①（増満 誠）	<p>以下の内容について演習を交えて講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スクリーニング実施の原則 2) ROC 曲線、カットオフポイント 	<p>事前学習：私たちがこれまでに経験したスクリーニング検査について、どのようなスクリーニング検査があったのか、またその方法や目的・意味について調べておく。（90分）</p> <p>事後学習：スクリーニング実施の原則について、意味内容をしっかり復習しておく。（90分）</p>
5	スクリーニング②（増満 誠）	<p>以下の内容について演習を交えて講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 敏感度、特異度、偽陽性率、偽陰性率、陽性反応的中度、陰性反応的中度 2) スクリーニング検査に伴うバイアス 	<p>事前学習：スクリーニング検査で求められる各指標についてその意味について表にまとめてくる。（90分）</p> <p>事後学習：国家試験過去問題を検索し、敏感度、特異度、偽陽性率、偽陰性率、陽性反応的中度、陰性反応的中度に関する問題を解き理解を深める。（90分）</p>
6	疫学調査法（増満 誠）	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象集団の選定 2) 調査方法（生態学的研究・横断研究） 	<p>事前学習：疫学調査法の種類と内容について、対象集団の選定方法を表にまとめてくる。（90分）</p> <p>事後学習：：国家試験過去問題を検索し、生態学的研究・横断研究に関する問題を解き理解を深める。（90分）</p>
7	記述疫学研究（増満 誠）	<p>以下の内容について演習を交えて講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 記述疫学研究 2) 年齢調整死亡率 3) 標準化死亡比 	<p>事前学習：私たちの生活の中で使用されている年齢調整死亡率や標準化死亡比について、その数値や意味について調べてくる。（90分）</p> <p>事後学習：：国家試験過去問題を検索し、年齢調整死亡率や標準化死亡比に関する問題を解き理解を深める。（90分）</p>

8	症例対照研究（増満 誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 症例対照研究 2) オッズ比	事前学習：症例対照研究についてその目的と方法、オッズ比が意味することを調べておく。（90分） 事後学習：国家試験過去問題を検索し、症例対照研究、オッズ比に関する問題を解き理解を深める。（90分）
9	コホート研究①（増満 誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) コホート研究 2) 相対危険 3) 寄与危険	事前学習：コホート研究について調べるとともに、コホート研究の中における種類を時間軸で考えてくる。（90分） 事後学習：国家試験過去問題を検索し、相対危険と寄与危険に関する問題を解き理解を深める。（90分）
10	コホート研究②（増満 誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 寄与危険割合 2) 人口寄与危険 3) 人口寄与危険割合	事後学習：前時の事後学習に引き続き、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合の意味を調べる。（90分） 事後学習：国家試験過去問題を検索し、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合に関する問題を解き理解を深める。
11	因果関係（増満 誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 因果関係の判定基準（因子）	事前学習：因果関係の判定基準について代表的なものを調べてくる。（90分） 事後学習：国家試験過去問題を検索し、因果関係に関する問題を解き理解を深める。（90分）
12	標本抽出（増満 誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 標本抽出法（無作為抽出法など）	事前学習：標本抽出法を調べ、エビデンスレベル別に系統的にまとめる。（90分） 事後学習：国家試験過去問題を検索し、標本抽出法に関する問題を解き理解を深める。（90分）
13	交絡因子（増満 誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 交絡因子とその制御法 以下の内容について演習を交えて講	事前学習：交絡因子の制御法について、その種類と意味について調べておく。（90分） 事後学習：国家試験過去問題を検索し、交絡因子とその制御法に関する問題を解き理解を深める。（90分）
14	疫学用語のまとめ（増満 誠）	義する。 1) 疫学用語	事前学習：国家試験出題基準の用語について、それぞれの用語を説明できるか照合しながら振り返り授業に臨む。（90分） 事後学習：説明できなかった用語についてまとめ一覧表を作成し理解を深める。（90分）

15	疫学指標の求め方まとめ（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 各疫学指標の求め方	事前学習：公衆衛生においてどのような場面で疫学指標が活用されているか検索する。（90分） 事後学習：各疫学の指標の計算式の一覧を作成し、その共通性や相違性を明らかにする。（90分）
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（プレゼンテーション）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	保健統計学		単位	2単位
科目名（英語）	Statistics in Health and Welfare		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師、保健師、養護教諭	
標準履修年次	2年次	開講時期	前期	
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子			
授業概要	わが国の保健統計の推移と現況を最新のデータを用いて論じ、世界の状況についても学ぶ。あわせて、わが国の保健課題の地域格差についても探索的に学んでいく。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業「公衆衛生学」（1年次）にて扱われた知識。			
テキスト	『厚生指標 臨時増刊 国民衛生の動向（最新年版）』厚生統計協会			
参考図書・教材等				
実務経験を生かした授業	梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。さらに、「感染症対策」「AIDSの最新事情」のコマについては、現在実務をされている講師（認定看護師等）による授業を行う。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受付、返却時にコメントを追加して回答する			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	わが国の保健統計の推移と現況の概要を述べることができる。
		(DP2)	資料のもつ情報を多面的・批判的に分析できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
わが国の保健統計の推移と現況の概要を理解しており、資料のもつ情報を多面的・批判的に分析できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
わが国の保健統計の推移と現況の概要を理解しており、資料のもつ情報を分析できる（最終試験にて60点以上を得ること）。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
C：60～69 到達目標を達成している。			
不可：～59 到達目標を達成できていない。			

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他 (事前・事後学習)	合計
総合評価割合		90					10	100
知識・理解	(DP1)	45					5	50
	(DP2)	45					5	50
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	人口静態 ・保健統計学とは何か ・静態と動態の違い ・人口静態 ・世帯とは何か (松浦)	教科書を解説し、ポイントをおさえていく。(講義形式) グループワーク	【事前学習】教科書第2編第1章「人口静態」を読んでもくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 【事後学習】授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
2	人口動態① ・グラフの見方・出生の動向 ・都道府県別の出生 ・出生順位と母親の年齢 ・出生児の体重と身長 ・妊娠期間別の出生 ・出生の国際比較 (松浦)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式) グループワーク	【事前学習】教科書第2編第2章「人口動態」の前書きと「1. 出生」部分を読んでもくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 【事後学習】授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
3	人口動態② ・死亡の動向 ・死因の概要 ・悪性新生物・心疾患 ・脳血管疾患・肺炎 (松浦)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式) グループワーク	【事前学習】教科書第2編第2章「人口動態」の「2. 死亡」部分を読んでもくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 【事後学習】授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。
4	人口動態③ ・外因死	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式) グループワーク	【事前学習】教科書第2編第2章「人口動態」の「3. 妊産婦死亡」～「7. 婚姻と離婚」部分を読んでもくる。また、図表についてはその意味するところ、着目した

	<ul style="list-style-type: none"> ・死亡の国際比較 ・妊産婦死亡 ・死産・周産期死亡 ・乳児死亡・婚姻と離婚 (松浦)		<p>ところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
5	<p>保健対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健 ・老人保健 ・障害児者施策 ・精神保健・歯科保健 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第3編第2章「保健対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
6	<p>生命表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命表とは ・平均余命 ・平均寿命 ・死因分析・死亡状況の変化 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第2編第3章「生命表」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
7	<p>感染症対策</p> (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	<p>[事前学習] インターネットで厚生労働省の「感染症の予防について」のページへいき、そのページにある下記の参考資料を読んでおくこと。疑問点があれば書き出しておくこと。</p> <p>【・インフルエンザ予防リーフレット・ノロウイルス食中毒予防対策リーフレット・手洗手順リーフレット・皆様へのお願い ～感染症予防のために～・流水で手洗できない場合の手指消毒について・咳エチケットで感染症予防・避難所内のトイレの衛生管理について・浸水した家屋の感染症対策について・清掃作業時に注意してください・清掃と乾燥が重要です】</p> <p>[事後学習] 授業中にとったノートを見返して、配布された資料に書かれていた意味を確認しておく。</p>
8	<p>健康状態と受療状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康状態・自覚症状 ・通院者の状況 ・受療状況・受療率 ・在院日数 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第2編第4章「健康状態と受療状況」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
9	<p>医療対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療計画 ・在宅医療の推進・訪問看護・ ・救急、休日夜間診療 ・医療関係者・医療施設 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第2編第5章「医療対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
10	<p>労働衛生対策・環境保全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業医・労働衛生管理の基本 ・事業場における管理 	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第8編第2章「主な労働衛生対策」部分と、第9編第4章「環境保全対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・職業性疾病予防・健康診断 ・職場のメンタルヘルス ・大気汚染対策 ・水質汚濁対策・地球環境 (原田)		<p>目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
11	生活習慣病対策 <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の概念 ・健康日本 21 ・健康増進対策 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第3編第1章「生活習慣病と健康増進対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
12	医療・介護保険制度 <ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度の概要 ・診療報酬 ・公費医療・国民医療費 ・介護保険制度の概要 ・介護報酬 ・介護サービス施設 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第4編第2章「医療保険制度」部分と第5編「介護保険」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
13	疾病対策 <ul style="list-style-type: none"> ・がん ・難病 ・腎疾患 ・リウマチ ・アレルギー (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第3編第4章「疾病対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
14	AIDSの最新事情 <ul style="list-style-type: none"> ・HIV検査 ・AIDSの臨床知識 ・AIDS治療の現在 ・患者の高齢化 ・慢性疾患としてのAIDS (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	<p>[事前学習] インターネットで「平成30(2018)年エイズ発生動向年報(1月1日～12月31日)」(令和元年8月29日厚生労働省エイズ動向委員会)の「委員長コメント」「平成30年エイズ発生動向-概要-」「発生動向の分析結果」をダウンロード・印刷し、読んでおく。疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業中にとったノートを見返して、配布された資料に書かれていた意味を確認しておく。</p>
15	学校保健 <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健行政 ・学校保健活動 ・学齢期の健康状況 ・特別支援教育 (梶原)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	<p>[事前学習] 教科書第10編「学校保健」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○											
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	保健社会調査論		単位	2
科目名（英語）	Health Care Survey Research		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期	
担当教員	小出昭太郎			
授業概要	<p>統計を用いた質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の方法を学ぶ。質問紙調査はしばしば、「知りたいことを一つ一つ尋ねる質問を並べて質問紙をつくり、1番の選択肢を選んだ人が○%、2番の選択肢を選んだ人が△%、というように集計するだけのもの」と捉えられている。しかし、方法を学び、計画を吟味して質問紙調査を行えば、より確かであり有用な物事を知ることができ、卒業研究や病院・地域等における研究の主要な方法の一つとして用いることができる。また、質問紙調査を行う方法を学ぶと、質問紙調査が用いられた論文を正しく読めるようになり、研究や業務に役立つであろう。</p> <p>演習は少人数のグループで行う。学生の到達度に応じて授業計画を変更することがある。</p>			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	テキストはなし。配布資料を用いる。			
参考図書・教材等	授業中に紹介する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	随時、対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行うための基礎的な知識を理解し身につける。
	思考・判断・表現	(DP3)	質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行う際の基礎的な論理的思考・判断力を身につける。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	質問紙調査を学ぶ意義を理解し、学びに積極的に取り組む。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
助言を受けながら、自ら質問紙調査を行うことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行うための基礎的な知識を理解し身につける。学びに積極的に取り組む。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	演習、演習報告書	合計
総合評価割合				50			50	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			○			○	○
思考・判断・表現	(DP3)			○			○	○
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						○	○
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	イントロダクション	講義 配布資料を用いて、質問紙調査の概要について講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、質問紙調査の概要についての理解を確実なものにする。
2	調査テーマの検討	演習 調査テーマの検討を、個人またはグループで行う。	進捗状況に応じて演習 (調査テーマの検討) の続きを行う。(DP2,3,5)
3	調査の流れ	講義 配布資料を用いて、調査の流れについて講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、調査の流れについての理解を確実なものにする。
4	調査テーマの検討	演習 調査テーマの検討を、個人またはグループで行う。	進捗状況に応じて演習 (調査テーマの検討) の続きを行う。(DP2,3,5)
5	文献検討	講義 配布資料を用いて、文献検討について講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、文献検討についての理解を確実なものにする。
6	調査の企画と文献検討	演習 調査の企画と文献検討を、グループで行う。	進捗状況に応じて演習 (調査の企画と文献検討) の続きを行う。(DP2,3,5)

体験学習／調査学習															
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容	質問紙調査の演習を行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	健康科学			単位	2単位
科目名（英語）				授業コード	
必修・選択	選択	関連資格			
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	松浦賢長・石田智恵美・江上千代美・尾形由起子・原田直樹・梶原由紀子				
授業概要	科学的根拠に基づいた健康と運動の概念や運動が健康に与える影響を学習し、自己の健康維持・増進について考える。また、医療従事者を目指す者として、運動器の障害や介護予防等の観点から、運動の重要性について学んでいく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	参考資料：適宜紹介する。				
実務経験を生かした授業	「スポーツ傷・障害の臨床」「テーピングの意義と実際」のコマについては、現在実務をされている講師（整形外科医師等）による授業を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時で受付、メールによる相談も可。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	健康と運動の概念や運動が健康に及ぼす影響について説明できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	自己の身体の状態を知り、健康維持・増進について考えることができる。
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
健康と運動の関連と健康の維持増進について理解できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
健康と運動の関連と健康の維持増進について理解し、そのための実践を説明することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
C：60～69	到達目標を達成している。		
不可：～59	到達目標を達成できていない。		

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				70			30	100
知識・理解	(DP1)			70				70
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						30	30
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	スポーツの歴史とその発展 ～国の施策を踏まえながら～ （松浦）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
2	有酸素運動（1） （石田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
3	有酸素運動（2） （石田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
4	運動と生理 （江上）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
5	バイオフィードバック （江上）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
6	体育と学習指導要領（1） ～新しい身体活動の視点～ （原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
7	体育と学習指導要領（2） ～主体的な学びとその深化～ （原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
8	ヒトの身体動作（1） ～回旋を中心に体験する～ （松浦）	演習形式	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
9	ヒトの身体動作（2） ～コーディネーションを体験する～（松浦）	演習形式	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。

10	運動中の事故 ～重大事故の検証～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式) グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
11	スポーツ傷・障害の臨床 (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
12	運動器とその健診 ～しゃがんで歩く等～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
13	テーピングの意義と実際 (松浦・原田・梶原)	演習形式	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
14	障害者スポーツの実際 (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
15	運動を続けていくために ～ロコモティブシンドローム 予防等～(尾形)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]については、授業中に提示する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク	○							○	○	○		○	○				
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	臨床心理学	単位	2
科目名（英語）	Introduction to Clinical Psychology	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	公認心理師、保育士
標準履修年次	3年	開講時期	前期
担当教員	岩橋宗哉		
授業概要	臨床心理学の成り立ちについて学ぶ。 クライアントへの基本的なかかわり方、理解の仕方について事例を通して学習する。 現代の代表的な臨床心理学の理論である、精神分析、体験過程療法、認知行動療法についての基本的な考え方について学習する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書・教材等	参考文献：成田義弘・氏原寛「共感と解釈」人文書院（1999）マラン「心理療法の臨床と科学」誠信書房（1992）、ミルトン「精神分析入門講座」岩崎学術出版社（2006）、北山修「精神分析理論と臨床」誠信書房（2001）、松木邦裕「対象関係論を学ぶ」岩崎学術出版社（1996）、アン・ワイザー・コーネル「フォーカシング・ニューマニュアル」コスモス・ライブラリー（2005）、福盛英明他編「マンガで学ぶフォーカシング入門」誠信書房（2005）、山上敏子「行動療法」岩崎学術出版社（1990）、内山喜久雄他編「＜ケーススタディ＞認知行動カウンセリング」至文堂（2004）		
実務経験を生かした授業	臨床心理士、公認心理師で病院臨床の経験がある者が、事例等を用いて臨床心理学の概念を説明する	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を用紙に書いてもらい、次回に、答えていきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメール等で予約してください		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	クライアントへのかかわり方の基本を説明することができる。 代表的な心理療法の基本的考え方について説明することができる。 神経症性障害、パーソナリティ障害、うつ病などの精神病理について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	事例を読み、それを理解し、自らの考えを述べるすることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	DP2の内容について、具体的な事例の理解を踏まえて説明することができる。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

DP2の内容について説明することができる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合								
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	○		○				70
思考・判断・表現	(DP3)	○						30
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	臨床心理学の成り立ち	講義	配布資料を読む
2	心理面接における共感	講義と体験学習	配布資料を読む
3	プレゼンスの重要性－認知症の事例を通して－	事例を活用した講義	配布資料を読む
4	フォーカシングと体験過程療法	講義	配布資料を読む
5	精神分析の基本的な枠組み（力動論）	講義	配布資料を読む
6	精神分析の基本的な枠組み（治療関係）	事例を活用した講義	配布資料を読む
7	遊戯療法の事例を通してみる心の世界1	事例を活用した講義	配布資料を読む

8	遊戯療法の事例を通してみる心の世界2	事例を活用した講義	配布資料を読む
9	認知行動療法の基本的枠組み	講義	配布資料を読む
10	認知行動療法の実際	事例を活用した講義	配布資料を読む
11	神経症性障害	講義	配布資料を読む
12	ナルシシズムとパーソナリティ障害	講義	配布資料を読む
13	事例を通して学ぶーひきこもりー	事例を活用した講義	配布資料を読む
14	うつ病について	講義	配布資料を読む
15	事例を通して学ぶーうつ病ー	事例を活用した講義	提示した課題をまとめる
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習					○														
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容				共感的な応答について体験学習する。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神保健学			単位	2
科目名（英語）	Mental Health			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	小嶋秀幹				
授業概要	公認心理師、精神保健福祉士、保健師、養護教諭等、将来、精神保健福祉に従事する学生に必要な精神保健学の基礎知識を講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	e-learning を利用する。				
テキスト	テキスト：精神保健士養成セミナー編集委員会第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」〈第6版〉（へるす出版、2017年、3200円）				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が講義する。				授業中の撮影
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	講義テーマの内容を正しく説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解し、内容を説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解し、最低限の内容を説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、内容を的確に説明できる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、内容を概ね説明できる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、基本的な内容は説明できる。			

C : 60～69	到達目標を達成している。
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解した上で、最低限の内容は説明できる。	
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。
ライフサイクルにおける精神保健、精神保健活動の実際について理解できておらず、内容の説明ができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80		20				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○		○			
思考・判断・表現	(DP3)	○		○			
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	精神保健とは(1)	講義	テキスト第1章を読む
2	精神保健とは(2)	質疑応答、講義	テキスト第1章を読む
3	ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-1)	質疑応答、講義	テキスト第2章Iを読む
4	ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-2)	質疑応答、講義	テキスト第2章Iを読む
5	ライフサイクルにおける精神保健(学童期-1)	質疑応答、講義	テキスト第2章IIを読む
6	ライフサイクルにおける精神保健(学童期-2)	質疑応答、講義	テキスト第2章IIを読む
7	精神保健活動の実際(家庭)	質疑応答、講義	テキスト第4章Iを読む
8	ライフサイクルにおける精神保健(思春期)	質疑応答、講義	テキスト第2章IIIを読む
9	ライフサイクルにおける精神保健(青年期)	質疑応答、講義	テキスト第2章IVを読む
10	精神保健活動の実際(学校)	質疑応答、講義	テキスト第4章IIを読む
11	ライフサイクルにおける精神保健(成人期-1)	質疑応答、講義	テキスト第2章Vを読む
12	ライフサイクルにおける精神保健(成人期-2)	質疑応答、講義	テキスト第2章Vを読む
13	精神保健活動の実際(職場)	質疑応答、講義	テキスト第4章IIIを読む
14	ライフサイクルにおける精神保健(老年期)	質疑応答、講義	テキスト第2章VIを読む

15	精神保健活動の実際（地域）	質疑応答、講義	テキスト第4章IVを読む
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	東洋医学概論		単位	1 単位
科目名（英語）	Introduction to Oriental Medicine		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	2 年	開講時期	前期	
担当教員	科目責任者：増満 誠 科目担当者：田原英一 他			
授業概要	東洋医学の観点から基本的病態、診察（看護）実技を教授する。臨床現場の患者事例を通じ、学んだ知識・技術から“ホリスティックに人を捉える”、“気づきの看護”とは何かを考え、広い視野で人を見る力を身に付けることを目指す。毎回、講義内容に準じた診断実技（演習）を行い、知識と技術を関連させた理解を図る。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人体の構造と機能、病態、薬理学、基礎看護技術論など、西洋医学がベースになった基本的な看護に関する知識・技術を身につけて、臨むことが前提である。既習した知識・技術をもって東洋医学に関する考えを知り、より深く広い視野で人を見る力を身につけていく。			
テキスト	事前に講義内容ごとのレジメを e-learning 上アップしている。 各自、授業前に印刷・持参すること。			
参考図書・教材等	『はじめての漢方診療 ノート』 医学書院 『はじめての漢方診療 十五話』 医学書院			
実務経験を生かした授業	<ul style="list-style-type: none"> 日頃より漢方診療に携わり、日本東洋医学会漢方専門医・指導医であり、漢方専門医認定機関（九州支部）における講師を担当する医師が、複数（オムニバス）で授業を担当する。 長年、看護教育における東洋医学に携わった看護教員が授業補助にあたる。 		授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	授業前後もしくは出欠カードの記載で質問・相談を受け付ける。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	東洋医学の健康概念や病気の捉え方について理解できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	患者をホリスティックに捉えるための東洋医学的視点の観察力・判断力を身につけることができる。
		(DP5)	看護の学びの過程で起こる疑問に対し、東洋医学の視点からも解決を図ろうと考えることができる。
技能	(DP10)	患者アセスメントに五感を用いた全身観察（四診）法を活用できるとともに、症状に対する看護を考えることができる。	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<ul style="list-style-type: none"> 東洋医学の歴史、理論（陰陽虚実など）、診断（証、四診）および漢方の成り立ち、種類、効果などを理解し、説明することができる。 近年の臨床における漢方の広がりや社会的ニーズの高まりを知り、東洋医学に関する知識をより身につけようと自己学習を深めることができる。 患者をホリスティックに捉えるための東洋医学的視点の観察力・判断力を身につけ、自身の看護に結び付けて考えることができる。 			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 東洋医学の歴史、理論（陰陽虚実など）、診断（証、四診）および漢方の成り立ち、種類、効果などを理解することができる。 ➤ 近年の臨床における漢方の広がりや社会的ニーズの高まりを知ることができる。 ➤ 患者をホリスティックに捉えるための東洋医学的視点の観察力・判断力を身につけ、自身の看護に結び付けて考えることができる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	東洋医学の歴史、理論（陰陽虚実など）、診断（証、四診）および漢方の成り立ち、種類、効果などを理解し、説明することができる。また自己の看護の考えに生かし展開することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	東洋医学の歴史、理論（陰陽虚実など）、診断（証、四診）および漢方の成り立ち、種類、効果などを理解することができる。また自己の看護の考えに生かし展開しようとするすることができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	東洋医学の歴史、理論（陰陽虚実など）、診断（証、四診）および漢方の成り立ち、種類、効果などを一部理解することができる。また自己の看護の考えに生かそうとするすることができる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	東洋医学の歴史、理論（陰陽虚実など）、診断（証、四診）および漢方の成り立ち、種類、効果などを知ることができる。また自己の看護を振り返ることができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10				10	100
知識・理解	(DP1)	25	5				30
	(DP2)	25	5				30
思考・判断・表現	(DP3)	15					15
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	15				5	20
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					5	5
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	総論 歴史、陰陽、剤型、証、四診	基本的に授業は、 座学:参加型≒2:1で展開する。 【座学：講義形式】 講義はスクール形式で、学生の理解と授業参加を促すため、適宜、簡単な質問を講師より振っていく。 【参加型：演習】 概ね60分の上記の講義終了後、実技実践として、脈診や舌診、腹診などを学生間で行う。学生30名程度につき漢方専門医がラウンドで技術指導にあたる。また看護教員が補助としてつき、学生理解を促す なお、腹診はベッド上臥床位で腹部を露出し診断者-患者役で交代で演習をおこなう。 質問は、適宜、受け付ける。	事前学習： 授業内容に該当する項目についての「はじめての漢方診療ノート」を一読しておくこと。 事後学習： 授業で使用したレジメおよび授業内容に該当する「はじめての漢方診療ノート」を見直し、学習内容の理解を深める。 復習を通して新たな疑問があった場合は、次回の授業に質問ができるよう整えておくこと。	各コマ 事前学習 60分 事後学習 120分
2	六病位、太陽病 脈診			
3	少陽病、陽明病 脈診、舌診、腹診			
4	陰証 望診、切診全般（脈診、足）			
5	血の失調 関連の四診			
6	水の失調 関連の四診			
7	気の失調 関連の四診			
8	診察と診断のまとめ 副作用、まとめ			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業前後もしくは出欠カードの記載で質問・相談を受け付ける。 注意：6月3日より授業を開始する。原則、毎週水曜5限開講。詳細は、授業初回到説明する。 演習時、腹部が出しやすい服装（上下セパレートの服。特にパンツスタイルが望ましい）で受講すること。ジャージ、ユニホーム着用可。 			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○										
				1	2	3	4	5	6	7	8		
	講義回数												
	発見学習/問題解決学習												
	体験学習/調査学習												
	グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク												
	その他 ()												
	内容												

I. 科目情報

科目名（日本語）	保健社会学			単位	1
科目名（英語）	Health Sociology			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状		
標準履修年次	1年	開講時期	後期		
担当教員	小出昭太郎				
授業概要	この授業の目的は、医療・看護・保健と社会との関わりを理解することである。第1に、病気や健康に関する取り組みには、病院で行われるもの以外にも様々なものがある。そしてそれらは、（病院で行われるものも含めて、）社会的なしくみや人と人との関わりの中で行われている。第2に、ある人が病気になるかどうかには様々な事柄が影響を及ぼしており、その人の社会的環境（職業や人間関係など）もそのひとつである。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	テキストはなし。配布資料を用いる。				
参考図書・教材等	授業中に紹介する。				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受け付け、次回の授業の際に回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	医療・看護・保健と社会との関わりについて理解し、知識を得る。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	医療・看護・保健と社会との関わりに関心を持つ。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
医療・看護・保健における問題の把握・解決に役立てられるほど十分に、医療・看護・保健と社会との関わりについて理解し知識を得て、思考し表現することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
医療・看護・保健と社会との関わりについて理解し知識を得る。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100						100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	○					○
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	○					○
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	近代的な治療の特質	配布資料を用いて、近代的な治療の特質について講義する。 質疑応答を行う。	事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、近代的な治療の特質について説明できるようにする。(DP2,5)
2	障害と社会的環境・社会的支援	1つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、障害と社会的環境・社会的支援との関係、国際生活機能分類について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1つ前の回に配布された資料を読む。(DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、障害と社会的環境・社会的支援との関係について説明できるようにする。(DP2,5)
3	患者と専門家	1つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、医師-患者関係、セルフヘルプグループについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1つ前の回に配布された資料を読む。(DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、医師-患者関係、セルフヘルプグル

			ープについて説明できるようにする。 (DP2,5)
4	家族による高齢者介護と産業化	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、家族による高齢者介護の状況、産業化の家族への影響、などについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、家族による高齢者介護の状況、産業化の家族への影響、などについて説明できるようにする。(DP2,5)
5	死と社会	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、日本人の死との向き合い方などについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、日本人の死との向き合い方について説明できるようにする。(DP2,5)
6	健康・病気の社会的要因	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、病気の原因、病気の社会的な原因、などについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、病気の社会的な原因について説明できるようにする。(DP2,5)
7	社会経済的地位と健康・病気	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、社会経済的地位と健康・病気との関係について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、社会経済的地位と健康・病気との関係について説明できるようにする。 (DP2,5)
8	社会的紐帯と健康・病気	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、社会的紐帯と健康・病気との関係について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、社会的紐帯と健康・病気との関係について説明できるようにする。(DP2,5)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	保健医療福祉行政論 I			単位	1
科目名（英語）	Policies on Health Care and Welfare I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師、保健師、公認心理師		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	四戸智昭・小出昭太郎				
授業概要	保健・医療・福祉の臨床現場で働く際に求められる必要な制度や政策について学ぶ科目である。少子・高齢の時代を迎えた現代社会においては、従来の保健や福祉の制度や政策が大きな転換点を迎えている。また従来の仕組みが新しい人々の生活に対応できなくなったり、従来の保健・医療・福祉の枠組みの変換だけでは、人々の幸せを維持できなくなりつつある。保健・医療・福祉の専門職が、相互に連携を取りながら、この新しい局面に対応していくことが求められる。この科目では、保健・医療・福祉の制度や政策について、特に専門職種の連携という視点から理解を深めるとともに、人々の生活上の問題や健康問題を取り上げながら、人々を支える行政システムについて深い理解をすることが目的である。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし				
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等	授業時に指示する。				
実務経験を生かした授業					授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールによる質問を受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	わが国の保健医療福祉行政の基礎知識を得ること
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	保健医療福祉に関する現代の諸課題について関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲があること
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明でき、かつ課題等について自分の意見が述べられる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明できる			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明でき、かつ課題等について自分の意見が述べられており、特定の行政課題について主体的な学習を行っている。			

A：80～89	履修目標を達成している。
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明でき、かつ課題等について自分の意見が述べられている。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について説明できる	
C：60～69	到達目標を達成している。
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について知識の獲得が最低限できている。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
わが国の保健医療福祉行政に関する基礎的な事柄について知識の獲得できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40〔50〕		10〔0〕				50〔50〕
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	30〔40〕		10〔0〕				40〔40〕
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)	10〔10〕						10〔10〕
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		成績評価は、〔 〕外配分が四戸担当分の割合。〔 〕内配分が小出担当分の割合。最終成績は、四戸担当分、小出担当分をそれぞれ100点満点で算出し、その平均を最終成績とする。最終成績が6割に満たない場合は、再試験を行う。（再試験方法については、再試験が行われる時に通知する。）						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	保健医療福祉行政について（四戸智昭）	講義 日本国憲法や、わが国の行政機関の役割について学習する。 ノートを取りながら授業に参加すること	事前学習（80分）： 日刊紙を1つ決め、保健医療福祉に関連する記事を3日分読む。 事後学習（70分）： 授業のノートをまとめる。
2	生活保護祉制度について（四戸智昭）	講義 わが国の生活保護制度について学習する。 ノートを取りながら授業に参加すること	事前学習（80分）： 日刊紙を1つ決め、保健医療福祉に関連する記事を3日分読む。 事後学習（70分）： 授業のノートをまとめる。
3	高齢者福祉と介護保険制度（四戸智昭）	講義 わが国の介護保険制度について学習する。 ノートを取りながら授業に参加す	事前学習（80分）： 日刊紙を1つ決め、保健医療福祉に関連する記事を3日分読む。 事後学習（70分）：

		ること	授業のノートをまとめる。
4	子ども福祉と児童虐待問題 (四戸智昭)	講義 子どもの福祉、字度虐待について 学習する。 ノートをとりながら授業に参加す ること	事前学習 (80分) : 日刊紙を1つ決め、保健医療福祉に関 連する記事を3日分読む。 事後学習 (110分) : 授業のノートをまとめる。 まとめの小テストを受講する
5	医療保障 (小出昭太郎)	講義 配布資料を用いて、医療保障につ いて講義する。 質疑応答を行う。	事後学習 (180分) 配布資料全体を見直すなどして、医療 保障についての理解を確実なものにす る。
6	医療法 (小出昭太郎)	講義 前回の授業で提出されたレスポン スカードに回答する。 配布資料を用いて、医療法につい て講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (30分) 配布資料は前回の授業のときに配布す るので、それを読む。 事後学習 (150分) 配布資料全体を見直すなどして、医療 法についての理解を確実なものにす る。
7	所得保障、公的扶助 (小出昭太郎)	講義 前回の授業で提出されたレスポン スカードに回答する。 配布資料を用いて、所得保障と公 的扶助について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (30分) 配布資料は前回の授業のときに配布す るので、それを読む。 事後学習 (150分) 配布資料全体を見直すなどして、所得 保障と公的扶助についての理解を確実 なものにする。
8	保健医療福祉の財政 (小出昭太郎)	講義 前回の授業で提出されたレスポン スカードに回答する。 配布資料を用いて、保健医療福祉 の財政について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (30分) 配布資料は前回の授業のときに配布す るので、それを読む。 事後学習 (150分) 配布資料全体を見直すなどして、保健 医療福祉の財政についての理解を確実 なものにする。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	保健医療福祉行政論 II			単位	2
科目名（英語）	Policies on Health Care and Welfare II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	看護師、		
標準履修年次	4年	開講時期	後期		
担当教員	四戸智昭・小出昭太郎				
授業概要	<p>現在、わが国は未曾有の少子・高齢の時代を迎えている。人々の生活の基盤を支える保健・医療・福祉制度や政策は、この時代の変化に対応すべく大転換を求められようとしている。またこういった大転換にあっては、制度や政策がそこに住む人々の生活に細やかに対応するために、より柔軟で、スピーディーな対応が地方自治体には求められる。本科目では、主に住民の健康維持活動の担い手となる保健師に必要な保健・医療・福祉制度や政策について理解を深めることが目的である。またこれまでよりもさらに住民主体の保健制度や福祉制度を地域で構築するために、保健や福祉に対する住民ニーズの把握や、新しい計画や施策の立案に必要な素養を養うことも本講義の重要な目的である。</p>				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	保健医療福祉行政論 I を履修していることが望ましい。				
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等	授業時に指示する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メールによる質問を受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する知識を得ること
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	保健医療福祉に関する現代の諸課題について関心を持ち、それを解決しようとする意欲があること
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する知識に基づき、国民の健康と福祉の向上に資するためのより良い保健活動について自ら考え、周辺の諸課題について自ら解決するための意欲があること。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する基礎的な知識を得ていること。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する知識に基づき、国民の健康と福祉の向上に資するためのより良い保健活動について自ら考え、周辺の諸課題について自ら解決するための意欲があること。また特定の行政課題について主体的な学習を行っていること。
A：80～89 履修目標を達成している。
保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する知識に基づき、国民の健康と福祉の向上に資するためのより良い保健活動について自ら考え、周辺の諸課題について自ら解決するための意欲があること。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する基礎的な知識を説明できること。
C：60～69 到達目標を達成している。
保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する基礎的な知識を最低限得ていること。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する基礎的な知識の獲得ができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		25〔15〕	0〔35〕			25〔0〕	50〔50〕
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	25〔15〕	0〔25〕				25〔40〕
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		0〔10〕			25〔0〕	25〔10〕
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	成績評価は、〔 〕外配分が四戸担当分の割合。〔 〕内配分が小出担当分の割合。評価指標の「その他」については、四戸担当分の講義において、グループワークへの参加度によって評価することを意味する。試験は、四戸担当分と小出担当分についてそれぞれ、授業内小テストとして実施する。最終成績は、四戸担当分、小出担当分をそれぞれ100点満点で算出し、その平均を最終成績とする。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	保健と福祉の行政（小出）	配布資料を用いて、保健と福祉の行政について講義する。 質疑応答を行う。	事後学習（180分） 配布資料全体を見直すなどして、保健と福祉の行政についての理解を確実なものにする。
2	歴史（小出）	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、保健・医療・福祉の歴史について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習（30分） 「保健医療福祉行政論Ⅰ」の単元「医療保障」の歴史のところを復習する。 事後学習（45分） 授業では詳しくは説明されなかった補

			足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、保健・医療・福祉の歴史についての理解を確実なものにする。
3	医療供給(1) (小出)	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、医療供給について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (75分) 「保健医療福祉行政論Ⅰ」の単元「医療法」を復習する。 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (45分) 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、医療供給についての理解を確実なものにする。
4	医療供給(2) (小出)	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、医療供給について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (45分) 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (45分) 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、医療供給についての理解を確実なものにする。
5	包括ケア (小出)	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、包括ケアについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (90分) 他の科目の包括ケアについての内容を復習する。 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (45分) 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、包括ケアについての理解を確実なものにする。
6	地方財政 (小出)	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、地方財政について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (45分) 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (45分) 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、地方財政についての理解を確実なものにする。
7	地方分権(1) (小出)	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、地方分権について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (45分) 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (45分) 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、地方分権についての理解を確実なものにする。
8	地方分権(2) (小出)	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、地方分権について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 (45分) 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 (615分) 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、地方分権についての理解を確実なものにする。 小出担当部分の最終レポートに取り組む。

9	オリエンテーションとアイスブレイク（四戸）	グループワーク 保健師として、集団をマネジメントする技術について様々なアイスブレイク方法についてグループワークを通じて学習する。 講義 四戸担当の講義に関するオリエンテーション	事前学習（180分） 保健医療福祉行政論Ⅰで学習した内容について復習する。
10	国民が健康で暮らすための法的根拠について（四戸）	講義 日本国憲法の基本的人権について解説を行う。 アクティブラーニング 日本国憲法を読みながら、基本的人権の尊重や国民が健康で暮らすための法的根拠について、グループで討論しグループの意見を発表する	事前学習（90分） 保健医療福祉行政論Ⅰで学習した日本国憲法に関する事柄、三権分立について復習する。 事後学習（90分） 授業で学習した内容について自学ノートをもとめる
11	住民の命と健康を守るための保健医療福祉行政について（四戸）	講義 岩手県沢内村の医療福祉について理解するための解説を行う。 アクティブラーニング 地域住民の命と健康を守るために、保健師としてどのような努力が求められるかについてグループで討論しグループの意見を発表する。	事前学習（90分） 保健医療福祉行政論Ⅰで学習した日本国憲法の基本的人権の尊重、生存権について学習する。 事後学習（90分） 授業で学習した内容について自学ノートをもとめる
12	保健医療福祉行政の法的基盤（四戸）	講義 保健医療福祉行政の法的基盤について、テキストを用いて理解を深める。 アクティブラーニング 行政とは何か、保健医療福祉行政とは何かについて、グループ討論をしながら理解を深める。	事前学習（90分） 保健医療福祉行政の法的基盤に関するテキストについて熟読し、疑問点や自分の考えをまとめる 事後学習（90分） 保健医療福祉の法的基盤について、授業で学習した内容について自学ノートをもとめる
13	地域における保健課題をどう捉えるか（四戸）	講義 ひきこもりについて、嗜癪行動学的視点から捉えた課題の所在や課題解決のヒントについて解説を行う アクティブラーニング 地域における保健課題について、保健師としての役割と関わり方について、グループ討論を通じて理解を深める。	事前学習（90分） 健康の社会的決定要因「ソリッド・ファクト」についてテキストを熟読し、疑問点や自分の考え方をまとめる 事後学習（90分） 授業で学習した内容について、自学ノートをもとめる
14	健康至上主義とラベリング理論（四戸）	講義 ナチスが行った障害者の大量虐殺と、その大量虐殺に加担した医療従事者たちの当時の考え方について解説を行う。 アクティブラーニング 現代社会で行われている、弱者やマイノリティへのラベリングと、ラベリングの影にある見えにくい考え方についてグループ討論を通じて理解を深める。	事前学習（90分） 健康の社会的決定要因「ソリッド・ファクト」についてテキストを熟読し、疑問点や自分の考え方をまとめる 事後学習（90分） 授業で学習した内容について、自学ノートをもとめる
15	まとめと確認テスト（四戸）	講義 これまで学習した内容について、振り返りながら、キーワードを中心に解説を行う。 確認テスト 学習した内容についての理解度を測るための論述式の確認テストを	事前学習（180分） これまでの自学ノートについて、とりまとめ、理解を深める。

		行う。(確認テストは、自分で作成した自学ノートを見ながら回答する) 確認テストについて、解説を行う。	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク												○	○	○	○	○	○		
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生学	単位	2 単位	
科目名（英語）	Public Health	授業コード		
必修・選択	必修	関連資格	看護師、保健師、養護教諭	
標準履修年次	1 年次	開講時期	後期	
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子			
授業概要	公衆衛生の歴史をふまえ、公衆衛生の概念・意義、民主制・三権分立における展開の方法を理解させ、現代的な課題に対する各種取り組みと解決方法、関連職種の協働のあり方、国際的な視野への発展等を教授する。また、地域における公衆衛生の今日的課題を演習し、その解決に向けた各種機関・資源の利活用・連携方法の実際を教授する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	民主主義の方法に関する知識と、国際関係に関する知識。			
テキスト	『コンパクト公衆衛生学（最新版）』朝倉書店			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業	原田は「精神保健福祉」「保健と福祉」のコマを、梶原は「学校保健」のコマをそれぞれの実務経験（精神障害者支援団体運営、学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。さらに、「災害と健康」「保健と福祉－児童虐待への対応」のコマについては、現在実務をされている講師による授業を行う。	授業中の撮影	無	
学習相談 ・助言体制	レスポンスカードで受付、オフィスアワーで回答			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	公衆衛生について、その概念と現代的課題について述べるができる。
		(DP 2)	公衆衛生の理念に基づき、健康の考え方、疾病予防や健康増進のための保健予防活動について述べるができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
公衆衛生の概念と現代的課題、健康増進のための考え方と保健活動について理解した上で、自分なりの興味有る公衆衛生分野において主体的な態度で学ぶこと、または取り組むことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
公衆衛生の概念と現代的課題、健康増進のための考え方と保健活動について理解できる（最終試験にて 60 点以上を得ること）。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他 (事前・事後学習)	合計
総合評価割合		90					10	100
知識・理解	(DP1)	45					5	50
	(DP2)	45					5	50
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	公衆衛生の課題 (A)近代の公衆衛生の歴史 (B)感染症から生活習慣病へ (C)生活習慣から社会経済要因へ (松浦)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式) グループワーク	[事前学習]教科書の目次、第1部の扉、第1章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出しておく。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]教科書第1章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。
2	日常生活環境と健康 (A)空気の組成 (B)音と振動 (C)気圧 (D)放射線・電磁波 (E)温熱 (F)季節、気象 (G)室内環境 (H)水 (I)廃棄物処理 (原田)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事前学習]教科書第4章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出しておく。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]教科書第4章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。

3	<p>人口問題と出生・死亡</p> <p>(A)世界の人口</p> <p>(B)日本の人口</p> <p>(C)出生と死亡</p> <p>(D)家族の状況 (松浦)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p> <p>グループワーク</p>	<p>〔事前学習〕教科書第2章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>〔事後学習〕教科書第2章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>
4	<p>環境汚染と公害</p> <p>(A)有害環境と健康障害</p> <p>(B)公害</p> <p>(C)地域環境と最近の環境問題</p> <p>(D)環境保全 (原田)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>〔事前学習〕教科書第5章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>〔事後学習〕教科書第5章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>
5	<p>栄養と健康</p> <p>(A)食事と栄養</p> <p>(B)食の安全 (原田)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>〔事前学習〕教科書第6章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>〔事後学習〕教科書第6章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>
6	<p>感染症とその予防</p> <p>(A)感染症の成立</p> <p>(B)感染症の流行</p> <p>(C)感染症の予防法</p> <p>(D)感染症指定医療機関</p> <p>(E)感染症の予防</p> <p>(F)院内感染</p> <p>(G)主な感染症の推移と現状</p> <p>(H)その他の感染症</p> <p>(I)生物テロ (梶原)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>〔事前学習〕教科書第7章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>〔事後学習〕教科書第7章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>
7	<p>母子保健</p> <p>(A)母子保健の統計</p> <p>(B)21世紀の母子保健</p> <p>(C)母子保健法に基づく施策</p> <p>(D)その他の母子保健・医療・福祉施策 (原田)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>〔事前学習〕教科書第10章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>〔事後学習〕教科書第10章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>

8	<p>精神保健福祉</p> <p>(A)今日の精神保健福祉の課題</p> <p>(B)精神保健福祉の歴史と現状</p> <p>(C)主要な精神障害</p> <p>(D)精神障害の医療</p> <p>(E)地域精神保健福祉の組織</p> <p>(F)精神障害者福祉と社会復帰対策</p> <p>(原田)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>[事前学習]教科書第13章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習]教科書第13章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>
9	<p>国際保健</p> <p>(A)国際保健協力の動向</p> <p>(B)国連の保健医療に関する専門機関</p> <p>(C)わが国の国際保健協力</p> <p>(松浦)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p> <p>グループワーク</p>	<p>[事前学習]教科書第20章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習]教科書第20章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>
10	<p>学校保健</p> <p>(A)学校保健の意義と歴史</p> <p>(B)行政制度、組織と運営</p> <p>(C)学校保健管理</p> <p>(D)保健教育</p> <p>(E)学校安全</p> <p>(梶原)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>[事前学習]教科書第11章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習]教科書第11章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>
11	<p>成人保健・生活習慣病</p> <p>(A)健康日本21</p> <p>(B)わが国の死因の概要</p> <p>(C)成人期の健康課題と保健活動</p> <p>(D)特定健康診査・特定保健指導</p> <p>(原田)</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>[事前学習]教科書第14章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習]教科書第14章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。</p>
12	<p>災害と健康</p> <p>(松浦・原田・梶原)</p>	<p>災害対応の実例を中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>[事前学習]教科書第16章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。また、平成29年7月に発生した九州北部豪雨災害についてインターネットで概要を調べておく。</p> <p>[事後学習]授業で配布されたスライド資料と授業中にとったノートを見返して災害対応の実例をまとめておく。</p>
13	<p>保健と福祉－障害者福祉への対応</p> <p>(A)福祉の概念とその変遷</p> <p>(B)障害者の生活支援</p>	<p>教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）</p>	<p>[事前学習]教科書第18章(A)(B)を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。</p> <p>[事後学習]教科書第18章(A)(B)にある</p>

	(原田)		赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。
14	社会経済的要因と健康 (A)健康の社会的決定要因 (B)貧困と格差 (C)人のつながりと健康 (D)ヘルスリテラシー (松浦)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式) グループワーク	[事前学習]教科書第8章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]教科書第8章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。
15	保健と福祉－児童虐待への対応 (C)児童虐待とその対応 (松浦・原田・梶原)	虐待対応の実例を中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事前学習]教科書第18章(C)を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。また、近年生じた児童虐待のケースを3件取り上げ、インターネットで各専門機関の対応について調べてくる。 [事後学習]教科書第18章(C)にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○		○						○					○	
その他()																		
内容				グループワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	生態機能看護学 I			単位	2 単位
科目名（英語）	Anatomy and Physiology I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	1 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：江上千代美 科目担当者：塩田 昇 科目担当者：松山美幸				
授業概要	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。すべての生命体は外界からの刺激を受け止め、外界とのやりとりを通して個体の維持を行うとともに、種を存続させていく。人間が「生きている」および「よく・うまく・たくましく生きていく」ための脳の構造と機能を学び、動物としての人間が人間らしく存在するために必要な「運動」と「休息」についても学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし				
テキスト	「新・看護生理学テキスト」南江堂・「カラー人体解剖学」西村書店				
参考図書・教材等	「トートラ人体解剖生理学」丸善、e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験の経験豊富な教員が、生態機能の正常と異常を看護に活かせるように講義する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	連絡先は別途配布する連絡先資料参照してください。 Appointment をメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	人体の構造と機能（感覚、神経系、運動系、内分泌系など）の知識を具体的に述べるができる。	
		(DP2)		
	思考・判断・表現	(DP3)		指定されたレポートを作成することで、人体の構造と機能に関するメカニズムについて表現することができる。
		(DP4)		
	関心・意欲・態度	(DP5)		これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つことができる。
		(DP6)		
	技能	(DP7)		
		(DP8)		
		(DP9)		
		(DP10)		
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。			
<p>看護の臨床判断能力の基礎となる生理学とは分子から個体まで体の動きのメカニズムを分析し階層的に理解する学問である。生態機能看護学 I では生態を正常に維持する機能（液性調節と神経伝達）、その受容器である感覚、効果器である運動器（筋肉と骨）そして休息に関する正常の生態メカニズムを具体的に説明できることを目標とする。人体の用語を理解し臨床でのコミュニケーションの基礎的能力を養う。加えて正常と異常を比較し、臨床判断に関係する推論を行う基礎的な能力を養う。</p>				

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	伝える機能その効果器である運動器そして休息に関する正常の生態メカニズムの概要を説明できる。人体の用語を概ね理解し臨床でのコミュニケーション能力の最低限の基礎的能力を養う。加えて正常と異常を他者の力を借りながら比較し、臨床判断に関係する推論を行う基礎的な能力を養う。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	神経調節、液性調節、運動、睡眠と覚醒のメカニズムについて十分に具体的に理解できる（期末試験で90%以上得点し、レポート、e-learningでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを具体的に日常または自分の生活現象と結びつけて他者にわかりやすく具体的に説明できる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	神経調節、液性調節、運動、睡眠と覚醒のメカニズムについて十分に理解できる（期末試験で80%以上得点し、レポート、e-learningでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを具体的に日常または自分の生活現象と結びつけて他者にわかりやすく説明できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	神経調節、液性調節、運動、睡眠と覚醒のメカニズムについて理解できる（期末試験で70%以上得点し、レポート、e-learningでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを日常または自分の生活現象と結びつけて他者に説明できる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	神経調節、液性調節、運動、睡眠と覚醒のメカニズムについて概ね理解できる（期末試験で60%以上得点し、レポート、e-learningでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムの概要を日常または自分の生活現象と結びつけて他者に説明できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	神経調節、液性調節、運動、睡眠と覚醒のメカニズムについて理解できない（期末試験で60%未満得点し、レポート、e-learningでも同等の評価）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムの概要を他者に説明できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	e-learning テスト	授業外レポ ート・宿題	発表	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	15				100
知識・理解	(DP1)	50	15				65
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20	10				30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		5				5
	(DP6)						
備考	備考 レポート課題は各授業課題①から⑩までの中から1つを選択する。⑪から⑳までの中から1つを選択する。㉑から㉓までの中から1つを選択する。 e-learning は授業開始時に説明する。 1～15回目までのCBTでは正解率80%を取ることが必要となります。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	<p>生きているということ： 解剖学的用語や体表の名称の理解と恒常性維持 (江上 千代美)</p>	<p>生態機能看護学の初回講義であるため、講義についてのオリエンテーションを実施する。内容は 1. 構造と機能の関係、2. 人体の構成とそれぞれの特徴、細胞が機能していく上には何が必要で、組織の分類と機能的特徴、3. 恒常性維持とその重要性、4. フィードバックシステム (ポジティブ・ネガティブフィードバック) について講義する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ① それぞれの臓器の組織の分類と機能的特徴を結びつける。(DP1,2) 課題レポートのテーマ② ポジティブ・ネガティブフィードバックについて 1 つずつ例を挙げる。(DP3,4)</p>
2	<p>からだの働きを整える： 神経性調節 <神経系の概要> (塩田 昇)</p>	<p>神経細胞興奮と伝達の基礎的な内容から、中枢神経の構成まで、ミクロからマクロまでの内容を講義する。神経が興奮するための基本的なメカニズムを分かりやすく説明する。神経システムの概要と形態を説明し、神経伝達のメカニズムを説明する。講義内容が終了した時点でミニテストを実施する。講義内容が広範に及ぶため、学習をしっかりとって頂きたい。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ③ 電池のしくみ、なぜ電気が発生するか？生体がどのように電気を作り出しているのか、考える。(DP3,4) 課題レポートのテーマ④ 静止膜電位と活動電位の発生についてまとめる。(DP1,2)</p>
3	<p>外界からの刺激を受ける： 感覚<視覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚・痛覚> (塩田 昇)</p>	<p>講義内容は、1. 感覚の種類がいろいろ。感覚の一般的性質、2. 皮膚の感覚の種類と各受容器と刺激が受容されて感覚野に到達する経路について、3. 視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚がどこで受容され、どのような経路で中枢に伝わっていくかについて、学生同士考える時間をつくり講義する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑤ 感覚が中枢神経に伝達される経路を調べる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑥ 視覚において加齢が原因で起こりうる危険な場面の例について考える。(DP3,4,5,6)</p>

4	<p>からだの働きを整える： 神経性調節<動く> (塩田 昇)</p>	<p>随意的に体を動かす場合、運動野からの指令が錐体路と錐体外路を通り、末梢に指令が伝わり運動が実行される。講義では運動と反射を中心にメカニズムを解説する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑦ 錐体路と錐体外路について調べる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑧ 運動のアウトプットに關与する神経経路を復習し、椅子から立ち上がる時に關与する神経経路を考える。(DP3,4)</p>
5	<p>からだの働きを整える： 神経性調節<言葉を話す> (塩田 昇)</p>	<p>中枢神経の機能について説明する。連合野や神経核の關連について説明を進める。 書かれている言葉や物体を言葉にする場合、聞いた言葉を話す場合など言葉を話すメカニズムについて理解する。 錐体路系と錐体外路系、運動しようと考へて(意図)から筋肉が収縮するなど、運動にはどのようなしくみが關与しているかを理解する。(運動)するまでのメカニズムを知るなどの内容を講義の中で進める。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑨ 大脳、間脳、大脳基底核、大脳辺縁系、中脳、橋、延髓の機能を調べる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑩ 会話できるが意味不明のコミュニケーションになる場合の理由を key word(ウェルニッケ野、ブローカ野、発語)を使いまとめる。(DP3,4,5,6)</p>
6	<p>からだの働きを整える： 神経性調節<情報を捉える・伝える：末梢神経・制御する：中枢神経> (塩田 昇)</p>	<p>末梢神経には脳と脊椎から出るものがある。また自律神経も末梢神経である。テキストと資料に沿って、末梢神経の分類、名称、働き、特徴を説明していく。 記憶の過程、末梢神経系にはどのようなものがあるか(体性神経系と自律神経系の違い)、(体性神経系：特に上肢と下肢の筋肉を支配する神経系)および、自律神経系には交感神経系と副交感神経系があり、それらの働きについて説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑪ 脳から出る体性神経について参考図書、テキストを参考に調べる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑫ 食事および立ち眩みが起こっている時の、自律神経(副交感神経と交感神経)の伝達経路と効果器への伝達について経路や伝達物質の特徴をまとめる。(DP1,2,3,4)</p>

7	<p>動くということ： 運動系の概要 (塩田 昇)</p>	<p>この講義では中枢からの刺激をうけて筋肉が収縮するメカニズムを説明する。人間にとっての運動の意味について、身体的・心理的・社会的視点から、「動く」ためにかかわることについて説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑬ 筋肉(骨格筋)の形態・構造、筋の収縮についてまとめる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑭ 熱いものを触れたときに起こる反射について、日常生活場面を例に挙げ Key word(筋紡錘、アクチン、ミオシン)を用いて記述する。(DP1,2,3,4)</p>
8	<p>動くということ： 骨格と関節 (塩田 昇)</p>	<p>人体の骨は約206個あるといわれている。からだの関節は骨と筋肉で作られている。骨格でからだを維持し、筋肉で体を動かすが、関節が重要に関わる。これらの内容および、骨の構造、生理的な機能、成長、修復について概説する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑮ 正座に関わる関節および筋肉を調べる。ドアノブを回すことに関連する筋肉と関節を調べる。(DP1,2,3,4) 課題レポートのテーマ⑯ 子どもと高齢者に骨折が多い理由を考えてレポートにまとめる。(DP3,4)</p>
9	<p>動くということ： 筋肉：筋生理・収縮と弛緩 (塩田 昇)</p>	<p>筋肉は神経末端よりアセチルコリンが放出され収縮する。精緻な筋肉の構造は巧みなメカニズムによって役割を果たす。この講義では1. 筋肉の種類と特徴、2. 筋肉の構造について、3. 筋肉の働きについて、4. 筋肉の収縮と弛緩のメカニズム、5. 筋肉の種類と活動電位の特徴について、以上の5項目を講義する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑰ あなたの日常生活の動作を例に挙げて、そこに作用する筋肉と関節運動について調べる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑱ 食べる(噛む、飲み込む)ことに関わる筋肉をまとめる。(DP3,4,5,6)</p>

10	<p>動くということ： 筋肉：筋肉の寝たきりや加齢の変化・姿勢の保持・歩く (塩田 昇)</p>	<p>この講義では1. 成長・加齢に伴う骨・筋肉の変化、2. 運動による変化と運動不足（寝たきり）状態が筋肉に及ぼす影響について、3. 基本動作を行う時の筋肉の名称とどこに付着しているか（起始と停止）について、4. ヒトの重心と姿勢保持の仕組みを知り、よい姿勢の意味について、5. ヒトの行う基本的運動時に作用している筋肉がどのような収縮をしているかについて説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑱ 上肢と下肢の関節の屈曲、伸展に関する筋肉の起始と停止を調べる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑳ 加齢に伴う筋肉の変化と転倒との関連を調べる。(DP3,4)</p>
11	<p>からだの働きを整える： 液性調節<内分泌の概要> (松山 美幸)</p>	<p>ホルモンを代表とする液性調節は長時間にわたる調節を可能とする。ホルモンとは何か、ホルモンは何でできているか、どのように作用し、どのように調節されているか、など、この講義では液性調節についてあらましを概説する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉑ 破骨細胞と骨芽細胞と血中カルシウムとの関係を調べ、レポートにまとめる。 (DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉒ 体液調節時のホルモンと、その分泌についてまとめる。(DP3,4,5,6)</p>
12	<p>からだの働きを整える： 液性調節<恒常性維持のためのホルモン：血糖コントロール> (松山 美幸)</p>	<p>血糖コントロールを理解するためには、栄養と代謝に関する基礎知識が必要となる。 この授業では、血糖コントロールはどのように行われているか、ストレスに対してホルモンがどのように関わっているか、成長に対してホルモンがどのように関わっているか、について概説する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉓ 空腹時・満腹時の血糖調節のしくみを調べてレポートにまとめる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉔ ストレスが生体にかかった時の神経とホルモンの一連のストレス軽減の過程をまとめる。(DP3,4,5,6)</p>

13	種の保存<生殖：受精～成長：性周期とホルモン> (松山 美幸)	哺乳類は雄と雌での生殖行為によって繁栄してきた。男性生殖器と女性生殖器の構造と機能、生殖に関するホルモン（性周期とホルモンの関係について）などを主に概説する。この授業では、生殖に関する内容を取り扱う。	事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑳ 生殖に関与するホルモンをまとめる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ㉑ 性周期とホルモンおよび体温の関係から妊娠できる期間をまとめる。(DP3,4)
14	生体リズム： 睡眠時の特徴 <脳波の変化> (江上 千代美)	この講義では、1. ヒトにとっての睡眠の意味について、2. 睡眠の種類とその時の脳波の特徴について、3. 睡眠の発達による特徴について説明する。	事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 課題レポートのテーマ㉒ サーカディアンリズムに沿って分泌されるホルモンの分泌時間を調べてレポートにまとめる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ㉓ 提示された睡眠表から睡眠状態を分析し、睡眠の問題点を考えレポートにまとめる。(DP3,4,5,6)
15	睡眠・覚醒サイクル (江上 千代美)	この講義では、第 14 回の講義の続きを説明する。臨床で看護の対象の睡眠・覚醒サイクルが身体に及ぼす影響について説明する。	事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 課題レポートのテーマ㉔ 発達段階と睡眠の特徴について考えレポートにまとめる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ㉕ 睡眠障害が日常生活に及ぼす影響とその対策について、新聞記事をもとにまとめる。(DP3,4,5,6)
備考	初回の講義で事前課題、ポートフォリオの提出、ミニテスト、定期試験などの概要を説明する。提出、出席に関するルールを説明する。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容				生態のメカニズムと日常での現象など結びつけたグループ・ディスカッションを取り入れながら講義を進めていく。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	生態機能看護学Ⅱ			単位	2単位
科目名（英語）	Anatomy and Physiology Ⅱ			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	1年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：江上千代美 科目担当者：塩田 昇 科目担当者：松山美幸				
授業概要	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。人間は外部環境から生体に必要なものを取り入れ、体内で使用した老廃物や不要物を排泄している。そのため人体には細胞をとりまく内部の状態（内部環境）をできるだけ恒常に保つ仕組みが備わっている。この内部環境の恒常性維持を中心に、物質の運搬とその経路、及び物質の摂取と排泄について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：無し 授業内容を理解するために必要な知識：生態機能看護学Ⅰの知識				
テキスト	テキスト：「新・看護生理学テキスト」南江堂・「カラー人体解剖学」西村書店				
参考図書・教材等	「トートラ人体解剖生理学」丸善、e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験の経験豊富な教員が、生態機能の正常と異常を看護に活かせるように講義する。	授業中の撮影	無		
学習相談・助言体制	連絡先は別途配布する連絡先資料参照してください。 Appointment をメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	人体の構造と機能（体温調節、体液、血液、循環、呼吸、消化吸収、排泄系）の知識を具体的に述べることができる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	指定されたレポートを作成することで、人体の構造と機能に関するメカニズムについて表現することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つ。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
生態機能看護学Ⅰでの神経・内分泌、体の動きのメカニズムの理解をもとに、生体機能看護学Ⅱでは体温、循環、消化、呼吸、排泄機能に関する正常の生態メカニズムを具体的に説明できることを目標とする。人体の用語を理解し臨床でのコミュニケーションの基礎的能力を養う。加えて正常と異常を比較し、臨床判断に関係する推論を行う基礎的な能力を養う。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
体温、循環、消化、呼吸、排泄機能に正常の生態メカニズムの概要を説明できる。人体の用語を概ね理解し臨床でのコミュニケーション能力の最低限の基礎的能力を養う。加えて正常と異常を他者の力を借りながら比較し、臨床判断に関係する推論を行う基礎的な能力を養う。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	内部環境の恒常性、物質の運搬とその経路、体温調節、物質の摂取と排泄のメカニズムについて十分に具体的に理解できる（期末試験で90%以上得点し、レポート、e-learningでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを具体的に日常または自分の生活現象と結びつけて他者にわかりやすく具体的に説明できる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	内部環境の恒常性、物質の運搬とその経路、体温調節、物質の摂取と排泄のメカニズムについて十分に理解できる（期末試験で80%以上得点し、レポート、e-learningでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを具体的に日常または自分の生活現象と結びつけて他者にわかりやすく説明できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	内部環境の恒常性、物質の運搬とその経路、体温調節、物質の摂取と排泄のメカニズムについて理解できる（期末試験で70%以上得点し、レポート、e-learningでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを具体的に日常または自分の生活現象と結びつけて他者に説明できる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	内部環境の恒常性、物質の運搬とその経路、体温調節、物質の摂取と排泄のメカニズムについて理解できる（期末試験で60%以上得点し、レポート、e-learningでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムの概要を日常または自分の生活現象と結びつけて他者に説明できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	内部環境の恒常性、物質の運搬とその経路、体温調節、物質の摂取と排泄のメカニズムについて理解できない（期末試験で60%未満得点し、レポート、e-learningでも同等の評価）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムの概要を他者に説明できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	15				100
知識・理解	(DP1)	50	15				65
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20		10			30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		5				5
	(DP6)						
備考	備考 レポート課題は各授業課題①から⑩までの中から1つを選択する。⑪から⑳までの中から1つを選択する。㉑から㉓までの中から1つを選択する。 e-learning は授業開始時に説明する。 1～15回目までのCBTでは正解率80%を取ることが必要となります。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	<p>体温調節 <体熱の産生と放散・体温調節機能 (発熱含む)> (江上 千代美)</p>	<p>体温分布と熱産生と放熱のしくみ、熱産生 (ふるえ、非ふるえ、褐色細胞)、体温調節 (寒冷時、温暖時) について説明する。 温度受容器と感覚伝導路および体温調節中枢を説明し、体温調節の機構をまとめる。 概日・概月リズムと発達による違いを説明する。 発熱のしくみと体温の順化 (低温時) を説明する。</p>	<p>事前学習: CBT: e-learning によるレポートを提出する (デジタル提出)。 (DP1,2) 事後学習: CBT: e-learning によるレポートを提出する (デジタル提出)。 (DP1,2) 課題レポートのテーマ① 身体の部位での体温の違い、環境温度が変わることによる体温の変化をまとめる。 (DP1,2) 課題レポートのテーマ② 暑い時 (環境温度 38°C) の時の体温調節についてまとめる。 (DP1,2,3,4)</p>
2	<p>内部環境の恒常性: 体液<体液の調節・体液の pH の調節> (江上 千代美)</p>	<p>細胞内液と細胞外液の違いと区分について、体液の移動がどのように行われているか、特に毛細血管での体液の移動について説明する。 体液はどのように平衡を保っているか、それらが障害された時の生体の状態について説明する。</p>	<p>事前学習: CBT: e-learning によるレポートを提出する (デジタル提出)。 (DP1,2) 事後学習: CBT: e-learning によるレポートを提出する (デジタル提出)。 (DP1,2) 課題レポートのテーマ③ 細胞内液と細胞外液の違いを説明し、毛細血管における体液の移動を結び付けまとめる。 (DP1,2,3,4) 課題レポートのテーマ④ 浮腫について 1 つずつ例を挙げ発生メカニズムをまとめる。 (DP3,4)</p>
3	<p>内部環境の恒常性: 体液<体液の調節・体液の pH の調節> (江上 千代美)</p>	<p>酸と塩基のバランスがどのように調節されているか説明する。 酸と塩基のバランスが崩れた場合、生体でどのようなことが生じているかを説明する。</p>	<p>事前学習: CBT: e-learning によるレポートを提出する (デジタル提出)。 (DP1,2) 事後学習: CBT: e-learning によるレポートを提出する (デジタル提出)。 (DP1,2) 課題レポートのテーマ⑤、⑥ 授業で提示された体内で起こる酸塩基の緩衝について例を挙げまとめる。 (DP1,2,3,4,5,6)</p>

4	<p>物質の運搬とその経路： ポンプとしての心臓<構造と機能・刺激伝導系・心電図>・循環経路としての血管系<構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節> (江上 千代美)</p>	<p>心臓の位置と心膜の構造、機能について説明する。 心臓の構造で心臓の壁の層や心室、心臓の弁の構造と機能について説明する。 心臓に出入りしている主要な血管の名前が言えるとともに、全身の循環系の主要動脈・静脈系を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑦ 心臓の構造をイラストでレポートにまとめる(血管や弁、断面、まとめ方は自由)。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑧ 肺動脈と肺静脈と右心房と左心房と右心室と左心室の特徴とそれぞれの圧を調べる。(DP1,2,3,4)</p>
5	<p>物質の運搬とその経路： ポンプとしての心臓 <構造と機能・刺激伝導系・心電図> ・循環経路としての血管系<構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節> (江上 千代美)</p>	<p>心筋は、横紋筋と平滑筋の特徴を併せ持つだけでなく、刺激も伝導する。 心筋の特徴(固有心筋・特殊心筋)と刺激伝導系について説明する。心臓収縮の周期と弁の開閉および刺激の関係を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑨ 刺激伝導系について、心臓のイラストをもとに図示しなさい。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑩ 心周期と弁の開閉についてまとめる。(DP1,2)</p>
6	<p>物質の運搬とその経路： ポンプとしての心臓 <構造と機能・刺激伝導系・心電図> ・循環経路としての血管系<構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節> (江上 千代美)</p>	<p>心臓から出る主な血管系を概説する。 体循環、肺循環、門脈系、脳、胎児循環など主要な血管系を説明する。 血管の分類、構造および、血管弁など、血管に関することを説明する。 血管だけでなく、リンパ管についても機能と構造を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑪ 門脈の役割についてまとめる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑫ 胎児循環と先天異常(心室または心房中隔欠損症)についてまとめる。(DP1,2,3,4)</p>
7	<p>物質の運搬とその経路： ポンプとしての心臓 <構造と機能・刺激伝導系・心電図> ・循環経路としての血管系 <構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節> (江上 千代美)</p>	<p>血圧と血圧調節について、収縮期・拡張期・平均血圧、心拍出量に関する法則(スターリングの法則)を説明する。 心拍出に関して、神経調節と液性調節を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑬ 血圧を調節するホルモンと、その作用についてまとめる。(DP1,2) 課題レポートのテーマ⑭ 血圧が高い時の5反射についてまとめる。(DP1,2,3,4)</p>

8	<p>物質の運搬とその経路：物質を運ぶ血液 <血液の成分とその働き> (松山 美幸)</p>	<p>血液は結合組織に分類される。生命維持には欠かせない組織である。血液の役割、造血幹細胞からの分化、一般的性状を概説する。また赤血球の役割について、詳しく説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑮ テキストを参照して赤血球が作られる過程と機能をまとめる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑯ 赤血球が破壊され、処理される過程をまとめる。(DP3,4)</p>
9	<p>物質の運搬とその経路：物質を運ぶ血液 <血液の成分とその働き> (松山 美幸)</p>	<p>白血球と血小板の働きを主に説明する。白血球は免疫の役割を担っている。血小板は止血である。ここでは免疫と凝固のメカニズムにも触れる。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑰ テキストを参照して白血球とリンパ球が作られる過程と機能をまとめる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑱ 血液凝固をまとめ、血液凝固の事例を挙げて、どのようなメカニズムで凝固しているのか説明する。(DP3,4)</p>
10	<p>物質の摂取と排泄： 消化吸収 <口～肛門までの構造と食物が消化され吸収されるまで・排便のしくみ> (松山 美幸)</p>	<p>外界から取り入れた物質を体内に取り入れる過程(消化と吸収)について、その意味と具体的な構造・働きと体内での不要物質の中でも主に難水溶性物質を排泄する過程(排便)について理解し、一連の過程として捉える事ができるよう説明する。</p> <p>消化器系：口腔、食道、胃、十二指腸、空腸、回腸、大腸、肝臓・胆嚢・膵臓について説明する。機械的消化、化学的消化、生物学的消化を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑲ 嚥下の過程について調べにまとめる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑳ 胃全摘(胃を取った場合)と貧血の関係をまとめる。(DP1,2,3,4)</p>
11	<p>物質の摂取と排泄： 消化吸収<口～肛門までの構造と食物が消化され吸収されるまで・排便のしくみ> (松山 美幸)</p>	<p>消化管でどのような消化が行われているかを具体的に説明する。また、吸収された物質がどのように運ばれていくかを説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉑ 小腸の免疫について調べる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉒ 消化管の運動と神経による調節について調べる。(DP1,2,3,4)</p>

12	<p>物質の摂取と排泄： 呼吸<呼吸器の構造・呼吸運動・ ガス交換とガス運搬> (塩田 昇)</p>	<p>呼吸器の機能と構造を中心に概説する。呼吸器の構造、導管部とガス交換部、肺胞の構造、胸郭、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管上皮、毛細血管について説明する。</p> <p>呼吸器の発生と新生児の生存率について説明する。肺胞の変化および喫煙者と健常者の呼吸機能の比較を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑳</p> <p>呼吸器の構造、上気道と下気道、気管から肺胞までをまとめる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉑</p> <p>肺胞や気管支の音と気管支の狭窄や痰の貯留との関係を調べる。 (DP1,2,3,4)</p>
13	<p>物質の摂取と排泄： 呼吸<呼吸器の構造・呼吸運動・ ガス交換とガス運搬> (塩田 昇)</p>	<p>食事と呼吸時の喉頭の動きについて説明する。</p> <p>胸郭の構造と、外肋間筋、内肋間筋の働きについて説明する。胸式・腹式呼吸に作用する筋肉について説明する。</p> <p>胸腔、胸膜腔の機能と役割、肺胞内圧と胸腔内圧の関係について説明する。</p> <p>分時換気量と肺胞換気量について説明する。</p> <p>呼吸商と換気血流比について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉒</p> <p>呼吸筋を調べる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉓</p> <p>肺に穴が開いた場合に、どのようにすれば肺に酸素を運ぶことができるか?調べる。 (DP1,2,3,4,5,6)</p>
14	<p>物質の摂取と排泄： 呼吸<呼吸器の構造・呼吸運動・ ガス交換とガス運搬> (塩田 昇)</p>	<p>大気と肺胞気の酸素・二酸化炭素分圧について説明する。酸素・二酸化炭素の運搬について説明する。ヘモグロビンと酸素の結合、二酸化炭素と炭酸脱水素酵素による重炭酸の生成について説明する。酸素分圧と酸素飽和度、ボア効果とホールデン効果について説明する。</p> <p>酸素解離曲線と酸素飽和度、胎児ヘモグロビン、ミオグロビンとヘモグロビンFとの関係について説明する。</p> <p>呼吸の行動性・化学性・神経性調節について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉔</p> <p>右肺と左肺の構造を調べ、気管支や肺の構造の違いから、食事の時にどのような危険があるか調べる。(DP1,2,3,4)</p> <p>課題レポートのテーマ㉕</p> <p>右肺に痰がたまって、自分で出せない人に、どのようにすれば良いか?調べる。 (DP1,2,3,4,5,6)</p>

15	<p>物質の摂取と排泄： 排泄系<尿の生成とその調節・排尿のしくみ> (松山 美幸)</p>	<p>排泄系のその他の調節と排泄について講義する。内部環境の恒常性維持のための働きについて説明する。</p> <p>1.腎臓、尿管、膀胱及び尿道などの位置関係を説明する。</p> <p>2.傍糸球体装置を構成する細胞とその機能について説明する。</p> <p>3.尿を生成する部分の構造とその仕組みである糸球体での濾過、尿細管での再吸収や分泌について説明する。</p> <p>4.クリアランスについて説明する。</p> <p>5.尿を貯留し、排尿をおこなう部分の構造とそのしくみについて説明する。</p>	<p>事前学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>事後学習：CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ⑳</p> <p>膀胱に尿が貯留して、排尿されるまでの過程についてまとめる。(DP1,2)</p> <p>課題レポートのテーマ㉑</p> <p>失禁の種類とその特徴、違いなどを調べ、排尿のメカニズムの知識を活用して失禁が起こる原因を調べる。(DP1,2,3,4)</p>
備考	<p>初回の講義で事前課題、ポートフォリオの提出、ミニテスト、定期試験などの概要を説明する。提出、出席に関するルールを説明する。</p>		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																	
内容			生態のメカニズムと日常での現象など結びつけたグループ・ディスカッションを取り入れながら講義を進めていく。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	生態機能看護学 III			単位	1 単位
科目名（英語）	Anatomy and Physiology III			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	4 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：江上千代美 科目担当者：塩田 昇、松山美幸				
授業概要	人間の健康状態を的確に把握するために、胎生期・幼年期～老年期に至る人体の正常な状態の変化を理解し、正常の生態機能をもとに生態機能が異常になった事例の看護を考える。正常な人体の構造と機能を理解し、事例で応用できる力を養う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生態機能看護学Ⅰ及びⅡ、病態看護学Ⅰ及びⅡを履修していること				
テキスト	e ラーニングに提示した資料				
参考図書・教材等	「トートラ人体解剖生理学」丸善、e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	経験豊富な教員が、生態機能の正常と異常を看護に活かせるように講義する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	連絡先は別途配布する連絡先資料参照してください。 Appointment をメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	人体の構造と機能の知識を具体的に述べることができる。
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	事例を検討することで、その事例に生じている問題を人体の構造と機能の分野から捉え直し、必要なケアを創造することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つ
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
正常の生態機能をもとに生態機能が異常になった事例の看護を考えることができる。正常な人体の構造と機能を理解し、事例で応用することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
正常の生態機能をもとに生態機能が異常になった事例の看護を教員の力を借りて考えることができる。正常な人体の構造と機能を教員の助言によって理解し、事例で応用できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
既習の生態機能看護学、病態看護学、成人看護学の知識を統合して、正常の生態機能（生理学）と異常の病態を関連させて、看護行為について事例を通して考えることができる。ポートフォリオで既習の知識を整理し、CBTで90～100%の成績をあげる。また、講義・演習では自らの考えを積極的に発表し、周囲の学生と知識の共有化をはかることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
生態機能看護学、病態看護学、成人看護学の知識を統合して、正常の生態機能（生理学）と異常の病態を関連させて、看護行為について事例を通して考えることができる。ポートフォリオで既習の知識を具体的に整理し、CBTで80～90%の成績をあげる。また、講義・演習では自らの考えを積極的に発表し、周囲の学生と学びを共有することができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
生態機能看護学、病態看護学、成人看護学の知識を正常の生態機能（生理学）と異常の病態を関連させて、看護行為について考えることができる。ポートフォリオで既習の知識を整理し、CBTで80%程度の成績をあげる。また、講義・演習では自らの考えを発表することができ、周囲の学生と学びを共有することができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
生態機能看護学、病態看護学、成人看護学の知識を正常の生態機能（生理学）と異常の病態を関連させて、看護行為について、概ね考えることができる。ポートフォリオで既習の知識を整理し、小テストやCBTで70%程度の成績をあげる。また、講義・演習では自らの考えを概ね発表することができ、教員が促すことによって周囲の学生と学びを共有することができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
ポートフォリオで授業の学びと知識を整理し、レポートに表すことができない。CBTで80%未満の成績である。講義・演習では自らの考えを発表することができず、教員が強く促すことによって周囲の学生と一部の学びを共有することができない。	

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40	30	30		100
知識・理解	(DP1)		25		30		55
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)			30			30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		15				15
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	・レポート・ポートフォリオは、ルーブリックをもとに評価する。授業初日に説明します。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション 物質の運搬 <循環器:心筋梗塞 急性期> (江上 千代美)	授業方法:講義、演習 オリエンテーション:講義の進め方、レポート提出時のルール、評価など。 e-learning で提示した虚血性心疾患の事例について 原因となる病態を、正常の機能(生理学)と比較しながら概説する。 心筋梗塞と狭心症の病態、原因、心電図・血液検査、治療について、原理(メカニズム)に戻りながら学んでいく。	事前学習: e-learning で提示した事例の検査値を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態II、病態I、II、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。
2	オリエンテーション 物質の運搬 <循環器:心筋梗塞 急性期> (江上 千代美)	授業方法:講義・演習 心筋梗塞・狭心症などの事例を用いて、 グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習: CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)
3	運動器系 <高齢者の骨折の運動器疾患> (江上 千代美)	授業方法:講義・演習 e-learning で提示した変形性疾患などの事例について 原因となる病態を、正常の機能(生理学)と比較しながら概説する。 変形性疾患の原因、病態、検査、治療について、人体の機能と構造に戻りながら学んでいく。	事前学習: e-learning で提示した事例の検査、治療を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態II、病態I、II、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。
4	運動器系 <高齢者の骨折の運動器疾患> (江上 千代美)	授業方法:講義・演習 変形性疾患などの事例を用いて、 グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習: CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)
5	物質の運搬 <血液:貧血> (松山 美幸)	授業方法:講義・演習 e-learning で提示した貧血などの事例について 原因となる病態を、正常の機能(生理学)と比較しながら概説する。 貧血の原因、病態、治療について、貧血と関連する疾患に戻りながら学んでいく。	事前学習: e-learning で提示した事例の検査値を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態II、病態I、II、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。
6	物質の運搬 <血液:貧血> (松山 美幸)	授業方法:講義・演習 貧血などの事例を用いて、 グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習: CBT:e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)

7	神経系への影響 ＜内頸動脈内膜剥離術直後から翌日＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した内頸動脈疾患などの事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。 内頸動脈疾患の原因、病態、治療について、生態機能の知識に戻りながら学んでいく。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査、治療を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。
8	神経系への影響 ＜内頸動脈内膜剥離術直後から翌日＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 内頸動脈疾患などの事例を用いて、グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。(DP1,2)
9	物質の摂取と排泄 ＜消化吸収障害＞ (松山 美幸)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した大腸がんなどの事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。 大腸がんの原因、検査、病態、治療について、生態機能の知識に戻りながら学んでいく。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査値、治療を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。
10	物質の摂取と排泄 ＜消化吸収障害＞ (松山 美幸)	授業方法：講義・演習 大腸がんなどの事例を用いて、グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。(DP1,2)
11	物質の摂取と排泄 ＜COPD の急性増悪＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した COPD などの事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。 COPD の原因、検査、病態、治療について、生態機能の知識に戻りながら学んでいく。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査値、治療を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。
12	物質の摂取と排泄 ＜COPD の急性増悪＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 COPD などの事例を用いて、グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。(DP1,2)
13	内分泌 ＜糖尿病：高血糖による合併症＞ (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した糖尿病などの事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。 糖尿病の原因、検査、病態、治療について、生態機能の知識に戻りながら学んでいく。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査値、治療を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。

14	内分泌 <糖尿病：高血糖による合併症> (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 糖尿病などの事例を用いて、 グループで、看護の方法や諸問題の解 決法を検討する。また、事前課題での 関連図を検討する。	事後学習： CBT:e-learningによるレポートを提出する (デジタル提出)。(DP1,2)
15	まとめ	授業方法：演習 1回目～14回目の講義で学んだ知 識をもとに、事例(神経系疾患)を 分析し看護について考察する。	事前学習： 事例から関連図を作成する。 その際、援助方法について、看護雑誌や 参考書等で調べた最新の援助技術を事 例にどのように活用できるか検討す る。
備考	初回の講義で事前課題、ポートフォリオの提出などの概要を説明する。提出、出席に関するルールを説明する。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
その他()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護生化学			単位	2単位
科目名（英語）	Biochemistry			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	1年次	開講時期	後期		
担当教員	芋川浩				
授業概要	生物のからだを構成する物質とその機能を理解するために必要な生化学の基礎的な知識を学び、さまざまな生命現象や疾病のしくみを理解できることを目的とする。また、最近の生命科学の発展は目覚しく、分子生物学などの方法を応用した医療技術が日々進歩している。本講義では、最新の医療技術とその成果についての理解を深め、応用できることも目標としている。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生物学、化学、人体の構造と機能				
テキスト	新刊のテキストを使用予定であるが、現時点では未定				
参考図書・教材等	臨床生化学（宮澤恵二編、メディカ出版）、e-learning に載せたスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	各種臨床検査に関わった実務経験に基づいて、疾患に関する症状の具体例などを紹介しながら、代謝にかかわる疾患の状態や症状を紹介する。また、国立研究所勤務時に実施していた遺伝病などに関する具体的な解析方法の一端を体験できるように工夫している			授業中の撮影	×
学習相談・助言体制	質問は随時受付ける（教員室訪問・メールなど）。回答方法はその内容等によって教員が随時指導助言する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	生体を構成する基本物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸に関し、その構造と機能を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	生体物質の代謝メカニズムを理解できるとともに、近年めざましく発展した分子生物学により解明された疾病のメカニズムや最新の医療技術についても理解し、応用できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
①糖質代謝、②脂質代謝、③アミノ酸代謝、④核酸代謝、⑤遺伝子と遺伝情報の発現、⑥遺伝病を含めた代謝に関する疾患などについて十分に理解しわかりやすく説明できる(定期試験で80%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る)。定期試験やレポートの記述では、上述した各代謝や遺伝情報の発現などを具体的に日常生活または自分の健康状態などしっかりと結び付けて他者にわかりやすく説明できる。			

①糖質代謝、②脂質代謝、③アミノ酸代謝、④核酸代謝、⑤遺伝子と遺伝情報の発現、⑥遺伝病を含めた代謝に関する疾患などについて理解し説明できる(定期試験で60%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る)。定期試験やレポートの記述では、上述した各代謝や遺伝情報の発現などを日常生活または自分の健康状態などと結び付けて他者に説明できる。

成績評価の基準

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 定期試験で90%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る
A：80～89	履修目標を達成している。 定期試験で80%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 定期試験で70%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る
C：60～69	到達目標を達成している。 定期試験で60%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る
不可：～59	到達目標を達成できていない。 定期試験で60%以下であり、小テスト、レポートでも未提出等目標に到達できていない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	10			10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	50	10			5	65
思考・判断・表現	(DP3)	20		10		5	35
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	小テストやレポートは、授業到達度業状況に応じて実施する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション及び代謝総論（芋川 浩）	初回講義であるため、オリエンテーションとして、①これからの講義内容、②成績評価方法、③教科書や参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、今後の講義にスムーズに入れるようにする。初回の講義内容としては、代謝総論として、①代謝とは何か、②異化と同化、③代謝の制御、④代謝とホルモンなどについて学習する。	事前学習：初回の講義部分(代謝総論)に相当する教科書(未定)や参考書を読み、重要なポイントや疑問点などをまとめる。(90分) 事後学習：初回の講義(代謝総論)における内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)

2	<p>生命とは（生命と生化学の接点の理解） （芋川 浩）</p>	<p>生命活動の場である細胞の基本的な構造と機能を解説し、生化学反応の場となる細胞内小器官について説明する。</p> <p>①生命としての細胞 ②細胞質とは ③細胞内小器官 a.核 b.ミトコンドリア c.小胞体、ゴルジ体 d.細胞膜 など</p>	<p>事前学習：細胞やその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。（90分）</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、細胞に関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。（90分）</p>
3	<p>生体物質①（糖質） （芋川 浩）</p>	<p>栄養素としての糖質の性質を解説し、糖質と生命活動との関係を以下の項目を中心に説明する。</p> <p>①糖とは何か ②単糖類 ③オリゴ糖(少糖)類 a.二糖類 ④多糖類 a.ホモ多糖 b.ヘテロ多糖</p>	<p>事前学習：栄養素としての糖質やその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。（90分）</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、糖質とその機能に関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。（90分）</p>
4	<p>生体物質②（脂質） （芋川 浩）</p>	<p>栄養素としての脂質の性質を解説し、脂質と生命活動との関係を以下の項目を中心に説明する。</p> <p>①脂質の構成 a.単純脂質 b.複合脂質 c.誘導脂質 ②脂肪酸 ③中性脂肪 ④ステロイド類とコレステロール ⑤リン脂質 ⑥糖脂質 ⑦エイコサノイド</p>	<p>事前学習：栄養素としての脂質やその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。（90分）</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、脂質とその機能に関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。（90分）</p>
5	<p>生体物質③（アミノ酸、タンパク質） （芋川 浩）</p>	<p>栄養素としてのタンパク質やアミノ酸の性質を解説し、タンパク質やアミノ酸と生命活動との関係を以下の項目を中心に説明する。</p> <p>①タンパク質とは何か ②アミノ酸 ③タンパク質の構造 a.ペプチド b.タンパク質の高次構造 ④タンパク質の性質 ⑤タンパク質の種類</p>	<p>事前学習：栄養素としてのタンパク質やアミノ酸とその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。（90分）</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、タンパク質やアミノ酸とその機能に関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。（90分）</p>
6	<p>生体物質④（核酸） （芋川 浩）</p>	<p>栄養素としての核酸とヌクレオチドの性質を解説し、核酸やヌクレオチドと生命活動との関係を以下の項目を中心に説明する。</p> <p>①核酸とは何か ②ヌクレオシドとヌクレオチド a. アデノシン三リン酸(ATP) b.サイクリックヌクレオチド c.その他のヌクレオチド</p>	<p>事前学習：核酸とヌクレオチドやその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。（90分）</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、核酸とヌクレオチドとその機能に関する講義内容およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。（90分）</p>

7	<p>生体物質⑤ (酵素・ビタミンなど) (芋川 浩)</p>	<p>栄養素としてのビタミンの性質を解説し、ビタミンとその欠乏との関係を以下の項目を中心に説明する。</p> <p>①水溶性ビタミン ②脂溶性ビタミン</p> <p>さらに、 体の中で代謝の流れを作る酵素の働きやその基本的な性質を以下の項目を中心に解説する。また、酵素活性の測定が病気の診断にどのように役立っているのかを説明する。</p> <p>①酵素の役割 ②酵素の性質 a.酵素は主にタンパク質からできている b.酵素の基質特異性 c.酵素の作用特異性 d.酵素反応に影響を及ぼす因子</p> <p>③酵素の分類 ④アインザイム ⑤臨床診断と酵素</p>	<p>事前学習：ビタミンや酵素とその機能等にかかわる部分に相当する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、ビタミンとその欠乏症状および酵素の働きと臨床検査との関係等に関する講義内容、その質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。 ビタミンについては、レポート課題として、ビタミンとその欠乏症状についてまとめ、理解を深める。(90分)</p>
8	<p>生体物質の代謝① (糖質の代謝) (芋川 浩)</p>	<p>糖質がどのようにして消化吸収されるのか？どのように代謝され、生命活動に使われるのかを以下の項目を中心に説明する。さらに、生命活動のエネルギーであるATP生成、血糖値の調節についても解説する。</p> <p>①糖質代謝の概要 a.糖質の消化と吸収 b.糖質代謝の流れ</p> <p>②解糖のしくみ a.嫌氣的解糖 b.好氣的解糖</p> <p>③グリコーゲンの合成と分解 a.グルコキナーゼとヘキソキナーゼ b.糖原病</p> <p>④ペントースリン酸回路 ⑤糖新生 a.糖新生のメカニズム b.糖新生と各臓器との関係</p> <p>⑥血糖値の調節とホルモンの作用 a.血糖値低下に関するホルモン b.血糖値増加に関するホルモン</p>	<p>事前学習：糖質代謝の概要と解糖系の仕組みにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、糖質代謝の概要と解糖系の仕組み等に関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
9	<p>生体物質の代謝② (脂質の代謝) (芋川 浩)</p>	<p>脂質がどのようにして消化吸収されるのか？どのように代謝され、生命活動に使われるのかを以下の項目を中心に解説する。さらに、コレステロールの働き、脂質の輸送などについても解説する。</p> <p>①脂質代謝の概要 ②脂質の消化・吸収と貯蔵 ③脂肪酸の分解 a.脂肪の分解 b.β酸化</p> <p>④ケトン体の代謝 ⑤脂肪酸と脂肪の合成 ⑥コレステロールの代謝 a.コレステロールの合成 b.コレステロールの利用</p> <p>⑦リン脂質とエイコサノイド</p>	<p>事前学習：脂質代謝の概要とコレステロールやリポタンパク質の働きにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、脂質代謝とコレステロールやリポタンパク質の働きなどに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>

		⑧リポタンパク質 ⑨脂質異常症(高脂血症) ⑩脂肪細胞と生活習慣病 a.アディポサイトカイン	
10	生体物質の代謝③ (タンパク質の代謝) (芋川 浩)	タンパク質がどのようにして消化吸収されるのか?どのように代謝され、生命活動に使われるのかを以下の項目を中心に解説する。さらに、アミノ酸代謝異常による疾患、アミノ酸から合成させる生理活性物質などについても解説する。 ①タンパク質・アミノ酸代謝の概要 ②タンパク質の消化と吸収 a.胃での消化 b.十二指腸や小腸での消化 ③アミノ酸の代謝 a. アミノ基の転移と脱アミノ反応 b.尿素回路 c.炭素骨格の代謝 ④アミノ酸のその他の使われ方 a.プリン塩基とピリミジン塩基 b.ポルフィリン c.生理活性アミン d.ホルモンなど ⑤アミノ酸の代謝と先天代謝異常 ⑥ヘムの合成とビリルビンの代謝 a.ヘムの合成 b.ヘムの分解とビリルビンの代謝 c.臨床的意義	事前学習：タンパク質・アミノ酸の代謝の概要と尿素回路や生理活性物質の生合成などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、タンパク質・アミノ酸の代謝の概要と尿素回路や生理活性物質の生合成などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
11	生体物質の代謝④ (核酸の代謝) (芋川 浩)	核酸やヌクレオチドの代謝の全体的な流れ、および病気との関係などを以下の項目を中心に解説する。さらに、ヌクレオチドの代謝と抗がん薬や免疫抑制薬の作用との関係などについても解説する。 ①ヌクレオチド代謝の役割と概要 ②ヌクレオチドの合成 ③ヌクレオチドの分解 ④抗がん薬や免疫抑制薬の作用	事前学習：核酸やヌクレオチドの合成と分解などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、核酸やヌクレオチドの代謝の概要とヌクレオチドの代謝と抗がん薬や免疫抑制薬の作用との関係などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
12	遺伝情報と分子生物学① (DNAと染色体) (芋川 浩)	遺伝情報が何に担われ、どのように保存されているのか、また遺伝情報はどのようにして次の世代に伝わるのかなどを以下の項目を中心に解説する。 ①DNA：遺伝情報を担う物質 a.DNAの構造 b.遺伝情報の保存と発現 ②DNAの複製 a.DNA複製の基本的なメカニズム b.DNAの損傷と修復	事前学習：DNAの構造や複製などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分) 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、DNAの構造や複製などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)
13	遺伝情報と分子生物学② (遺伝子発現の調節) (芋川 浩)	遺伝情報がどのようにしてRNAやタンパク質として発現するのか	事前学習：RNAの転写やタンパク質への翻訳などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや

		<p>などを以下の項目を中心に解説する。</p> <p>①DNA から RNA への転写</p> <p>a.転写反応</p> <p>b.転写の基本的なメカニズム</p> <p>c.遺伝子発現の調節</p> <p>②RNA からタンパク質への翻訳</p> <p>a.翻訳に関わる分子：mRNA など</p> <p>b.遺伝暗号(コドン)</p> <p>c.タンパク質合成の過程</p> <p>d.RNA の新しい機能</p>	<p>疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、RNA の転写やタンパク質への翻訳などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
14	<p>遺伝情報と分子生物学③（遺伝病と代謝） (芋川 浩)</p>	<p>遺伝子の変化が体にどのような変化を及ぼすのか、遺伝子に関する現代医学の課題や最新の生命科学の研究成果などを以下の項目を中心に解説する。</p> <p>①遺伝子の変化</p> <p>a.病気と遺伝子</p> <p>b.遺伝子の異常と DNA の変異</p> <p>c.遺伝情報の初期化と iPS 細胞</p> <p>②遺伝子診断・遺伝子治療</p>	<p>事前学習：遺伝子の突然変異や遺伝病などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子の突然変異や遺伝病などに関する講義内容、およびその質問や疑問点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。(90分)</p>
15	<p>まとめ(生化学と医学・看護学との関連) (芋川 浩)</p>	<p>最後の講義であるため、これまで学習してきた糖質や脂質など各栄養素の代謝や遺伝情報などに関するこれまでの講義と関連する内容を復習整理するとともに、この生化学分野の最新情報を解説する。</p> <p>①代謝の重要ポイントのまとめ</p> <p>②遺伝子関連の重要ポイントのまとめ</p> <p>② 生化学分野の最新研究結果などの解説</p>	<p>事前学習：これまで学習してきた糖質や脂質など各栄養素の代謝や遺伝情報などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点を再確認し、まとめる。(90分)</p> <p>事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、これまで学習してきた糖質や脂質など各栄養素の代謝や遺伝情報などに関する半年間の講義内容、およびその質問や疑問点を各自で再確認し、しっかりと整理・身につける。もし各自で質問や疑問点等を解決できないときは、講義終了後でも質問し、解決する。(90分)</p>
備考	<p>講義への参加度なども重視しているため、携帯電話等で出席や質問等をとることもあるため、携帯電話等を必ず持っていること。高等学校で生物学・化学などを学んでいた方がよい。また、がんや疾患と関わる遺伝子や遺伝子発現の理解を深めるためにも、遺伝学の講義も併せて受講すること。</p>		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	病態看護学 I			単位	2 単位
科目名（英語）	Clinical Pathology I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：江上千代美				
授業概要	組織や細胞の変化、修復と再生などを理解し、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどについて病因、経過、形態について学ぶ。さらに疾患における臓器、組織の形態と機能の変化について学ぶ				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：特になし 授業内容を理解するために必要な知識・技術等：生態機能看護学 I II の知識				
テキスト	医学書院 系統看護学講座 「病理学」「病態生理学」「成人看護学」				
参考図書・教材等	e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験豊富な医療職者が講義する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	担当講師には講義の前後で質問することができる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	基本的病変とその機序についての知識を具体的に述べることができる。
		(DP 2)	看護を行う上で必要な 疾病について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどについて病因、経過、形態について理解できる。さらに疾患における臓器、組織の形態と機能の変化について理解できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどについて病因、経過、形態について説明できる。さらに疾患における臓器、組織の形態と機能の変化について説明できる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどの基本的病変とその機序についての知識について具体的かつ十分に理解できる（期末試験で 90%以上の評価を得る）。事前と事後学習の CBT において、正解率 90～100%を全ての単元で達成することができる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
<p>先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどの基本的病変とその機序についての知識について十分に理解できる（期末試験で80%以上の評価を得る）。</p> <p>事前と事後学習のCBTにおいて、正解率80%以上を全ての単元で達成することができる。</p>	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
<p>先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどの基本的病変とその機序についての知識について理解できる（期末試験で70%以上の評価を得る）。</p> <p>事前と事後学習のCBTにおいて、正解率80%以上を大半の単元で達成することができる。</p>	
C：60～69	到達目標を達成している。
<p>先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどの基本的病変とその機序についての知識について理解できる（期末試験で60%以上の評価を得る）。事前と事後学習のCBTにおいて、概ね正解率80%～を達成することができる。</p>	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
<p>先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどの基本的病変とその機序についての知識について理解できない（期末試験で60%未満の評価）。事前と事後学習のCBTにおいて、正解率80%未満での単元で達成することができない。</p>	

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20					100
知識・理解	(DP1)	80	20				100
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	1～15回目までのCBTでは正解率80%を取ることが必要となります。						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回）45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回）45分（30回：通年）90分（30回：半期2コマ連続）
1	細胞の障害、その障害に対する修復・再生・適応	細胞の損傷と原因、細胞の適応現象（物質沈着、アテローム性動脈硬化）、萎縮の原因、細胞の変性、化生（扁平上皮化生、種々の化生）、細胞の死（ネクローシスとアポトーシス）、変形・圧迫による臓器の障害、炎症、炎症組織での反応、創傷治癒（一次治癒と二次治癒）、創傷治癒過程、化膿について説明する。 膿胸、敗血症、椎間板ヘルニア、脳ヘルニア、腸閉塞などの疾患について紹介する。	事前学習：CBT（病態生理学第1章、病理学第2章に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）

2	<p>基本的病変とその秩序 循環障害</p>	<p>循環障害：心臓の構造機能と浮腫や心不全が生じる仕組みを説明する。</p> <p>膠質浸透圧（低アルブミン血症）と体液の移動、血液の循環障害から浮腫（症状、種類、原因、検査）を説明する。</p> <p>循環障害が原因である腹水や胸水の検査や症状を説明する。</p> <p>甲状腺機能低下症と粘液水腫、ネフローゼと浮腫、腎疾患・肝疾患・心疾患から起こる浮腫、リンパ浮腫など、浮腫の種類と特徴と原因を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第1章、病理学第3章の循環に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
3	<p>基本的病変とその秩序 炎症</p>	<p>炎症の定義、症状、原因について基本的なことを説明する。炎症細胞と炎症の経過および創傷治癒、それに影響する因子と炎症の治療と薬剤、滲出性、増殖性、特異性炎について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第1章、病理学第4章の炎症に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
4	<p>基本的病変とその秩序 代謝障害</p>	<p>糖尿病の概要、分類（空腹時血糖、75gOGTT）、診断について説明する。</p> <p>血糖コントロールの指標、インスリン分泌評価、膵島関連自己抗体、1型糖尿病の病態、分類、2型糖尿病の病態、経過、脂肪・ブドウ糖毒性、妊娠中の糖代謝異常、症状、急性合併症、シックデイ、低血糖、ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群、慢性合併症、糖尿病性神経障害、網膜症、腎症、脂質・血圧管理について説明する。</p> <p>治療（インスリン、インクレチン、GLP-1作動薬、DDP-4阻害薬、スルホニル尿素薬、グリニド薬、α-GI阻害薬、チアゾリジン薬、ビグナイド薬、SGLT阻害薬について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第10章、病理学第6章の代謝障害に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
5	<p>基本的病変とその秩序 先天異常</p>	<p>遺伝子多型、21-trisomy（症状、合併症、特徴）、ターナー症候群（症状、合併症、特徴）、クラインフェルター症候群（症状、合併症、特徴）について説明する。</p> <p>検査、遺伝子カウンセリング、タンデムマスによるスクリーニングについて説明する。</p> <p>子どもの視力について、弱視予防の治療、検査、弱視の治療について説明する。</p> <p>風疹の予防、検査、抗体について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第1章、病理学第8章の先天異常に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>

6	<p>基本的病変とその秩序 腫瘍</p>	<p>腫瘍の定義、細胞異型と構造異型、腫瘍の悪性度、腫瘍の分類、がん腫と肉腫について説明する。</p> <p>悪性腫瘍の広がりや影響、転移と再発、がんの進行度、増殖と進展、多発癌と重複癌について説明する。</p> <p>腫瘍の発生病理、発がん、発生因子（内因・外因）について説明する。</p> <p>腫瘍の診断と治療、症状あるいは身体所見、画像診断、組織学的検査、腫瘍マーカー、外科手術、放射線治療、化学療法、ホルモン療法、分子標的薬や免疫療法（新しい癌治療）について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病理学第9章の腫瘍に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
7	<p>血液の障害</p>	<p>造血のしくみ、骨髄機能の障害について説明する。</p> <p>赤血球の機能とその障害、赤血球の機能と役割、貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、腎性貧血、無顆粒球症、伝染性単核球症について説明する。</p> <p>白血球の機能とその障害、白血球の機能と役割、急性白血病、慢性骨髄性白血病、成人T細胞白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫について説明する。</p> <p>血小板と出血傾向、血小板の機能と役割、特発性血小板減少性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固について説明する。</p> <p>免疫のしくみ、液性免疫、細胞性免疫、免疫反応の過剰、自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫機能の低下、免疫不全、AIDSについて説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第5章、病理学第3章の血液に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
8	<p>神経機能の障害</p>	<p>①認知と意識の正常性（認知、意識、情報伝達のしくみ）について説明する。</p> <p>②脳循環の正常性（脳動脈、血液脳関門、脳室系と脳脊髄液の循環）について説明する。</p> <p>③運動制御の正常性（運動機能の制御、反射性運動）について説明する。</p> <p>④認知と意識の正常性の破綻（脳死と植物状態、脳死判定基準、JCS,GCS、脳腫瘍による脳・神経機能の障害、認知機能の障害、認知症の原因（画像）、高次脳機能障害（失語、失行、失認、記憶障害））について説明する。</p> <p>⑤脳循環の正常性の破綻（脳血管障害、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、水頭症、髄膜炎）について説明する。</p> <p>⑥運動制御の正常性の破綻（大脳基底核の異常（パーキンソン病）、内耳・小脳の異常、運動ニューロンの異常（ALS））について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第12章、病理学第16章の神経に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>

9	呼吸機能の障害	<p>①呼吸器の機能・構造、呼吸機能検査（換気機能検査、血液ガス検査）について説明する。</p> <p>②拘束性障害、閉塞性障害（慢性閉塞性肺疾患）、睡眠時無呼吸症候群について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第7章、病理学第12章の呼吸に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
10	循環機能障害①	<p>心臓の構造・機能（位置、角度）、心室心房の働き、体循環・肺循環、弁の構造（半月弁・腱索）、房室の圧、心臓の動き、血管内膜の機能を説明する。</p> <p>心臓疾患の原因、弁の逆流症・閉鎖不全症や急性大動脈解離（症状・メカニズム）、解離性大動脈瘤、心タンポナーデ、など疾患や症状・病態を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第6章、病理学第10章の循環に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
11	循環機能障害②	<p>左心不全・右心不全の病態、症状、治療について説明する。</p> <p>前負荷・後負荷、血管抵抗、血流と血圧・心拍出との関係を説明する。</p> <p>心不全の主要な症状および疾患、浮腫、肺水腫、心筋症、三尖弁逆流症、細菌性心膜炎、リウマチ性弁膜炎を説明する。</p> <p>心筋梗塞・狭心症治療薬と利尿薬の作用とメカニズムを説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第6章、病理学第10章の循環に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
12	消化器の障害	<p>消化管学最近の進歩（検査）、ダブルバルーン小腸内視鏡、カプセル内視鏡について説明する。</p> <p>消化・吸収・排泄のしくみ、嚥下と咀嚼、胃・十二指腸・小腸、大腸の機能と役割について説明する。</p> <p>消化管の機能の正常性の破綻、①咀嚼・嚥下機能の破綻、誤嚥性肺炎、逆流性食道炎（症状）、食道癌（事例）、②胃のはたらきの破綻、ピロリ菌、胃全摘による影響、胃癌、便秘、イレウスについて説明する。</p> <p>炎症性腫瘍疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、IBDの発生機序、潰瘍性大腸炎とクローン病の違い、IBDの疫学、クローン病の治療体系について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第8章、病理学第13章の消化器に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>

13	<p>膵胆肝の障害</p>	<p>①肝臓と胆嚢の解剖（肝小葉の構造、肝動脈・門脈・胆管・肝静脈）、肝臓の機能、胆道系と膵臓の構造、胆道系の機能（外分泌・内分泌）について説明する。</p> <p>②腹水のメカニズム、黄疸のメカニズム、意識障害（肝性脳症）、肝性脳症のメカニズムについて説明する。</p> <p>③肝疾患の病態と肝機能検査の関連、腹部超音波検査、胆道および膵管の検査、CT検査、MRI検査について説明する。</p> <p>④肝炎、肝炎の分類、肝炎ウイルスの比較、感染予防対策、A・B・C型肝炎ウイルスの特徴と経過、</p> <p>⑤急性肝不全、病態、症状、治療について説明する。</p> <p>⑥慢性肝炎、治療、原因（薬剤性肝障害、アルコール性肝障害、脂肪肝、非アルコール性脂肪性肝炎、自己免疫性肝炎）について説明する。</p> <p>⑦肝硬変、重症度、治療、症状（門脈圧亢進症）、肝不全について説明する。</p> <p>⑧肝臓がん（肝細胞癌の症状、診断、治療）、胆管細胞癌、転移性肝臓がんについて説明する。</p> <p>⑨胆石症、症状、診断、治療、急性胆嚢炎、胆管炎について説明する。</p> <p>⑩胆管癌、胆嚢癌、胆嚢ポリープについて説明する。</p> <p>⑪急性膵炎（重症度、治療）、慢性膵炎、膵臓がん（治療）について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第8章、病理学第13章の循環に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
14	<p>運動機能の障害</p>	<p>老人性骨折、骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、関節疾患、脊椎疾患と、その他の骨折について説明する。骨折の治療（保存療法と手術療法）を説明する。末梢神経障害と骨軟部腫瘍、関節リウマチの病態と治療について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第12章の運動に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
15	<p>排泄機能障害</p>	<p>腎不全、慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、全身性疾患による腎障害、尿細管間質性腎炎、腎血管性病変、悪性高血圧、動脈硬化性腎動脈狭窄症、腎梗塞、妊娠高血圧症候群について説明する。</p> <p>神経因性膀胱、尿失禁、前立腺肥大症の原因、症状、検査、治療について説明する。</p> <p>尿路腫瘍、腎細胞癌、その他の腎腫瘍の疫学、病理学、症状、検査、診断、治療（全身化学療法、膀胱尿道全摘除術）について説明する。</p> <p>前立腺がんの特徴、検査、症状、治療について説明する。</p> <p>尿路結石の原因、検査、治療について説明する。</p> <p>尿路外傷・異物について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（病態生理学第9章、病理学第14章の排泄に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	病態看護学Ⅱ			単位	2単位
科目名（英語）	Clinical Pathology Ⅱ			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：塩田 昇				
授業概要	疾患の頻度や臨床的重要度にもとづいて、典型的な症例を中心に、症候から鑑別診断・確定診断へと至る思考の進め方や各種検査の意義、さらに治療方法について解説する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：特になし 授業内容を理解するために必要な知識・技術等：生態機能看護学ⅠⅡの知識				
テキスト	医学書院 系統看護学講座 「成人看護学」				
参考図書・教材等	e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験豊富な医療職者が講義する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	担当講師には講義の前後で質問することができる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	症候から鑑別診断・確定診断へと至る考え方（病気のみかた）と各種検査の意義を説明できる。治療方法について説明できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
疾患の頻度や臨床的重要度にもとづいて、典型的な症例を中心に、症候から鑑別診断・確定診断へと至る思考の進め方や各種検査の意義、さらに治療方法について理解できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
看護を行う（臨床判断力）上で必要な。症候から鑑別診断・確定診断へと至る考え方（病気のみかた）と各種検査の意義を説明できる。治療方法について説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
腎・泌尿器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌、血液・免疫、脳・神経、感覚器、生殖器、運動器疾患について具体的かつ十分に理解できる（期末試験で90%以上の評価を得る）。事前と事後学習のCBTにおいて、正解率90～100%を全ての単元で達成することができる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
腎・泌尿器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌、血液・免疫、脳・神経、感覚器、生殖器、運動器疾患について十分に理解できる（期末試験で80%以上の評価を得る）。事前と事後学習のCBTにおいて、正解率80%以上を全ての単元で達成することができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
腎・泌尿器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌、血液・免疫、脳・神経、感覚器、生殖器、運動器疾患について理解できる（期末試験で70%以上の評価を得る）。事前と事後学習のCBTにおいて、正解率80%以上を大半の単元で達成することができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
腎・泌尿器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌、血液・免疫、脳・神経、感覚器、生殖器、運動器疾患について概ね理解できる（期末試験で60%以上の評価を得る）。事前と事後学習のCBTにおいて、正解率80%を概ね達成することができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
腎・泌尿器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌、血液・免疫、脳・神経、感覚器、生殖器、運動器疾患について一部のみ理解できる（期末試験で60%未満の評価）。事前と事後学習のCBTにおいて、正解率80%未満で一部の単元で達成することができる。	

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20					100
知識・理解	(DP1)	80	20				100
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回）45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回）45分（30回：通年）90分（30回：半期2コマ連続）
1	腎・泌尿器、生殖器（男性）①	腎臓の機能構造、尿の異常、排尿に関連した症状、水と電解質・循環器系・血液の異常について説明する。 尿路感染症の治療、尿の検査（採尿方法）。腎機能検査、画像検査、経尿道的操作および内視鏡、腎・泌尿器癌の治療などを説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[8]の腎に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）

2	腎・泌尿器、生殖器 (男性) ②	腎不全と慢性腎臓病、 糸球体腎炎、糖尿病性腎症など、 腎臓の血管系、 腎硬化症など、 腎の通過障害と機能障害 水腎症や神経因性膀胱など 尿路・性器の腫瘍 腎細胞癌、膀胱癌など	事前学習：CBT (成人看護学[8]の腎に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)
3	脳・神経	脳卒中、クモ膜下出血の病態、検査、治療について説明する。授業では解剖生理を踏まえながら説明していく。クモ膜下出血以外の脳血管障害についても深く理解できるように授業を進めて行く。	事前学習：CBT (成人看護学[7]の脳に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)
4	呼吸器①	呼吸器の解剖・生理について説明する。 慢性閉塞性肺疾患、病態、検査(X線、CT、肺機能検査、血液ガス、SpO ₂)、閉塞性障害・拘束性障害、COPDの病期分類、酸素解離曲線、CO ₂ ナルコーシス、NIPPV、酸素中毒、酸素管理、包括的呼吸リハビリテーション、酸塩基平衡、看護について説明する。 肺癌、事例(プリンクマン指数)、検査(X線、CT、喀痰細胞診、気管支鏡検査、腫瘍マーカー)、分類、治療(胸腔鏡下手術、放射線、化学療法)について説明する。	事前学習：CBT (成人看護学[2]の呼吸に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)
5	呼吸器②	結核、病態、動向、症状、検査(X線、喀痰塗抹検査、ツベルクリン検査)、法律、治療(DOTS)、予防(BCG接種)、空気感染対策について説明する。 インフルエンザについて説明する。 呼吸器の代表的疾患の画像、肺炎、気管支拡張症について説明する。	事前学習：CBT (成人看護学[2]の呼吸に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)
6	循環器①	心臓の役割、しくみ、脱分極・刺激伝導系、心臓の血管、肺循環と体循環系について説明する。 心電図、波形の意味、12誘導と装着部位、徐脈とブロック波形、人工ペースメーカーについて説明する。 不整脈について、刺激生成異常と刺激伝導異常、頻脈性不整脈(洞性頻脈、期外収縮、心房細動、心房粗動、心室性頻脈、心室細動)、アダムス・ストークス症候群、ホルター心電図、治療(抗不整脈薬)について説明する。	事前学習：CBT (成人看護学[3]の循環に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)
7	循環器②	虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)について、虚血性心疾患のリスクファクター、安定狭心症と不安定狭心症、冠攣縮性狭心症、治療(狭心症の治療薬、について説明する。 検査(心電図、心エコー、血液検査、冠動脈造影)について説明する。 冠動脈造影と治療および看護、注意点について説明する。	事前学習：CBT (成人看護学[3]の循環に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)

		<p>心筋梗塞の合併症、心臓リハビリテーションの注意点について説明する。</p> <p>大動脈解離について、動脈の構造、動脈瘤の分類（スタンフォード・ドベキー分類）、大動脈解離の原因と症状、合併症、診断および治療（血圧・疼痛管理）、看護について説明する。</p> <p>心タンポナーデについて、心タンポナーデの原因、症状、検査、治療について説明する。</p> <p>心不全（左・右心不全）について、症状、観察のポイント、治療薬を説明する。</p> <p>高血圧について、血圧を変動させる要因、血圧の正常範囲、特殊な高血圧、高血圧の合併症、腎性高血圧、高血圧とホルモン、高血圧の治療（薬物療法、生活習慣の改善）を説明する。</p>	
8	消化器①	<p>消化器系の役割、解剖、消化酵素と栄養素の吸収について説明する。</p> <p>摂食・嚥下障害の代表的疾患と嚥下機能低下の原因について説明する。</p> <p>口腔疾患（口内炎、舌炎）について説明する。</p> <p>食道の疾患（胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア）の治療、食道静脈瘤のメカニズム、所見、治療、食道癌の症状、検査、手術（再建術）、予後について説明する。バレット食道について説明する。</p> <p>胃の疾患（急性胃粘膜病変、慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍）の分類、診断、原因について説明する。胃癌の肉眼分類、深達度分類、転移様式、治療（外科的治療・手術、内視鏡的粘膜切除術）、治療後の合併症、生存率について説明する。</p> <p>大腸の疾患（炎症性腸疾患、食中毒）について説明する。</p> <p>大腸癌の診断、手術療法について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（成人看護学[5]の消化に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
9	消化器②	<p>肝臓の解剖生理、肝臓の機能、肝循環、門脈圧について説明する。肝炎（A型、B型、C型）肝炎、肝炎発症のメカニズム、治療、劇症肝炎、黄疸の鑑別診断、針刺し事故について説明する。</p> <p>肝不全の症状、検査、治療、アンモニア増加の機序、肝硬変、原因、症状、検査所見、非代償期の治療について説明する。肝細胞癌の分類、治療（経皮的エタノール注入療法、ラジオ波焼灼療法）について説明する。アルコール性肝障害（アルコール性肝炎）について説明する。</p> <p>胆嚢・胆道系の機能について説明する。胆道系・膵疾患の画像検査（エコー・CT）について説明する。胆石症の症状、治療について説明する。胆嚢炎と胆管炎（急性胆管炎）、治療について説明する。胆嚢癌、エコー像について、胆管癌と胆嚢癌の違い、治療について説明する。急性膵炎の原因、症状、検査所見（CT画像）、治療について説明する。慢性膵炎、原因と検査（CT画像）について説明する。膵癌の診断、検査（CT画像）、治療成績について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（成人看護学[5]の消化に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>

10	消化器③	<p>消化管内視鏡検査、胃透視について説明する。</p> <p>イレウスの種類、所見、治療について説明する。</p> <p>食道癌の手術の術式、術後の合併症と化学放射線療法について説明する。</p> <p>胃切除術後のダンピング症候群と長期合併症について説明する。</p> <p>大腸癌の検査とストーマ（人工肛門）ケア、ストーマの造設位置と便の性状、造設前の準備、手術後の注意点、ストーマの観察点と退院後の注意点について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（成人看護学[5]の消化に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
11	内分泌・代謝疾患	<p>主なホルモンとその作用、特徴、feedback 機構について説明する。下垂体と視床下部の解剖およびホルモンについて説明する。下垂体、甲状腺ホルモンに関する疾患の症状、検査、治療と看護を説明する。副腎疾患の病態を説明する。代謝疾患（糖尿病）の症状、合併症、検査、治療・看護について説明する。脂質異常・メタボリックシンドロームの治療、痛風の症状と治療について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（成人看護学[6]の内分泌・代謝に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
12	血液・免疫	<p>血液検査の基準値、貧血（鉄、再生不良、溶血、自己免疫性溶血、二次性）の症状と治療、患者の看護を説明する。</p> <p>出血性疾患と分類（アレルギー性紫斑病、DIC、血友病、出血傾向のある患者の看護を説明する。</p> <p>白血病と分類（急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、成人 T 細胞白血病、白血病患者の看護、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の診断、症状、治療を説明する。</p> <p>骨髄移植とその看護、輸血、抗原抗体について説明する。</p> <p>アレルギーについて、その仕組みと検査法、治療について説明する。自己免疫疾患の種類と薬物療法について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（成人看護学[4]の血液に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
13	感覚器	<p>耳鼻咽喉科の診察、耳・咽頭・喉頭の解剖について説明する。</p> <p>耳の検査、難聴の種類を説明する。</p> <p>急性・慢性中耳炎、メニエール病、鼻出血、慢性副鼻腔炎、鼻アレルギー、扁桃肥大、扁桃炎、耳鼻咽喉科悪性腫瘍の治療（喉頭癌）、唾液腺疾患などの耳鼻科で取扱う疾患を説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（成人看護学[14]の感覚器に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
14	生殖器	<p>女性生殖器の機能構造、診察について説明する。事例を用いて、ホルモン、基礎体温、子宮頸癌の病態と経過を説明する。婦人科疾患、尖圭コンジローマ、外陰部ヘルペス、トリコモナス膣炎、クラミジア感染症、淋病、カンジダ外陰炎を説明する。梅毒の動向、診断、検査、治療について説明する。</p> <p>事例を用いて、卵巣癌の病態、診断、治療について説明する。大腿骨頸部骨折にも触れる。</p>	<p>事前学習：CBT（成人看護学[9]の生殖器に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
15	運動器	<p>高齢者の骨折と寝たきりになる原因、高齢者の骨折について、大腿骨近位部骨折の種類（大腿骨頸部、大腿骨転子部骨折）および治療（手術療法）について説明する。</p> <p>脊椎圧迫骨折と保存療法、橈骨遠位端・上腕骨近位端骨折とその治療、骨粗鬆症と薬物治療、ロコモティブシンドローム、関節性疾患（変形性股関節・膝関節症）の治療と合併症、脊椎疾患（椎間板ヘルニア）と腰痛について説明する。</p>	<p>事前学習：CBT（成人看護学[10][11]の運動器に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）</p> <p>事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護薬理学			単位	2単位
科目名（英語）	Nursing Pharmacology			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	竹内 弘、東 泉				
授業概要	薬物治療において看護師の果たす役割は大きい。誤薬の防止、治療効果の確認、有害作用の早期発見と予防、服薬に関する患者指導、患者・家族に対する治療の説明など、に必要となる薬理学の基礎知識と薬物治療の基本すなわち、1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	遺伝学、栄養学、生態機能看護学 I, II, III, 看護生化学、病態看護学 I, II、感染・免疫看護学				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 『疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学』第14版 吉岡充弘他著 医学書院 2018年				
参考図書・教材等	『NEW 薬理学』改訂第7版 田中千賀子・加藤隆一・成宮周編 南江堂 2017年 系統看護学講座 別巻 『臨床薬理学』第1版 井上智子・窪田哲朗編 医学書院 2017年 『薬がみえる』vol.1, 2, 3 第1版 医療情報科学研究所編 メディックメディア 各2014, 2015, 2016年				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	×
学習相談・助言体制	質問は随時受け付けます。口頭、小テスト・アンケート用紙への記入、メール等で質問して下さい。詳細は初回講義時に説明します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	薬の作用と関連する人体のしくみを記述できる。
		(DP2)	薬の作用と作用機序・薬物相互作用や有害作用を理解し、薬の有益性と危険性（薬害を含む）を記述できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	薬物相互作用や有害作用についての知識を活用して自ら情報収集・整理を行い、薬物療法中に現れる諸症状について思考・判断できる。
		(DP4)	薬物相互作用や有害作用についての知識を活用し、薬物療法中に現れる諸症状について説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる。総合評価で90%以上獲得する。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
成績評価の基準	1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について理解する。総合評価で60%以上獲得する。		
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について自身で情報収集して十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる。
A：80～89 履修目標を達成している。
1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について理解し、他者に説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について理解する。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、についての理解が不足している。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10					100
知識・理解	(DP1)	10					10
	(DP2)	60	10				70
思考・判断・表現	(DP3)	10					10
	(DP4)	10					10
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	・小テストは随時実施しますが、事前に範囲などを告知します。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	薬理学総論1:薬理学の概念、作用機序と薬物受容体（竹内）	看護薬理学の講義について簡単なオリエンテーションを行う。配布資料とスライドを使用して講義を行う。薬理学の概念、薬物の作用機序の概略と代表的な薬物受容体についてテキストに沿って説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.4～23）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
2	薬理学総論2:薬物使用の有益性と危険性（薬害を含む）（竹内）	薬物使用の有益性と危険性についてテキストに沿って説明する。代表的な薬害についても触れて、薬害の発生・拡大を予防するための取り組みや仕組みを説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.48～54）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
3	薬理学総論3:薬の体内での挙動（薬物動態学）（東）	投与された薬物が、どのような生体内運命をたどるのか、吸収・分布・代謝・排泄の過程についてテキスト、資料ス	【事前学習】テキストの関連範囲（p.23～40）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼ

		ライドを用いて講義を行う。	ミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
4	薬理学総論4:薬物の相互作用と薬効に影響する因子（東）	薬の効き方に影響する多様な生体側、薬剤側の因子について、テキスト、資料スライドを用いて講義を行う。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.40～48）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
5	薬理学総論5:医薬品に関する法律と医薬品の取り扱い（竹内）	薬物使用の有益性と危険性についてテキストに沿って説明する。代表的な薬害についても触れて、薬害の発生・拡大を予防するための取り組みや仕組みをテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.54～61）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
6	末梢神経系に作用する薬物Ⅰ:自律神経系と薬の作用（交感神経作用薬・副交感神経作用薬）、筋弛緩薬、局所麻酔薬（竹内）	自律神経系に作用する薬物の分類と薬理作用、作用機序、副作用について、また局所麻酔薬についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.137～156）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
7	心臓・血管系に作用する薬物Ⅰ:抗高血圧薬、狭心症治療薬、うっ血性心不全治療薬（竹内）	循環器系に作用する薬物のうち、降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.190～204）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
8	心臓・血管系に作用する薬物Ⅱ:抗不整脈薬・利尿薬・高脂血症治療薬・血液に作用する薬物（竹内）	循環器系に作用する薬物のうち、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固系/線溶系に作用する薬物の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.204～226）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
9	中枢神経系に作用する薬物Ⅰ:全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、麻薬性鎮痛薬（東）	中枢神経系に作用する薬物のうち、全身麻酔薬、鎮静催眠薬、抗不安薬、鎮痛薬について資料スライドを用いて講義を行う。	【事前学習】テキストの関連範囲（第8章）の病態および基礎知識の箇所を重点的に読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
10	中枢神経系に作用する薬物Ⅱ:抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬（東）	中枢神経に作用する薬物のうち、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬について資料スライドを用いて講義を行う。	【事前学習】テキストの関連範囲（第8章）の病態および基礎知識の箇所を重点的に読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
11	抗感染症薬（竹内）	抗感染症薬の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.66～93）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
12	抗がん薬、免疫治療薬（竹内）	抗がん薬と免疫系に作用する薬物の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.96～120）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
13	抗アレルギー薬、抗炎症薬（竹内）	抗アレルギー薬および抗炎症薬の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.122～136）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
14	呼吸器・消化器・物質代謝に作用する薬物（竹内）	呼吸器（気管支喘息など）・消化器（消化性潰瘍など）・物質代謝（糖尿病・骨粗鬆症など）に関連する治療薬の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.230～264）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
15	消毒薬（竹内）	消毒薬の種類と応用・適用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.298～301）を読む（DP1,2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）
備考	<ul style="list-style-type: none"> 履修上、特別な配慮が必要な学生は、申し出の内容により対応しますので申し出てください。 出欠状況の管理を兼ねてアンケート用紙を配布します。授業改善の参考としますのでご協力ください。 		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	感染・免疫看護学演習		単位	1 単位
科目名（英語）	Infection and Immunology		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	1 年	開講時期	後期	
担当教員	杉野浩幸			
授業概要	看護師として知っておくべき細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について概説する。感染症の症状について理解し、第三者に的確に説明できることを目標とする。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生態機能看護学 I、遺伝学、看護生化学における学修内容			
テキスト	・講義担当者が作成したテキストを配付する。（内容は以下の参考図書を要約）			
参考図書・教材等	・新クイックマスター、微生物学』、医学芸術社、『系統看護学講座、微生物学』、医学出版、『看護の基礎固め、6. 微生物学編』、メディカルレビュー社			
実務経験を生かした授業	医学部細菌学教室に所属し、細菌・ウイルス実験・講義を担当した教員が、医学部および医学研究科大学院博士課程における指導経験、附属病院等における医師・看護師との連携において得られた知見を基に、看護の現場において必要な感染症や感染対策における基礎について教授する。		授業中の撮影	×
学習相談・助言体制	オフィスアワー、メール、授業後に直接質問を受けるなど、リクエストに応じて随時対応を行う。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	各種感染症について、病名、原因となる細菌・ウイルス・真菌、免疫応答について理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について解剖学や病態生理学における学修内容を踏まえ深く理解する。 授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
高齢者、乳幼児、免疫力低下状態にある患者、およびその看護を実践する際に、それぞれの理解力を考慮した上で、病因微生物との関連性や、疾患の特徴、予防接種や免疫系等について適切な説明、指導ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について解剖学や病態生理学における学修内容を踏まえ深く理解しており、高齢者、乳幼児、免疫力低下状態にある患者、およびその看護を実践する際に、それぞれの理解力を考慮した上で、病因微生物との関連性や、疾患の特徴、予防接種や免疫系等について適切な説明、指導が可能であること。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について解剖学や病態生理学における学修内容を踏まえ一定レベル以上の理解とともに、第三者に対し病因微生物との関連性や、疾患の特徴、予防接種や免疫系等について説明、指導が可能であること。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について現状の把握が不十分であり、医療の現場において、第三者に対し明確なエビデンスを持って説明するためにはさらなる自己学習を必要とする。
C：60～69 到達目標を達成している。
細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について現状の把握が不十分であり、必要最小限の知識習得をクリアしているものの医療従事者としての知識が不足していると認められ今後も継続して自己学習が必要と判断される。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について十分把握しておらず、第三者に説明できない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		60			40	1020
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	1回の欠席につき5点減点する。試験の点数（100点満点）から欠席分の点数を引き、60点以上を合格とする。試験は第13回目に実施する。						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
1	オリエンテーション、HIV感染症について（杉野）	オリエンテーション テキスト配布、授業の進め方、予習・復習の方法について解説する。 講義 パワーポイント資料を用いたHIV検査、および、テキストによるHIV感染者の国内、海外動向について詳細な解説を行う。	事前学習：HIVおよびAIDSについて簡単に調べておく（DP2） 事後学習：各自治体におけるエイズ検査の実施状況について調べておく（DP2）
2	細菌感染症-1（杉野）	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ・黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、A群・B群レンサ球菌、肺炎球菌、腸球菌	事前学習：細菌、ウイルス、カビ、酵母、真菌、微生物、バクテリアについて、その分類を調べておく（DP2） 事後学習：MRSAについて、その危険性、治療薬、予防法などを調べておく（DP2）

3	細菌感染症-2 (杉野)	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ・百日咳菌、緑膿菌、ブルセラ菌、野兔病菌、レジオネラ菌、大腸菌	事前学習：O157 について調べておく (DP2) 事後学習：レジオネラ菌感染に関するニュースを調べておく (DP2)
4	細菌感染症-3 (杉野)	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ・赤痢菌、チフス菌、パラチフス菌、ネズミチフス菌、ペスト菌、肺炎桿菌、コレラ菌	事前学習：海外に出かける際に必要な予防接種について調べておく (DP2) 事後学習：飛沫感染と空気感染について確認しておく (DP2)
5	細菌感染症-4 (杉野)	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ・腸炎ビブリオ、インフルエンザ菌、軟性下痢菌、淋菌、髄膜炎菌、カンピロバクター、ヘリコバクター・ピロリ菌、梅毒トレポネーマ	事前学習：ピロリ菌について簡単に調べておく (DP2) 事後学習：ヒブワクチンについて再度確認しておく (DP2)
6	細菌感染症-5 (杉野)	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ・炭疽菌、セレウス菌、破傷風菌、ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、ディフィシル菌、リステリア菌	事前学習：芽胞について調べておく (DP2) 事後学習：ワクチン、免疫グロブリン、抗毒素血清などの用語について調べておく (DP2)
7	細菌感染症-6 (杉野)	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ・ジフテリア菌、結核菌、らい菌、肺炎マイコプラズマ、発疹チフスリケッチア、トラコーマクラミジア	事前学習：結核、BCG について調べておく (DP2) 事後学習：リケッチア、クラミジアについて簡単に調べておく (DP2)
8	ウイルス感染症-1 (杉野)	講義 以下のウイルスについて、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ・痘瘡ウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、EB ウイルス、サイトメガロウイルス、アデノウイルス、JC ウイルス、ヒトパピローマウイルス、ヒトパルボウイルス B19	事前学習：ウイルスの大きさ、形、ゲノムの種類などを簡単に調べておく (DP2) 事後学習：HPV に対する予防接種について、最近の動向を調べておく (DP2)
9	ウイルス感染症-2 (杉野)	講義 以下のウイルスについて、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ・ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エンテロウイルス、ライノウイルス、ロタウイルス、ノロウイルス、風疹ウイルス	事前学習：ウイルス性食中毒について調べておく (DP2) 事後学習：ノロウイルス、ロタウイルスの消毒法について調べておく (DP2)

その他 ()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	生態・病態看護学実験			単位	1単位
科目名（英語）	Anatomy, Physiology and Pathology Laboratories			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：江上千代美 科目担当者：芋川 浩・杉野浩幸・塩田 昇・松山美幸				
授業概要	人体の構造と機能をより理解するために、自ら経験する実習を通して、人体の生理的反応を捉える。また、人体解剖見学及び動物の解剖を通して、正常な臓器や組織の観察を行い、生体の構造や機能の理解を深める。さらに、手指・鼻腔などから細菌の検出を行い、感染防御の基礎的知識を修得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	授業を学ぶにあたって、生態機能看護学Ⅰ・Ⅱを履修しておくことが望ましい。				
テキスト	「新・看護生理学テキスト」南江堂・「カラー人体解剖学」西村書店				
参考図書・教材等	担当教員が作成した実験・実習マニュアル e-learning に載せたテキスト、およびその他の配布資料				
実務経験を生かした授業	生理学実験では、臨床経験豊富な教員が、看護に活かせるように実験を指導する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	連絡先は別途配布する連絡先資料参照してください。 Appointment をメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。 杉野研究室：授業後の教室、研究室での指導を行います（日程調整は学内メール等で行います）。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	人体の構造と機能の知識を具体的に述べるができる。感染防御の知識を説明できる。
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	指定されたレポートを作成することで人体の構造と機能及び感染看護学に関する課題を完成することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	生理学実験で得られた生体情報を分析し、学んだ知識にもとづいて考察することができる。
		(DP 9)	
		(DP10)	心電図、尿検査などの検査方法について注意事項をおさえながら実施できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>人体の構造と機能をより理解するために、自ら経験する実習を通して、人体の生理的反応を捉え日常生活動作と関連させることができる。また、3D 人体アトラス教材による疑似解剖や人体解剖見学を通して、正常な臓器・組織の観察およびそれらの機能障害の状況を体感し、生体の構造や機能等を詳細に理解できる。さらに、手指・鼻腔などから細菌の検出を行い、感染防御の基礎的知識を修得する。</p> <p>常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを理解し、現場において高齢者、乳幼児、免疫力低下状態にある患者、およびその看護を実践する際に、それぞれの理解力を考慮した上で、疾患別に適切な感染予防対策を提案できること。また院内感染予防についても熟練者となる程度専門的な議論ができる能力を有すること。</p>			

到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>
<p>人体の構造と機能をより理解するために、自ら経験する実習を通して、人体の生理的反応を捉えることができる。また、3D 人体アトラス教材による疑似解剖や人体解剖見学を通して、正常な臓器・組織の観察およびそれらの機能障害の状況を体感し、生体の構造や機能等を理解できる。さらに、手指・鼻腔などから細菌の検出を行い、感染防御の基礎的知識を修得する。</p> <p>常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを理解し、現場において適切に説明することができる能力を得ること。</p>	
成績評価の基準	
<p>S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。</p>	
<p>実験環境と生活の中での生体反応を捉え、メカニズムを十分に理解することができる。様々な刺激と人間の生理反応について、得られたデータをもとに、既修の知識と日常生活の生体反応を結び付けて論理的に考察することができる。実験手順をよく理解して、検査を適切に実施し、データを取ることができる。</p> <p>12-15 回</p> <p>3D 人体アトラス教材による疑似解剖や人体解剖見学により、正常な臓器・組織の機能等を正確に理解・認識し、それらの機能障害についても詳細に説明できる。</p> <p>常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを理解し、現場において高齢者、乳幼児、免疫力低下状態にある患者、およびその看護を実践する際に、それぞれの理解力を考慮した上で、疾患別に適切な感染予防対策を提案できる。また院内感染予防についても熟練者とある程度専門的な議論ができる能力を有すること。</p>	
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>	
<p>実験環境と生活の中での生体反応を捉え、メカニズムを十分に理解することができる。様々な刺激と人間の生理反応について、得られたデータをもとに、既修の知識と日常生活の生体反応を結び付けて考察することができる。実験手順を理解して、検査を実施し、データを取ることができる。</p> <p>12-15 回</p> <p>3D 人体アトラス教材による疑似解剖や人体解剖見学により、正常な臓器・組織の機能等を正確に理解・認識し、それらの機能障害の基本事項についても説明できる。</p> <p>常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを一定レベル以上の理解とともに、現場において高齢者、乳幼児、免疫力低下状態にある患者、およびその看護を実践する際に、それぞれの理解力を考慮した上で、疾患別に適切な感染予防対策を提案できる。</p>	
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p>	
<p>実験環境と生活の中での生体反応を捉え、メカニズムを理解することができる。様々な刺激と人間の生理反応について、得られたデータをもとに、既修の知識を適切に用い考察することができる。実験手順を理解して、検査を実施し、データを取ることができる。</p> <p>12-15 回</p> <p>3D 人体アトラス教材による疑似解剖や人体解剖見学により、正常な臓器・組織の機能等を正確に理解・認識し、それらの機能障害についても説明できる。</p> <p>常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを理解が不十分である。医療の現場において、第三者に対し明確なエビデンスを持って説明するためにはさらなる自己学習を必要とする。</p>	

C : 60~69 到達目標を達成している。

実験環境での生体反応を捉え、メカニズムを概ね理解することができる。様々な刺激と人間の生理反応について、得られたデータをもとに考察することができる。実験手順を概ね理解して、検査を実施し、概ねデータを取ることができる。

12-15回

3D人体アトラス教材による疑似解剖や人体解剖見学により、正常な臓器・組織の機能等を理解・認識し、それらの機能障害についても説明できる。

常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを理解が不十分である。必要最小限の知識習得レベルはクリアしているものの医療従事者としての知識が不足していると認められ今後も継続して自己学習が必要と判断される。

不可 : ~59 到達目標を達成できていない。

実験環境での生体反応を捉え、メカニズムを理解することができない。刺激と人間の生理反応について、得られたデータをもとに、既修の知識を用い考察することができない。部分的な実験手順を理解して、検査を実施し、データを取ることができない。

12-15回

正常な臓器・組織の機能等の理解・認識が不十分であり、臓器・組織の機能障害についての説明も不十分である。

常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを十分理解しておらず、現場において適切に説明できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	20	10	10	100
知識・理解	(DP1)		30	10			40
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		30	10	10		50
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)					5	5
	(DP9)						
	(DP10)					5	5
備考	4名の教員が担当するので、詳しくは各教員から説明がある。履修の順番が変更になることもある。生理学実験では、ルーブリックにより評価するので、実験初日に説明します。微生物実験については初回の実験の際にテキストを配布し説明等を実施します。実験結果および考察を授業時間内にまとめ、提出させ、理解度を検証し成績に反映します。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】 180分(15回) 45分 (30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	<p>オリエンテーション(実験内容・評価方法の提示、参考文献の紹介)</p> <p>および</p> <p>解剖① (芋川 浩) (江上千代美・杉野浩幸・塩田昇・松山美幸)</p>	<p>○解剖に関する実験マニュアルを e-learning より学生各自でダウンロード・印刷し、テキストは必ず事前の一読して、実験等の内容や必要と思われる試技を理解しておくこと。</p> <p>○初回の実験等であるため、オリエンテーションとして、①これからの講義内容、②成績評価方法、③テキストや参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、今後の講義にスムーズ入れるようにする。</p> <p>初回の講義内容としては、</p> <p>①実物大の人体模型による人体全体像の理解と把握、</p> <p>②実物大の人体模型を解体し、各臓器の大きさや機能を把握しながら、元に戻す、</p> <p>③3次元解剖教材である visible body の使用方法の解説、</p> <p>④visible body を活用した人体全体像の把握と腹部内臓全体のスケッチ、</p> <p>⑤3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)の DVD と iPad によるビジュアルな 3次元解剖システムをフル活用し、骨格系、筋系など全身にわたる組織器官系の詳細な観察とそのスケッチを行うなどについて実施する。</p> <p>⑥実物大の人体模型による人体全体像の理解と把握したのち、実物大の人体模型を解体し、各臓器の大きさや機能を詳細に理解把握しながら、人体模型を元の形や臓器の位置に戻す。</p>	
2	<p>解剖②</p> <p>3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)とビジュアルな 3次元解剖システム(visible body)を用いた腹部の詳細な観察とスケッチを実施する</p> <p>(芋川 浩) (江上千代美・杉野浩幸・塩田昇・松山美幸)</p>	<p>○各回ともテキストは必ず事前の一読して、実験等の内容や必要と思われる試技を理解しておくこと。</p> <p>○解剖②の講義内容としては、</p> <p>3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)の DVD と iPad によるビジュアルな 3次元解剖システム(visible body)をフル活用し、</p> <p>①腹部の詳細な観察とそのスケッチを行う(特に、消化器系、泌尿器系)、</p> <p>②胸部の詳細な観察とそのスケッチを行う(特に、循環器系、呼吸器系)などについて実施する。</p> <p>その際、実物大の人体模型による人体全体像の把握イメージしながら、実施する。</p>	
3	<p>解剖③</p> <p>3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)とビジュアルな 3次元解剖システム</p>	<p>○各回ともテキストは必ず事前の一読して、実験等の内容や必要と思われる試技を理解しておくこと。</p> <p>○解剖③の講義内容としては、</p> <p>3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)の DVD と iPad によるビジュアルな 3次元解剖システムをフル活用し、</p>	

	<p>ム (visible body) を用いた腹部の詳細な観察とスケッチを実施する (芋川 浩) (江上千代美・杉野浩幸・塩田昇・松山美幸)</p>	<p>①胸部の詳細な観察とそのスケッチを行う(特に、循環器系、呼吸器系)、 ②脳を含めた神経系の詳細な観察とそのスケッチを行う などについて実施する。 その際、実物大の人体模型による人体全体像の把握イメージしながら、実施する。</p>	
4 5 6 7	<p>感覚：二点弁別法・味覚 (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸) (180分)</p> <p>体温調節：冷却時皮膚温の変化 (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸)</p>	<p>○感覚の実験では5種類(塩味、甘味、酸味、苦味、旨味)の味を感知する味覚の分布と2点弁別刺激による知覚を実験によりデータを取り解析する。感覚は主観であるため、個人差があることを実感しながら、それでも共通性があることを実験によりデータを取り解析する。その結果に考察を加えた内容をレポートする。 ①2点弁別閾と触-圧覚の分布の関係を考察する。②受容野と2点弁別閾との関係を考察する。③測定結果とテキストや過去の論文の結果と比較し考察する。④五味と舌の部位との関係性を考察する。舌で知覚された刺激がどのように脳に伝わるか考察する。⑤学んだことを看護にどのようにつなげるか説明できる。</p> <p>○体温調節：冷却時皮膚温の変化の実験では、手指部分を冷却し、末梢の皮膚表面温度と核心部に近い部位の温度を継続的に測定する。その測定データをもとに体温調節機構の働きを考察する。 ①末梢温度の変化を体温調節のメカニズムの知識を使って考察する。②中枢温度の変化を体温調節のメカニズムの知識を使って考察する。③体温と主観的データ、ヘルスメーターからのデータ、外部環境のデータと関連させて考察する。④学んだことを看護にどのようにつなげるか説明できる。④学んだことを看護にどのようにつなげるか説明できる。</p>	
	<p>感覚：二点弁別法・味覚(135分) (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸)</p> <p>体温調節：冷却時皮膚温の変化 (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸)</p>	<p>○アクティブラーニング①：実験室、情報処理室、図書館(ラーニングコモンズ)のいずれかで、グループワークを行う。感覚の実験(二点弁別法、味覚)で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料(グラフ・表)をExcelやPower point等のソフトを用い作成する。(60分)</p> <p>○アクティブラーニング②：実験室、情報処理室、図書館(ラーニングコモンズ)のいずれかで、グループワークを行う。水負荷で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料(グラフ・表)をExcelやPower point等のソフトを用い作成する。(60分)</p> <p>アクティブラーニング①②の発表会(75分：合計135分)</p>	

	<p>循環：心電図の測定と呼吸性不整脈の観察 (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸) (180分)</p> <p>運動負荷：血圧および心拍数の変化 (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸)</p>	<p>○循環：心電図の測定と呼吸性不整脈の観察の実験では、①RR 間隔：数心拍の平均から心拍数を算出する。正常範囲外である場合は、どのような異常が考えられるかについても調べて考察する。②PR (PQ) 間隔は房室伝導時間を表現しており、正常で 0.11~0.20 秒である。伝導ブロック、加速伝導はないか。正常範囲外である場合は調べて考察する。③QRS 間隔が広い場合は伝導障害などが疑われる。期外収縮があった場合、それが心室起源のものか、上室性起源のものかを QRS 波形から判定し考察する。</p> <p>④深呼吸を行った呼気と吸気からどのような呼吸周期に伴う RR 間隔の変化があったか。深呼吸で心拍数が変化したのは、どのような仕組みによるか、正常範囲外である場合は、どのような異常が考えられるかについても調べて考察する。</p> <p>実験に必要な知識は以下の通りである；運動負荷の強度により、心拍数や血圧の変化する仕組み、②基礎代謝量や安静坐位時の代謝について、などの知識である。</p> <p>○循環：運動負荷：血圧および心拍数の変化の実験では、運動負荷による血圧及び心拍数増加のメカニズムを考察する。</p>	
	<p>循環：心電図の測定と呼吸性不整脈の観察 (135分) (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸)</p> <p>運動負荷：血圧および心拍数の変化 (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸)</p>	<p>○アクティブラーニング①：実験室、情報処理室、図書館（ラーニングコモンズ）のいずれかで、心電図で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料（グラフ・表）を Excel や Power point 等のソフトを用い作成する。（60分）</p> <p>○アクティブラーニング②：実験室、情報処理室、図書館（ラーニングコモンズ）のいずれかで、グループワークを行う。運動負荷で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料（グラフ・表）を Excel や Power point 等のソフトを用い作成する。（60分）</p> <p>アクティブラーニング①②の発表会（75分：合計 135分）</p>	
8	<p>解剖④ 人体解剖実習 (芋川 浩) (江上千代美・杉野浩幸・塩田昇・松山美幸)</p>	<p>○各回ともテキストは必ず事前に一読して、実験等の内容や必要と思われる試技を理解しておくこと。</p> <p>○解剖④の講義内容としては、 前 3 回の実験(解剖①~解剖③)で学び、理解したことを、実際の人体(献体)を観察・解剖して、その理解をさらに深める。</p> <p>① 実物の人体について詳細な観察をし、観察結果をレポートにまとめる。 ② 実物の人体を詳細な観察しながら、その人体構造と機能を学習・理解するため、実際の人体において簡単な解剖実習を行う。 などについて実施する。</p>	

9 10 11	腎機能:水負荷試験による尿量の変化(180分) (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸)	①水負荷を行った被検者において、負荷後 120 分間で排泄した尿量の合計は負荷した水分量の約何%にあたるか、尿の排泄がピークをむかえるのは、負荷を行ってからおよそ何分後かを考察する。②負荷の有無による反応の違いを比較しその原因を考察する。③通常の生活時における分時尿量ならびに1日あたりの不可避尿と比較して結果を考察する。④学んだことを看護にどのようにつなげるか説明できる。	
	水負荷試験による尿量の変化(135分) (江上千代美・塩田昇・松山美幸) (芋川 浩・杉野浩幸)	○アクティブラーニング:実験室、情報処理室、図書館(ラーニングコモンズ)のいずれかで、グループワークを行う。水負荷で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料(グラフ・表)を Excel や Power point 等のソフトを用い作成する。 疑問・質問については教員が対応する。 アクティブラーニングの発表会(75分:合計135分)	
12	実験に関する注意点や内容について 手指、咽頭、口腔常在菌の検出(培養まで) (杉野浩幸) (江上千代美・芋川 浩・塩田昇・松山美幸)	○事前・事後学習の指定や課題提出等の指定はありません。時間内にすべての説明、実験、観察、結果のまとめまで行います。また、授業で使用したテキスト原本(PDF)、使用スライドおよび動画はすべて研究室ホームページ(https://lab.hsugino.net/)から閲覧可能です。 ○手指常在菌の検出と消毒効果(培養まで) 医療の現場では感染症の防止が重要である。手指に付着している細菌は院内感染や医療事故の原因となる。手指の常在細菌を調べるとともに、手洗いや消毒薬(ウェルパス)の効果を調べる。 ○咽頭常在菌の検出(培養まで) ヒトの咽頭や鼻腔にはブドウ球菌やナイセリア属細菌などの常在菌が存在しており、皮膚感染症、骨髄炎、敗血症、肺炎、胃腸感染症、髄膜炎などの原因となる。このような咽頭常在菌の存在確認を行う。 ○口腔常在菌の検出(培養まで) ヒトの口腔には様々な細菌が常在菌として存在する。このような細菌は誤嚥性肺炎や口腔内疾患の原因となる事実を把握しておく必要がある。そこで、健康なヒトの口腔内に常在するインフルエンザ菌、溶血性連鎖球菌の検出を行う。	なし
13	手指、咽頭、口腔常在菌の検出(結果観察と解説) (杉野浩幸) (江上千代美・芋川 浩・塩田昇・松山美幸)	○事前・事後学習の指定や課題提出等の指定はありません。時間内にすべての説明、実験、観察、結果のまとめまで行います。また、授業で使用したテキスト原本(PDF)、使用スライドおよび動画はすべて研究室ホームページ(https://lab.hsugino.net/)から閲覧可能です。 ○手指常在菌の検出と消毒効果(結果の観察、記録、解説) ○咽頭常在菌の検出(結果の観察、記録、解説) ○口腔常在菌の検出(結果の観察、記録、解説)	なし

		上記、3つの実験において、培養プレートの観察、結果について記録（画像など）を行い、その結果、考察を記述する。実際に培養を行った結果、どのような微生物が成育し、その形態を観察し、日和見感染症との関連や感染対策の必要性について理解する。	
14	<p>携帯端末に付着した細菌、口腔内真菌、薬剤感受性テスト（培養まで）（杉野浩幸）</p> <p>（江上千代美・芋川 浩・塩田昇・松山美幸）</p>	<p>○事前・事後学習の指定や課題提出等の指定はありません。時間内にすべての説明、実験、観察、結果のまとめまで行います。また、授業で使用したテキスト原本（PDF）、使用スライドおよび動画はすべて研究室ホームページ（https://lab.hsugino.net/）から閲覧可能です。</p> <p>○携帯端末に付着した細菌の検出（培養まで）</p> <p>手はあらゆるものに触ることができ、その汚染を払うことができる。手指で直接触るボタンやレバー、スイッチなどには MRSA や大腸菌群などが付着していることが多い。健常者には何ら問題はないが、医療の現場では院内感染を拡大させる原因となる。今回は、各自が所有している携帯端末の表面、ボタン等に付着している細菌を検出する。</p> <p>○口腔内に常在する真菌の検出（Candida 属）（培養まで）</p> <p>口腔内に真菌が常在していることを確認し、培養することで真菌のコロニーを観察する。細菌と真菌の培地の違い、コロニーの形態、培養温度の違いを理解する。</p> <p>○薬剤感受性テスト（培養まで）</p> <p>微生物の種類によって抗菌薬に対する耐性、感受性が異なる。大腸菌（グラム陰性桿菌）および表皮ブドウ球菌（グラム陽性球菌）に対する感受性の違いを観察する。</p>	なし
15	<p>携帯端末に付着した細菌、口腔内真菌、薬剤感受性テスト（結果観察と解説）</p> <p>微生物実験に関する総括（杉野浩幸）</p> <p>（江上千代美・芋川 浩・塩田昇・松山美幸）</p>	<p>○事前・事後学習の指定や課題提出等の指定はありません。時間内にすべての説明、実験、観察、結果のまとめまで行います。また、授業で使用したテキスト原本（PDF）、使用スライドおよび動画はすべて研究室ホームページ（https://lab.hsugino.net/）から閲覧可能です。</p> <p>○携帯端末に付着した細菌の検出（結果の観察、記録、解説）</p> <p>○口腔内に常在する真菌の検出（Candida 属）（結果の観察、記録、解説）</p> <p>上記、2つの実験において、培養プレートの観察、結果について記録（画像など）を行い、その結果、考察を記述する。実際に培養を行った結果、どのような微生物が成育し、その形態を観察し、日和見感染症との関連や感染対策の必要性について理解する。</p> <p>○薬剤感受性テスト（結果の観察、記録、解説）</p> <p>培養プレートの観察、結果について記録（画像など）を行い、その結果、考察を記述する。抗菌薬に対する耐性、感受性の違いから適切な抗菌薬の使用法、耐性菌およびその耐性メカニズムの理解等を深める。</p>	なし
備考	<p>人体解剖実習と水負荷の実験では体液に触れる可能性があるため、ディスボーズプル白衣を着用する（購入に関するオリエンテーションは初回授業で実施する）。</p> <p>○生理学の実験はマニュアルに実験の詳細を記載している。実験方法は e-learning に動画を up している。</p>		

微生物実験ではスライド、動画など、マルチメディアを多用した実験を展開し、事前事後学習（任意）が行えるよう、e-learning システムに上記テキスト、スライド、動画を掲載しています。これらは PC・スマートフォンでの閲覧に対応しています。

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○			○		○	○	○	○						
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	基礎看護学概論			単位	2
科目名（英語）	Introduction to Basic Nursing			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	永嶋由理子・淵野由夏・加藤法子				
授業概要	看護は対象の健康的な生活や自立の獲得に向け、直接的なかかわりを通して実現される実践活動である。この科目では、実践活動の基盤となっている「ホリスティックな人間の見方」「健康のとらえ方」「環境のとらえ方」「看護とは何か」を柱に、目的論・対象論・方法論をふまえながら学ぶ。また看護はどのような歴史的変遷をたどってきたのか、保健医療の中における看護の専門性・独自性についても学んでいく。さらに看護の役割は何かについても理解を深めていく。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・松木光子、『看護学概論』第5版、ヌーヴェルヒロカワ、2011年、2,200円（税別） ・F・ナイチンゲール著、湯槿ます他訳『看護覚え書改訂第7版』現代社、2011年、1,700円（税別） ・ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槿ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会、2016年、1,200円（税別） 				
参考図書 ・教材等	必要時、別途資料を配布する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	授業に対する質問はレスポンスカードで受け付ける。レスポンスカードに記載された質問については、次回の講義で回答するか、個別に対応する。上記以外でも質問や相談は随時受け付けるが、メールによる事前アポイントメントが必要。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間」「健康」「環境」「看護」の主要概念について理解できる。 ・主要概念と生活者や生活との関連について理解できる。 ・看護の歴史的変遷および社会における看護の役割について理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	・グループワークを通じて自己の意見を他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	・保健医療の中において求められる看護の専門性および独自性について探究できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」および生活の視点から看護を捉えたうえで、看護職に必要とされる役割や機能について考察できる。また、保健医療の中において求められる看護の専門性や独自性について歴史的変遷と今日の現状を踏まえながら、探究することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」および生活の視点から看護を捉えたうえで、看護職に必要とされる役割や機能について考えられる。また看護の専門性について歴史的変遷や現状を踏まえながら検討できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70		30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	70		10			80
思考・判断・表現	(DP3)		20				20
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス（永嶋） 看護とは何か（永嶋）	<ul style="list-style-type: none"> 基礎看護学概論をどのように学習していくかを理解するためにガイダンスを行う。 看護とは何かについて理解を深めていくために、看護の定義や看護学という学問の観点から学んでいく。また、看護教育制度や看護専門職とは何かなどの学びを通して、看護についてイメージしこれから学んでいく看護への導入とする。 	事後学習： 事後課題を課す。（DP2・DP5）

その他（ ）															
内容	グループワークやグループディスカッションなどを適宜取り入れ、自己の視点と他者の視点を共有し、内容を考察することで学びを深める。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	基礎看護技術論		単位	2
科目名（英語）	Basic Nursing Skills		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	1年	開講時期	後期	
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・清水夏子・松山美幸・清原智佳子			
授業概要	看護技術の理論的な根拠を理解し、対象の健康状態や発達段階等の個別性に応じて臨機応変に活用できるように看護の基本技術を修得する。現在用いられている看護技術は、実践の中で検証が重ねられているが、そのような成果を学ぶとともに、看護技術を検証する能力も身につける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	〈履修条件〉 入学年度の学生便覧を参照。 〈授業内容を理解するために必要な知識〉 基礎看護学概論で学んだことについて理解しておく。			
テキスト	・茂野香おる他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2019年、2,600円（税別） ・任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2017年、2,900円（税別）			
参考図書 ・教材等				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	・週1回（開講後に曜日は決定）演習後のフォローアップとして実技修得支援を行う。 ・希望者は事前にアポイントメントをとること（担当：於久）。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	・看護技術に必要な基礎的知識について理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	・看護行為の裏付けについて考えることができる。
		(DP4)	・対象に適した看護技術の方法について考えることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	・基礎看護技術の行為の根拠を説明でき、疑問が生じた場合は、解決のための主体的な行動をとることができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	・対象の安全・安楽を考えた基礎的技術を身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
看護技術の理論的な根拠を理解し、対象の健康状態や発達段階等の個別性に応じた看護技術の方法について考えることができる。そのうえで、対象の安全・安楽・自立に向けた基礎的技術を身につけ実施することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
看護技術の基礎的知識を踏まえたうえで、安全・安楽な基礎的技術が実施できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	演習記録	発表	ポートフォリオ	看護技術 (技術チェック含)	合計
総合評価割合		70		10			20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	70		5				
思考・判断・表現	(DP3)			5				
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						5	
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						15	
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1 ・ 2	基礎看護技術概説 環境を整える援助技術①（永嶋） －ベッドメイキング－	1. 講義 ・基礎看護技術の概要について講義する。 ・環境を整える援助技術に関する基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・ベッドメイキングの演習を行う。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術論II』第1章環境調整技術を読む（DP2）。 〈事後学習〉 ・ベッドメイキングを反復練習する（DP10）。
3 ・ 4	活動・休息の援助技術①（於久） －体位変換、床上移動－	1. 講義 ・活動、休息の援助技術に関する基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・体位変換、床上移動の演習を行う。 ・移動、移送の演習を行う。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術論II』第4章活動・休息援助技術を読む（DP2）。 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、3、5）。
5 ・ 6	活動・休息の援助技術②（於久） －移動、移送、歩行の援助－		〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日ま

			でに提出する (DP2、3、5)。
7 ・ 8	環境を整える援助技術② (於久) - 臥床患者のシーツ交換 -	1. 講義 ・環境を整える援助技術に関する基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・臥床患者のシーツ交換の演習を行う。	〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。 ・臥床患者のシーツ交換を反復練習し、ビデオを作成・提出して修得状況の評価を受ける (DP10)。
9 ・ 10	安全を守る援助技術① (淵野) - 手洗手法、滅菌手袋の装着 -	1. 講義 ・安全を守る援助技術に関する基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・手洗手法、滅菌手袋の装着の演習を行う。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術論Ⅱ』第13章 感染防止の技術を読む (DP2)。 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
11 ・ 12	安全を守る援助技術② (淵野) - ガウンテクニック、無菌操作 -	・ガウンテクニックの演習を行う。	〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
13 ・ 14	食の援助技術① (藤野) - 食事介助 -	1. 講義 ・食の援助技術に関する基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・食事介助の演習を行う。 ・食事介助、口腔ケアの演習を行う。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術論Ⅱ』第2章 食事援助技術を読む (DP2)。 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
15 ・ 16	食の援助技術② (藤野) - 食事介助、口腔ケア -		〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術論Ⅱ』第6章 清潔・衣生活援助(口腔ケア)技術を読む (DP2)。 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
17 ・ 18	排泄の援助技術 (藤野) - 便器、尿器の使用法 -	1. 講義 ・排泄の援助技術に関する基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・便器、尿器の使用法の演習を行う。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術論Ⅱ』第3章 排泄援助技術を読む (DP2)。 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
19 ・ 20	清潔の援助技術① (加藤) - 全身清拭、寝衣交換 -	1. 講義 ・清潔の援助技術に関する基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・全身清拭、寝衣交換の演習を行う。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術論Ⅱ』第6章 清潔・衣生活援助技術を読む (DP2)。 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
21 ・ 22	清潔の援助技術② (加藤) - 全身清拭、寝衣交換 -	・洗髪、整容の演習を行う。 ・手浴、足浴の演習を行う。 ・陰部洗浄、おむつ交換の演習を行う。	〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
23 ・ 24	清潔の援助技術③ (加藤) - 洗髪、整容 -		〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
25 ・ 26	清潔の援助技術④ (加藤) - 手浴、足浴 -		〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する (DP2、3、5)。
27 ・	清潔の援助技術⑤ (加藤) - 陰部洗浄、おむつ交換 -		〈事前学習〉

28			<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト『基礎看護技術論II』第6章 清潔・衣生活援助技術(陰部洗浄)を読む(DP2)。 ・テキスト『基礎看護技術論II』第3章 排泄援助技術(おむつ交換)を読む(DP2)。 〈事後学習〉 ・演習記録を作成し、指示された期日までに提出する(DP2、3、5)
29 ・ 30	まとめ(瀏野) -総合技術演習-	1. 技術演習 ・安全を守る技術のうち、滅菌手袋の装着を実施し、評価を受ける。	〈事前学習〉 ・滅菌手袋の装着を反復練習する(DP10)。 〈事後学習〉 ・滅菌手袋の装着を修得できるまで練習する(DP10)。
備考	・技術演習は、担当教員全員で指導にあたる。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習/問題解決学習																			
体験学習/調査学習																			
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																			
その他()																			
内容				体験学習やグループディスカッションを適宜行う。															

I. 科目情報

科目名（日本語）	シンプトンマネジメント論			単位	1
科目名（英語）	Symptom Management			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	永嶋由理子・洲野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美				
授業概要	さまざまな疾病や治療に付随するシンプトン(Symptom)を理解し管理・緩和することは、患者に安楽をもたらすQOLの向上を目指す看護にとって非常に重要なことである。この授業では、看護の視点から、症状マネジメントの概念、構成要素、そして患者の症状体験の全容を理解し、症状を管理・緩和する実践についてその科学的根拠とともに学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：入学年度の学生便覧を参照。 授業内容を理解するために必要な知識： 基礎看護技術論、看護過程、フィジカルアセスメント論で学んだことについて理解しておく。				
テキスト	授業時に資料を配布する。				
参考図書・教材等	必要時提示する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談・助言体制	演習時間外でも質問等について個別対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	症状マネジメントについて理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	対象者に応じた症状マネジメントを行い、必要な看護ケアを見出すことができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	症状マネジメントから導き出された看護ケアについて提案できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	症状を管理・緩和する看護ケアを実施することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 看護の視点から、症状マネジメントの概念、構成要素、そして患者の症状体験の全体像を理解することができる。その上で症状マネジメントモデルの考え方に沿って、安楽をもたらすQOLを向上させる個別性のある症状管理・緩和のための看護援助を実施することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 看護の視点から、症状マネジメントの概念、構成要素、そして患者の症状体験を理解することができる。その上で症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状を管理・緩和するための看護援助を実施することができる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A : 80~89	履修目標を達成している。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	グループワーク ロールプレイ	ポートフォリオ	技術演習	合計
総合評価割合	60	10		20		10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	60	10				70
思考・判断・表現	(DP3)			10			10
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)			10			10
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					10	10
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	・症状・シンプトンとは ・症状マネジメントモデル ・症状マネジメントにおける看護師の役割と責任 (永嶋)	・シンプトンマネジメントの目的、症状マネジメントを用いた看護ケア、症状マネジメントの実際、シンプトンマネジメントの進め方、シンプトンマネジメントの各ステップについて講義する。	<事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)
2	外皮系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント① (於久)	・症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、外皮系の基礎知識、症状のメカニズム(病態)、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助の立案・提案、効果の評価について講義する。	<事前学習> 生体機能看護学、病態看護学で学習した外皮系を含む内容について復習する。(DP2) <事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)
3	外皮系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント② (於久)	・外皮系の症状を管理・緩和するための看護技術について演習する。 ・前回授業の理解度を確認するために小テストを行う。	<事前学習> 基礎看護技術論、フィジカルアセスメント論で学習した褥瘡を予防する技術を含む内容について復習する。(DP2) <事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復

			習する。(DP10)
4	外皮系の症状をもつ患者の シムプトンマネジメント③ (淵野)	<ul style="list-style-type: none"> 外皮系の症状を管理・緩和する看護技術について演習する。 	<p><事前学習> 基礎看護技術論で創傷管理の技術を含む内容について読む。(DP2)</p> <p><事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP10)</p>
5	消化器系の症状をもつ患者の シムプトンマネジメント (淵野)	<ul style="list-style-type: none"> 症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、消化器系の基礎知識、症状のメカニズム(病態)、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助の立案・提案、効果の評価について講義する。 	<p><事前学習> 生体機能看護学、病態看護学で学習した外皮系を含む内容について復習する。(DP2)</p> <p><事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)</p>
6	循環器系の症状をもつ患者の シムプトンマネジメント (藤野)	<ul style="list-style-type: none"> 症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、循環器系の基礎知識、症状のメカニズム(病態)、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助の立案・提案、効果の評価について講義する。 前回授業の理解度を確認するために小テストを行う。 	<p><事前学習> 生体機能看護学、病態看護学で学習した循環器系を含む内容について復習する。(DP2)</p> <p><事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)</p>
7	呼吸器系の症状をもつ患者の シムプトンマネジメント① (藤野)	<ul style="list-style-type: none"> 症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、呼吸器系の基礎知識、症状のメカニズム(病態)、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助(立案・提案)、効果の評価について講義する。 前回授業の理解度を確認するために小テストを行う。 	<p><事前学習> 生体機能看護学、病態看護学で学習した呼吸器系を含む内容について復習する。(DP2)</p> <p><事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)</p>
8	呼吸器系の症状をもつ患者の シムプトンマネジメント② (藤野)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸困難の症状を管理・緩和する看護技術について講義する。 前回授業の理解度を確認するために小テストを行う。 	<p><事前学習> 基礎看護技術論で呼吸管理の技術を含む内容について読む。(DP2)</p> <p><事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)</p>
9	呼吸器系の症状をもつ患者の シムプトンマネジメント③ (藤野)	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器系の症状を管理・緩和する看護技術について演習する。 	<p><事前学習> 基礎看護技術論で呼吸管理の技術を含む内容について読む。(DP2)</p> <p><事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP10)</p>
10	感覚器系の症状をもつ患者の シムプトンマネジメント (加藤)	<ul style="list-style-type: none"> 症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、神経系の基礎知識、症状のメカニズム(病態)、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助(立案・提案)、効果の評価について講義する。 	<p><事前学習> 生体機能看護学、病態看護学で学習した感覚器系を含む内容について復習する。(DP2)</p> <p><事後学習> 授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)</p>
11	シムプトンマネジメント 演習①	<ul style="list-style-type: none"> シムプトンマネジメント演習の概要を説明する。 症状マネジメントモデルの考え方に沿って事例を用いてグループワークを行う。 前回授業の理解度を確認するために小テストを行う。 	<p><事前学習> 提示された事例を読む。グループワークに必要な知識について提示された事前課題を行う。(DP2,3,5)</p> <p><事後学習> 演習事例を症状マネジメントの考え方に沿ってまとめる。(DP2,3,5)</p>

12	シンプトンマネジメント演習②	・症状マネジメントモデルの考え方に沿って事例を用いてグループワークを行う。	<事後学習> 演習事例を症状マネジメントの考え方に沿ってまとめる。(DP2,3,5)
13	シンプトンマネジメント演習③	・症状マネジメントモデルの考え方に沿って事例を用いてグループワークを行う。	<事後学習> 演習事例を症状マネジメントの考え方に沿ってまとめる。(DP2,3,5)
14	シンプトンマネジメント演習④	・事例を用いて行ったグループワークの内容をグループごとにロールプレイ形式で発表する。	<事前学習> ロールプレイ内容を練習する。(DP2,3,5,10)
15	シンプトンマネジメント演習⑤	・事例を用いて行ったグループワークの内容をグループごとにロールプレイ形式で発表する。	<事前学習> ロールプレイ内容を練習する。(DP2,3,5,10)
備考	・看護技術演習(3, 4, 9回)及びシンプトンマネジメント演習(11~15回)は、担当教員全員で指導にあたる。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習													○	○	○	○	○
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク													○	○	○	○	○
その他()																	
内容			演習事例をもとにグループワーク、ロールプレイを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	フィジカルアセスメント論			単位	2
科目名（英語）	Physical Assessment			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	永嶋由理子・淵野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・清水夏子・松山美幸・清原智佳子				
授業概要	対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術について学ぶ。ここでは、フィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際と援助技術について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：入学年度の学生便覧を参照 授業内容を理解するために必要な知識：基礎看護技術論、生態機能看護学Ⅰ・Ⅱで学んだことについて理解しておく。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・茂野香おる他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2019年、2,600円（税別） ・任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2017年、2,900円（税別） 				
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料 ・リンS.ピックリー他「ベイツ診察法 第2版」メディカル・サイエンス・インターナショナル、2015年 				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回（開講後に曜日は決定）演習後のフォローアップとして実技修得支援を行う。 ・希望者は事前にアポイントメントをとること（担当：於久） 				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	・フィジカルアセスメントを実施するうえで必要な知識を理解し、活用することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	・フィジカルイグザミネーションで得た情報をアセスメントすることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	<ul style="list-style-type: none"> ・対象に必要なフィジカルイグザミネーションを実施することができる。 ・対象に必要な援助技術を実施することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>フィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識と既存の知識を活用し、対象に必要なフィジカルイグザミネーションを正確に実施しアセスメントすることができる。さらに、アセスメントした内容から対象の個別性に応じた援助を考え、適切に実施することができる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p> <p>フィジカルアセスメントの実施に必要な基礎的知識をふまえ、対象に必要なフィジカルイグザミネーションを実施しアセスメントすることができる。さらに、対象に必要な援助技術を実施することができる。</p>		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	事前課題 演習記録	発表	ポートフォリオ	看護技術 (技術チェック含む)	合計
総合評価割合	70		10			20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	70		5			75
思考・判断・表現	(DP3)		5			5	10
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					15	15
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1・2	1. フィジカルアセスメント論概説 2. ヘルスインタビュー（永嶋）	1. 講義 ・フィジカルアセスメントの概要について講義する。 ・ヘルスインタビューを実施するうえで必要な知識について講義する。	<事前・事後学習> なし
3・4	生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメントと援助技術①（淵野）	1. 講義 生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメント及び看護援助について講義する。 2. 技術演習	<事前学習> なし <事後学習> 血圧測定技術を身につけるまで反復練習する（DP2・3・10）
5・6	生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメントと援助技術②（淵野）	演習では講義の内容を活用しながら生命徴候を把握するためのフィジカルアセスメントおよび看護援助（電法）を実施する。	
7・8	外皮系のフィジカルアセスメントと援助技術（加藤）	1. 講義 外皮系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2. 技術演習	<事前学習> 外皮系に関する解剖生理について学習する（DP2）

		演習では、講義の内容を活用しながら外皮系のフィジカルアセスメントを実施する。	<事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)
9 ・ 10	消化器系のフィジカルアセスメントと援助技術① (加藤)	1. 講義 消化器系のフィジカルアセスメント及び看護援助(浣腸)について講義する。 2. 技術演習 消化器系に障害を持つ患者を想定して演習を行う。演習では、講義の内容を活用しながら消化器系のフィジカルアセスメントおよび看護援助(浣腸)を実施する。	<事前学習> 消化器系に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)
11 ・ 12	消化器系のフィジカルアセスメントと援助技術②(加藤)	消化器系に障害を持つ患者を想定して演習を行う。演習では、講義の内容を活用しながら消化器系のフィジカルアセスメントおよび看護援助(浣腸)を実施する。	
13 ・ 14	腎・泌尿器系のフィジカルアセスメントと援助技術(藤野)	1. 講義 腎・泌尿器系のフィジカルアセスメント及び看護援助(導尿)について講義する。 2. 技術演習 腎・泌尿器系に障害を持つ患者を想定して演習を行う。演習では、講義の内容を活用しながら腎・泌尿器系のフィジカルアセスメントおよび看護援助(導尿)を実施する。	<事前学習> 腎・泌尿器系に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 導尿技術を身につけるまで反復練習し、修得状況の評価を受ける。 (DP2・3・10)
15 ・ 16	呼吸器系のフィジカルアセスメントと援助技術 (澗野)	1. 講義 呼吸器系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2. 技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら呼吸器系のフィジカルアセスメントを実施する。	<事前学習> 呼吸器系に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)
17 ・ 18	循環器系のフィジカルアセスメントと援助技術 (澗野)	1. 講義 循環器系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2. 技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら循環器系のフィジカルアセスメントを実施する。	<事前学習> 循環器系に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)
19 ・ 20	フィジカルアセスメント 中間実践演習(澗野)	1. 技術演習 血圧測定技術の修得状況評価を行う。	<事前学習> 血圧測定技術を身につけるまで反復練習する(DP2・3・10) <事後学習> 血圧測定技術を身につけるまで反復練習する(DP2・3・10)
21 ・ 22	神経系のフィジカルアセスメントと援助技術(藤野)	1. 講義 神経系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2. 技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら神経系のフィジカルアセスメントを実施する。	<事前学習> 神経系に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)
23 ・ 24	筋・骨格系のフィジカルアセスメントと援助技術(藤野)	1. 講義 筋・骨格系のフィジカルアセスメントについて講義する。 2. 技術演習 演習では、講義の内容を活用しながら筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実施する。	<事前学習> 筋・骨格系に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)

25 ・ 26	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術①（於久）	1. 講義 薬物療法が必要な患者へのフィジカルアセスメントおよび看護援助について講義する。 2. 技術演習 薬物療法が必要な患者を想定して演習を行う。演習では、講義内容を活用しながら、フィジカルアセスメントおよび看護援助（経口与薬）を実施する。	<事前学習> 内服薬の作用・副作用について学習する（DP2） <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する（DP2・3）
27 ・ 28	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術②（於久）	1. 講義 薬物療法が必要な患者へのフィジカルアセスメントおよび看護援助について講義する。 2. 技術演習 薬物療法が必要な患者を想定して演習を行う。演習では、講義内容を活用しながら、フィジカルアセスメントおよび看護援助（注射）を実施する。	<事前学習> 注射部位とその根拠について学習する（DP2） 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する（DP2・3）
29 ・ 30	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術③（於久）		
備考	技術演習は、担当教員全員で指導にあたる。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容	演習では、体験学習やグループ・ディスカッションを適宜取り入れる																

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護過程	単位	1
科目名（英語）	Nursing Processes	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	永嶋由理子・淵野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美		
授業概要	看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養うために、方法論としての看護過程を講義・演習を通して学ぶ。ここでは、看護過程の意義や目的を理解するとともに事例を用いて具体的な展開方法を習得していく。また、演習を行うなかで、問題解決能力や批判的思考能力を育成する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：入学年度の学生便覧を参照 授業内容を理解するために必要な知識：基礎看護学概論、生体機能看護学Ⅰ・Ⅱで学んだことについて理解しておく。		
テキスト	・マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』、照林社、2006年、2,600円（税別）		
参考図書 ・教材等	・配布資料 ・リンダJ.カルペニート=モイエ編集、新道幸恵監訳「カルペニート 看護診断マニュアル」、医学書院、2008年 ・蔵谷範子編著「関連図の書き方をマスターしよう」、サイオ出版、2015年		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	演習時間外でも質問等について個別対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	・看護過程の意義と目的、看護過程の各段階について理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	・看護の視点で事例患者の情報を収集し整理することができる。 ・事例患者の健康問題を客観的にアセスメントできる。 ・アセスメントの内容を踏まえ、事例患者の看護問題を抽出し、看護計画を立案することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	・文献学習やグループ・ディスカッションを通して主体的に学習できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	・事例患者の看護過程を一連の流れに沿って展開した内容を、演習記録に論理的に記述することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
事例患者に必要な看護を導き出すために、論理的思考を用いながら、看護過程の一連の流れを展開することができる。その過程において、既存の知識や文献等を活用し、看護の視点から多角的、客観的視点に分析し、論理的に記述することができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
事例患者に必要な看護を導き出すために、既存の知識を用いて看護過程の一連の流れを展開することができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	演習記録	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他（演習への取り組み）	合計
総合評価割合		70	20			10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		20				20
思考・判断・表現	(DP3)		10				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		10			10	20
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		20				20
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	1. コースガイダンス（永嶋） 2. 看護過程の概要（永嶋） 3. 看護過程の実際①（永嶋）	講義 ・コースガイダンスにより、科目概要や評価方法について説明する。 ・看護過程の目的や定義、看護過程の実際（情報の収集と整理、健康逸脱の有無）について講義する。	事後学習 ・講義資料を読み復習する（DP2）
2	1. 看護過程の実際②（永嶋） 2. 演習事例の説明（藤野）	講義 ・看護過程の目的や定義、看護過程の実際（情報の収集と整理、健康逸脱の有無）について講義する。	事前学習 ・テキストのゴードンの11の機能パターンのそれぞれの定義を読む。（DP2、DP5）

		・演習事例の説明を行う。	事後学習 ・演習事例を読み、事例を理解する上で必要な項目を挙げ、調べてレポートする。レポートは提出日を設定する。(DP 3、DP 5) ・演習事例を S、O 情報に分類する。(DP 2、DP 3、DP10)
3	事例演習① 情報収集と整理	グループワーク ・ゴードンの 11 の機能パターンに基づき事例患者の情報収集を行う。 ・機能パターンごとに情報を分類・整理する。	事前学習 ・事例患者の健康逸脱の有無を判断するために必要な情報(例:検査値の正常値など)について調べる。(DP 3、DP 5) 事後学習 ・11 の機能パターンについての情報収集と整理を行う。(DP 2、DP 3、DP10)
4	事例演習② 情報収集と整理 健康逸脱の有無の判断	グループワーク ・機能パターンごとに整理した情報について、健康逸脱の有無を判断する。 ・情報収集と整理、健康逸脱の有無については、事前学習の内容やグループでのディスカッションした内容を踏まえて行う。	事後学習 ・11 の機能パターンについての情報収集と整理、健康逸脱の有無について演習記録を完成させる。(DP 2、DP 3、DP10)
5	事例演習③ 情報収集と整理 健康逸脱の有無の判断	グループワーク ・健康逸脱の有無の発表会に向けた話し合いと発表会の資料作成を行う。	事後学習 ・健康逸脱の有無の発表会に向けた資料を完成させる。(DP 2、DP 3、DP10)
6	事例演習④ 健康逸脱の有無の判断：発表会	発表会 ・11 の機能パターンの健康逸脱の有無についてグループごとに発表し、共有する。 ・各グループの発表を受け、11 の機能パターンの捉え方、情報の整理の仕方、健康の逸脱の有無の考え方について担当教員がコメントし学びを深める。	事後学習 ・発表会での学びを踏まえ、自己の演習記録の追加及び修正を行う。(DP2、DP 3、DP10)
7	事例演習⑤ 健康逸脱の有無の判断：発表会	発表会 ・11 の機能パターンの健康逸脱の有無についてグループごとに発表し、共有する。 ・各グループの発表を受け、11 の機能パターンの捉え方、情報の整理の仕方、健康の逸脱の有無の考え方について担当教員がコメントし学びを深める。	事後学習 ・発表会での学びを踏まえ、自己の演習記録の追加及び修正を行う。(DP2、DP 3、DP10)
8	看護過程の実際③(永嶋) 健康逸脱の分析・解釈	講義 ・健康逸脱の分析・解釈について講義する。	事後学習 ・講義資料を読み復習する(DP 2)
9	事例演習⑥ 健康逸脱の分析・解釈(関連図)	グループワーク ・事例患者の看護問題(一部)を導き出すための分析・解釈の過程を展開する。 ・全体関連図を作成する。	事前学習 ・事例患者の病態生理、治療、発達面での特徴等について調べ、レポートする。レポートは提出日を設定する。(DP3、DP 5)
10	事例演習⑦ 健康逸脱の分析・解釈	グループワーク ・事例患者の看護問題(一部)を導き出すための分析・解釈の過程を展開する。 ・提示した健康逸脱について、4 つの側面(病態・生理学的側面、治療関連側面、状況的側面、発達の側面)から分析・解釈を行う。	事後学習 ・全体関連図を作成する。(DP 2、DP 3、DP10) ・提示された健康逸脱の分析・解釈について演習記録を行う。(DP 2、DP 3、DP10)

		・分析解釈については、事前学習やグループでのディスカッションを踏まえて行う。	
11	事例演習⑧ 健康逸脱の分析・解釈	グループワーク ・事例患者の看護問題（一部）を導き出すための分析・解釈の過程を展開する。 ・分析・解釈の発表会に向けた話し合いと発表会の資料作成を行う。	事後学習 ・全体関連図を完成させる。(DP 2、DP 3、DP10) ・提示された健康逸脱の分析解釈について演習記録を完成させる。(DP 2、DP 3、DP10)
12	事例演習⑨ 健康逸脱の分析・解釈：発表会	発表会 ・事例患者の健康逸脱について 4つの側面から分析・解釈した内容をグループごとに発表し、共有する。 ・各グループの発表を受け、4つの側面の分析・解釈の視点について担当教員がコメントし、学びを深める。	事後学習 ・発表会での学びを踏まえ、自己の演習記録の追加及び修正を行う。 (DP 2、DP 3、DP10)
13	看護過程の実際④ 看護問題の明確化と目標設定、看護計画立案、実施及び評価	講義 ・看護過程の実際(看護問題の明確化、計画立案、実施及び評価)について講義する。	事後学習 ・講義資料を読み復習する (DP 2)
14	事例演習⑩ 看護問題の明確化と目標設定	グループワーク ・分析・解釈した内容から、看護問題を抽出し、看護目標を設定する。 ・看護問題の明確化、看護目標の設定については、事前学習やグループでのディスカッションを踏まえて行う。	事後学習 ・提示された健康逸脱についての分析・解釈及び、看護問題の抽出を行い、演習記録に整理する。 (DP 2、DP 3、DP10)
15	事例演習⑪ 看護計画の立案	グループワーク ・看護問題、看護目標についての看護計画を立案する。 ・看護計画の立案にあたっては、事前学習やグループでのディスカッションを踏まえて行う。	事後学習 ・抽出した看護問題、看護目標についての看護計画を立案し、演習記録に整理する。 (DP 2、DP 3、DP10)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでは、グループ担当教員（淵野、加藤、藤野、於久）が指導にあたり、疑問や質問等に対応し学びの促進を図る。 ・看護過程の展開では、演習記録用紙を配布する。 ・演習記録用紙は、演習の進行に合わせて提出を求める事がある。 ・授業終了後、全ての記録用紙を提出する。 		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習					○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○
その他（ ）																	
内容			グループ・ディスカッションをしながら看護過程の一連の流れを展開していく。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護研究	単位	2 単位	
科目名（英語）	Nursing Research	授業コード		
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	3 年	開講時期	前期	
担当教員	石田智恵美 福田和美 杉野浩幸 四戸智昭 小出昭太郎			
授業概要	看護師が科学的な実践を行っていくうえで、その基盤となる知識を形成する看護研究は非常に重要である。この科目では、将来学生が、実践者として研究から見出された知識を正しく理解し臨床で活用できる能力を身に着けることをねらいとする。また、看護の事象を科学的に捉え分析するための基礎知識として、看護研究における様々な研究方法についても学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	配布テキスト（実験研究）			
参考図書・教材等	よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第2 版、横山美江、医歯薬出版（実験研究）			
実務経験を生かした授業			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	e-mail で各教員にアポイントを取ってください。 石田： emishida@fukuoka-pu.ac.jp 福田： fukuda-k@fukuoka-pu.ac.jp 杉野： hsugino@fukuoka-pu.ac.jp 四戸： shinohe@fukuoka-pu.ac.jp 小出： koide@fukuoka-pu.ac.jp			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	看護研究の意義と基本的な研究方法について理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	研究論文の意図を解釈するとともに批判的に読解することができる。
		(DP 4)	グループワークを通して自己の考えを他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
研究の目的を理解し、文献を論理的に読み解くことを通して論理的な思考につなげる。それぞれの研究方法に関する知識を獲得し、自己の研究活動の基礎とする。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
それぞれの研究方法に関する知識を獲得する。文献を読むために必要な視点について理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

文献を論理的に読み解くことができ、その文献の研究成果と課題について述べるができる。また、自己の研究テーマに応じた研究方法について理解を深め、具体的な計画を立てるために必要な知識を獲得できる。
A：80～89 履修目標を達成している。
研究目的に沿って文献を読み解くことができる。また、研究方法の違いを理解し、研究テーマに応じた方法を選択することができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
文献を読み、自己の考えを述べるができる。また、研究方法の違いを理解することができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
文献を読み、自己の考えを述べるができる。また、様々な研究方法を知る。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
文献を読むが自己の考えを述べるができない。研究方法に関する知識を獲得できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30				70	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		15			20	35
思考・判断・表現	(DP3)		15			30	45
	(DP4)					20	20
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回)： 通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	研究・看護研究とは 研究倫理 (石田智恵美)	○研究とは 研究の目的 分類 概要 ○論文の目的 構成 論文を書く ○研究倫理 スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：看護研究について既知の事柄について整理しておく。(DP2) 事後学習：研究の目的と意義について整理する。(DP2) * 事前学習 60 分 事後学習 60 分
2	論理的思考① (石田智恵美)	○文章を論理的に読む 物語を論理的に読む ○文章を論理的に書く 書くことのメカニズムを体験する。 資料を基に、個人ワークで進める	事前学習：自己の文章の読み方の傾向について整理しておく。(DP3) 事後学習：論理的に読む・書くことに関する自己の課題を考察する。(DP3) * 事前学習 60 分 事後学習 60 分
3	論理的思考② (石田智恵美)	○文章を論理的に書く リレー作文を通して、文章のつながりと整	事後学習：文章の論理的なつながりについて整理し、自己の課題を考察する。

		合性について体験的に学習する。 個人ワークおよびグループワークで進める。	(DP3) *事前学習 60分 事後学習 60分
4	文献検討 (石田智恵美)	○文献を読み解く 資料を基に、研究の意図を理解し批判的に読み解く。講義および個人ワークで進める。	事前学習：配布資料を読んでおく。 (DP3) 事後学習：文献を読み解く際に気付いた事柄について整理する。(DP3) *事前学習 60分 事後学習 60分
5	統計的研究-1、統計的研究概論 (小出昭太郎)	講義 配布資料を用いて、統計的研究の目的、調査の流れ、統計ソフトの使い方について講義する。	事前学習：統計学についてこれまでに各自が学習した内容を復習すること。学習したのが高校までであれば、それを復習すること。高校での学習の復習については後日連絡します。 事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に2変数間の関連について復習すること。 *事前学習 60分 事後学習 60分
6	統計的研究-2、統計的分析方法 (小出昭太郎)	講義 配布資料を用いて、統計的分析方法の選び方の概要、基本的な統計的分析方法について講義する。	事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に相関係数とクロス集計について復習すること。 *事前学習 60分 事後学習 60分
7	統計的研究-3、統計的推測、統計的実験 (小出昭太郎)	講義 配布資料を用いて、統計的推測、統計的実験について講義する。	事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に検定の考え方について復習すること。 *事前学習 60分 事後学習 60分
8	質的研究とは① ・質的研究の特徴 ・質的研究における研究課題と方法論についての概説 (福田和美)	1.講義 ・質的研究の定義、特徴、留意点について説明を行う。 ・研究課題の設定と質的研究手法(グランデットセオリー、現象学、ナラティブ研究、事例研究など)について説明を行う。	事前学習 ・看護研究および文献検討についての復習。(DP2、3) 事後学習 ・様々な質的研究手法の特徴についての復習。(DP2) *事前学習 60分 事後学習 60分
9	質的研究とは② ・質的研究におけるデータ収集と分析 ・質的研究の質の確保 (福田和美)	1. 講義 ・質的研究におけるデータ収集と分析方法および質の確保について説明を行う。 2. グループワーク ・疑似データを用いて質的に分析を行い、質的分析を体験する。	事前学習 ・質的研究を行った文献を精読する。 (DP3) 事後学習 ・グループでデータ分析を行い、カテゴリーを抽出する。(DP3) *事前学習 60分 事後学習 60分
10	実験研究-1、実験テーマと研究倫理について (杉野浩幸)	講義 自作テキストを配布し、実験研究と他の研究方法との相違、テーマの設定方法、倫理的配慮について解説を行う。	事前学習：質的データ、量的データ、パラメトリック、ノンパラメトリック、カテゴリカルデータ、名義尺度、順序尺度等、統計学的分析について復習しておくこと。(DP2) 事後学習：テキストを再度読み返し不明点を再確認し、人を対象とする研究を実施する場合の研究倫理規程につい

			て再確認しておくこと。(DP2) *事前学習 60分 事後学習 60分
11	実験研究-2、実験準備、予備実験、 実例について (杉野浩幸)	講義 自作テキストを配布し、実験条件の統制、コントロール実験の意義、予備実験の必要性、卒業論文レベルでの実例をもとに解説を行う。	事前学習：ポジティブコントロール、ネガティブコントロールについてその意味と必要性について調査しテキストの該当部分について予習しておくこと。 (DP2) 事後学習：テキストを再度読み返し不明点を再確認し、コントロール実験および予備実験の必要性について復習しておくこと。(DP2) *事前学習 60分 事後学習 60分
12	測定尺度-1、各種心理測定尺度を知る (四戸智昭)	講義 臨床で用いられる様々な心理測定尺度に回答し、集計し、心理傾向を測定する方法についてワークを通じて試みるとともに、それら心理測定尺度の意味や測定尺度で重要な要点について解説を行う。	事前学習：心理測定尺度について、どのような心理測定尺度があるのかについて、文献やインターネット情報を元に調べておくこと。(DP2) 事後学習：講義で学習した内容についてノートを作成する。特に、心理測定尺度を利用する際に必要なポイント(測定概念、信頼性、妥当性)について復習すること。(DP2) *事前学習 60分 事後学習 60分
13	心理測定尺度-2、心理測定尺度の開発と構成概念について (四戸智昭)	講義とグループワーク 心理測定尺度の開発や、心理測定尺度を用いる際に必要な因子分析や構成概念について解説を行う。また、自分で作成した構成概念について、グループワークによって他者に説明する。(DP4)	事前学習：構成概念についての仮説を立てる。測ろうとする概念を自分の言葉で説明し、その概念がいくつの構成要素から構成されるのかについて仮説をたてレポートにまとめる。(DP2) 事後学習：講義で学習した内容についてノートを作成する。自分が卒業研究で学びたいテーマについてどのような心理測定尺度があるかについて調べる。(DP2) *事前学習 60分 事後学習 60分
14	アクションリサーチ (石田智恵美)	○アクションリサーチとは(定義など) ○アクションリサーチの進め方 スライドおよび資料を基に、発問と応答の系列で進める。	事前学習：アクションリサーチについて調べ学習をしておく。(DP2) 事後学習：アクションリサーチの概要を整理する。(DP2) *事前学習 60分 事後学習 60分
15	アクションリサーチ 研究のまとめ (石田智恵美)	○事例を読み解く 資料を基に、発問と応答の系列で進める。	事前学習：配布資料を読んでおく。 (DP3) 事後学習：研究の目的・方法・進め方・書き方について整理する。(DP2) *事前学習 60分 事後学習 60分
備考	課題レポート：各自で興味・関心のある文献を1つ選択し、文献を読み解く。15時間 ・焦点を絞りテーマをつける ・表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する。		

	・提出期限および方法は授業の中で説明する。
--	-----------------------

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
講義回数																			
発見学習／問題解決学習					○														
体験学習／調査学習						○													
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク						○													
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護倫理学			単位	1
科目名（英語）				授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	永嶋由理子・尾形由起子・松浦賢長・福田和美・櫛直美・田中美樹・塩田昇・中本亮				
授業概要	倫理の原則や倫理規定から看護職に求められる倫理を考える。また、現在の医療・看護の場において看護職が直面する倫理的問題や課題について事例を通して検討し、看護職としての倫理観を構築する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：基礎看護学概論を履修していること				
テキスト	各回の担当教員から別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 松葉祥一著者代表『看護倫理』、医学書院、2014年、1944円 2. 松木光子編集『看護倫理学-看護実践における倫理的基盤』、NOUVELLE HIROKAWA、2010年、3,360円 3. サラ T. フライ メガン-ジェーン・ジョンストン 著 片田 範子・山本あい子 訳『看護実践の倫理 第3版 倫理的意思決定のためのガイド』、日本看護協会出版会、2010年、2,376円 				
実務経験を生かした授業	臨床看護師および保健師としての実務経験を活かし、臨床の現場で直面している倫理的問題や課題を実際の事例から分析・検討し、看護職として必要な倫理的態度について考えを深める。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は授業終了後にも受け付けますが、メールでも対応します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の倫理原則及び倫理綱領について理解することができる。 ・看護倫理に関連する主要概念について理解することができる。 ・看護師法に基づく法的責任と倫理的責任について理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	・看護師が直面する臨床現場での倫理的問題を客観的・多角的視点から分析し対処方略を考えることができる。
		(DP4)	・グループワークを通じて自己の意見を他者に説明することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	・様々な倫理的問題事例の検討を通して、看護職に必要なとされる倫理的態度を養うことができる。
		(DP6)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
倫理の原則や倫理規定および患者の権利・人権擁護など看護職に求められる倫理について理解したうえで、直面する倫理的問題について客観的視点から分析し対処方略を提案できる。また、倫理的責任と法的責任を踏まえ、看護職として求められる倫理的態度について自己の見解を示すことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
倫理の原則や倫理規定および患者の権利・人権擁護など看護職に求められる倫理について理解したうえで、直面する倫理的問題について適切な対処方略を検討できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
倫理の原則や倫理規定および患者の権利・人権擁護など看護職に求められる倫理について理解したうえで、直面す			

る倫理的問題について客観的・多角的視点から分析し対処方略を提案できる。また、倫理的責任と法的責任を踏まえ、看護職として求められる倫理的態度について考察することができる。

A：80～89 履修目標を達成している。

倫理の原則や倫理規定および患者の権利・人権擁護など看護職に求められる倫理について理解したうえで、直面する倫理的問題について客観的視点から分析し対処方略を提案できる。また、倫理的責任と法的責任を踏まえ、看護職として求められる倫理的態度について自己の見解を示すことができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

倫理の原則や倫理規定および患者の権利・人権擁護など看護職に求められる倫理について理解したうえで、直面する倫理的問題について客観的視点から分析し対処方略を提案できる。

C：60～69 到達目標を達成している。

倫理の原則や倫理規定および患者の権利・人権擁護など看護職に求められる倫理について理解したうえで、直面する倫理的問題について適切な対処方略を検討できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

倫理の原則や倫理規定および患者の権利・人権擁護など看護職に求められる倫理について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	課題レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70	30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		50				50
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)			20			20
関心・意欲・態度	(DP5)		30				30
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	この科目は8名の教員がオムニバス形式で演習を行っていますので、具体的な進め方は各回の担当教員が行います。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	1. ガイダンス（永嶋） 2. 看護倫理概説（永嶋） ・倫理とは ・看護の倫理原則・看護者の倫理綱領 ・看護倫理に関する主要概念 ・看護における倫理とジレンマ ・倫理的責任と法的責任	1. 講義 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 各回の授業内容については担当教員から説明を行う。	事前学習： ・看護倫理の原則及び倫理綱領について講読する（DP2） 事後学習： ・本日の講義課題についてレポートする（DP2）

	<p>・実習事例から倫理を考える</p>	<p>2. 講義とグループディスカッション</p> <p>看護専門職として必要な倫理観を構築していくために、看護倫理の基礎的知識を講義する。また、看護倫理の理解を深めるために、実習事例を用いてグループで分析を行い望ましい倫理行動について検討する。さらに検討した内容を発表し、学びの共有をはかる。</p>	
2	<p>薬害被害の実態について (特別講師・塩田)</p>	<p>1. 講義：講演</p> <p>授業目標：実際に薬害の被害にあった当事者を招いて講演を聴き、看護師となったときに直面する臨床現場での倫理的問題を客観的・多角的視点から分析し対処方略を考える。</p> <p>テーマ「薬害被害の実態について」</p>	<p>事後学習：</p> <p>看護師・患者または医療者・被害者の立場で、多角的視点で考えた自己の意見を他者に説明する力を養う目的で、講演を聴いた後に、グループで議論（意見交換）する。</p> <p>① 薬害被害の実態を聞き、どのように思うか？</p> <p>② 薬害被害が起きてしまった理由</p> <p>③ 薬害被害者の人権について、どう思うか？</p> <p>④ その他感じたこと</p> <p>①～④の視点で考えをまとめ、看護職、倫理薬害をキーワードに振り返る。(DP3, 4, 5)</p> <p>グループで A4 レポート 1 枚に意見をまとめ、コピーを提出する。また、発表の準備を行う。</p>
3	<p>薬害被害の実態について、学びの共有 (特別講師・塩田)</p>	<p>1. 発表</p> <p>授業目標：薬害被害者の事例より、倫理の原則や倫理規定から看護職に求められる倫理を考えていく。また、看護職となった際に直面する課題について検討する。</p> <p>10 グループを選び発表する。</p> <p>発表時間は1グループにつき7分、学びを発表し、学びの共有をはかる。</p> <p>学びの共有により、看護職に必要とされる倫理的態度を養う。</p>	<p>* 第2回の事前・事後学習と合わせる。</p>

4 5	<p>事例に基づく看護倫理の検討その1（成人）（福田）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護実践における倫理的課題 2. 治療の選択をめぐる倫理的課題に関する検討 3. 死をめぐる倫理的課題に関する検討 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、事例の状況説明を行う。 ・成人看護実践における倫理的課題について概説する。 ・倫理的意思決定支援についての説明 ・看護倫理における主要概念の復習を行う。 2. グループディスカッション① <ul style="list-style-type: none"> ・治療の選択をめぐる倫理的課題について、自身が考えたことをグループで共有し、ディスカッションすることで、より深く考察する。 3. 発表① <ul style="list-style-type: none"> ・グループの意見を発表し、グループ間の考えを共有する。 4. グループディスカッション② <ul style="list-style-type: none"> ・死をめぐる倫理的課題について、自身が考えたことをグループで共有し、ディスカッションすることで、より深く考察する。 5. 発表② <ul style="list-style-type: none"> ・グループの意見を発表し、グループ間の考えを共有する。 ・成人看護実践における倫理的課題についてまとめを行う。 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示した事例を読み、自分の考えをまとめる。（DP3） <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人看護実践における倫理的課題に関する課題レポート。（DP5）
6	<p>事例に基づく看護倫理の検討その2（老年）（樺）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者ケアの倫理とは <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の尊厳 ・高齢者ケアの意思決定支援 ・身体拘束 2. 事例から施設等で高齢者の尊厳を守るケアについて考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> 医療や看護・療養を受ける高齢者の尊厳を守るために必要な看護倫理の基礎的知識を概説する。 2. グループディスカッション <ul style="list-style-type: none"> 事例を用いて高齢者ケアにおける倫理的課題を分析し、望ましい倫理行動について検討する。 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医療や看護を受ける高齢者の尊厳を守るためのガイドライン」、「高齢者ケアの意思決定プロセス」、「身体拘束の三原則」について調べる。（DP2） <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の講義課題についてレポートする（DP2）（DP5）
7	<p>事例に基づく看護倫理の検討その2（老年）（樺）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の療養・生活の場の違いによって起こり得る倫理的課題 2. 事例から施設等で高齢者の尊厳を守るケアについて考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> 病院、自宅、介護施設等の場において生じる倫理的課題を対比しながら概要する。 2. グループディスカッション <ul style="list-style-type: none"> 事例を用いて高齢者ケアにおける倫理的課題を分析し、望ましい倫理行動について検討する。 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が家族や施設で介護を受けながら生活する際に潜んでいる倫理的問題について調べる。（DP2） <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の講義課題についてレポートする（DP2）（DP5）
8 9	<p>子どもの権利について概説 事例に基づく看護倫理の検討その3（小児）（田中）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利条約 ・様々な場面における倫理的問題と子どもの権利 2. グループディスカッション <ul style="list-style-type: none"> 子どもの倫理的問題事例をグループで分析することで、子どもにとって最もよいことは何か検討する。さらに、検討した内容を発表し、グループ間でディスカッションすることで学びの共有をはかる。 	<p>事前学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利条約を読み理解する。 <p>事後学習：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日グループで検討した内容についてレポートし考察する（DP3）

I. 科目情報

科目名（日本語）	基礎看護学実習 I			単位	1
科目名（英語）	Nursing Practicum in Fundamental Nursing I			授業コード	
必修・選択	必須	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	1年	開講時期	前期		
担当教員	永嶋由理子・瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・増満誠・塩田昇・清水夏子・松山美幸・清原智佳子				
授業概要	実習を通して「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知り、看護への理解を深めることができる。また、その過程で看護について関心を高め、主体的な学習態度を身につけることができる。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：入学年度の学生便覧を参照 授業内容を理解するために必要な知識：基礎看護学概論で学んだことについて理解しておく。				
テキスト	なし				
参考図書 ・教材等	必要な参考文献や資料等は、その都度紹介する。				
実務経験を 生かした授業					授業中 の撮影
学習相談 ・助言体制	学生約 10 名に対して教員 1 名の担当教員を配置し、学習支援（学習相談・助言）を行う。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知ることができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象となる人々に対して看護はどのような役割と機能を果たす必要があるのか考えることができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	看護への興味・関心を持ち、学習への積極的な態度を示すことができる
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	基礎的なコミュニケーション技術を使って対象と接することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
看護活動の場を通して「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知り、看護への理解を深め、その内容を考察し、実習記録にまとめることができる。また、積極的な態度で実習に臨み、看護への関心を高めることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
看護活動の場を通して「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知り、その内容を実習記録にまとめることができる。また、実習を通して、看護への関心を高めることができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	実習記録	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	実習への取り組み	合計
総合評価割合			60				40	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		35					35
思考・判断・表現	(DP3)		25					25
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)						35	35
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						5	5
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】	【2単位授業 1回平均】
			160分（8回） 45分（15回）	180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）

1 5	<p>詳細については、基礎看護学実習Ⅰ要項を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 1週間 2. 実習時間 8時30分～16時30分 *実習開始時間は、施設によって異なる) 3. 実習施設 老人保健施設、医療施設 企業 4. 実習方法 見学実習を中心として行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 実習を円滑に進めるために、全体オリエンテーション、施設別オリエンテーションを行い、実習の目的・目標、実習方法、実習記録と評価、諸注意などの説明を行う。 2. 学外実習 老人保健施設、医療施設、企業の各施設において見学を中心とした実習を行う。 実習では、指導者・教員の指導を受けながら実習を行う。 カンファレンスでは、実習で学んだことを学生間で共有するとともに、疑問点を解決する。 各施設で学んだ内容を整理し、記録する。 3. まとめ 各施設で学んだことを、実習目的・目標に沿って振り返り、学びをまとめ、発表する。 	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容				実習では、体験学習やグループ・ディスカッションを適宜取り入れる。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	基礎看護学実習 II			単位	2
科目名（英語）	Nursing Practicum in Fundamental Nursing II			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	通年		
担当教員	永嶋由理子・洲野由夏・加藤法子・増満誠・塩田昇・藤野靖博・於久比呂美・清水夏子・松山美幸・清原智佳子				
授業概要	受け持ち患者に対する理解を深め、患者の看護の必要性をニードの視点から見出す。さらに、患者のニード充足のために既習得技術を活用して看護援助を実践できる基礎的能力を身につける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：入学年度の学生便覧を参照 授業内容を理解するために必要な知識・技能等：生体機能看護学Ⅰ・Ⅱ、病態看護学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術論、フィジカルアセスメント論、看護過程で学んだことについて理解しておく。				
テキスト					
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学実習Ⅱ実習要項 ・茂野香おる他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2015年、2,600円（税別） ・任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2017年、2,900円（税別） ・マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』、照林社、2006年、2,600円（税別） 				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	実習前の1週間を技術習得の自己練習期間にあて、必要に応じて個別指導を行う。個別指導を希望する場合は、事前に教員にアポイントメントをとる。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	・看護を展開する方法について理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の全体像について、理論を活用し適切に把握することができる。 ・患者のニード充足・不足についてアセスメントすることができる。 ・受け持ち患者に必要な看護援助を見出すことができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	・他者に対する深い思いと関心をもち、よりよい人間関係を構築するための態度を示すことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	・受け持ち患者に必要な看護援助について、日常生活援助を中心に実施することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
主体的に学修を進め、受け持ち患者に対する看護の必要性やニードを充足するための看護援助を見出し、受け持ち患者に積極的に看護援助を実践することができる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
指導・助言を受けながら学修を進めることで、受け持ち患者に対する看護の必要性やニーズを充足するための看護援助の抽出、ならびに看護援助の実践ができる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	実習記録	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	実習への取り組み	合計
総合評価割合		50				50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		25				25
思考・判断・表現	(DP3)		25				25
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)					25	25
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					25	25
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1 10	1. 実習期間：2020年9月～10月のうち、10日間 2. 実習時間：8：30～16：30 * 開始時間は実習施設により異なる場合がある。 3. 実習内容 1) 学生4～6名で編成されたグループ毎に病棟実習を行う。	1. 受け持ち患者を理解するために必要な学習を行う。 2. 臨床指導者の立ち合いのもとに、受け持ち患者に実習の説明を行い、同意を得る（同意書への署名）。 3. 患者や家族、病棟の記録物等から患者を把握するための情報を看護の視点から収集し、記録する。 4. 収集した情報から充足できていないニーズを見出し、必要な看	

	2) 各学生は1人の患者を受け持ち、看護を展開する(授業の進め方参照)。 3) 実習最終日に病院毎に全体発表会を行う。 * 詳細については、基礎看護学実習II実習要項を参照	護援助と留意点について記録する。 5. その日の実習計画を、臨床指導者・受け持ち看護師・担当教員(以下、指導者とする)に提示し、指導を受けてから実習を行う。なお、患者への看護ケアは指導者の指導のもと実施する。 6. カンファレンスを行う。 7. 実習計画の評価および看護援助の一場面の振り返りについて記録する。 8. 実習発表会にて、実習での学びをグループ毎に発表する。	
備考	・各グループに1名の科目担当教員が実習指導にあたる。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク																	
その他()																	
内容			患者1人を受け持ち看護を展開する過程において問題解決学習や、まとめの発表会でグループワークを行う。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神看護学概論			単位	1 単位
科目名（英語）	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	未定、安永薫梨、中本 亮、未定				
授業概要	個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場や状況に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な、精神保健看護の歴史、法律、看護理論および看護に関連する理論や看護技術について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	主体的に学ぶ姿勢を意識していること。				
テキスト	川野雅資編.(2015). 精神看護学Ⅰ.第 6 版, 東京;ニューヴェル・ヒロカワ. 川野雅資編.(2015). 精神看護学Ⅱ. 第 6 版,東京;ニューヴェル・ヒロカワ.				
参考図書 ・教材等	<p><参考図書></p> <p>服部祥子.(2010).生涯人間発達論, 第 2 版,東京; 医学書院.</p> <p>フランコ・バザーリア (著), 大熊一夫,他 (翻訳).(2017).バザーリア講演録 自由こそ治療だ!: イタリア精神保健ことはじめ. 東京: 岩波書店.</p> <p>小谷英文・宇佐美しおり(2018).PAS セルフケアセラピー.東京: PAS 心理教育研究所.</p> <p>小谷英文(2018).精神分析的システムズ心理療法.東京: PAS 研究所.</p> <p>大熊一夫.(2016).精神病院はいらない!: イタリア・バザーリア改革を達成させた愛弟子 3 人の証言. 東京: 現代書館.(DVD2 枚付き)</p> <p>大熊一夫.(2009).精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本 .東京: 岩波書店.図書館所蔵 1 冊</p> <p>レンツォ・デ・ステファニ, ヤコポ・トマーシ, 花野真栄訳.(2015).イタリア精神医療への道: バザーリアがみた夢のゆくえ. 東京: 日本評論社.</p> <p>小俣和一郎.(1997).精神医学とナチズム.講談社. 図書館所蔵 1 冊</p> <p>マーク・レーガン.(2006).リカバリへの道: 精神の病から立ち直ることを支援する.東京: 金剛出版.</p> <p>ミケーレ・ザネッティ (著), フランチェスコ・パルメジャーニ (著), 鈴木鉄忠 (翻訳).(2016). 精神病院のない社会をめざして:バザーリア伝,東京: 岩波書店. 図書館所蔵 10 冊</p> <p>野嶋佐由美,中野綾美.(2006).家族エンパワーメントをもたらす看護実践.東京; へるす出版.</p> <p>野嶋佐由美監修.(2011).実践看護技術学習支援テキスト精神看護学.東京,日本看護協会出版会.</p> <p>宇佐美しおり, 鈴木啓子, Patricia Underwood.(2011).オレムのセルフケアモデル: 事例を用いた看護過程の展開.第 2 版,東京;ニューヴェル・ヒロカワ.</p> <p>宇佐美しおり(2009).精神看護スペシャリストに必要な理論と技法.日本看護協会出版会.東京.</p> <p><映像教材></p> <p>「シリーズ戦後 70 年 障害者と戦争 ナチス①」 (NHK)(https://www.youtube.com/watch?v=DKLmRxB0iLE)</p> <p>「シリーズ戦後 70 年 障害者と戦争 ナチス②」 (NHK)(https://www.youtube.com/watch?v=DaEy4beg_AM)</p> <p>「いつか、外に出られる日まで～ある精神科病棟の 10 か月～(NHK,2018)」</p> <p>「バリバラジャーナル: 見え始めた精神医療の実態(NHK,2017)」</p>				
実務経験を生かした授業	精神科看護師としての実務経験を生かし、授業を展開する。			授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	コメントカードや研究室を訪ねての相談、意見、質問に応じます。研究室を訪ねる場合は、事前に電話やメールでアポイントメントをとることが望ましい。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健医療福祉の歴史を理解し、精神に障害を持つ人の人権の擁護者としての看護師の役割、現状と課題、今後の精神保健医療福祉のあるべき方向性を説明できる。 ・精神看護の機能と役割、構造について説明できる。 ・精神看護に関連する法律で重視されていることとその理由、それを実現するために決められていることを具体的に説明できる。 ・オレム - アンダーウッドモデルを活用して精神障害をもつ人のセルフケアを促進する技術を説明できる。 ・精神看護の対象者を、精神力動理論,発達理論,から理解し、それらが対象者のセルフケアにどのように影響しているかという視点をもつことができる。 ・精神に障害をもつ人のストレスを引き出し、リカバリーを促進する技術を説明できる。 ・家族看護エンパワメントモデルを活用して精神障害をもつ人の家族のセルフケアを促進する技術を説明できる。
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護の歴史や法律を概観し、今後の精神看護の在り方を考察できる。 ・理論を用いて自分の日常生活や体験を考察できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場や状況に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な、精神保健看護の歴史、法律、看護理論および看護に関連する理論や看護技術について、授業で教員が提示した内容を踏まえて自主的に図書や論文を検索して十分に内容を深く理解できる。レポートでは、教員が提示した参考文献に加えて、自主的に図書や論文を収集して学修し、論点に沿って、自分の生活や体験、感情、行動を振り返り、考察し、それらを他者にわかりやすく説明できる。			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場や状況に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な、精神保健看護の歴史、法律、看護理論および看護に関連する理論や看護技術について、内容は浅いが一通り理解できる。レポートでは教員が提示した参考文献を活用して、内容は浅いが一通り、論点に沿って、自分の生活や体験、感情、行動を振り返り、考察し、それらを他者に説明できる。			
成績評価の基準			
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A : 80~89	履修目標を達成している。		

B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C : 60~69	到達目標を達成している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		40				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	60		20			80
思考・判断・表現	(DP3)		20				20
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・精神の健康 ・精神看護実践の構造と技術 ・精神看護の機能と看護師の役割 ・精神保健医療福祉の現状と課題、 (安永薫梨)	1. 「精神看護学概論」に関するオリエンテーションを行う。 2. 以下の内容に沿って、講義を行う。 1) 精神の健康 2) 精神看護実践の構造と技術 3) 精神看護の機能と看護師の役割 4) 精神保健医療福祉の現状と課題 3. 「自分にとっての精神の健康とはどのような状態なのか」、「精神科のイメージ」について、全体でディスカッションを行う。 4. まとめ	<事前学習> (60 分) ・テキスト(精神看護学Ⅰ)p6-16, テキスト(精神看護学Ⅱ) p4-7 を読んでくる。 ・「精神保健医療福祉の現状と課題」について、厚生労働省のホームページや文献を用いて、調べてくる。 (DP2) <事後学習> (100 分) ・「自分にとっての精神の健康とはどのような状態なのか」、「精神科のイメージ」、について、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・レポートは e-learning により授業後 1 週間以内に提出する。 (DP2,3)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健看護の歴史 (中本亮)	西欧と日本の精神保健看護の歴史を概説する。	<事前学習> (30 分) 1) テキスト(精神看護学Ⅰ) p 205-p223 を読んでくる。 (DP2)

			<p><事後学習>(130分)</p> <p>詳細については、後日お知らせする。 (DP2,3)</p>
3	<p>・精神保健看護に関連する法律 (中本 亮)</p>	<p>1.近年わが国で起こった事件報道等を通して、精神保健看護に関連する法の変遷過程を理解する。</p> <p>1)精神病患者監護法 2)精神病院法 3)精神衛生法 4)精神保健法 5)精神保健福祉法 6)障害者自立支援法 7)障害者総合支援法 8)関連する法律として、国民衛生法、優生保護法、母体保護法、障害者基本法、医療観察法、自殺対策基本法、発達障害者支援法など</p>	<p><事前学習>(80分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅰ) p 224-p249,p301-323 を読んでくる。</p> <p>・事前学習については適宜お知らせする。 (DP2)</p> <p><事後学習>(80分)</p> <p>新聞・インターネットなどを通じて、精神保健看護に関連する法律の運用の実際や事件などに関心をもって調査する。 (DP2,3)</p>
4	<p>・精神力動理論を活用して人を理解する技術 (安永薫梨)</p>	<p>1.以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)精神力動の理論を理解する目的 2)精神力動とは 3)無意識と心 4)心の構造と働き 5)自我 6)超自我 7)自己 8)人格に関する理論 9)フロイトの精神的発達 10)マラーの分離固体化理論 11)精神分析的システムズ理論(PAS 理論) 12)精神力動的視点に基づく看護ケア</p> <p>2. 学生自身が日々、困難に直面した際の体験を交えながら、全体で、ディスカッションを行う。</p> <p>3. まとめ</p>	<p><事前学習>(60分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅰ)p17-p21,p31-36 を読んでくる。</p> <p>・「自我の機能」「自己の機能」について調べてくる。 (DP2)</p> <p><事後学習>(100分)</p> <p>・自分自身の自我機能や自己の機能を査定し、レポートに記述する。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる。 (書式は e-learning 参照)</p> <p>・レポートは e-learning により授業後 1 週間以内に提出する。 (DP2,3)</p>
5	<p>・発達理論を活用して人を理解する技術 (安永薫梨)</p>	<p>1.以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) 発達理論とは 2) 発達段階 3) ピアジェの知能の発達段階 4) サリバンの対人関係的発達理論 5) エリクソンの発達段階 6) 発達段階のアセスメントの視点 7) 具体的な情報収集の視点</p> <p>3.現在の自分の発達段階や課題について、全体でディスカッションを行う。</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅰ)p21-31 を読んでくる。 (DP2)</p> <p><事後学習> (130分)</p> <p>エリクソンの発達理論を用いて、自分が今までどのように課題をクリアし、発達してきたのか、そして、今、どの段階で、何が課題なのか、について、レポートにまとめる。</p>

		4. まとめ	<p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる (書式は e-learning 参照)。</p> <p>・レポートは e-learning により授業後 1 週間以内に提出する。 (DP2,3)</p>
6	・オレム・アンダーウッドモデルを活用して精神障害をもつ人のセルフケアを促進する技術 (安永薫梨)	<p>1.以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) 精神看護の中でなぜ、セルフケアへの援助が必要なのか。</p> <p>2) オレムのセルフケア理論</p> <p>3) オレム-アンダーウッドモデル</p> <p>2.自分自身のセルフケアについて、全体でディスカッションを行う。</p> <p>3.まとめ</p>	<p><事前学習>(60分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅰ)p23-43 を読んでくる。</p> <p>・「風邪を引いた時、自分はどのようにしているのか」、考えてくる。</p> <p>・普遍的セルフケア要件の具体的ななかみについて、調べてくる。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習>(120分)</p> <p>・配付資料を参考に普遍的セルフケア要点に沿って、自分のセルフケア行動をレポートに記述する。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・レポートは e-learning により授業後 1 週間以内に提出する。 (DP2,3)</p>
7	・精神障害をもつ人のストレスを引き出し、リカバリーを促進する技術 (未定)	<p>1.以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) ストレスとは何か。</p> <p>2) 自分のストレスを見つめる。</p> <p>3) リカバリーとは何か。</p> <p>4) 精神障害をもつ人のストレスを引き出し、リカバリーを促進する技術について</p> <p>2. お互いのストレスを見出し、語り合う</p> <p>3. まとめ</p>	<p><事前学習>(60分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅱ) p 54-58 を読んでくる。</p> <p>・ストレスやリカバリーについて、それぞれの近い概念を見つけたり、考えてくる。</p> <p><事後学習>(120分)</p> <p>・リカバリーに関する論文を読み、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・レポートは e-learning により提出する。 (DP2,3)</p>
8	・家族看護エンパワメントモデルを活用して精神障害をもつ人の家族のセルフケアを促進する技術 (未定)	<p>1.以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)家族とは</p> <p>2)家族看護エンパワメントモデルとは</p> <p>2. 事例を用いてディスカッション</p> <p>3. まとめ</p>	<p><事前学習>(60分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅰ)p120-p125,p142-150 を読んでくる。</p> <p>・「自分の家族」「友達の家族」について考えてくる</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習>(120分)</p>

			家族看護エンパワメントモデルに関する論文を読み、レポートにまとめる。(DP2,3)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし									
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8
発見学習／問題解決学習											
体験学習／調査学習											
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○			○	○	○	○	○
その他()											
内容											

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神看護学			単位	2単位
科目名（英語）	Psychiatric and Mental Health Nursing			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年次	開講時期	後期		
担当教員	未定、安永薫梨、中本 亮、未定				
授業概要	個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「精神看護学概論」を学修していること。				
テキスト	川野雅資編.(2015). 精神看護学Ⅰ.第6版, 東京；ヌーヴェルヒロカワ. 川野雅資編.(2015). 精神看護学Ⅱ. 第6版,東京；ヌーヴェルヒロカワ.				
参考図書 ・教材等	<参考図書> 小谷英文・宇佐美しおり(2018).PAS セルフケアセラピー.東京：PAS 心理教育研究所. 小谷英文(2018).精神分析的システムズ心理療法.東京：PAS 研究所. 野嶋佐由美監修.(2011).実践看護技術学習支援テキスト：精神看護学.東京；日本看護協会出版会. 宇佐美しおり,鈴木啓子,Patricia Underwood.(2011).オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開,第2版,東京；ヌーヴェルヒロカワ. 田中美恵子(2015). 精神看護学—学生 - 患者のストーリーで綴る実習展開.東京：医歯薬出版株式会社.				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を生かし、授業を展開する。			授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	コメントカードや研究室を訪ねての御相談、御意見、御質問に応じます。研究室を訪ねる場合は、事前に電話やメールでアポイントメントをとることが望ましい。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	看護の対象者に看護を提供する視点や技術を説明できる。 看護の対象者の障害の種類や状態像に応じた看護の提供方法について説明できる。 治療やリハビリテーションを受ける対象者への看護の方法を説明できる。 精神に障害をもつ人の地域移行を促進する看護について説明できる。 精神に障害をもつ人の地域定着を促進する看護について説明できる。 リスクマネジメントにおける看護師の役割と姿勢、システム改善のあり方、精神看護に特有のリスクとマネジメント方法を説明できる。 身体疾患のために精神的な困難をもつ人のセルフケアを促進する看護について説明できる。 自分や他者に活用できるメンタルヘルスを促進する方法を説明できる。 質の高い看護を提供するために必要な看護師のメンタルヘルスを促進する方法を説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	看護の対象者となる人の経験を理解し、対象者の視点から看護のあり方を考察する。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	

履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。
個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を授業で教員が提示した内容を踏まえて自主的に図書や論文を検索して十分に内容を深く理解できる。レポートでは教員が提示した参考文献に加えて、自主的に図書や論文を収集して学修し、論点に沿って、自分の生活や体験、感情、行動を振り返り、考察し、それらを他者にわかりやすく説明できる。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を内容は浅いが一通り理解できる。レポートでは教員が提示した参考文献を活用して、内容は浅いが一通り、論点に沿って、自分の生活や体験、感情、行動を振り返り、考察し、それらを他者に説明できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		40				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	60		20			80
思考・判断・表現	(DP3)		20				20
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分（8回）	45分（15回）
			【2単位授業 1回平均】180分（15回）	45分（30回：通年）
			90分（30回：半期2コマ連続）	

1	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の仕組みと精神機能 ・精神疾患の基礎知識 ・精神科で行われる検査 ・主な精神疾患と治療 (安永薫梨)	1. 「精神看護学」に関するオリエンテーションを行う。 2. 以下の内容に沿って、講義を行う。 1)脳の仕組みと精神機能 2)精神疾患の基礎知識 3)精神障害の分類(DSM-5) 4)精神疾患とは 5)臨床検査 6)心理検査 7)主な精神疾患 (1)物質関連障害とは ・アルコール依存症とは 4. まとめ	<事前学習>(30分) ・テキスト(精神看護学Ⅰ)p62-80 を読んでくる。 <事後学習>(120分) ・物質関連障害に関する論文を読み、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・レポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。 (DP2,3)
2	・主な精神疾患(統合失調症、気分障害、睡眠障害) (安永薫梨)	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 1) 統合失調症とは 2) 気分障害とは 3) 睡眠障害とは 2. 「統合失調症を持つ患者」のイメージをみんなで共有する。 3. まとめ	<事前学習>(60分) ・テキスト(精神看護学Ⅱ)p138-146 を読んでくる。 ・「私の統合失調症を語ろう」(中島映像教材出版,2013)など統合失調症に関する映像をインターネットや図書館などで探し、視聴し、統合失調症を持つ患者をイメージする。 ・「双極性障害躁うつ病」12 ハートをつなごう(NHK) など気分障害に関する映像をインターネットや図書館などで探し、視聴し、気分障害を持つ患者をイメージする。 (DP2) <事後学習> ・統合失調症に関する論文を読み、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・レポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。 (DP2)
3	主な精神疾患(不安障害、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害、境界性人格障害) (安永薫梨)	1. 以下の内容に沿って、講義を行う。 1)不安障害とは 2)強迫性障害とは 3) 心的外傷後ストレス障害(PTSD)、外傷後ストレス反応(PTSR)とは 4)境界性人格障害とは 2. まとめ	<事前学習>(60分) ・不安障害、強迫性障害、心的外傷後ストレス障害、境界性人格障害に関する映像を図書館やインターネットなどを用いて視聴し、それぞれの疾患を持つ患者をイメージする。 (DP2) <事後学習>(120分) ・心的外傷後ストレス障害に関する論文を読み、レポートにまとめる。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・レポートは e-learning により授業後1週

			間以内に提出する。 (DP2)
4	<p>・ケース像の形成</p> <p>・主な状態像と看護：幻覚・妄想、意欲の減退、抑うつ状態、躁状態 (安永薫梨)</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) ケース像の形成</p> <p>2) 幻覚・妄想状態にある患者への看護</p> <p>3) 意欲の減退の患者への看護</p> <p>4) 抑うつ状態にある患者への看護</p> <p>5) 躁状態にある患者への看護</p> <p>2. 事例を示し、幻覚、妄想を持つ患者への看護について、意見交換</p> <p>3.まとめ</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅱ)p224-232、p292-297を読んでくる。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習>(150分)</p> <p>・幻覚・妄想を持つ患者への看護に関する論文を読み、レポートにまとめる(書式はe-learning参照)。</p> <p>・レポートはe-learningにより授業後1週間以内に提出する。</p> <p>(DP2、3)</p>
5	<p>・主な状態像(不安、強迫、操作、)と看護 (安永薫梨)</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) 不安状態の患者への看護</p> <p>2) 被災した患者への看護</p> <p>3) ケア提供者の二次性心的外傷後ストレス障害の予防</p> <p>4)強迫行為のある患者への看護</p> <p>5)操作をする患者の看護</p> <p>2. 事例を示し、不安の強い患者への効果的な看護について、意見交換</p> <p>3. まとめ</p>	<p><事前学習></p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅱ)p289-291,303-307,258-263,297-302を読んでくる。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習></p> <p>・不安の強い患者への看護に関する論文を読み、レポートにまとめる(書式はe-learning参照)。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式はe-learning参照)。</p> <p>・レポートはe-learningにより授業後1週間以内に提出する。</p> <p>(DP2、3)</p>
6	<p>・主な状態像と看護：攻撃性、衝動性、怒り、依存、摂食行動障害</p> <p>・症状マネジメント (安永薫梨)</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)攻撃性の強い患者への看護</p> <p>2)衝動性のコントロールが困難な患者への看護</p> <p>3)怒りを持つ患者への看護</p> <p>4)依存する患者への看護</p> <p>5)摂食行動障害を持つ患者への看護</p> <p>6)症状マネジメント</p> <p>2. 事例を示し、怒りを看護師に向ける患者への効果的な看護について、意見交換</p> <p>3. まとめ</p>	<p><事前学習></p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅱ)p274-282、318-323を読んでくる。</p> <p>・文献などを読み、怒りを持つ患者のセルフケアの特徴をレポートにまとめる。</p> <p>(書式はe-learning参照)。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習></p> <p>・怒りを看護師に向ける患者への効果的な看護について、文献を用いてまとめる(書式はe-learning参照)。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式はe-learning参照)。</p> <p>・事前・事後のレポートはe-learningにより授業後1週間以内に提出する。</p> <p>(DP2、3)</p>
7	<p>・移行期にある精神に障害をもつ人とその家族への看護</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p>	<p><事前課題>(30分)</p> <p>厚生労働省の資料を読む。</p>

	<p>①急性期～回復期にある精神に障害をもつ人の地域移行を促進する技術</p> <p>②慢性期、長期入院している精神に障害をもつ人の地域移行を促進する技術 (未定)</p>	<p>1)国の地域移行に関する方針、制度、施策の紹介 2)精神看護に関わる重点事項について解説 3)地域移行の考え方と必要な看護 4)急性期からの地域移行に必要な看護 5)慢性期、長期入院からの地域移行に必要な看護</p> <p>2. まとめ</p>	<p>(DP2)</p> <p><事後課題> (150分)</p> <p>地域移行に関する論文を読み、レポートにまとめる。</p> <p>(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・事前・事後のレポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。</p> <p>(DP2、3)</p>
8	<p>・地域で生活する精神に障害をもつ人の地域定着を促進する技術 (山本智之；くおーれ訪問看護ステーション、安永薫梨、中本亮)</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) 外部講師の自己紹介 2) 地域で生活する精神に障害を持つ人の地域定着を促進する看護について(事例を用いて) 3) 患者の地域定着を促進するために必要な入院中の看護 4) 「地域で看護を展開する楽しさ」について</p> <p>2. まとめ</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅱ) p218-p222 を読んでくる。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後課題> (150分)</p> <p>・授業に参加して、感じたことや学んだことをレポートにまとめる。(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・事前・事後のレポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。</p> <p>(DP2、3)</p>
9	<p>・身体療法を受ける人とその家族の看護：薬物療法、電気けいれん療法、光照射療法 (安永薫梨)</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1) 薬物療法 2) 薬物療法を受ける患者への看護 3) コンコーダンススキル 4) 電気けいれん療法 5) 修正型の電気けいれんを受ける患者への看護 6) 光照射療法 7) 光照射療法を受ける患者への看護</p> <p>2. 拒薬する患者への効果的な看護について、意見交換</p> <p>3. まとめ</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅰ) p 81-p93,p261, を読んでくる。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習>(150分)</p> <p>・薬物療法を受ける患者への看護に関する論文を読み、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。(DP2、3)</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・レポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。</p> <p>(DP2、3)</p>
10	<p>・精神療法を受ける人とその家族への看護 (安永薫梨)</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)精神療法 2)個人精神療法 3)認知行動療法 4)PAS セルフケアセラピー 5)集団精神療法 6)グループダイナミクス</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅱ)p94-105 を読んでくる。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習>(150分)</p> <p>・実習、演習で組んだグループや部活、サークル、グループ活動などを思い出し、ヤロム</p>

		<p>7)精神療法を受ける人とその家族の看護</p> <p>2.実際に隣の席、もしくは周辺に座っている人と精神療法の導入の部分をやってみる。</p> <p>3. まとめ</p>	<p>の集団における治療的要因に沿って、具体的に記述する(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・レポートは e-learning により授業後 1 週間以内に提出する。</p> <p>(DP2、3)</p>
11	<p>・対人関係能力を育成する技術</p> <p>・リハビリテーションを受ける人とその家族の看護 (中本 亮)</p>	<p>1.以下の内容に沿って講義を行う。</p> <p>1)リハビリテーションの定義</p> <p>2)障害者とは</p> <p>3)精神看護学領域における主なリハビリテーションプログラム</p> <p>(1)社会生活技能訓練 (SST) ※演習</p> <p>(2)精神科作業療法</p> <p>(3)心理教育</p> <p>(4)住居プログラム</p> <p>(5)その他</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅱ)p.42,p.106~110を読んでくる。</p> <p>・適宜お知らせする。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習>(150分)</p> <p>・適宜お知らせする</p> <p>(DP2,3)</p>
12	<p>・身体疾患のために精神的な課題をもつ人のセルフケアを促進する技術 (未定)</p>	<p>1.以下の内容に沿って講義を行う。</p> <p>1) 身体疾患と精神の関係とは</p> <p>2) 身体疾患のために精神的な課題をもつ人のセルフケアを促進する後術について</p> <p>・せん妄の理解と看護ケア</p> <p>2. まとめ</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅰ) p60-p69 を読んでくる。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習>(150分)</p> <p>・身体疾患のために精神的な課題をもつ人への看護に関する論文を読み、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・レポートは e-learning により授業後 1 週間以内に提出する。</p> <p>(DP2、3)</p>
13	<p>・ストレス緩和とコーピングを強化する技術</p> <p>・看護師のメンタルヘルスを促進する技術 (中本 亮)</p>	<p>1.以下の内容に沿って講義を行う。</p> <p>1) ストレスとは</p> <p>2) ストレスと脳の関係</p> <p>3) ストレスチェックをしてみよう</p> <p>4)医療従事者の仕事の特徴</p> <p>5)メンタルヘルスとは</p> <p>6)職場のメンタルヘルスの「4つ」の視点</p> <p>7)ストレスマネジメント</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・テキスト(精神看護学Ⅰ) p120-p139 を読んでくる。</p> <p>・「NHKスペシャルキラーストレス第1回、第2回」などストレスに関する映像をインターネットや図書館などで探し、視聴し、自分のストレスについて考えてくる。</p> <p>(DP2)</p> <p><事後学習>(150分)</p> <p>自分のストレス、ストレスマネジメントについて再考する。</p> <p>(DP2)</p>
14	<p>・メンタルヘルスを促進する技術 ～WRAP を活用して～ (WRAPわかば、安永薫梨、中本亮)</p>	<p>1.特別講師の自己紹介(体験談、現在取り組んでいる活動など)</p> <p>2.WRAP の説明</p>	<p><事前学習>(60分)</p> <p>・WRAP について、文献などを用いて、調べる。</p> <p>・WRAP に関する映像をインターネットや</p>

		3.「元気回復行動プラン」作成のためのグループワークを行う。	図書館を活用して視聴する。 (DP2) <事後学習>(120分) ・①当事者の方の話を聞いて感じたこと、 ②実際に WRAP に参加して、感じたこと、気づいたこと、③学びをレポートにまとめる。 ・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・レポートは e-learning により授業後 1 週間以内に提出する。 (DP2、3)
15	・精神科におけるリスクマネジメント (安永薫梨)	1.以下の内容に沿って講義を行う。 1)精神科におけるリスクマネジメントとは 2) 病棟環境の整備 3) 自殺、自殺企図、自傷行為 4) 暴力、暴力予防プログラム、暴力と臨床判断 5) 転倒・転落 6) 誤嚥、窒息 7) 隔離・身体拘束 8) 静脈血栓塞栓症 9) 無断離院 10) 事故発生時の対応 11) 事故をなくすために 2. まとめ	<事前学習> ・テキスト(精神看護学 I) p 184-p202 を読んで、問題意識を持つ。 (DP2) <事後学習> ・精神科特有のリスクに関する論文を読み、授業で学んだことを考察してレポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。 ・レポートは e-learning により授業後 1 週間以内に提出する。 (DP2、3)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習/問題解決学習																		○	
体験学習/調査学習																		○	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク							○	○	○			○							
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神看護学演習 I			単位	1 単位
科目名（英語）	Practicum in Psychiatric and Mental Health Nursing I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	未定、安永薫梨、中本 亮、未定				
授業概要	援助関係を構築する技術とロール・プレイングを使った看護過程のグループワーク、看護上の出来事の再構成の個人ワークにより、他者理解と自己理解を深め質の高い看護を提供する能力を養う。またそれらの過程を通してグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「精神看護学概論」「精神看護学」を学修していること。				
テキスト	川野雅資編.(2015). 精神看護学Ⅰ. 第 6 版, 東京; ニューヴェルヒロカワ. 川野雅資編.(2015). 精神看護学Ⅱ. 第 6 版, 東京; ニューヴェルヒロカワ.				
参考図書 ・教材等	<参考文献> 小谷英文.(2008). ニューサイコセラピー, 東京: 風行社 小谷英文(2018). 精神分析的システムズ心理療法. 東京: PAS 研究所. 小谷英文・宇佐美しおり(2018). PAS セルフケアセラピー. 東京: PAS 心理教育研究所. 川野雅編著.(1997). 患者看護婦関係とロールプレイング. 東京: 日本看護協会出版会.				
実務経験を生かした授業	精神科看護師としての実務経験を生かし、授業を展開する。			授業中	の撮影
学習相談 ・助言体制	研究室を訪ねての相談、意見、質問に応じます。研究室を訪ねる場合は、事前に電話やメールでポイントメントをとることが望ましい。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	対人関係論に基づく看護過程について理解する。 援助関係を構築する技術、治療的なコミュニケーション技術、精神状態査定技術、精神力動的看護アプローチ、心的安全空間を維持する技術を理解する。 リフレクション・イン・アクションの方法としてのロール・プレイングについて理解する。 リフレクション・オン・アクションの方法としての看護上の出来事の再構成について理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	ロール・プレイングで「相談される人」の役をした時の場面を看護上の出来事の再構成で振り返り、コミュニケーション場面での自己理解と他者理解を深める。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	ロール・プレイングについてのグループ・メンバーとのリフレクションにより、コミュニケーション場面での自分の傾向に気付く。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	心的安全空間の維持、対人関係論を念頭におき、援助関係を構築する技術、治療的なコミュニケーション技術、精神状態査定技術、精神力動的看護アプローチを活用して、来談者の精神状態と現在のセルフケア上の困難や不足を把握する。

履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。
心的安全空間の維持を基盤に、援助関係を構築する技術、ロール・プレイングを用いたグループワーク、看護上の出来事の再構成の個人ワークにより、他者理解と自己理解を深め、質の高い看護を提供する能力を主体的に養うことができる。またそれらの過程を通してグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成することができる。レポートでは、自分が感じたことを率直に表現できる。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
心的安全空間の維持を基盤に、援助関係を構築する技術、ロール・プレイングを用いたグループワーク、看護上の出来事の再構成の個人ワークにより、他者理解と自己理解を深め、質の高い看護を提供する能力は低いが一通り養うことができる。またそれらの過程を通してグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成することができる。レポートでは、自分が感じたことを少し表現できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他（演習態度等）	合計
総合評価割合			40	10		50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10				10
思考・判断・表現	(DP3)		10	5			15
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		10	5		25	40
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)		5				5
	(DP10)		5			25	30
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）

1	<p>・対人関係論</p> <p>・援助関係を構築する技術 (安永薫梨)</p>	<p>1. 精神看護学演習Ⅰのオリエンテーションを行う。</p> <p>2. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)対人関係論：ペプロウ、トラベルピーなど。</p> <p>2) 信頼</p> <p>3) 抵抗、転移、逆転移</p> <p>4) 援助関係を構築する技術</p> <p>3. 演習 グループワーク：「どんな人に自分は信頼感を感じられるか」</p> <p>4. まとめ</p>	<p><事前学習>(30分) 対人関係論に関する文献や著書を読む。</p> <p><事後学習>(130分)</p> <p>・「治療的な別れ」を患者と具体的にどのように行うのか、レポートにまとめる(書式はe-learning 参照)。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べ、レポートにまとめる(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・事後のレポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。 (DP2)</p>
2	<p>・治療的なコミュニケーションとは</p> <p>・コミュニケーションの障害(バリア)</p> <p>・治療的なコミュニケーション技術 (安永薫梨)</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)コミュニケーションとは</p> <p>2)コミュニケーション理論、カウンセリング理論</p> <p>3)コミュニケーションの構造と過程</p> <p>4)看護における治療的な(効果的な)コミュニケーション</p> <p>5)治療的な(効果的な)コミュニケーションの技術</p> <p>2.演習</p> <p>1)グループワーク：2-3 人組で実際に効果的なコミュニケーションを意識して3分、「最近、困ったこと」について、コミュニケーションを図る。</p> <p>2)気づいたことをグループで共有。</p> <p>3. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)コミュニケーションの障害(バリア)</p> <p>2)コミュニケーションにマイナスな影響を与える要因</p> <p>3)日常生活における精神疾患を持つ患者のコミュニケーションのかたち</p> <p>4)精神看護学実習における患者との会話に伴う学生の困難</p> <p>5)非効果的なコミュニケーションの技術</p> <p>4. まとめ</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・「看護における効果的、非効果的なコミュニケーション」について、文献を読む。 (DP2)</p> <p><事後学習>(130分)</p> <p>・自分が友達との間で用いている効果的、非効果的なコミュニケーションについて洞察し、レポートにまとめる。(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・事後のレポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。 (DP2,3,5,10)</p>
3	<p>精神状態の査定の技術</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p>	<p><事前学習>(40分)</p>

	(安永薫梨)	<p>1)精神状態の査定とは</p> <p>2.演習</p> <p>1) グループワーク「希死念慮について、患者に何と質問するのか？」</p> <p>2) 個人ワーク:統合失調症の患者の映像を視聴し、精神状態の査定を行う。</p> <p>3) 精神状態の査定をする際、何を観察するのか、など、学生に質問しながら、解説する。</p> <p>4) 精神状態の査定を実際に行ってみて、どう思ったのか、学生に聞く。</p> <p>3. まとめ</p>	<p>・精神状態の査定に関するシートを読み、意味の分からない用語などは、本などを用いて調べる(書式は e-learning 参照)。(DP2)</p> <p><事後学修>(120分)</p> <p>・インターネットで統合失調症を持つ患者の動画を視聴し、精神状態の査定を行う(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・事後のレポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。(DP2,3,5,10)</p>
4	<p>・ロール・プレイングの原理と方法</p> <p>・看護上の出来事の再構成の原理と方法</p> <p>(安永薫梨)</p>	<p>1. 以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>1)ロール・プレイングの原理と方法</p> <p>2)看護上の出来事の再構成の原理と方法</p> <p>2.次回の演習のオリエンテーション</p> <p>3.演習：個人ワーク：「来談者(相談に来た人)」を演じるために、人物像(架空)や状況を詳細に設定する。</p>	<p><事前学習>(30分)</p> <p>・ロール・プレイング、看護上の出来事に関する文献などを読む。</p> <p><事後学習>(130分)</p> <p>・「来談者(相談に来た人)」を演じるために、人物像(架空)や状況を詳細に設定する(ワークシート①)(配付資料)。</p> <p>・精神状態の査定やセルフケアの査定に関する復習をする。(DP2)</p>
5 6	<p>援助関係を構築しながら来談者の精神状態とセルフケア上の困難や不足を把握するロール・プレイング</p> <p>(未定、安永薫梨・中本亮、未定)</p>	<p>1. 演習</p> <p>1) グループに分かれてロール・プレイングの実施。</p> <p>2) ロール・プレイング演習全体を通しての学びをグループで振り返る。</p> <p>3) グループ毎に演習の学びを発表</p>	<p><事後学習>(320分)</p> <p>・ロール・プレイングで印象に残った1つの看護場面を振り返り、丁寧に「看護上の出来事の再構成」を書く(配付資料)。</p> <p>・ロール・プレイングに関する自己評価シートを書く。</p> <p>・演習を行ってみて、①良かった点、②困った点、③自分の課題、④授業の感想、⑤授業に関する意見について、レポートにまとめる(配付資料)。</p> <p>・レポートは1週間後の17時までに事務室前のレポート提出ボックス No.15 に提出する。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。</p>
7	<p>・精神力動的看護アプローチ</p> <p>・患者への怒りを認識し、受け止め、看護ケアに活かす技術①</p> <p>(安永薫梨)</p>	<p>1.以下の内容に沿って、講義を行う。</p> <p>・精神力動的看護アプローチとは</p> <p>2.演習</p> <p>1)事例紹介</p> <p>2)グループワーク：Aさんに対して、どのような看護目標を挙げ、どのような看護計画が必要か？</p> <p>3)グループ毎に発表。</p>	<p><事後学習>(160分)</p> <p>・「最近、人と関わる中で非常にむかついたり、いらいらした出来事」を想起し、ワークシートに記載する。</p> <p>・授業で疑問に感じたことは文献、インターネットなどを用いて調べる。</p> <p>・レポートは次回の授業で使うので、持参する。(DP2)</p>

		<p>3.患者への怒りを認識し、受け止め、看護ケアに活かすための演習</p> <p>1)演習のオリエンテーション</p> <p>2)「最近、人と関わる中で非常にむかついたり、いらいらした出来事」の紹介</p> <p>3) 個人ワーク：「最近、人と関わる中で非常にむかついたり、いらいらした出来事」を具体的に想起し、ワークシートに記載する。</p>	
8	<p>・患者への怒りを認識し、受け止め、看護ケアに活かす技術②</p> <p>・心的安全空間を維持する技術(安永薫梨)</p>	<p>1.演習：「最近、人と関わる中で非常にむかついたり、いらいらした出来事」について、DER 技法を用いて、複数の学生に質問する(学生に前に出てきてもらい、面接場面を設定)。</p> <p>2.以下の内容に沿って、講義、演習を行う。</p> <p>1)心的安全空間とは</p> <p>2)精神看護学実習に関する心的安全空間のシステム構造</p> <p>3)心的安全空間を維持する技術</p> <p>4)チェックシート「実習中、どのようなことにより、自分の心が自由になって安全だと感じるか」</p> <p>5)「日々の生活の中で自分が困難な場面に直面した時、どのように心的安全空間を維持しているのか」について、ディスカッションを行う。</p> <p>3.まとめ</p>	<p><事後学習>(160分)</p> <p>・「最近、人と関わる中で非常にむかついたり、いらいらした出来事」に関するワークシートを今日、授業で振り返り、気づいたことなどを記入する。このワークシート 1 式は1週間後の17時までに事務室前のレポート提出ボックス No.15 に提出する。</p> <p>・日々の生活の中で自分が困難な場面に直面した時、どのように心的安全空間を維持しているのか、文献を用いて考察する(書式は e-learning 参照)。</p> <p>・事後のレポートは e-learning により授業後1週間以内に提出する。(DP2,3,5,10)</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし									
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8
発見学習／問題解決学習											
体験学習／調査学習								○	○		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○
その他 ()											
内容											

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神看護学演習 II			単位	1 単位
科目名（英語）	Practicum in Psychiatric and Mental Health Nursing II			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3-4 年次	開講時期	通年		
担当教員	未定、安永薫梨、中本 亮、未定				
授業概要	ペーパーペイシャント事例にオレム-アンダーウッドモデルを適用し、看護過程を展開する能力を養う。その過程を通してグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「精神看護学概論」「精神看護学」「精神看護学演習 I」を履修していること。				
テキスト	川野雅資編.(2015). 精神看護学 I. 第 6 版, 東京; ニューヴェルヒロカワ. 川野雅資編.(2015). 精神看護学 II. 第 6 版, 東京; ニューヴェルヒロカワ.				
参考図書・教材等	<参考文献> 小谷英文.(2008).ニューサイコセラピー, 東京: 風行社 小谷英文・宇佐美しおり(2018).PAS セルフケアセラピー.東京: PAS 心理教育研究所. 宇佐美しおり, 鈴木啓子, Patricia Underwood.(2011).オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開, 第 2 版, 東京; ニューヴェルヒロカワ. 田中美恵子(2015). 精神看護学一学生 - 患者のストーリーで綴る実習展開.東京: 医歯薬出版株式会社.				
実務経験を生かした授業	精神科看護師としての実務経験を生かし、授業を展開する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	困ったことがあれば何でも、早めに担当教員に相談してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	看護過程の展開を通してこれまで学んだ知識を実践に活用できる確かな知識に変換する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	ペーパーペイシャントを用いて看護過程をシミュレーションできる。
		(DP 4)	お互いに学びあう姿勢を大切に、自分の考えや感情を積極的に表現しながらグループ学習を進める。 グループで学習したことをわかりやすく他のグループにプレゼンテーションする。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	精神看護学実習に向けての自己やグループメンバーの課題や不安を共有し、精神看護実習に向けての心の準備を行う。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	文献や図書を使って最新の知識を看護過程に活用する。
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>ペーパーペイシャント事例にオレム-アンダーウッドモデルを適用し、看護過程を展開する能力を十分に養うことができる。その過程を通して、主体的にグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成することができる。レポートでは、情報、アセスメント、看護計画などをわかりやすく、記述できる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
ペーパーペイシャント事例にオレム-アンダーウッドモデルを適用し、看護過程を展開する能力を養うことが			

できる。その過程を通して、グループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成することができる。
レポートでは、情報、アセスメント、看護計画などを記述できる。

成績評価の基準

S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。

A：80～89 履修目標を達成している。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

C：60～69 到達目標を達成している。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他 (演習態度等)	合計
総合評価割合			20	20		60	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		15				15
思考・判断・表現	(DP3)					30	30
	(DP4)			20			20
関心・意欲・態度	(DP5)					30	30
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)		5				5
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	・実習に向けての不安や自己の課題の明確化、共有 ・グループの目標を話し合い、立案 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定)	1. 演習 1)グループワークで実習に向けての不安や課題を共有し、個々人の目標を明確にする 2)グループワークで不安なことや疑問を実習前にできるだけ軽減・解決する 3)グループとしてどのように実習にのぞみたいか、など話し合い、グループの目標を立てる。	<事前学習>(240分) 1.実習要項を読む 2.実習準備のグループワークのためのワークシートを記入してくる。 3.「精神看護学概論」「精神看護学」「精神看護学演習Ⅰ」に関する教科書や講義資料を読むなど復習を行う。 4.事例を読み、データベース(ワークシート)に整理する。

			5.精神状態や発達段階、自我機能の査定を行う。 (DP2,4)
2 3	事例のデータベース（患者の背景、精神状態、発達段階、自我機能など）の共有、検討 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定)	個人ワークで整理してきたデータベースをグループで共有し、検討する。	
4	事例のデータベース（セルフケアレベルなど）の共有、検討 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定)	個人ワークで整理してきたセルフケアレベルをグループで共有し、検討する。	<事前課題> (240分) ①セルフケアレベルの査定を行う。 ②文献を活用して、総合的なアセスメントを行う。 ③事例の問題の明確化を行う。 ④長期目標、短期目標を立てる。 ⑤文献を活用して、看護計画を立てる。 ⑥厚生労働省のホームページで社会資源について調べてくる。 (DP2,3,4,8)
5	事例の総合的なアセスメントの共有、検討 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定)	個人ワークで書いてきた事例の総合的なアセスメントをグループで共有し検討する。	
6	1.事例の問題の明確化、長期目標、短期目標、看護計画の共有、検討 2. 発表用資料の作成 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定)	1.個人ワークで書いてきた事例の問題の明確化、長期目標、短期目標、看護計画をグループで共有し、検討する。 2. 発表用資料の作成 模造紙に患者像、主訴、自我機能、自己の機能、発達段階と発達課題、基本欲求、セルフケアレベル、アセスメント（何がセルフケアを低下させているのか、何がそうさせているのか）、看護問題、長期目標、短期目標、看護計画、を書く。	
7 8	1. 看護計画の発表会 2. 実習初日のオリエンテーション (未定、安永薫梨・中本 亮、未定)	1.看護計画の発表会(1グループ発表10分、質疑応答5分) 2. 実習初日のオリエンテーション	<事前課題> (80分) ①発表用資料を作成する。 ②どの部分を誰が発表するか役割分担をしておく。 <事後課題> (80分) ・返却した精神看護学演習Ⅰのレポート「①看護場面の再構成」の復習。 ・統合失調症、うつ病、デイケアの役割、保護室の機能と看護、入院形態などについて調べ、メモ帳にまとめる。 ・疑問に感じる事、分からないことなどは文献などを用いて、調べる。 (DP2,3,4,8)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし									
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8

発見学習／問題解決学習								
体験学習／調査学習								
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）								
内容								

I. 科目情報

科目名（日本語）	精神看護学実習			単位	2単位
科目名（英語）	Clinical Practicum in Psychiatric and Mental Health Nursing			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3-4年次	開講時期	通年		
担当教員	未定、安永薫梨、中本 亮、未定				
授業概要	精神に病や障害をもつ人とその家族との援助的人間関係を築き発展させ、一日も早くその人らしい生活を取り戻せるようセルフケアを援助する為の臨床の知識、技術、態度を自己の経験の振り返りを通して実践的に修得する。また、それらの人々との関係を通して援助の担い手としての自己を見つめる能力を養う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	「精神看護学概論」「精神看護学」「精神看護学演習Ⅰ」「精神看護学概論」「精神看護学」「精神看護学演習Ⅱ」を履修していること。を履修していること。				
テキスト	川野雅資編.(2015). 精神看護学Ⅰ.第6版, 東京; ニューヴェルヒロカワ. 川野雅資編.(2015). 精神看護学Ⅱ. 第6版,東京; ニューヴェルヒロカワ.				
参考図書・教材等	<参考文献> 小谷英文.(2008).ニューサイコセラピー, 東京: 風行社 小谷英文・宇佐美しおり(2018).PASセルフケアセラピー.東京: PAS心理教育研究所. 宇佐美しおり,鈴木啓子,Patricia Underwood.(2011).オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開,第2版,東京; ニューヴェルヒロカワ. 田中美恵子(2015). 精神看護学—学生・患者のストーリーで綴る実習展開.東京: 医歯薬出版株式会社.				
実務経験を生かした授業	精神科看護師としての実務経験を生かし、授業を展開する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	困ったことがあれば何でも、早めに担当教員に相談してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の生育歴、主訴、発達段階、病気の時期と精神状態、自我機能、病歴と治療、入院期間や地域での生活期間、その人の希望や家族の期待、家族をはじめとする社会的な関係、役割、ソーシャルサポート、それらに対する認識や行動がセルフケアやストレスにどのように影響しているかを総合的に理解する。 ・精神に障害を持つ人やその家族との対話や観察を通して、それらの人々のセルフケアのニーズとセルフケアレベル（過去最高とレベルと現在）を理解する。 ・精神に障害を持つ人の希望に沿う看護の提供に必要な、知識、技術、倫理的な思考と態度を、自己学習や保健医療福祉チームのメンバーとの対話を通して、明らかにする。
	思考・判断・表現	(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神に障害を持つ人との対話や観察を通して、精神病を持つことがその人の精神状態や自我機能にどのような影響を及ぼしているかを理解する。 ・保健医療福祉チームの力を借りて、精神に障害を持つ人とその家族の尊厳を守り、人権やプライバシーに配慮しながら状況に適した方法で看護を提供する。

			<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、患者やその家族、医療チームのメンバーに報告、連絡、相談、確認を行うことでリスクを回避すると共に看護の継続性を保つ。 	
		(DP4)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の中で気づいたことや疑問に感じたことは積極的に表現し、お互いに学びあい教えあうことを大切にする。 	
	関心・意欲・態度	(DP5)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程での自分の経験を、グループメンバーや保健医療福祉チームのメンバーとの対話を通して共同的にリフレクションし、自分の感性、他者の意見、既修の知識を活用して意味づける。 ・看護過程での経験の振り返りを通して自己理解と他者理解を深め、看護専門職を目指す者としての自覚を高める。 ・自分の目標(精神看護学演習IIで明確化した自分の目標)を立て、それが達成できるように取り組む。 	
		(DP6)		
	技能	(DP7)		
		(DP8)		
		(DP9)		
		(DP10)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神に障がいを持つ人やその家族との心的安全空間を創出しそれを基盤に信頼を育む。 ・精神に障害を持つ人とのストレングスに焦点を当てた対話を通して、退院後の希望を引き出し、長期目標と短期目標をその人が自己決定できるように援助する。 ・精神に障害を持つ人との対話を通して、目標を達成するために援けになる内的・外的資源と、障害になることを明確にする。 ・精神に障害を持つ人との対話を通して、目標に向かって本人が行うことと、学生が行う看護を明確にする。 ・精神に障がいを持つ人やその家族との対話や観察、保健医療福祉チームのメンバーとの対話を通して、行った看護を評価する。 	
	履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	精神に病や障害をもつ人とその家族との援助的人間関係を築き発展させ、一日も早くその人らしい生活を取り戻せるようセルフケアを援助する為の臨床の知識、技術、態度を自己の経験の振り返りを通して主体的に且つ実践的に修得することができる。また、それらの人々との関係を通して、援助の担い手としての自己を見つめる能力を十分に養うことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。			
精神に病や障害をもつ人とその家族との援助的人間関係を築き発展させ、一日も早くその人らしい生活を取り戻せるよう教員の積極的な指導のもと、セルフケアを援助する為の臨床の知識、技術、態度を自己の経験の振り返りを通して修得することができる。また、それらの人々との関係を通して、援助の担い手としての自己を見つめる能力を養うことができる。				
成績評価の基準				
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。				
A：80～89 履修目標を達成している。				
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。				
C：60～69 到達目標を達成している。				
不可：～59 到達目標を達成できていない。				

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他 (実習態度・実践)	合計
総合評価割合		30	20			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		20			10	30
思考・判断・表現	(DP3)		10	5		10	25
	(DP4)			5		10	15
関心・意欲・態度	(DP5)			5		10	15
	(DP6)					10	10
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			5			5
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方
1	<p>詳細については、精神看護学実習要項を参照</p> <p>1.実習期間：3年次後期～4年次前期</p> <p>2.実習時間：臨地実習 8:30～16:30 学内でのまとめ(最終日)8:50～16:00</p> <p>3.精神看護学実習のオリエンテーション：9月</p> <p>4.実習1日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院、病棟オリエンテーションを受け、精神科病棟の特徴を理解できる。 ・自分の興味や関心から受け持ち患者を決定できる。(未定、安永薫梨・中本 亮、未定) 	<p>1.実習の展開方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者を1人受け持ち、看護を提供しつつ学習する。 <p>2.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の学生の目標について看護教師に相談する ・実習開始の挨拶と自己紹介 ・申し送りに参加 ・病棟オリエンテーション ・病院オリエンテーション ・保護室見学 ・受け持ち候補者の紹介 ・受け持ち候補者との関わり ・受け持つことの内諾を得る ・臨床指導者への申し送り ・リフレクション・カンファレンス ・一日の実習を振り返り、学びや気づきを実習時間内に「毎日の記録」に記載する。 ・翌日の患者の予定や病棟行事を確認し、行動計画を時間内に立案する。
2	<p>1.実習2日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者に受け持つことの同意を得ることができる。 ・受け持ち患者と心的安全空間を基盤に信頼関係を少しずつ築くことができる。(最終日まで) 	<p>1.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の学生の目標について看護教師に相談する ・申し送りに参加

	<ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者と心的安全空間を基盤にコミュニケーションを図ることができる。 ・受持ち患者とのコミュニケーションより情報収集できる。 ・患者の主訴を捉えることができる。 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教師、臨床指導者と一緒に受け持つことの同意を得る ・カルテ閲覧(受け持ち患者との契約後) ・受け持ち患者への看護 ・臨床指導者への申し送り ・リフレクション・カンファレンス ・一日の実習を振り返り、学びや気づきを実習時間内に「毎日の記録」に記載する。 ・翌日の患者の予定や病棟行事を確認し、行動計画を時間内に立案する。
3	<p>1.実習3日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者と心的安全空間を基盤にコミュニケーションを図ることができる。 ・受持ち患者とのコミュニケーションより情報収集できる。 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定) 	<p>1.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の患者と学生の目標について看護教師に相談する ・申し送り参加 ・行動計画の発表 ・カルテ閲覧 ・受け持ち患者への看護 ・臨床指導者への申し送り ・リフレクション・カンファレンス ・患者への看護場面を振り返り、実習時間内に「看護上の出来事の再構成」に記載する。 ・翌日の患者の予定や病棟行事を確認し、行動計画を時間内に立案する。
4	<p>1.実習4日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護場面の再構成より、自己理解、他者理解を深めることができる。 ・他職種から情報収集できる。 ・患者の欲求（患者が本当は何を求めているのか、どうなりたいのか）を捉えることができる。 ・精神状態、セルフケアレベル、発達段階、自我機能の査定ができる。 ・患者像を描くことができる。 ・看護の方向性を明確にすることができる。 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定) 	<p>1.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の患者と学生の目標について看護教師に相談する ・申し送りに参加 ・行動計画の発表 ・受け持ち患者への看護 ・看護上の出来事の再構成についての面接（1人30分程度）を看護教師と臨床指導者に受け、リフレクションする。 ・臨床指導者への申し送り ・リフレクション・カンファレンス ・一日の実習を振り返り、学びや気づきを実習時間内に「毎日の記録」に記載する。 ・翌日の患者の予定や病棟行事を確認し、行動計画を時間内に立案する。
5	<p>1.実習5日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の背景、患者像、アセスメント、問題、目標、看護計画の共有と意見交換ができる。 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定) 	<p>1.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の患者と学生の目標について看護教師に相談する ・申し送りに参加 ・行動計画の発表 ・受け持ち患者への看護 ・臨床指導者への申し送り ・中間カンファレンス(看護計画の共有と意見交換)

		<ul style="list-style-type: none"> ・一日の実習を振り返り、学びや気づきを実習時間内に「毎日の記録」に記載する。 ・翌日の患者の予定や病棟行事を確認し、行動計画を時間内に立案する。
6	<p>1.実習 6 日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画の実施、評価、追加・修正ができる。 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定) 	<p>1.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の患者と学生の目標について看護教師に相談する ・申し送りに参加 ・行動計画の発表 ・受け持ち患者への看護 ・デイケア見学 ・臨床指導者への申し送り ・リフレクション・カンファレンス ・患者への看護場面を振り返り、実習時間内に「看護上の出来事の再構成」に記載する。 ・翌日の患者の予定や病棟行事を確認し、行動計画を時間内に立案する。
7	<p>.実習 7 日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画の実施、評価、追加・修正ができる。 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定) 	<p>1.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の患者と学生の目標について看護教師に相談する ・申し送りに参加 ・行動計画の発表 ・受け持ち患者への看護 ・デイケア見学 ・臨床指導者への申し送り ・リフレクション・カンファレンス ・患者への看護場面を振り返り、実習時間内に「看護上の出来事の再構成」に記載する。 ・翌日の患者の予定や病棟行事を確認し、行動計画を時間内に立案する。
8	<p>1.実習 8 日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画の実施、評価、追加・修正ができる。 (未定、安永薫梨・中本 亮、未定) 	<p>1.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の患者と学生の目標について看護教師に相談する ・申し送りに参加 ・行動計画の発表 ・受け持ち患者への看護 ・看護上の出来事の再構成についての面接を看護教師に受ける ・臨床指導者への申し送り ・リフレクション・カンファレンス ・一日の実習を振り返り、学びや気づきを実習時間内に「毎日の記録」に記載する。 ・翌日の患者の予定や病棟行事を確認し、行動計画を時間内に立案する。
9	<p>1.実習 9 日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画の実施、評価、追加・修正ができる。 ・受持ち患者との治療的な別れを行うことで患者—看護師関係を終結できる。 	<p>1.スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の患者と学生の目標について看護教師に相談する ・申し送りに参加 ・行動計画の発表

	(未定、安永薫梨・中本 亮、未定)	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者への看護、治療的な別れ ・臨床指導者への申し送り ・最終カンファレンス(2時間) ・一日の実習を振り返り、学びや気づきを実習時間内に「毎日の記録」「実習のまとめ」に記載する。 ・実習終了の挨拶
10	<p>1.実習 10 日目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で学んだこと、気づきを全体で共有し、意見交換できる。 <p>(未定、安永薫梨・中本 亮、未定)</p>	<p>1.スケジュール</p> <p>8:50-13:30 発表準備</p> <p>13:30-14:00 会場準備</p> <p>14:00-16:00 発表会</p> <p>2. 記録の提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日 17:00 締め切り ・提出場所は担当看護教師の指示を受けること ・提出時もしくは提出前後に、10分程度の面接を受ける
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし											
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
発見学習／問題解決学習													
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク													
その他()													
内容													

I. 科目情報

科目名（日本語）	成人看護学概論			単位	1単位
科目名（英語）	Introduction to Adult Nursing			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香				
授業概要	成人各期の身体的機能の特徴、成人期の社会および生活状況からの特徴、役割をホリスティックに理解する。成人期にある個人とその家族を対象とし、成人期の健康の特徴や起こりやすい健康の危機的状況をふまえて、成人期の健康の保持・強化、疾病予防について理解を深め、健康を支援していくための援助について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学概論を履修していること				
テキスト	・成人看護学 成人看護学概論 改訂第2版, 南江堂.				
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシンググラフィカ『成人看護学－成人看護学概論』, メディカ出版. ・ナーシンググラフィカ『成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得』, メディカ出版. ・ナーシンググラフィカ『成人看護学④セルフマネジメント』, メディカ出版. ・ナーシンググラフィカ『成人看護学⑤リハビリテーション看護』, メディカ出版. 				
実務経験を生かした授業	臨床経験5年以上で成人看護学領域での実務経験のある教員が講義を担当する。授業のテーマに沿った患者の事例を提示し、授業を進めるため臨床をイメージしながら学ぶことができる。			授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	単元を担当した教員にメールをください				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	ライフサイクルにおける成人期の位置づけと特徴について説明できる
		(DP2)	成人期にある人々の理解やケアを行ううえでの必要な概念や理論が説明できる
	思考・判断・表現	(DP3)	様々な健康レベルの成人期にある人々への看護を考えることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な理論について説明できる。 健康レベルにある対象者を理解し、各健康レベルに応じた看護を根拠にもとづいて説明できる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
成績評価の基準	<p>成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な視点について説明できる。 様々な健康レベルにある対象者を理解し、必要な看護について説明できる。</p>		
S: 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
到達目標	<p>成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な理論について説明できる。 主体的に様々な健康レベルにある対象者を理解し、各健康レベルに応じた看護を根拠にもとづいて説明できる。</p>		

A：80～89	履修目標を達成している。
成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な理論について説明できる。 様々な健康レベルにある対象者を理解し、各健康レベルに応じた必要な看護について説明できる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な視点について説明できる。 様々な健康レベルにある対象者を理解し、各健康レベルに応じた必要な看護について説明できる	
C：60～69	到達目標を達成している。
成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な視点について説明できる。 様々な健康レベルにある対象者を理解し、必要な看護について説明できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な視点について説明できない。 様々な健康レベルにある対象者を理解し、必要な看護について説明できない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70		30				100
知識・理解	(DP1)	20					20
	(DP2)	30		10			40
思考・判断・表現	(DP3)	20		20			40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス 成人期の特徴、成人を取り巻く状況 (福田)	1.講義 ・授業のすすめかたについて説明する。 ・成人期の特徴については心身の機能の変化を中心に成人各期の特徴を説明する。人期を取り巻く環境については家族、就労、ライフスタイルなどが国の統計的データを用い、発問しながら授業を行う。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読 (DP1) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート (DP1)
2	成人期にある人の健康 (福田)	1.講義 ・健康の定義、成人保健の動向について説明する。 2. グループワーク ・成人保健の動向から成人期の健康と健康課題について検討する。 3. 講義	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読 (DP1) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート (DP1)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションの観点から成人期の健康の保持・増進、疾病予防に向けた看護について説明する。 	
3	<p>成人期にある人の看護するために必要な概念①</p> <p>エンパワメント、ストレス-コーピング理論、危機理論など (福田)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・各理論について説明する。 2. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・身近な事例を提示し、ストレス-コーピング理論を用いて成人期にある対象の状況を検討し、発表する。 3. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所の精読 (DP2) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題レポート (DP2)
4	<p>成人期にある人の看護するために必要な概念②</p> <p>セルフケア理論、成人学習理論、家族看護など (古庄)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・各理論について説明する 2. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・事例を提示し、セルフケア理論を用いて成人期にある対象への支援についてグループ内で検討し、発表する。 3. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所の精読 (DP2) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題レポート (DP2)
5	<p>健康レベルに応じた看護①</p> <p>急性状態にある人の看護・生体侵襲 (福田)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・急性期の特徴、看護の場の特徴について説明する。 ・生体侵襲についてムーアの分類および生体メカニズムについて説明する。 2. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・急性期にある対象者の事例を提示し、侵襲時の生体メカニズムをもとにディスカッションを行い、発表する。 3. まとめ <ul style="list-style-type: none"> グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所の精読 (DP3) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題レポート (DP3)
6	<p>健康レベルに応じた看護②</p> <p>慢性的な経過をたどる人の看護 病みの軌跡理論、アドヒアランス、セルフマネジメントなど (古庄)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> 慢性期の特徴、慢性疾患における医療の動向とその対策について説明する。 ・慢性疾患を有する人の特徴と患者理解のための概念について説明する。 ・セルフマネジメントに必要なアドヒアランスについて説明する。 1. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・慢性期にある対象者の事例を提示し、グループでディスカッションを行い、発表する。 2. まとめ <ul style="list-style-type: none"> グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所の精読 (DP2) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題レポート (DP3)
7	<p>健康レベルに応じた看護③</p> <p>生活機能障害を有する人への看護 (リハビリテーション看護) (福田)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション看護に必要な概念と患者の特徴について説明する。 2. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションを行う患者の事例を提示し、グループでディスカッションを行い、ICF の枠組みを用いて対象者の全体像を捉える。 3. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの該当箇所の精読 (DP3,5) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題レポート (DP3)

8	健康レベルに応じた看護④ 終末期を迎える人への看護、まとめ (福田)	1. 講義 ・終末期看護についての概要を説明し、終末期看護に関する DVD を視聴する。 2. グループワーク ・視聴した DVD の内容をベースに終末期を迎える人に対する看護師の役割についてディスカッションを行い、発表する。 3. まとめ ・成人看護学概論の総括を行う。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読 (DP3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート (DP3)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○							
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	成人急性看護学			単位	2 単位
科目名（英語）	Adult Nursing for Patients with Acute Illnesses			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子				
授業概要	成人期の特徴をふまえ、健康障がいのある急性期にある対象者の看護について学ぶ。特に周手術期の看護を中心に、侵襲からの回復過程と回復を促すケアについて学ぶ。また、対象者を取り巻く家族、重要他者を含めた心理的、社会的支援について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	病態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、生体機能看護学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論を履修していること				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周術期看護，南江堂. ・成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護，南江堂. ・成人看護学 成人看護技術，南江堂. 				
参考図書 ・教材等	・系統看護学講座成人看護学 シリーズ、医学書院.				
実務経験を生かした授業	臨床経験5年以上で成人看護学領域（急性期）での実務経験のある教員が講義を担当する。授業のテーマに沿った患者の事例を提示し、授業を進めるため臨床をイメージしながら学ぶことができる。			授業中の撮影	×
学習相談 ・助言体制	単元を担当した教員に直接連絡してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	既習の専門科目の内容をもとに、慢性期看護に必要な知識を習得することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期にある対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理・社会的側面への影響について述べられる。 ・慢性期にある対象者および家族に必要な看護ケアについて根拠を示して述べられる。 ・クリティカルな場での患者や家族の特徴、そこで行われている看護について述べられる
		(DP4)	・グループワークを通して自分の考えを述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	・自主的に学習を進めることができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>急性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
急性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。			

また、対象者や家族への看護について説明できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
急性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について手術侵襲や回復過程をふまえて説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。
A：80～89 履修目標を達成している。
急性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
急性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
急性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への看護について説明できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
慢性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できない。また、対象者や家族への看護について説明できる。さらに学習を通して終末期看護についての学びを述べるができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70		30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	30		10			40
思考・判断・表現	(DP3)	40		20			60
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス 急性期にある患者・家族の看護 周手術期(1) 手術前の看護 (福田)	1. 講義 ・ガイダンスにて授業の進め方を説明する。 ・成人看護概論で習得した侵襲による生体反応を復習しながら、手術や麻酔による患者の身体的変化について説明する。 ・手術前に必要な看護について説明を行う。 2. グループワーク	事前学習 ・成人看護学概論で学んだ侵襲による生体反応の復習 (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)

		<ul style="list-style-type: none"> ・手術を受ける患者の事例を提示し、事例患者に必要な看護について検討する。 	
2	急性期にある患者・家族の看護 周手術期(2) 手術中の看護 (特別講師)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・JCHO 九州病院手術室認定看護師による「手術を受ける患者の術中看護」について講義を行う。手術室の環境や特殊性、看護師の専門性を中心にスライドや実際の動画を用いて授業をすすめる。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 (DP2,3) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 (レポート) (DP3)
3	急性期にある患者・家族の看護 周手術期(3) 手術後の看護 (福田)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・手術を受けた事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・1のグループワークで出された問題を全身麻酔による手術後に生じる術後合併症について発症メカニズムとともに必要な看護について説明を行う。 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・手術を受けた患者の事例について、講義内容をふまえてアセスメントを行い、合併症予防に向けた看護について検討する。 <p>アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。</p>	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 (DP2,3) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 (国試形式の問題の解答と解説) (DP3)
4	急性期にある患者・家族の看護 脳・神経機能障害 (福田)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・クモ膜下出血の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ、クモ膜下出血を発症した患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・クモ膜下出血術後(クリッピング術)の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：脳の解剖生理、クモ膜下出血の病態、検査、治療の復習 (レポート) (DP2,3) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 (DP3)
5	急性期にある患者・家族の看護 呼吸機能障害 (中井)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・肺がん事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ、肺がん患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・胸腔鏡下肺切除術後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。ア 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：肺の解剖生理、肺がんの病態、検査、治療の復習 (レポート) (DP2,3) <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 (DP3)

		セサメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	
6	急性期にある患者・家族の看護 循環機能障害 (村田)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・急性心筋梗塞の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ、急性心筋梗塞を発症した患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・経皮冠動脈形成術 (PCI) 後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：心臓の解剖生理、急性心筋梗塞の病態、検査、治療の復習（レポート） <p>(DP2,3)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 <p>(DP3)</p>
7	急性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害(1)：食道 (福田)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・食道がんの事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ食道がん患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・食道がん術後（食道切除再建術）の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。グループワーク 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：食道の解剖生理、食道がんの病態、検査、治療の復習（レポート） <p>(DP2,3)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） <p>(DP3)</p>
8	急性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害(2)：大腸 (政時)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん（ストーマ造設術）の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ大腸がん患者（特にストーマ造設術）の検査、術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん術後（ストーマ造設術）の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：大腸の解剖生理、大腸がんの病態、検査、治療の復習（レポート） <p>(DP2,3)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） <p>(DP3)</p>
9	急性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害(3)：肝・胆・膵 (中井)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・膵がん事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ、膵 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：膵臓および胆のうの解剖生理、すい臓がんの病態、検査、治療の復習（レポート） <p>(DP2,3)</p>

		<p>がんと胆石症の患者の術前、術後の看護について説明する。</p> <p>3. グループワーク</p> <p>膵頭十二指腸切除術後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。</p>	<p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 (DP2,3)
10	<p>急性期にある患者・家族の看護 腎・排尿機能障害 (古庄)</p>	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膀胱がんの事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえて膀胱がん患者の術前、術後の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <p>膀胱がん術後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。</p>	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：膀胱の解剖生理、膀胱がんの病態、検査、治療の復習 (レポート) <p>(DP2,3)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 (国試形式の問題の解答と解説) <p>(DP3)</p>
11	<p>急性期にある患者・家族の看護 性・生殖機能障害 (政時)</p>	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん (乳房全摘手術・センチネルリンパ節郭清術) の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえて乳がん (乳房全摘手術・センチネルリンパ節郭清術) の検査、術前、術後の看護について説明する。また、子宮がんの疾患の理解や子宮がんの検査、術前、術後の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん術後 (乳房全摘手術・センチネルリンパ節郭清術) の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：乳房の解剖生理、乳がんの病態、検査、治療の復習 (レポート) <p>(DP2,3)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 (国試形式の問題の解答と解説) <p>(DP3)</p>
12	<p>急性期にある患者・家族の看護 喉頭機能障害 (福田)</p>	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喉頭がんの事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえて喉頭がん患者の術前、術後の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喉頭がん術後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：解剖、病態、治療の復習 (レポート) <p>(DP2,3)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 (国試形式の問題の解答と解説) <p>(DP3)</p>

13	急性期にある患者・家族の看護 運動機能障害 (福田)	1. グループワーク ・変形性股関節症の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえて変形性股関節症患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク ・変形性股関節症術後（人工関節全置換術）の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：骨および関節の解剖生理、変形性股関節症の病態、検査、治療の復習（レポート） (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)
14	クリティカルケア（1）外傷、熱中症、熱傷患者の看護（福田）	1・講義 ・外傷、熱中症、熱傷患者について事前学習の各疾患の病態をふまえて、アセスメント、看護について説明する。 2. グループワーク ・外傷患者の事例を提示し、アセスメント、必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・外傷、熱中症、熱傷の病態、検査、治療の復習 (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)
15	クリティカルケア（2） クリティカルケアの実際 (特別講師)	1. 講義 ・済生会福岡総合病院集中治療認定看護師による「クリティカルケア」について講義を行う。クリティカルな場の特殊性やそこでの看護を中心にスライドや実際の写真を用いて授業をすすめる。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（レポート） (DP3)
備考	本授業は成人慢性看護学の内容とリンクしてすすめる		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	成人慢性看護学			単位	2単位
科目名（英語）	Adult Nursing for Patients with Chronic Illnesses			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子				
授業概要	成人期において慢性の健康障害や機能障害を有する対象およびその家族の特徴について理解し、その看護について学ぶ。終末期にある対象およびその家族の特徴について理解し、その看護について学ぶ。終末期の患者の家族への支援、チームアプローチ、倫理的問題について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	病態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、生体機能看護学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論を履修していること				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学 慢性期 看護病気とともに生活する人を支える，南江堂. ・成人看護学 成人看護技術，南江堂. 				
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座成人看護学 シリーズ、医学書院. 				
実務経験を生かした授業	臨床経験5年以上で成人看護学領域（慢性期）での実務経験のある教員が講義を担当する。授業のテーマに沿った患者の事例を提示し、授業を進めるため臨床をイメージしながら学ぶことができる。			授業中の撮影	×
学習相談 ・助言体制	単元を担当した教員に直接連絡してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	既習の専門科目の内容をもとに、慢性期看護に必要な知識を習得することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期にある対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理・社会的側面への影響について述べられる。 ・慢性期にある対象者および家族に必要な看護ケアについて根拠を示して述べられる。 ・終末期にある患者および家族への支援と倫理的課題について述べられる。
		(DP4)	・グループワークを通して自分の考えを述べることができる。
		(DP5)	・自主的に学習を進めることができる。
	関心・意欲・態度	(DP6)	
		(DP7)	
	技能	(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
慢性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。さらに学習を通して終末期看護について自己の考えを論理的に述べることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
慢性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への看護について説明できる。さらに学習を通して終末期看護についての学びを述べるすることができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
慢性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について疾病の経過をふまえて説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。さらに主体的学習を通して終末期看護について自己の考えを論理的に述べることができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
慢性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。さらに学習を通して終末期看護について自己の考えを論理的に述べることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
慢性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について説明できる。さらに学習を通して終末期看護について自己の考えを述べることができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
慢性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への看護について説明できる。さらに学習を通して終末期看護についての学びを述べるができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
慢性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できない。また、対象者や家族への看護について説明できる。さらに学習を通して終末期看護についての学びを述べるができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70		30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	30		10			40
思考・判断・表現	(DP3)	40		20			60
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	ガイダンス 慢性期看護の特徴	1. 講義 ・ガイダンスにて授業の進め方を説明する ・慢性期看護の概要について説明を行う。 2. グループワーク ・慢性期看護の対象と行われる看護について復習を行う。	事前学習 ・成人看護学概論、慢性期看護について復習を行う (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（レポート） (DP2,3)

2	慢性期にある患者・家族の看護 がん看護 (特別講師)	1. 講義 ガイダンスにて授業の進め方を説明する。 ・がん看護に精通した学外講師による「がん看護」に関する講義を行う。がん患者の特徴や治療とその看護を中心に説明を行う。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題 (レポート) (DP2,3)
3	慢性期にある患者・家族の看護 脳機能障害 (福田)	1. グループワーク ・脳梗塞の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ脳梗塞患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・脳梗塞の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・疾患の理解：脳の解剖生理、脳梗塞の病態、検査、治療の復習 (レポート) ・事例患者の情報の精読 (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題 (国試形式の問題の解答と解説) (DP2,3)
4	慢性期にある患者・家族の看護 呼吸機能障害 (福田)	1. グループワーク ・慢性閉塞性肺疾患の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ慢性閉塞性肺疾患患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・慢性閉塞性肺疾患の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・疾患の理解：肺の解剖生理、慢性閉塞性肺疾患の病態、検査、治療の復習 (レポート) ・事例患者の情報の精読 (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題 (国試形式の問題の解答と解説) (DP2,3)
5	慢性期にある患者・家族の看護 循環機能障害 (村田)	1. グループワーク ・心不全の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ心不全患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・心不全の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・疾患の理解：心臓の解剖生理、体循環と肺循環、心不全の病態、検査、治療の復習 (レポート) ・事例患者の情報の精読 (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題 (国試形式の問題の解答と解説) (DP2,3)
6	慢性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害① 大腸 (福田)	1. グループワーク ・クローン病の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえク	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・疾患の理解：大腸の解剖生理、クローン病の病態、検査、治療の復習 (レポート) ・事例患者の情報の精読 (DP2)

		<p>ローン病患者の看護について説明する。</p> <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クローン病の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） <p>(DP2,3)</p>
7	慢性期にある患者・家族の看護 糖代謝機能障害（1） （古庄）	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の事例患者の情報の中から問題と思われる個所について検討し、発表する。 <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ糖尿病患者の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：膵臓の解剖、糖尿病の病態、検査、治療の復習（レポート） <p>(DP2)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） <p>(DP2,3)</p>
8	慢性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害② 膵 （中井）	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膵炎の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題を膵炎患者の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膵炎の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：膵臓の解剖生理、膵炎の病態、検査、治療の復習（レポート） <p>(DP2)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題 <p>(DP2,3)</p>
9	慢性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害③ 肝 （古庄）	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝硬変の事例患者の情報の中から問題と思われる個所について検討し、発表する。 <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ肝疾患患者の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝硬変の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：肝臓の解剖生理、肝硬変の病態、検査、治療の復習（レポート） <p>(DP2)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） <p>(DP2,3)</p>
10	慢性期にある患者・家族の看護 腎・排尿機能障害 （古庄）	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腎不全の事例患者の情報の中から問題と思われる個所について検討し、発表する。 <p>4. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ腎不全患者の看護について説明する。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の読 ・疾患の理解：腎臓の解剖生理、じん不全の病態、治療の復習（レポート） <p>(DP2)</p>

		<p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 腎不全の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） <p>(DP2,3)</p>
11	慢性期にある患者・家族の看護 血液・造血機能障害 (中井)	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 急性骨髄性白血病の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえて造血器腫瘍患者の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 急性骨髄性白血病の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定ページの精読 事例患者の情報の精読 疾患の理解：血液の機能と造血のしくみ、造血器腫瘍(主に急性白血病)の病態、検査、治療の復習(レポート) <p>(DP2)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容に関連した課題 <p>(DP2,3)</p>
12	慢性期にある患者・家族の看護 免疫機能障害 (古庄)	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 全身性エリテマトーデス(SLE)の事例患者の情報の中から問題と思われる個所について検討し、発表する。 <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえて免疫機能に障害のある患者の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> SLEの事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定ページの精読 事例患者の情報の精読 疾患の理解：免疫機能、全身性エリテマトーデスの病態、検査、治療の復習(レポート) <p>(DP2)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） <p>(DP2,3)</p>
13	慢性期にある患者・家族の看護 内分泌機能障害 (政時)	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 甲状腺機能亢進症の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえて甲状腺機能障害(亢進症・低下症)患者の看護について説明する。 <p>3. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 甲状腺機能亢進症の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定ページの精読 事例患者の情報の精読 疾患の理解：甲状腺の解剖生理、甲状腺機能亢進症および甲状腺機能低下症の病態、検査、治療の復習(レポート) <p>(DP2)</p> <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） <p>(DP2,3)</p>
14	慢性期にある患者・家族の看護 神経機能障害 (福田)	<p>1. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋萎縮性側索硬化症(ALS)の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する <p>2. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえて筋 	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定ページの精読 事例患者の情報の精読 疾患の理解：運動神経機能、筋萎縮性側索硬化症の病態、検査、治療の復習(レポート) <p>(DP2)</p>

		委縮性側索硬化症患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・筋委縮性側索硬化症の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP2,3)
15	終末期看護と倫理的課題（古庄）	1. 講義 ・終末期看護の対象となる人および家族の特徴と療養の場、行われている医療・看護について説明する。 ・終末期にある人のアドバンス・ケア・プランニング（ACP: Advance Care Planning)について説明する。 2. グループワーク ・終末期にある人の事例について、講義内容をふまえて必要な看護と看護師の役割について検討する。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・終末期にある患者の身体的特徴、心理・社会的な特徴について（レポート） (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP2,3)
備考	本授業は成人急性看護学の内容とリンクしてすすめる		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	成人看護学演習 I			単位	1 単位
科目名（英語）	Practicum in Adult Nursing I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3 年	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子				
授業概要	成人期にある対象者の疾患や治療の状況を把握しながら、病態に応じた看護過程の展開を学ぶ。また、基礎看護学で学んだ看護技術を対象者の看護の状況に合わせて選択するための根拠と評価のポイントを学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人体の構造と機能、病態、成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、基礎看護学での学修内容				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断, 医学書院. ・NANDA-I 看護診断 定義と分類 原書 第 11 版, 2018-2020. ・野崎真奈美他：成人看護学 成人看護技術, 南江堂 				
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴードン博士の看護アセスメント指針, 照林社. ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 (1) ~ (11), 医学書院. ・系統看護学講座 別巻 10 緩和ケア, 医学書院. 				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が、急性期および慢性期にある対象者の看護の展開について教授する。			授業中の撮影	○
学習相談 ・助言体制	グループを担当した教員に直接連絡してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	基礎看護学で習得した看護過程の知識を用いて、適切に紙上事例の情報を収集・整理できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	・整理した情報を専門的に解釈し、用語を用いて分析、統合し、紙上事例の看護上の問題および目標を記述できる。
		(DP 4)	・グループワークを通して自分の考えを述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	・自主的に学習を進めることができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	・立案した看護計画に沿って事例患者の看護援助を安全安楽に留意し、実践・評価することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
疾患に罹患したことによる身体・精神の機能の変化を踏まえ、情報を整理し、理論を用いて全人的にアセスメントを行った結果から看護上の問題を明確にし、個別性を考慮した看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画を、安全安楽に個別性を反映して実施し、評価することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
情報を整理し、看護上の問題を明確にし、看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画の一部を安全安楽に実施し、評価することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
疾患に罹患したことによる身体・精神の機能の変化を踏まえ、情報を整理し、適切な理論を用いて全人的にアセスメントを行っ			

た結果から看護上の問題を明確にし、個別性を考慮した看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画を、安全安楽に個別性を反映して実施し、評価・修正することができる。

A：80～89 履修目標を達成している。

疾患に罹患したことによる身体・精神の機能の変化を踏まえ、情報を整理し、理論を用いて全人的にアセスメントを行った結果から看護上の問題を明確にし、個別性を考慮した看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画を、安全安楽に個別性を反映して実施し、評価することができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

疾患に罹患したことによる身体・精神の機能の変化を踏まえ、情報を整理し、全人的にアセスメントを行った結果から看護上の問題を明確にし、個別性を考慮した看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画を、安全安楽に実施し、評価することができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

情報を整理し、看護上の問題を明確にし、看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画の一部を安全安楽に実施し、評価することができる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

情報を整理し、看護上の問題を明確にし、看護目標の設定、看護計画の立案ができない。また、立案した計画の一部を安全安楽に実施し、評価することができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70			30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		30				30
思考・判断・表現	(DP3)		40				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					30	30
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	1.ガイダンス (福田) 2.看護過程について (古庄) 3.慢性期の看護過程の特徴 (古庄) 4.急性期の看護過程の特徴 (福田) 5.急性期:消化機能障害のある患者の看護 (胃がん) (中井)	1. 講義 ・成人看護学の看護過程に関するガイダンスで科目概要や評価方法について説明を行う。また看護過程の方法について説明を行い、復習とする。 ・慢性期・急性期それぞれの看護過程の特徴を説明する。(情報分類の視点、各パターンで用いる解剖生理・病態生理について例を示しながら解説を行う。 ・胃がんで手術を受ける患者の看護について、疾病の理解の確認、アセスメントの視点、看護について説明を行う。	事前学習: ・紙上事例の疾患(胃がん、糖尿病)の解剖生理、病態生理を復習し、理解を深める。(DP2,3) 事後学習: ・グループワークでの内容を踏まえ、個人での紙上事例の情報を、再度分類する。(DP2)

2	急性期の看護過程 1 情報整理（全員）	1. グループワーク ・急性期患者の紙上事例患者（胃がん）の情報をゴードンの 11 の健康機能パターンを基もとにまず身体的側面の情報整理を行い、次に心理的側面の情報整理を行う。	
3	急性期の看護過程 2 アセスメント（全員）	1. グループワーク ・前回の授業で行ったグループワークの内容および事前課題をもとに、11 の健康機能パターンの各パターンのアセスメントを、科学的根拠（解剖生理、病態生理）を明確にして進める。	事前課題 ・11 の健康機能パターンに整理した情報をパターンごとに科学的根拠に基づきアセスメントを行う。 (DP3) 事後課題 ・グループワークの内容をふまえ、個人で、紙上事例関連図を作成する。 (DP3)
4	急性期の看護過程 3 関連図・看護問題の明確化（全員）	1. グループワーク ・各パターンのアセスメントを基に関連図を作成し、看護問題を導き出す。明確になった看護問題の優先順位を決める。	
5	急性期の看護過程 4 看護計画立案（全員）	1. グループワーク ・明確になった看護問題に対して、長期目標、短期目標を設定し、紙上事例の個別性を反映した看護計画を立案する。看護計画は具体的に立案する。	事前課題 ・明確化した看護問題に対する目標と看護計画を各自で立案する。 (DP3) 事後課題 ・術後の観察項目の内容、観察方法の復習。 (DP10)
6	急性期の看護過程 5 看護計画の実施・評価 術後の看護①観察（全員）	1. グループワーク ・立案した看護計画のうち、術後の観察項目の内容、患者の状況に応じた観察方法についてグループ内で確認する。	
7	急性期の看護過程 6 看護計画の実施・評価 術後の看護①観察（全員）	1. ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで確認した観察内容をもとに看護師役、患者役、観察者役を決めて術後 1 日目の観察を行う。 2. グループワーク ・終了後、グループ内およびグループ間で振り返りを行い、評価を行う。	事前課題 ・術後患者を想定したシミュレーターを観察を行い、情報収集した内容をアセスメントする。 (DP2,3) 事後課題 ・術後合併症予防の内容、個別性のある看護援助方法についての復習。(DP2,3)
8	急性期の看護過程 7 看護計画の実施・評価 術後の看護②合併症予防（全員）	1. グループワーク ・立案した看護計画のうち、術後合併症予防の内容、個別性のある看護援助方法についてグループ内で確認し、援助の手順を検討する。	
9	急性期の看護過程 8 看護計画の実施・評価 術後の看護②合併症予防（全員）	1. ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで確認した観察内容をもとに看護師役、患者役、観察者役を決めて術後 1 日目の観察を行う。 ・複数のグループがデモンストレーションを行い、合併症予防に向けた援助方法を共有する。 2. グループワーク ・終了後、グループ内およびグループ間で振り返りを行い、評価を行う。	事前課題 ・グループで検討した援助手順をもとに合併症予防に向けた援助の自己練習を行う。 (DP10)
10	慢性期の看護過程 1 情報整理（全員） （全員）	1. グループワーク ・慢性期患者の紙上事例患者（胃がん）の情報をゴードンの 11 の健康機能パターンをもとにまず身体的側面の情報整理を行い、次に心理的側面の情報整理を行う。	事後学習： ・援助の振り返りレポート (DP10) ・グループワークでの内容を踏まえ、個人での紙上事例の情報を、再度分類する。 (DP10)

11	慢性期の看護過程 2 アセスメント (全員)	1. グループワーク ・ 前回の授業で行ったグループワークの内容をもとに、11 の健康機能パターンの各パターンのアセスメントを、科学的根拠（解剖生理、病態生理）を明確にして進める。	事前課題 ・ 11 の健康機能パターンに整理した情報をパターンごとに科学的根拠に基づきアセスメントを行う。 (DP3) 事後課題 ・ グループワークの内容をふまえ、個人で、紙上事例関連図を作成する。 (DP3)
12	慢性期の看護過程 3 関連図・看護問題の明確化 (全員)	1. グループワーク ・ 各パターンのアセスメントを基に関連図を作成し、看護問題を導き出す。明確になった看護問題の優先順位を決める。	
13	慢性期の看護過程 4 看護計画立案 (全員)	1. グループワーク ・ 明確になった看護問題に対して、長期目標、短期目標を設定し、紙上事例の個別性を反映した看護計画を立案する。看護計画は具体的に立案する。	事前課題 ・ 明確化した看護問題に対する目標と看護計画を各自で立案し、事例患者に応じた生活指導に関するパンフレットの作成。(DP3,4)
14	慢性期の看護過程 5 看護計画の実施・評価 生活指導① (全員)	1. グループワーク ・ 立案した看護計画のうち、事前課題内容をグループ内で共有し、生活指導の内容、指導方法についてグループ内で確認する。 ・ 指導場面のシナリオを作成する。	事後課題 ・ 生活指導内容、方法の復習と作成したパンフレットの見直し。 (DP10)
15	慢性期の看護過程 6 看護計画の実施・評価 生活指導② (全員)	1. ベッドサイドでの技術演習 ・ グループ内で看護師、患者、家族、ナレーターの役割を決め、シナリオに沿って生活指導を行う。 2. グループワーク ・ 終了後、グループ内およびグループ間で振り返りを行い、評価を行う。	事前課題 ・ グループでシナリオに沿って生活指導場面の練習を行う。(DP10) 事後課題 ・ 生活指導の振り返りレポート (DP10)
備考	成人看護学演習 II とリンクして授業を進める。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	成人看護学演習 II			単位	1 単位
科目名（英語）	Practicum in Adult Nursing II			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3 年	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子				
授業概要	基礎看護学で学んだ技術を用いて、成人期の看護の状況に応じた看護技術の実践を学ぶ。対象者の状態に即した看護技術の選択とその根拠を明確にしながらシミュレーションし、安全で安楽な実践方法について学ぶ。看護技術を実践する場合の対象者への倫理的配慮について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人体の構造と機能、病態、成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、基礎看護学での学修内容				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周術期看護，南江堂. ・成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護，南江堂. ・成人看護学 慢性期看護病気とともに生活する人を支える，南江堂. ・成人看護学 成人看護技術，南江堂. 				
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（1）～（11），医学書院. 				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が、急性期および慢性期にある対象者の看護について教授する。	授業中の撮影	×		
学習相談 ・助言体制	グループを担当した教員に直接連絡してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	・既に学習した成人看護学と関連学問に関する知識を活用することができる
	思考・判断・表現	(DP3)	・事例患者の状況をアセスメントし、根拠に基づいた看護の方法を選択できる。
		(DP4)	・グループメンバーに自己の考えを伝え、事例患者の看護に関してディスカッションができる。 ・あらゆる健康レベルに応じた事例患者に対して、安全、安楽に基づいた方法について検討し、実践できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	・自主的に学習を進めることができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	<p>疾患に罹患したことによる身体・精神の機能の変化を踏まえ、情報を整理し、理論を用いて全人的にアセスメントを行った結果から看護上の問題を明確にし、個別性を考慮した看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画を、安全安楽に個別性を反映して実施し、評価することができる。</p> <p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
情報を整理し、看護上の問題を明確にし、看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画の一部を安全安楽に実施し、評価することができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
紙上患者の状況について既習の知識を十分活用し、適切にアセスメントを行い、安全安楽に基づいた根拠ある看護援助を検討することができる。また、倫理的配慮を行いながら主体的に成人看護実践に必要な看護技術を習得することができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
紙上患者の状況について既習の知識を活用し、アセスメントを行い、安全安楽に基づいた根拠ある看護援助を検討することができる。また、倫理的配慮を行いながら成人看護実践に必要な看護技術を習得することができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
紙上患者の状況についてアセスメントを行い、安全安楽に基づいた看護援助を検討することができる。また、成人看護実践に必要な看護技術を習得することができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
紙上患者の状況を捉え、成人看護実践に必要な基本的な看護技術を習得することができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
紙上患者の状況を捉え、成人看護実践に必要な基本的な看護技術を習得することができない。	

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40		50			10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			20				20
思考・判断・表現	(DP3)	10		20				30
	(DP4)	30		10			10	50
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	1. ガイダンス（福田） 2. 手術を受けた患者の看護：術後合併症予防に向けた看護（全員）	1. 講義 ・成人看護学演習Ⅱに関するガイダンスで科目概要や評価方法について説明を行う。 2. グループワーク① ・事前課題をもとに紙上患者の状況から考えられる術後合併症と予防的な看護について検討する。 3. ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで検討した術後合併症予防に向けた看護を看護師役、患者役、観察者役を決めて実施し、評価する。 4. 発表	事前課題 ・紙上患者の状況から考えられる術後合併症とその予防についての学習（DP2） 事後課題 ・実践した内容と振り返りレポート（DP3,4）
2			

		<p>代表グループがデモンストレーションを行い、紙上患者の状況に応じた術後合併症予防に向けた看護を共有する。</p> <p>5. グループワーク②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の演習を振り返り、紙上患者の状況に応じた術後合併症予防に向けた看護のポイントをまとめる。 	
3 ・ 4	<p>慢性疾患患者に対する教育的支援 自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導 (全員)</p>	<p>1. グループワーク①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題をもとに紙上患者の状況から考えられる自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導方法を検討する。 <p>2. ベッドサイドでの技術演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで検討した自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導を看護師役、患者役、観察者役を決めて実施し、評価する。 <p>3. 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表グループがデモンストレーションを行い、紙上患者の状況に応じた自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導方法を共有する。 <p>4. グループワーク②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の演習を振り返り、紙上患者の状況に応じた自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導方法のポイントをまとめる。 	<p>事前課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙上患者の状況から考えられる自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導方法についての学習 (DP2) <p>事後課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践した内容と振り返りレポート (DP 3,4)
5 ・ 6	<p>療養中の患者の急変時の対応 (全員)</p>	<p>1. 講義/動画視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養中の患者の急変時のケアの概要を説明する。 ・療養中の患者が急変した事例の動画を視聴する (救命処置前まで)。 ・シミュレーター、バッグバルブマスクの使用方法について説明を行う。 <p>2. グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD視聴後の患者の急変時の対応について事前課題をもとにグループで検討する。救命の手順を作成する。 <p>3. ベッドサイドでの技術演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで検討した患者の急変時の対応について作成した手順をもとに看護師役、患者役、観察者役を決めて実施し、評価する。 <p>4. 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表グループがデモンストレーションを行い、患者の急変時の対応を共有する。 	<p>事前課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次救命、二次救命のアルゴリズムについての学習 (DP2) <p>事後課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践した内容と振り返りレポート (DP 3, 5)
7 ・ 8	<p>成人看護技術試験 (全員)</p>	<p>1. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術試験の方法について説明を行う。 <p>2. 技術試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ別に指定された技術試験を受ける (詳細は試験前に伝える。) <p>3. 講評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術試験の状況を踏まえ、講評を行う。グループを担当した教員が講評を行う。 	<p>事前課題</p> <p>成人看護学演習IIで修得した技術の復習 (DP 3,4)</p> <p>事後課題</p> <p>技術試験の振り返り (DP4)</p>
備考	成人看護学演習Iとリンクして授業を進める。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○									
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	成人急性看護学実習			単位	3単位
科目名（英語）	Clinical Nursing Practicum in Adult Nursing for Patients with Acute Illnesses			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3~4年	開講時期	後期～前期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子、笹山万紗代、大場美緒、山口馨子				
授業概要	健康障害や機能障害を持ちながら生活している人をホリスティックに理解し、対象者及びその家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に学び、実践するための基本的な能力を身につける。特に急性期においては、急性期にある対象者の特徴を理解し、対象者の生命力の消耗を最小限にして、生命維持・健康回復を促すための援助を身につける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人体の構造と機能、病態、基礎看護技術、看護過程、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱなど、既習の知識・技術・態度を確実に身につけて実習に臨むことが前提であり、さらに成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ看護や看護技術が必要となる。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院。 ・成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護，南江堂。 ・成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア，南江堂。 ・成人看護学 成人看護技術，南江堂。 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（1）～（11），医学書院。 ・NANDA-I 看護診断 定義と分類，医学書院。 そのほか既習科目のすべてのテキスト 				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が、急性疾患を有する対象者への看護について教授する			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	グループ担当教員もしくは科目責任者に直接連絡をください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期にある対象者とその家族の特徴を説明できる。 ・対象者の疾患や病態、行われる治療について説明できる ・対象者の疾病や治療および対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的影響や回復の過程について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期にある対象者の健康問題を明確にし、看護計画の立案、実施、評価ができる。 ・急性期にある対象者を取り巻く保健医療チームにおける看護師の役割・専門性について説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	・保健医療チームの一員としての自覚を持ち、倫理的行動がとれる。
		(DP6)	・行った看護を振り返り、自己の看護観と課題を明確にできる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	・対象者の看護計画に沿った適切な看護援助を根拠に基づいて選択し、実施できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。		
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	教員や実習指導者の助言・指導を受けながら実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	常時、教員や実習指導者の助言・指導を受けても実習要項の行動目標を達成できない。既習の知識・技術などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	20		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10	5			15
思考・判断・表現	(DP3)		40	15			55
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		5				5
	(DP6)		5				5
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					20	20
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方
1 { 15	<p>詳細については、成人急性看護学実習要項を参照</p> <p>1.実習期間：3年次後期～4年次前期</p> <p>2.実習時間：臨地実習 8：30～16:30 (15:30～16:30 記録の整理) 学内実習 8：50～17:00 *実習期間中に祝祭日がある場合は、実習時間が変更となる。</p> <p>3.実習内容： <第1週> 月曜日：臨地実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループに1名の担当教員が実習指導を行う。 ・毎朝、臨床実習指導者および教員に対して行動計画の発表を行い、1日のスケジュールの調整を行う。 ・対象者に対するケアについては、臨床実習指導者の指導の下で実施する。 ・計画実施や、計画以外のケアが必要と判断された場合には、必ず実施前に教員もしくは臨床実習指導者に報告・相談する。 ・実習記録に関しては、毎日、教員の指導を受ける。

<p>実習オリエンテーション（臨地にて） 病棟オリエンテーション、受持ち患者情報提示 火曜日～金曜日：臨地実習 受け持ち患者の看護展開 ※受け持ち患者の看護計画立案・発表</p> <p><第2週> 月曜日～金曜日：臨地実習 受け持ち患者の看護展開 看護計画の実施・評価</p> <p><第3週> 月曜日～水曜日：臨地実習 受け持ち患者の看護展開 最終カンファレンス 木曜日・金曜日：学内実習 実習の振り返り、個人面接、記録の整理、学びの共有</p> <p>※受け持ち患者の看護計画の発表は、受け持ち患者の手術日より異なる。原則術後1日目の看護を行い、看護計画を立案する。</p> <p>※実習期間中にクリティカルケア実習を行う。 ICUや救急外来において、各1日（または半日）の見学実習を行う。実習施設や実習グループにより日程・実習内容が異なるため、詳細は成人急性看護学実習要項やオリエンテーションで確認する。</p> <p style="text-align: right;">(全員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の状況により、計画の追加・修正が必要となった場合は、教員や実習指導者からの指導をもとに、計画の修正を行う。 毎日、主体的にカンファレンスを行い、受け持ち患者の看護への活用や自己の看護の考え方や視点をひろげる。 毎日の記録は実習終了までに記載し、指導者に提出する。
備考	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	成人慢性看護学実習			単位	3単位
科目名（英語）	Clinical Nursing Practicum in Adult Nursing for Patients with Chronic Illnesses			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3~4年	開講時期	後期～前期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子、笹山万紗代、大場美緒、山口馨子				
授業概要	慢性疾患による健康障害や機能障害を持ちながら、長期にわたってコントロールしながら生活している成人をホリスティック（全人的）に理解し、対象およびその家族の生活の質（QOL）の維持・向上を支援する看護を身に付ける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人体の構造と機能、病態、基礎看護技術、看護過程、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱなど、既習の知識・技術・態度を確実に身につけて実習に臨むことが前提であり、さらに成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ看護や看護技術が必要となる。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える， 南江堂. ・成人看護学 成人看護技術， 南江堂. 				
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻 10 緩和ケア，医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（1）～（11），医学書院. ・NANDA-I看護診断 定義と分類，医学書院. そのほか既習科目のすべてのテキスト 				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が、慢性疾患を有する対象者への看護について教授する			授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	グループ担当教員もしくは科目責任者に直接連絡をください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患や障害を持ちながら生活する対象者とその家族の特徴を説明できる ・対象者の疾患や病態、行われる治療について説明できる。 ・疾病や治療による身体的・心理的・社会的影響と QOL について説明できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期にある対象者の健康問題を明確にし、看護計画の立案、実施、評価ができる。 ・慢性期にある対象者を取り巻く保健医療チームにおける看護師の役割・専門性について説明できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	・保健医療チームの一員としての自覚を持ち、倫理的行動がとれる。
		(DP 6)	・行った看護を振り返り、自己の看護観と課題を明確にできる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	・対象者の看護計画に沿った適切な看護援助を根拠に基づいて選択し、実施できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。			
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）のQOL向上のための個別性を踏まえた目標を達成することができる支援ができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）のQOL向上のための個別性を踏まえた目標を達成することができる支援ができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
教員や実習指導者の助言・指導を受けながら実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）の個別性を踏まえた目標を達成することができる支援ができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）の支援ができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
常時、教員や実習指導者の助言・指導を受けても実習要項の行動目標を達成できない。既習の知識・技術などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）の支援ができない。	

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	20		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10	5			15
思考・判断・表現	(DP3)		40	15			55
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		5				5
	(DP6)		5				5
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					20	20
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方
1 ） 15	<p>詳細については、成人慢性看護学実習要項を参照</p> <p>1.実習期間：3年次後期～4年次前期</p> <p>2.実習時間：臨地実習 8:30～16:30 (15:30～16:30 記録の整理) 学内実習 8:50～17:00</p> <p>*実習期間中に祝祭日がある場合は、実習時間が変更となる。</p> <p>3.実習内容： <第1週></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループに1名の担当教員が実習指導を行う。 ・毎朝、臨床実習指導者および教員に対して行動計画の発表を行い、1日のスケジュールの調整を行う。 ・対象者に対するケアについては、臨床実習指導者の指導の下で実施する。 ・計画実施や、計画以外のケアが必要と判断された場合には、必ず実施前に教員もしくは臨床実習指導者に報告・相談する。

	<p>月曜日：臨地実習 オリエンテーション（臨地にて） 病棟オリエンテーション、受持ち患者情報提示</p> <p>火曜日～金曜日：受け持ち患者の看護展開 ＊受け持ち患者の看護計画立案 発表</p> <p><第2週> 月曜日～金曜日：臨地実習 受け持ち患者の看護展開 看護計画の実施・評価</p> <p><第3週> 月曜日：臨地実習 受け持ち患者の看護展開 最終カンファレンス、まとめ発表</p> <p>火曜日：健康管理センター見学実習 水曜日：緩和ケア病棟見学実習 木曜日、金曜日：学内実習 実習の振り返り、個人面接、記録の整理</p> <p style="text-align: right;">(全員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録に関しては、毎日、教員の指導を受ける。 ・受け持ち患者の状況により、計画の追加・修正が必要となった場合は、教員や実習指導者からの指導をもとに、計画の修正を行う。 ・毎日、主体的にカンファレンスを行い、受け持ち患者の看護への活用や自己の看護の考え方や視点をひろげる。 ・毎日の記録は実習終了までに記載し、指導者に提出する。
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体験学習／調査学習			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年看護学概論			単位	1 単位
科目名（英語）	Introduction to Gerontological Nursing			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵・（雪松和子）				
授業概要	老年期にある人とその家族を多角的に捉え、特徴の理解を深め、健康生活を目指した看護の基礎的知識を学ぶ。また、社会の動向と老年看護の歴史を学び、倫理的側面から老年看護の果たす役割と課題について考察する。地域で生活する高齢者との対話から、生き方、健康生活を送る上での工夫、家族への思い、余暇の過ごし方、生活環境と暮らしぶりから、全人的に理解し、老年期にある人と若者が自ら健康的に老いることについて考察する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生体機能（解剖・生理学）				
テキスト	・老年看護学概論「老いを生きる」を支えるとは 南江堂 （3,200 円）				
参考図書 ・教材等	・その他必要に応じて配布資料				
実務経験を生かした授業	看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する。			授業中の撮影	○
学習相談 ・助言体制	レスポンスカードで受け付け、メールまたは次回授業終了後に回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	老年期にある人とその家族の全人的（身体的、心理・精神的、霊的、社会的側面）にとらえ特徴を述べるができる 老年期にある人とその家族の健康の概念を述べるができる 老年期にある人とその家族は、一生を通じて成熟する存在であることを説明できる 社会の動向と老年看護の歴史を述べるができる
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	老年期にある人とその家族の尊厳ある生活を送るための支援について述べるができる 老年期にある人と若者が自ら健康的に老いることについて気づき、述べるができる
	関心・意欲・態度	(DP 5)	老年期にある人との関わりを振り返り、自己の傾向に気づく
		(DP 6)	高齢者に倫理的態度で接することができる
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
老年期にある人とその家族を多角的に捉え、特徴の理解を深めることができ、十分に自らの考えを記述し言語化できる。（総合評価割合で 90%以上得点する）			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
老年期にある人とその家族を身体的、精神的、社会的側面より捉え、特徴を理解し、助言、指導により考えを記述			

し言語化できる。(総合評価割合で60%以上得点する)
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89 履修目標を達成している。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69 到達目標を達成している。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		20	10		10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	60		10			70
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)			10	10		20
関心・意欲・態度	(DP5)					5	5
	(DP6)					5	5
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	レポートには事前事後学習内容を含む。発表は授業中での個人、またはグループでの発表のことである。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法 ・老いをかたちづくるもの ・老年期の理解 (様)	“老い”をどうとらえるかについて学生への発問により、それぞれの意見を述べる。またその意見にたいして自己の考えを述べる。 講義内容 ①老いと文化 ②老いのとりまく社会環境 ③老いの意味	事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから“老い”を年齢以外に何をもってとらえるのか、考えておく。(DP2) 事後学習：他者の意見交換の中で老いのイメージととらえ方についてレポートする。(DP2・4)

2 3	<p>老年期にある人の理解① 高齢者の身体的特徴と生活への影響 高齢者疑似体験：見る・聴く・触れる、認識する・動く (棟・江上・廣瀬)</p>	<p>高齢者疑似体験装具を用いて、高齢者体験を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内、屋外の歩行 ・立つ、座る ・階段昇降 ・エレベーターの利用 ・トイレの利用 ・スプーンやお箸を用いる ・字や絵を描く ・細かな作業を行う ・触れてみる ・会話をする ・風景を見る 	<p>事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから高齢者の身体的特徴を整理する。(DP2)</p> <p>事後学習：高齢者体験を通して「高齢者の身体的特徴」についてワークシートを完成させ提出する。(DP2・4)</p>
4	<p>老年期にある人の理解② 高齢者のからだを理解する ・生理的老化とその特徴 ・身体的機能評価 (棟)</p>	<p>高齢者のインタビューと高齢者体験から得られた内容から「高齢者の身体的特徴について発表する 講義内容 ①高齢者の生理的老化とメカニズムについて ②高齢者の身体機能における相互関連について ③高齢者のからだの把握方法について</p>	<p>事前学習：高齢者の身体的特徴より加齢による生理的老化について考える。その際に用いられる身体的機能評価尺度についてテキストを基に調べてノートに整理しておく。(DP2)</p> <p>事後学習： 高齢者の身体的特徴と課題についてレポートする。(DP2・4)</p>
5	<p>老年期にある人の理解③ 高齢者の心を理解する ・高齢者の心の状態に影響する要因 ・高齢者の心を理解する方法 (棟)</p>	<p>高齢者のインタビューより「高齢者の心についてグループワークを行い、その特徴や違いを発表する。 講義内容 ①高齢者の心の状態に影響する要因について ②高齢者の心を理解する方法について</p>	<p>事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから高齢者の心理・精神的特徴、霊的特徴を整理しておく。(DP2)</p> <p>事後学習：高齢者の心理・精神的特徴、霊的特徴と課題についてレポートする。(DP2・4)</p>
6	<p>老年期にある人の理解④ 高齢者の社会的特徴と生活への影響 高齢者の立場からかわられること、高齢者にかかわることの意味、影響を理解する (棟)</p>	<p>高齢者のインタビューより「高齢者の立場からのかかわり-かわられることの意味についてグループワークを行い発表する。 講義内容 ①高齢者の関わりの特徴について ②高齢者の関わりをとらえるための方法について</p>	<p>事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから高齢者の社会的特徴を整理しておく。(DP2・4)</p> <p>事後学習：高齢者の社会的特徴と課題についてレポートする。(DP2・4)</p>
7	<p>高齢者の暮らしを理解する ・高齢者の世帯構成 ・高齢者の就業 ・高齢者の経済状況 ・暮らしの多様化</p>	<p>高齢者のインタビューより「高齢者の暮らしについてグループワークを行い、その特徴や課題を発表する。 講義内容 ①高齢者の暮らしの特徴について</p>	<p>事前学習： 高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから高齢者の暮らしに着目する意義について考える。(DP2)</p>

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年看護学		単位	2単位	
科目名（英語）	Gerontological and Geriatric Nursing		授業コード		
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵				
授業概要	老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴を理解し、健康障がいをもつ対象の健康課題をとらえるための基礎的知識を学ぶ。さらに老年期にある人とその家族の課題解決にむけての看護ケアの方法について考察する。また保健・医療・福祉の制度を通して健康支援システムの理解および多職種との連携における看護の役割と機能を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件；老年看護学概論を履修していること 人体の解剖・生理学、病態、加齢による身体的・精神的変化について学修しておくこと				
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 (2,700円)				
参考図書 ・教材等	・老年看護学概論「老いを生きる」を支えるとは 南江堂 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 ・その他必要に応じて配布資料				
実務経験を生かした授業	看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する。			授業中の撮影	○
学習相談 ・助言体制	レスポンスカードで受け付け、メールまたは次回授業終了後に回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の加齢によって生じる心身機能症状が日常生活に及ぼす影響について理解している。 ・老年期の主な疾患や健康障がいについて知識を理解している。 ・保健・医療・福祉チームにおける多職種の専門性を尊重し、超高齢社会における老年看護の役割と機能について理解している。 ・老年期の加齢によって生じる心身機能症状が日常生活に及ぼす影響について理解している。 ・老年期の主な疾患や健康障がいについて知識を理解している。 ・保健・医療・福祉チームにおける多職種の専門性を尊重し、超高齢社会における老年看護の役割と機能について理解している。
	思考・判断・表現	(DP3)	・健康障がいをもった老年期にある人の健康課題をとらえ、老年期にある人とその家族支援について看護援助を考察し、述べるができる
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴とそれに伴う健康障がいについて十分に理解できる。また老年期にある人とその家族の課題解決にむけて多職種連携の在り方や必要な制度について十分理解ができる。（定期試験、小テストで90%以上得点する。）			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴とそれに伴う健康障がいについて理解できる。また老年期にある人とその家族の課題解決にむけて多職種連携の在り方や必要な制度について理解ができる。（定期試験、小テストで60%以上得点する。）	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	20	10				100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	60	10	10				80
思考・判断・表現	(DP3)	10	10					20
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年）90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	高齢者の健康生活とアセスメント（棟）	老年看護概論を想起させ、ヘルスアセスメントの基本としての枠組みについて、Lawton の活動能力の図を用いて生活機能の評価について概説する。高齢者における健康の定義を ICF の概念、	事前学習：老年看護概論を想起し、加齢による身体的、精神的、社会的変化の特徴について十分理解しておく。（DP2） 高齢者における健康の考え方についてテキスト第 4 章高齢者のヘルスアセスメントを熟読し、ア

		高齢者総合機能評価（CGA）を活用した、多角的評価におけるヘルスアセスメントの重要性について理解を深めていく。	セサメントの方法を整理しておく。（DP2） 事後学習：講義で配布された資料も活用して、高齢者のヘルスアセスメントの際に活用する枠組みや、概念の意義について自己学習ノートに整理し、高齢者における健康の定義についてレポートする。（DP2・3）
2	認知症高齢者の病態、診断、治療 (江上)	認知症の特徴を客観的、主観的両側面から学ぶ。 講義内容 ①動向と制度 ②診断基準、原因疾患、中核症状とBPSD ③原因疾患に対する薬物療法	事前学習：テキスト「老年看護学概論 老いを生きるを支えることとは」p259～271、「老年看護病態・疾患論」p135～149を読む。（DP2） 事後学習：認知症の代表的な疾患を1つ選択し、病態や特徴的な症状などを整理し、レポートする。（DP2・3）
3	認知症高齢者の看護 (江上)	加齢と認知症の症状による心身や生活への影響を考え、認知症高齢者の体験世界をイメージし、それに合わせた看護を考える。 講義内容 ①認知症高齢者のアセスメント方法 ②主要な原因疾患と看護 ③アプローチ方法、療法について	事前学習：テキスト「老年看護学概論 老いを生きるを支えることとは」p273～282を読む。（DP2） 事後学習：認知症高齢者の体験世界について、中核症状と、それが心身や生活にどのように影響するか、必要な看護は何かを考えレポートする。（DP2・3）
4	①高齢者の生活機能障がいと看護 ・加齢による摂食・嚥下機能の変化 ・老年病による摂食嚥下障害と栄養障害 ・食生活への支援 (椋)	まず高齢者における食生活の意義について学生への発問により、考えを述べる 講義内容として ①加齢による摂食・嚥下機能の変化について ②老年病として、脳血管疾患、肺炎、認知症、廃用症候群、薬物の影響による摂食・嚥下障害、栄養障害について ③食生活のアセスメントの方法 ④食生活への看護援助について ⑤高齢者の脱水予防について	事前学習：嚥下のメカニズム及び老年期の特徴的な疾患である脳血管疾患、肺炎についての基礎知識を学修しておく。栄養アセスメントの方法について整理する。その上で高齢者における食生活の意義について考える。（DP2・3） 事後学習：摂食・嚥下障害のある高齢者の食生活への看護援助について、食事前、食事中、食後のケアについてレポートする。（DP2・3）
5	②高齢者の生活機能障がいと看護 排泄障害と看護援助 (尿失禁・便失禁、便秘・排尿・排便コントロールと排泄ケア) (椋)	高齢者に多い排泄の問題について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①高齢者の排泄ケアの基本について ②排尿障害(頻尿、尿失禁)、排便障害(便失禁、便秘、下痢)とアセスメントの方法について ③排尿障害と排便障害の看護援助について	事前学習：排泄のメカニズムについて学修しておく。高齢者に多い排泄の問題について何があるのか、またその問題が生じているメカニズムを理解しておく。（DP2） 事後学習：事例での排便困難のある高齢者のアセスメントと看護援助についてレポートする。（DP2・3）

		○講義前に小テストの実施	
6	③高齢者の生活機能障がいと看護 生活リズム(活動と睡眠・休息) (廣瀬)	高齢者の活動と休息のバランスについて学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①高齢者の生活リズムとは ②高齢者に特徴的な睡眠の変調 ③生活リズムのアセスメントについて ④生活リズムを整える看護援助について ○講義前に小テストの実施	事前学習：睡眠と覚醒のメカニズムについて理解しておく。また加齢が睡眠に及ぼす影響及び高齢者の睡眠の特徴について調べ、それが生活にどのような影響を及ぼすのかを考えておく。(DP2・3) 事後学習：昼夜が逆転した高齢者、不眠の高齢者への看護援助についてレポートする。(DP2・3)
7	①身体疾患のある高齢者の看護 脳卒中を患う高齢者の看護 ・急性期の看護 ・回復期の看護 ・維持期の看護 ・リハビリテーション看護 (椋)	加齢による身体的変化と脳血管疾患の関連について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①脳卒中後遺症；片麻痺、失語症、高次脳機能障害が高齢者の生活に及ぼす影響について ②脳卒中の事例を通して、ICF の概念を用いて後遺症を伴う高齢者の社会参加への支援について考察する。グループワークの実施。7 ③回復期、維持期でのリハビリテーション看護の重要性と看護援助について提案する。	事前学習：脳血管疾患(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)の病態生理、症状、診断、治療についてノートに整理し十分に理解しておく。(DP2・3) 事後学習：脳卒中後遺症；片麻痺、失語症、高次脳機能障害がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。(DP2・3)
8	②身体疾患のある高齢者の看護 ・呼吸器系疾患(肺炎、慢性閉塞性肺疾患)をもつ高齢者の看護 ・循環器系疾患(心不全)をもつ高齢者の看護 (椋)	加齢による身体的変化と肺炎、慢性閉塞性疾患及び心不全の関連について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①視聴覚教材により高齢者の循環器系の変化について理解する。 ②呼吸器系疾患の肺炎、慢性閉塞性疾患が生活に及ぼす影響について事例を通して考え、グループワークを実施しアセスメントから看護実践方法を提案につなげる ③心不全が生活に及ぼす影響について事例を通して考え、看護援助につなげる ○講義前に小テストの実施	事前学習：呼吸器系疾患(肺炎、慢性閉塞性肺疾患)、循環器系疾患(心不全)の病態生理、症状、診断、治療についてノートに整理し十分に理解しておく。(DP2・3) 事後学習：慢性閉塞性疾患及び心不全がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。(DP2・3)
9	③身体疾患のある高齢者の看護	加齢による身体的変化と骨折、関節痛、筋力低下の関連について学生への発問	事前学習：骨代謝について理解しておく。大腿骨頸部骨折の病態生理、症状、診断、治療について

	<p>・骨・筋肉の加齢変化と骨折</p> <p>・腰痛、関節痛</p> <p>・転倒予防</p> <p>(棟)</p>	<p>により、考えを述べる</p> <p>講義内容</p> <p>①加齢による骨、関節、筋肉への影響について</p> <p>②腰痛、関節痛が生活に及ぼす影響について</p> <p>③高齢者に多い転倒と骨折について</p> <p>④大腿骨頸部骨折で手術を受けた高齢者の看護について</p>	<p>ノートに整理し十分に理解しておく。(DP2)</p> <p>事後学習：慢性閉塞性疾患及び心不全がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。(DP2・3)</p>
10	<p>①高齢者の健康段階に応じた看護</p> <p>高齢者の急性期看護</p> <p>入院・検査・手術・薬物療法</p> <p>(棟)</p>	<p>高齢者の疾病の特徴について学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容</p> <p>①検査を受ける高齢者の看護</p> <p>②加齢による薬物動態への影響について</p> <p>③薬物動態薬物療法を受ける高齢者の看護</p> <p>④手術を受ける高齢者の看護</p> <p>5 高齢者に起こりやすい合併症について；せん妄、呼吸器合併症</p>	<p>事前学習：薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)について理解しておく。術前・術後の看護援助について調べておく。(DP2・3)</p> <p>事後学習：高齢者の薬物療法における援助として服薬アドヒアランスを促進するための支援について考えをレポートする。</p>
11	<p>高齢者の健康段階に応じた看護</p> <p>寝たきり・廃用症候群の予防と看護援助</p> <p>(棟)</p>	<p>廃用症候群とはどのような症状があるのか、またなぜ高齢者が陥りやすいのかについて学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容</p> <p>①寝たきりの定義と評価スケール、アセスメントツール(障害老人の日常生活自立度、FIM等)活用について</p> <p>②高齢者の廃用症候群に陥りやすいメカニズムと症状について</p> <p>③・廃用症候群を予防するための看護援助について</p> <p>④褥瘡発生のメカニズムと予防について</p> <p>○講義前に小テストの実施</p>	<p>事前学習：廃用症候群とはどのような症状があるのか、そのメカニズムについて理解しておく。(DP2)</p> <p>事後学習：高齢者が長期安静臥床を強いられることで生じる、筋、骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系、皮膚系について整理する。(DP2)</p>
12	<p>高齢者をとり巻く保健・医療・福祉制度</p> <p>(棟)</p>	<p>高齢者の生活を支えるための保健・医療・福祉制度について学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容</p> <p>①日本が直面する高齢者問題について</p> <p>②高齢者福祉制度の変遷</p> <p>③高齢者の医療に関する法律と制度について</p>	<p>事前学習：高齢者の生活を支えるための保健・医療・福祉制度にどのようなものがあるのかを調べておく。介護保険制度の仕組みについて理解しておく。(DP2)</p> <p>事後学習：高齢者の生活を支えるためのフォーマルサービス、インフォーマルサポートについて、居住地域を対象に調べレポートする。(DP2・3)</p>

		<p>④介護保険制度とその活用について</p> <p>⑤認知症支援のための制度について</p>	
13	<p>高齢者と家族の権利擁護と生活・療養を支える仕組み・ケアマネジメント</p> <p>(様)</p>	<p>高齢者とその家族をサポートするためのケアマネジメントの視点について学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容</p> <p>①高齢者虐待の特徴について</p> <p>②権利擁護のための制度創設について</p> <p>③多職種連携による学際的チームアプローチについて</p> <p>④施設ケアプランの作成の視点について</p> <p>○講義前に小テストの実施</p>	<p>事前学習：高齢者とその家族をサポートするためのケアマネジメントの視点について調べておく。(DP2)</p> <p>事後学習：事例を通して施設ケアマネジメントの手法に基づきケアプランを作成する。(DP2・3)</p>
14	<p>終末期看護と看取り支援</p> <p>・老いてなくなることについての理解</p> <p>・尊厳ある看取りにおける看護者の役割</p> <p>・高齢者を看取る家族に対する看護者の役割</p> <p>(廣瀬)</p>	<p>終末期にある高齢者の特徴を理解し、尊厳ある看取りにむけて看護ケアの方法を考える。</p> <p>講義内容</p> <p>①老いと死について</p> <p>②高齢者の死亡の動向について</p> <p>③終末期の概念について</p> <p>④終末期医療と意思決定について</p> <p>⑤尊厳ある看取りにおける看護師の役割について</p> <p>⑥高齢者の家族への支援について</p>	<p>事前学習：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインの概要について調べる。また、アドバンスケアについて調べておく。(DP2)</p> <p>事後学習：あなたが考える高齢者のエンドオブライフについてレポートする。(DP2・3)</p>
15	<p>高齢者家族の特徴と家族支援</p> <p>(様)</p>	<p>家族介護者の介護適応のための看護支援について必要な視点を学生への発問により、考えを述べる</p> <p>講義内容</p> <p>①視聴覚教材により家族介護者の自己実現とはどういうことかについて考える</p> <p>②新聞記事による家族介護者の苦悩と制度の限界について</p> <p>③第7回、第8回の実例を用いて、要介護者とその家族の支援について多職種連携での意義や看護師の役割りを考察する。</p>	<p>事前学習：家族介護者の状況についてニュースや新聞記事より事例を切り抜き、その要因について考えておく。(DP2)</p> <p>事後学習：認知症高齢者を抱える家族介護者の支援において、多職種連携での看護職の役割についてレポートする。(DP2・3)</p>
備考	<p>第1回目の講義で、講義の流れ、事前事後学習方法及び提出方法については詳細を説明する。</p> <p>提出物はe-ラーニングでの場合がある。期日を厳守すること。</p>		

--	--

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
講義回数																				
発見学習／問題解決学習																				
体験学習／調査学習																				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク										○	○								○	
その他（ ）																				
内容																				

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年看護学演習 I		単位	1 単位
科目名（英語）	Practicum in Gerontological Nursing I		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	3 年	開講時期	前期	
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵・（雪松和子）			
授業概要	老年期にある対象者とその家族をホリスティックな視点でとらえ、既習知識を活用して健康生活をアセスメントし健康課題を導き出す。また老年期に多い ADL 機能の低下や認知症高齢者などの事例を通して体験学習を行う。その体験を通して健康課題を解決できる看護実践方法を考察し、基礎的看護技術を学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人体の解剖・生理学、病態、フィジカルアセスメント、基礎看護学、老年看護学の既習の知識が必要である。			
テキスト	・老年看護学技術―最後までその人らしく生きることを支援する―南江堂（3,200 円）			
参考図書 ・教材等	・老年看護学技術 最後まででもその人らしく生きることを支援する 南江堂 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
実務経験を 生かした授業	看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する。	授業中の撮影	×	
学習相談 ・助言体制	レスポンスカードで受け付け、メールまたは次回授業終了後に回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	老年期の主な症状について加齢変化や疾患と関連づけることができ、その症状が生活の質（QOL）に及ぼす影響について理解している。 認知症高齢者の理解を深めるための言語的・非言語的コミュニケーション方法について理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	健康障がいのある高齢者とその家族が望む生活を可能にするための看護援助について自らの考えを述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	老年期にある対象の健康障がいの増悪を予防し、症状緩和のための看護実践方法を提案することができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
老年期にある対象者とその家族をホリスティックな視点でとらえ、既習知識を活用して健康生活をアセスメントし健康課題を導き出すことができ、課題解決に向けての看護実践方法が自ら提案できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
老年期にある対象者とその家族をホリスティックな視点でとらえ、既習知識を活用して健康生活をアセスメントし健康課題を導き出すことができ、課題解決に向けての看護実践方法が助言を基に考え理解することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		

A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40	30	20		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		20	10	10			40
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)		10	10	5		5	30
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)		10	10	5		5	30
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年）90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1 2	・科目のオリエンテーション ・高齢者のヘルスアセスメント (櫛・江上・廣瀬・(雪松))	1. 講義 60 分 高齢者のヘルスアセスメントの視点について、高齢者の健康の定義について理解を深め、フィジカルアセスメントを用いて生活機能を評価する。 ・国際生活機能分類 ICF 及び高齢者総合機能評価 CGA の概念を用いたアセスメントの方法について概説する。 ・Lowton の階層モデルの 7 段階の 4 段階目の「身体的自立」の評価フィジカルアセスメントの活用について概説する。 2. グループワーク 120 分	事前学習 ・加齢による身体機能の変化について既習の知識を基に、高齢者におけるフィジカルアセスメントについて整理しておく。(DP2・4) 事後学習 ・グループで作成したワークシートを基に個人でのフィジカルアセスメントチェックリストを作成する。(DP2・4)

		<p>Lowton の階層モデルの「身体的自立」の評価指標である ADL の枠組みで、高齢者のフィジカルアセスメントを整理し、ワークシートを作成する。</p>	
<p>3 4</p>	<p>・高齢者のフィジカルアセスメント ・フィジカルイグザミネーション (櫛・江上・廣瀬・(雪松))</p>	<p>1. 技術演習 前回で作成したワークシートにそって、身体的自立=ADL,IADL についてグループで看護師役と患者役となり、倫理的配慮のもと技術演習を行い、高齢者にとり安全かつ安楽な方法でのフィジカルイグザミネーションを身に付ける。 2. 発表 ロールプレイングを行い、グループ間でのディスカッションを行い、①技術方法②身体的自立の評価方法の2点についてまとめる。</p>	<p>事前学習 ・身体的自立の評価のためのフィジカルイグザミネーションについて、既習の内容を整理して身に付けておく。(DP2・4) 事後学習 ・グループ間でのディスカッションを基に個人での技術内容と、身体的自立評価方法について整理する。(DP2・4)</p>
<p>5 6</p>	<p>安楽な体位・安全な移動・移送方法 ・ポジショニングについて ・全介助及び右片麻痺の高齢者の体位交換と安楽な体位保持について ・全介助及び右片麻痺の高齢者の安全な車椅子移動と移送について (櫛・江上・廣瀬・(雪松))</p>	<p>1. 講義 ・安楽なポジショニング、シーティングについて ・高齢者の転倒、転落の要因と予防について 2. 技術演習 グループで看護師役と患者役を担当して、以下の内容に沿って実践を行いワークシートを完成させる。 ①高齢者の動きの特徴を踏まえ、褥瘡を予防するための安全で安楽な移動方法とポジショニングについて考える。 ②高齢者の持てる力を活用した移動方法を実践できる。 ③高齢者の転倒・転落のリスクをアセスメントした安全な移動ができる。 ④ボディメカニクスを活用した看護援助を身に付けることができる。</p>	<p>事前学習 ・基礎的看護技術での体位変換、安楽な体位、車椅子の移動、移送の援助について身に付けておく。(DP2・4) ・脳梗塞の後遺症として、右片麻痺、高次脳機能障害を伴う患者の移動動作の援助について理解しておく。(DP2) ・加齢による筋・骨格系の変化について理解しておく。(DP2) 事後学習 ・グループで作成したワークシートをもとに、全介助及び片麻痺のある高齢者の転倒を予防した安全で安楽な援助技術の留意点とポイントを各自でまとめておく。(DP2・4)</p>

7 8	排泄障害のある高齢者の援助 ・尿失禁のある高齢者の看護 ・便秘のある高齢者の看護 ・排便困難のある高齢者の看護 (榎・江上・廣瀬・(雪松))	1. 講義 排泄障害のある高齢者の事例についての理解を深める 2. グループワーク ①尿便失禁のある高齢者の2つの事例について排尿・排便日誌を基にタイプを考慮したアセスメントを行う。 ②それぞれ目標と看護計画の立案 3. 技術演習 ・グループで必要物品の準備 ・看護師役と患者役に分かれ、プライバシーに配慮した安楽な排泄の援助を実践する。 ・尿便失禁予防についても実践を行う。 ・ワークシートを完成させる。	事前学習 ・基礎的看護技術での排尿、排便の援助について身に付けておく。(DP2・4) ・自身の排尿・排便チェックシートを記入し、排泄の課題について考える。(DP2・4・6) ・オムツ内排尿を試みて、高齢者の排泄の援助の意義を理解する。(DP2) ・加齢による排泄機能の変化について理解をしておく。(DP2) ・排尿・排便失禁の病態を理解しておく。(DP2) 事後課題 ・グループで作成したワークシートをもとに、排尿・排便失禁のある高齢者の排泄の援助技術の留意点とポイントを各自でまとめておく。(DP2・4)
9 10	嚥下障害のある高齢者への看護 (榎・江上・廣瀬・(雪松))	1. 講義；特別講師(歯科医師) ・嚥下障害のある高齢者への看護 ・誤嚥予防のための口腔機能の向上について 2. 技術演習 ①機能的口腔ケアの実践 ・歯ブラシ、スポンジブラシでの刺激とマッサージ ・アイスマッサージ ・臥床状態での誤嚥予防について ・頸部聴診法の実際 ②誤嚥予防のポジショニング ・ベッドの傾斜による嚥下の違い ・トロミによる嚥下の違い ③ワークシートの作成	事前学習 ・基礎的看護技術での食事の援助について身に付けておく。(DP2) ・加齢による嚥下機能の変化について理解をしておく。(DP2) 事後学習 ・グループで作成したワークシートをもとに、嚥下障害のある高齢者の誤嚥予防の援助技術の留意点とポイントを各自でまとめておく。(DP2・4)
11 12	高齢者の整容への援助 フットケア (榎・江上・廣瀬・(雪松))	1. 講義;特別講師(フットケア協会理事) ・高齢者の慢性疾患による下肢への影響 ・糖尿病とフットケア ・効果的な足浴について ・巻爪、陥入爪のケアの意義 2. 技術演習 ・高齢者に適した足浴の実践 ・爪の手入れ法	事前学習 ・基礎的看護技術での整容・清潔の援助について身に付けておく。(DP2) ・加齢による皮膚、爪の変化について理解をしておく。(DP2) 事後学習 ・グループで作成したワークシートをもとに、高齢者の整容の援助技術およびフットケアの留意点とポイントを各自でまとめておく。(DP2・4)

13 14	技術テスト (櫛・江上・廣瀬・(雪松))	テスト ・指示された事例にそって、物品の準備、 実践、後片付を行い評価を受ける	事前学習 ・第12回までの技術内容を身に付けておく。 ・各課題ごとのアセスメントの方法について理解 しておく。(DP2・4) 事後学習 ・技術評価を基に、自己のアセスメント内容及び 実践力について振り返りを行う。(DP2・4・6)
15	まとめ (櫛・江上・廣瀬・(雪松))	技術テストのまとめ ・アセスメントについて ・安全・安楽なケアの選択について ・倫理的配慮に基づく高齢者の看護実践 とは	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																			
体験学習／調査学習					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他()																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年看護学演習Ⅱ			単位	1単位
科目名（英語）	Practicum in Gerontological Nursing II			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年	開講時期	前期・後期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵・（雪松和子）				
授業概要	老年看護に関する講義・演習・実習とこれまでの実習における経験の意味を探求し、自らの課題を見いだす。課題を解決するための計画を立案し、課題解決能力を養う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人体の解剖・生理学、病態、フィジカルアセスメント、基礎看護学、老年看護学、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学演習Ⅰの既習の知識が必要である。				
テキスト	・老年看護学概論・老年看護学・老年看護学演習Ⅰで用いたテキスト				
参考図書 ・教材等	・老年看護学技術 最後までもその人らしく生きることを支援する 南江堂 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院				
実務経験を 生かした授業	看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する	授業中の撮影	×		
学習相談 ・助言体制	授業時間内に受付、授業終了後に個別対応を行う。また別途日時を設けて対応をする。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	健康課題が、老年期にある人と家族にもたらす影響について理解する健康課題をもつ老年期にある人と家族の生活史と加齢変化を発達の見点から理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	老年期にある人と家族の個性性と強みを重視した関わりを、看護過程の展開を通して考え、方法が提案できる。
		(DP4)	健康障がいのある高齢者とその家族が望む生活を可能にするための看護援助について自らの考えを述べるができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	実践を通し、看護者としてのあり方を考え、自らの課題を見出すことができる。さらに老年看護学実習Ⅱに臨むために、自らの課題解決への取組ができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	提案した方法を用いて、実践した上で、評価し、提案した方法の修正と工夫をする
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
主体的な学修により既習の知識と関連付けた分析、解釈ができ、老年期を生きる人を全人的に捉えたアセスメントができる。また看護過程を通して老年看護実践の方法について具体的に提案でき、そのための技術習得のため計画的に取組むことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
必要な助言や指導を受け、老年期を生きる人を全人的に捉えたアセスメントの必要性が理解できる。また看護過程を通して老年看護実践の方法について考え、必要な技術習得のための助言を受けることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50	10		40	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			10			5	15
思考・判断・表現	(DP3)			10			10	20
	(DP4)			10	5		5	20
関心・意欲・態度	(DP5)			10			5	15
	(DP6)			10	5		10	25
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						5	5
備考		その他には演習態度、グループワーク参加が含まれる。						

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1	・科目のオリエンテーション ・高齢者のヘルスアセスメント (榎・江上・廣瀬・(雪松))	1. 講義 2. グループワーク ①高齢者のヘルスアセスメントを行うための意図的な情報収集について。 ②高齢者のフィジカルアセスメントについて Lowton の階層モデルの「身体的自立」の評価指標である ADL の枠組みで、高齢者のフィジカルアセスメントを整理し、ワークシートを作成する。 ③フィジカルイグザミネーションが実施できるための技術演習を行う。 ④会場設営を行い、役割担当を決める。	事前学習 ・演習 I をもとに加齢による身体機能の変化について既習の知識を基に、高齢者におけるフィジカルアセスメントについて整理しておく。(DP2・3・4)
2			事後学習 ・グループで作成したワークシートを基に個人での受け持ち高齢者のフィジカルアセスメントを学習ノートに整理する。(DP2・3・4) ・次回の紙上事例について情報をイメージマップに整理し既習の知識と関連付けて健康アセスメ

3 4	・受持ち高齢者のヘルスアセスメントの実際 (棟・江上・廣瀬(雪松))	1. 高齢者のヘルスアセスメントの実施 ①各担当教員から、各チームへ受け持ち高齢者の紹介。1チーム(2~3名)で高齢者1名を受け持ち、実際に意図的な情報収集を行う。 ②地域で生活する高齢者のヘルスアセスメントを適切なCGAの尺度を用いて行い健康課題を見出す。 ③グループで受け持ち高齢者の健康課題を解決するための看護計画を立案する。 ④今後の地域で暮らす生活者としての必要な健康支援について考察する。	ントを行う。健康課題解決のための看護計画を立案する。(DP2・3・4)
5 6	・紙上事例による高齢者のヘルスアセスメント、看護過程の展開 (棟・江上・廣瀬(雪松))	1. グループワーク ①担当の紙上事例について事前課題での個人のイメージマップをグループで共有する。追加修正を行う。 ②イメージマップを用いて健康アセスメントを行い看護計画用紙に記述する。 ③グループで優先順位を考え健康課題を抽出し、看護計画を立案する。 ④看護計画に沿って必要な技術演習を行う。担当教員より適宜助言をもらう。	事前学習 ・紙上事例について情報を整理し既習の知識と関連付けて健康アセスメントを行う。健康課題解決のための看護計画を立案し、それに必要な技術について復習しておく。(DP2・3・4) 事後学習 ・意見交換を基に各自で看護過程の追加・修正を行い紙上事例の全体像と健康アセスメント、看護計画、実施、評価について完成させる。(DP2・3・4)
7 8	・看護計画に基づく、老年看護実践と評価 (棟・江上・廣瀬(雪松))	1. ロールプレイの実施 ①グループで看護倫理を踏まえた看護実践方法を考慮して発表の準備を進める。 ②各グループのロールプレイについて意見交換をおこなう。さらにより良い看護実践に繋ぐために必要な内容を深める。	
備考	2日間にわたっての集中講義(演習)形式となる。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○							
体験学習/調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○							
グループ・ディスカッション/ディベート				○	○	○	○	○	○	○	○							

グループ・ワーク																
その他 ()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	老年看護学実習Ⅰ		単位	1単位	
科目名（英語）	Clinical Nursing Practicum in Gerontological Nursing Ⅰ		授業コード		
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2年	開講時期	前期～後期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵・（雪松和子）				
授業概要	老年期にある人の特徴を理解し、健康生活のサポート・システムを考える能力を養う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	老年看護学概論における老年期にある人の身体的・精神的・社会的な特徴についての知識と、保健医療福祉の法制度についての知識が必要である。				
テキスト	・老年看護学概論「老いを生きる」を支えるとは 南江堂				
参考図書・教材等	水谷信子 他、最新老年看護学 第3版 2018年版、日本看護協会出版会 国民衛生の動向				
実務経験を生かした授業	担当教員、臨床指導者は、認知症を持つ高齢者や老年期に特有の保健医療福祉の法制度について実務経験があり、有資格者（看護師、介護福祉士、ケアマネジャーなど）で構成されている。			授業中の撮影	×
学習相談・助言体制	メールで受け付け、オフィスアワーまたはメールで回答する。実習終了後に個別対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	老年期にある人の身体的・精神的・社会的な特徴を知識と照らし合わせながら理解できる。 老年期にある人の保健医療福祉の法制度、サポート・システムの役割について理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	看護倫理を踏まえた態度に関する課題を明確にできる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	専門職者としての看護倫理を踏まえた態度で接することができる。 グループメンバーと協力し合い、実習場に行き、臨床指導者の力をかりて、実習に臨むことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	老年期にある人との関わりを振り返り、自己の傾向に気づく。 認知症高齢者や地域で生活する高齢者と対話ができる。 実習場の職員に尋ねることができる。
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の実習目標を達成できる。実習での学びをグループで共有し、発表を通して他者に十分に伝えることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け、実習要項の実習目標を達成できる。 実習での学びをグループで共有し、指導のもと他者に伝えることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	30		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		20	10			30
思考・判断・表現	(DP3)		15				15
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		10	10		10	30
	(DP6)						
技能	(DP7)		5	10		10	25
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	「レポート」の中に演習・実習記録、「その他」の中に演習・実習の態度を含む。						

IV. 授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方
	詳細は老年看護学実習Ⅰ要項を参照	
1	1. 学内オリエンテーション 2. 施設別オリエンテーション 3. 担当教員：榎、江上、廣瀬、（雪松）	1. 実習要項の内容に沿ってオリエンテーションを実施（実習の予定の確認、実習に関する諸注意、情報の取り扱いについての説明、感染症対策について、グループリーダーの決定と連絡網の作成） 2. 実習日時、交通手段、各施設の特徴などのグループでの確認
2	臨地実習（認知症高齢者 介護施設） 時間 9:00～17:00（施設により異なる） * 担当教員はラウンドする	・ 施設オリエンテーション、施設内案内 ・ 受け持ち利用者の紹介と決定 ・ 受け持ち利用者の生活プログラムに合わせて対話を中心に関わる
3	臨地実習（認知症高齢者 介護施設） 時間 9:00～17:00（施設により異なる） * 担当教員はラウンドする	・ 受け持ち利用者の生活プログラムに合わせて対話を中心に関わる ・ カンファレンス（対話を通して良かった点や困った点を出し合い、どのようにすれば上手くコミュニケーションが図れるのか等を検討する）

4	臨地実習（地域包括支援センター 医療連携室 居宅介護支援事業所など） 時間 9:00～17:00（施設により異なる） ＊担当教員はラウンドする	<ul style="list-style-type: none"> 施設オリエンテーション、施設内案内 施設ごとのプログラムに合わせて行動する（高齢者と接する機会を見つけて積極的に話を伺うこと） カンファレンス（疑問、学び、各自が関わった高齢者の情報やアセスメントを共有する）
5	臨地実習（地域包括支援センター 医療連携室 居宅介護支援事業所など） 時間 9:00～17:00（施設により異なる） ＊担当教員はラウンドする	<ul style="list-style-type: none"> 施設ごとのプログラムに合わせて行動する（高齢者と接する機会を見つけて積極的に話を伺うこと） カンファレンス（疑問、学び、各自が関わった高齢者の情報やアセスメントを共有する）
6	学びの発表会 12:30～17:40 担当教員：椋、江上、廣瀬、（雪松）	<ul style="list-style-type: none"> 目的：学生、教員が老年看護学実習Ⅰの学びを共有する場とする 発表準備（会場設営、司会や発表者などグループでの役割の決定） 各実習施設での学びの発表、意見交換、教員による講評 実習記録の提出についての説明と提出
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
講義回数																		
発見学習／問題解決学習					○	○	○	○	○									
体験学習／調査学習					○	○	○	○	○									
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名 (日本語)	老年看護学実習 II			単位	3 単位
科目名 (英語)	Clinical Nursing Practicum in Gerontological and Geriatric Nursing II			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4 年	開講時期	後期～前期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵・（雪松和子）				
授業概要	健康課題を持つ老年期にある人と共に生きる家族の特徴を理解し、健康生活を支援するための基礎的な看護実践能力を養う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	履修条件：老年看護学実習 I、老年看護学演習 II を履修していること。 人体の構造と機能、病態、基礎看護技術、看護過程、それまでのすべての実習など、既習の知識、技術、態度を身につけて実習に臨むことが前提である。老年看護学実習 I、老年看護学演習 II を履修していること。				
テキスト	老年看護学概論、老年看護学、老年看護学演習 I の各テキスト				
参考図書・教材等	系統看護学講座 専門分野 II 老年看護 病態・疾患論 医学書院など、既習のすべての科目のテキスト * その他、必要に応じて紹介する				
実務経験を生かした授業	看護師として臨床経験 5 年以上の教員が担当する。			授業中の撮影	×
学習相談・助言体制	メールで受け付け、オフィスアワーまたはメールで回答する。実習中、終了後に個別対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	対象者の症状について加齢変化や疾患と関連付け、その症状が生活の及ぼす影響について理解し全体像を記述できる。 看護職と他職種との協働を学び、看護の役割について理解し、記述できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	老年期にある人や、共に生きる家族の健康課題を身体的・心理的・社会的側面から統合的に捉え、対処していくための看護が選択できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	老年期にある人や、共に生きる家族に対する、自分の傾向・態度に気づき、ケアリング関係を構築するための態度を示すことができる。
		(DP 6)	老年期にある人や、共に生きる家族を支援するサポート・システムを知り、さらに健康生活を目指した、実現可能な支援について考え提案することができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	ケアリング関係を基盤に、健康課題をもつ老年期にある人とその家族の生活の質 (QOL) を考えた、安全で安楽な看護が実践できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の実習目標を達成できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
常時、教員や実習指導者の助言・指導を受けつつ実習要項の実習目標を達成できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

	主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の実習目標を達成できる。
A：80～89	履修目標を達成している。 必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の実習目標を達成できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 教員や実習指導者の助言・指導を受けながら実習要項の実習目標を達成できる。
C：60～69	到達目標を達成している。 常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け実習要項の実習目標を達成できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 常時、教員や実習指導者の助言・指導を受けても実習目標を達成できない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50		10		40	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		15		5			20
思考・判断・表現	(DP3)		15		5		10	30
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)		10				5	15
	(DP6)		10				5	15
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						20	20
備考	「レポート」の中に実習に関連するすべての記録、「その他」の中に実習態度を含む。							

Ⅳ. 授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方
	詳細は老年看護学実習Ⅱ要項を参照 実習時間：臨地実習 8:30～16:30 （ただし実習施設で若干の違いがある） 学内実習 8:50～17:40 担当教員：椋、江上、廣瀬、（雪松）	
実習前	領域オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員紹介 ・ 実習要項の説明 ・ 「実習のしおり」の確認（情報の取り扱い、感染症対策、自動車許可願い） ・ 「学びのカルテ」の活用について ・ グループリーダーとサブリーダーの決定、連絡網の作成等
	施設別オリエンテーション（各実習施設担当教員）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録の書き方の説明

体験学習／調査学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）															
内容															

I. 科目情報

科目名（日本語）	小児看護学概論		単位	1 単位	
科目名（英語）	Introduction to Pediatric Nursing		授業コード		
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	田中美樹 吉川未桜				
授業概要	生涯発達の視点から小児期について概説する。小児各期の成長発達を理解するために形態的・機能的発達、心理社会的発達および、小児と家族を取り巻く社会や状況を概説する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	① 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版 ② 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学②小児の疾患と看護 メディカ出版 ③ 各回の講義内で別途資料を配布する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、小児各期の成長発達および支援について教授する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	質問等はレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答する。 研究室へ相談に来られる際は必ずアポイントを取ってください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	<ul style="list-style-type: none"> 小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）および発達障害について具体的に述べるができる。 子どもを取り巻く社会環境（法律・施策・育児環境）について理解することができる 小児看護における家族の位置づけについて述べるができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	<ul style="list-style-type: none"> 小児に関する専門用語について、アセスメントを加えながら、調べ記述することができる。 幼児期、乳児期、学童期の子どもの成長発達に関する事例学習について、文献を活用し具体的に記述できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）および子どもと家族を取り巻く社会環境（法律・施策・育児環境）について理解することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）について理解することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）および子どもと家族を取り巻く社会環境（法律・施策・育児環境）について十分に理解することができる（定期試験およびレポートの総合評価で90%以上獲得）。さらに、レポート内容と講義を結びつけて、具体的かつ他者に分かりやすく記述することができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）および子どもと家族を取り巻く社会環境（法律・施策・育児環境）について十分に理解することができる（定期試験およびレポートの総合評価で80%以上獲得）。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）について理解することができる（定期試験およびレポートの総合評価で70%以上獲得）。
C：60～69 到達目標を達成している。
小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）について理解することができる（定期試験およびレポートの総合評価で60%以上獲得）。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	15	15				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	70	15	5			90
思考・判断・表現	(DP3)		10				10
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	子どもとは・社会の中の子どもと家族（田中） 1. 小児看護の目的・役割および小児看護の対象である子どもと家族の特徴 2. 子どもと家族を取り巻く社会の変遷や統計および現代社会の中の問題 3. 小児看護で用いられる理論	講義 1. 小児看護の目的・役割、理論 2. 小児看護の対象である子どもの特徴、3. 子どもにとっての家族の意味 4. 子どもと家族に関する社会の変遷や法律および諸統計、 5. 現代社会の中の子どもと家族の諸問題について動画（事例）などを用い	事前学習： テキスト①第1章を読む。 事後学習： 講義内容「現代社会の中の子どもと家族の諸問題」について新聞等を読み1事例を選び、その内容について自分の考えをまとめる。

		学生同士考える時間をつくり講義する。	
2	小児の成長発達と栄養（田中） 1. 子どもの成長・発達の基本原則および影響因子 2. 成長・発達の評価 3. 子どもの栄養	ディスカッション 「現代社会の中の子どもと家族の諸問題」について学生同士で考える。 講義 1. 成長・発達とは、 2. 成長・発達の進み方（一般的原則）、 3. 成長・発達に影響する因子 4. 成長・発達の評価について 5. 子どもの成長・発達にとっての栄養の意義について動画や第1回目講義の事後課題を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習： テキスト①第2章の1、2を読む。 事後学習： 第1回目講義の事後課題で選んだ事例が子どもの成長・発達にどのように影響するか講義内容をふまえて自分の考えをまとめる。
3	乳児期の子どもの成長発達（吉川） 1. 形態的・身体的特徴 2. 運動機能的発達 3. 知的・社会的発達	講義 乳児期の子どもの形態的・身体的、運動機能、知的・コミュニケーション機能、社会的機能それぞれについて、動画（事例）などを用い講義する。	事前学習： 1. テキスト①第2章の3「乳児期」を読む。 2. 乳児の形態的・身体的、運動機能、知的・社会的機能の発達それぞれについて調べ課題を行う。
4	乳児期の子どもと家族の看護（吉川） 1. 日常生活の世話 2. 育児支援 3. 遊びの支援 4. 事故防止・乳幼児突然死症候群	講義 1. 乳児の日常生活（排泄、食事、衣服、睡眠、環境等）の世話および発達を考慮した遊びの支援 2. 現代社会の育児の問題や支援 3. 乳児の成長・発達を考慮した事故防止および乳幼児突然死症候群の特徴や予防について動画（事例）などを用い学生同士考える時間をつくり講義する。 ディスカッション 調べてきた事例課題について学生同士で考える。	事後学習： 課題と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追記する。 小テストを各自行う。
5	幼児期の子どもの成長発達（田中） 1. 形態的・身体的特徴 2. 運動機能的発達 3. 知的・社会的発達	講義 幼児期の子どもの形態的・身体的、運動機能、知的・コミュニケーション機能、社会的機能それぞれについて、動画（事例）などを用い講義する。	事前学習 1. テキスト①第2章「幼児期」を読む。 2. 幼児の形態的・身体的、運動機能、知的・社会的機能の発達それぞれについて調べ課題を行う。
6	幼児期の子どもと家族の看護（田中） 1. 日常生活の自立と育児支援 2. 遊びと運動の支援 3. 事故防止 子どもの虐待	講義 1. 幼児の日常生活（排泄、食事、衣服、睡眠、環境等）の自立への支援と世話および発達を考慮した遊びと運動の支援 2. 現代社会の育児の問題と育児支援 3. 乳児の成長・発達を考慮した事故防止および子どもの虐待について動画（事例）などを用い学生同士考える時間をつくり講義する。 ディスカッション	事後学習： 課題と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追記する。 小テストを各自行う。

I. 科目情報

科目名（日本語）	小児看護学	単位	2単位
科目名（英語）	Pediatric Nursing	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	2年次	開講時期	後期
担当教員	田中美樹 吉川未桜		
授業概要	小児看護学概論の内容をふまえ、健康問題および障がいをもつ小児の特徴、健康問題をもつ小児と家族の看護、症状を示す小児の看護、検査・処置・手術を受ける小児の看護などを解説する。また、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療を概説し、病態・経過にそった看護を解説する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生体機能看護学で修得した解剖生理学、小児看護学概論で学習した子どもの成長発達段階		
テキスト	① 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版 ② 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学②小児の疾患と看護 メディカ出版 ③ 各回の講義内で別途資料を配布する。		
参考図書・教材等			
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、小児各期の成長発達および支援について教授する。	授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	質問等はレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答する。 研究室へ相談に来られる際は必ずアポイントを取ってください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	<ul style="list-style-type: none"> 健康問題をもつ小児について発達の特徴と関連させて説明できる。 小児期の主要な疾患の病態・経過別の看護をエビデンスに基づいて説明できる。 小児の検査・処置・手術における看護師の役割について説明できる。 小児の入院・外来通院・在宅療養時における看護師の役割について説明できる
	思考・判断・表現	(DP3)	<ul style="list-style-type: none"> 事例に示された小児期の主要な疾患の病態・症状、検査・診断、治療について、文献を活用し具体的に記述できる。 小児期によくみられる症状のアセスメントと必要な看護ケアについて説明できる。 小児の健康問題が家族に与える影響と支援について説明できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
健康問題もつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解することができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について理解することができる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	健康問題もつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について十分に理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて、具体的に分かりやすく記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で90%以上獲得）。
A：80～89	履修目標を達成している。
	健康問題もつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について十分に理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて、具体的に記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で80%以上獲得）。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について十分に理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で70%以上獲得）。
C：60～69	到達目標を達成している。
	小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護についてある程度理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で60%以上獲得）。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護についてある程度理解することができていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	70	20	5			95
思考・判断・表現	(DP3)		5				5
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	健康障害や入院がもつ子どもと家族におよぼす影響／外来における子どもと家族の看護（田中）	講義： 1. 発達段階別の病気に対する子どもの受け止めと理解について	事前学習 テキスト①第3章－1，7を読む。

		<p>2. 健康障害が子どもと家族（きょうだい含む）におよぼす影響について</p> <p>3. 入院中の子どもと家族の看護について</p> <p>4. 小児医療における外来の役割と看護について</p> <p>動画（事例）などを用い学生同士で意見を出し合い考える時間をつくり講義する。</p>	<p>事後学習</p> <p>動画（事例）の健康障害が子どもと家族におよぼす影響おとび対応について、自分の考えをまとめる。</p>
2	検査や処置を受ける子どもと家族の看護（田中）	<p>グループワーク：</p> <p>1 回目の事後学習「健康障害が子どもと家族におよぼす影響」について学生同士で意見を出し合い考える。</p> <p>講義：</p> <p>1. 検査・処置を受ける子どもの思い・体験について</p> <p>2. プリパレーションの概念について動画を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。</p>	<p>事前学習</p> <p>テキスト①第3章-5を読む。</p> <p>事後学習</p> <p>検査・処置が子どもにおよぼす影響について、自分の意見をまとめる。</p>
3	子どもの予防接種（田中）	<p>講義：</p> <p>1. 予防接種法、予防接種の目的・スケジュールについて</p> <p>2. 抗体ができる仕組み</p> <p>3. VPD について動画を見る</p> <p>発見学習：</p> <p>「私の健康履歴」の自身の抗体価検査結果についてアセスメントする。</p>	<p>事前学習</p> <p>テキスト①第2章 p107～112、テキスト②第5章 p96～115を読む。</p> <p>「私の健康履歴」をまとめ、抗体価検査結果に目を通しておく。</p> <p>事後学習</p> <p>講義内容をふまえ、自分自身の予防接種歴、抗体値（検査結果）に興味をもち見直し確認する。</p> <p>講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、小テストを受ける。</p>
4	小児がんの子どもと家族への看護/終末期にある子どもと家族への看護（吉川）	<p>講義：</p> <p>1. 小児がんの特徴</p> <p>2. 急性骨髄性白血病の病態、検査、治療（副作用含む）・看護</p> <p>3. 小児がんの子どもと家族の思いなどについて動画や事例を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。</p> <p>4. 終末期の子どもと家族への支援について</p>	<p>事前学習</p> <p>テキスト②第10章 p200～211、テキスト①第3章-4を読む。</p> <p>事例課題を行い提出する。</p> <p>事後学習</p> <p>テキスト①第4章-5事例を読む。</p> <p>終末期の子どもと家族への関りについて、自分の意見をまとめる。</p>
5	手術を受ける子どもと家族への看護/痛みのある子どもと家族への看護（田中）	<p>講義：</p> <p>1. 手術を受ける子どもの特徴</p> <p>2. 子どもへの手術の説明と同意</p> <p>3. 手術前、直後、回復期の子どもの特徴と看護</p> <p>4. 子どもの痛みの特徴と対応について動画や事例を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。</p>	<p>事前学習</p> <p>テキスト①第3章-6、第4章-5事例を読む。</p> <p>事後学習</p> <p>講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習する。</p>

		グループワーク： 事例について学生同士で意見を出し合い考える。	
6	集中治療を受けている子どもと家族への看護（先天性心疾患） （田中）	講義： 1. 心臓の解剖整理 2. 先天性心疾患の特徴 3. 心室中隔欠損症、ファロー四徴症の病態生理 4. 先天性心疾患における心不全 5. 内服薬、酸素投与の根拠と看護 5. 先天性心疾患の子どもと家族の看護について事例等を交えて講義する。	事前学習 テキスト①第4章-1、②第7章を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、 <u>小テスト</u> を受ける。
7	急性期にある子どもと家族の看護①（気管支炎・肺炎）（吉川）	講義： 子ども急性期疾患（気管支炎・肺炎）の看護について、事前学習の内容をふまえ、動画等を用い、学生同士で考える時間をつくり講義する。	事前学習 テキスト②第6章を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習し、 <u>小テスト</u> を受ける。
8	先天的な健康問題をもつ子どもと家族への看護/在宅における子どもと家族の看護（田中）	講義： 1. 障害のある子どもと家族の看護および麻痺症状を生じる疾患について、事例を使用しながら講義する。 2. 在宅療養に移行するまでの支援 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護について動画を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習 テキスト①第3章-8、第4章-3、4を読む。 <u>事例課題</u> を行い提出する。 事後学習 第4章-3を再読し、在宅療養する子どものきょうだいに対する関わりについて自分の意見をまとめる。
9	子どもによくみられる疾患① （田中医師）	講義： 1. 川崎病、 2. 呼吸器疾患、 3. 消化器疾患（腸重積など）、 4. IgA 血管炎などについて事例や看護師国家試験問題等を提示しながら講義する。	事前学習 テキスト②第4章-7、8、第6章-4、第9章-4、第10章-2、第12章-3、7を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み復習し、12回目講義後の小テストに取り組む。
10	子どもによくみられる疾患② （田中医師）	講義： 1. 免疫のシステムとアレルギー疾患（気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎）、 2. 1型糖尿病、 3. ネフローゼ症候群などについて事例や看護師国家試験問題等を提示しながら講義する。	事前学習 テキスト②第3章-3、第4章-7、8、第6章-4、第8章-1、2、第9章-4、第10章-2、第12章-3、7を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み復習し、12回目講義後の小テストに取り組む。

I. 科目情報

科目名（日本語）	小児看護学演習 I		単位	1 単位	
科目名（英語）	Practicum in Pediatric Nursing I		授業コード		
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	田中美樹 吉川未桜				
授業概要	様々な状況にある子どもと家族に対して、小児看護が果たす役割について学ぶ。また、小児看護技術の特徴（処置を受ける子どもへの説明と同意や家族支援などを含む）を理解し、様々な状況に応じた看護技術の演習を行う。さらに、小児期特有の疾患の事例をもとに看護過程を展開する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	基礎看護技術など既習の知識や看護技術 小児看護学概論、小児看護学で学んだ小児看護の知識				
テキスト	① 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版 ② 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学②小児の疾患と看護 メディカ出版 ③ 各回の講義内で別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	小児看護学概論・小児看護学の配布資料				
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、子どもの成長発達および状況を考慮した看護技術を教授する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	質問等はレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答します。 授業中・後に直接相談を受け付けますが、メールでも対応します。 研究室へ相談に来られる際は必ずアポイントを取ってください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	・小児に必要な看護技術をエビデンスに基づいて説明できる。 ・子どもの健康状態を把握し、看護過程の思考プロセスを概括することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	・疾患だけでなく、子どもと家族のおかれている状況を理解でき、子どもと家族に合った援助をグループ内で話し合い述べるができる。 ・事例をもとに、小児と家族の健康レベルに応じたアセスメントを述べるができる。
		(DP 4)	他グループの発表に対して適切な評価ができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	子どもと家族の最善の利益を守るための方法を考えることができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	発達段階および健康段階に応じた子どもの生活援助が実践できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
事前課題を十分に勉強して演習に臨み、主体的かつ子どもと家族を尊重した態度でコミュニケーションをとりながら、小児看護技術が実践できる。また、事例の子どもの病態や発達段階および家族の状況等を十分にアセスメントしたうえで、個別性を考慮した看護問題の抽出・統合アセスメントができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
事前課題を勉強して演習に臨み、子どもと家族を尊重した態度でコミュニケーションをとりながら、小児看護技術が実践できる。また、事例の子どもの病態や発達段階をアセスメントしたうえで、看護問題の抽出・統合アセスメントができる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
既習の知識・文献を活用し事前課題を十分に勉強して演習に臨み、主体的かつ子どもと家族を尊重した態度でコミュニケーションをとりながら、小児看護技術が実践できる。また、事例の子どもの病態や発達段階および家族の状況等を十分にアセスメントしたうえで、個性を考慮した看護問題の抽出・統合アセスメントができる（定期試験およびレポート・演習の総合評価で90%以上獲得）。	
A：80～89	履修目標を達成している。
既習の知識・文献を活用し事前課題を勉強して演習に臨み、主体的かつ子どもと家族を尊重した態度でコミュニケーションをとりながら、小児看護技術が実践できる。また、事例の子どもの病態や発達段階および家族の状況等をアセスメントしたうえで、個性を考慮した看護問題の抽出・統合アセスメントができる（定期試験およびレポート・演習の総合評価で80%以上獲得）。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
事前課題を勉強して演習に臨み、子どもと家族を尊重した態度でコミュニケーションをとりながら、小児看護技術に取り組むことができる。また、事例の子どもの病態や発達段階をアセスメントしたうえで、看護問題の抽出・統合アセスメントができる（定期試験およびレポート・演習の総合評価で70%以上獲得）。	
C：60～69	到達目標を達成している。
事前課題を勉強して演習に臨み、子どもとコミュニケーションをとりながら、小児看護技術に取り組むことができる。また、事例の子どもの情報を整理したうえで、看護問題の抽出・統合アセスメントができる（定期試験およびレポート・演習の総合評価で70%以上獲得）。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
事前学習を行っていない。さらに、事例の情報の整理、アセスメントおよび看護問題の抽出。統合アセスメントができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		20	20		10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	50		10				60
思考・判断・表現	(DP3)			10	10			20
	(DP4)				5		5	10
関心・意欲・態度	(DP5)				5		5	10
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	コースガイダンス 子どもの安全と事故予防 (田中)	コースガイダンス：科目の概要や課題について説明する。	事前学習 担当予定の「赤ちゃん先生」の発達段階と起こりやすい事故について調べる。
2		講義：発達段階による子どもが起こしやすい事故と予防および安全な環	事後学習

		<p>境保持について動画や事例を提示しながら説明する。</p> <p>グループワーク：第6、7回目の演習「赤ちゃん先生」で担当する0～3歳の子どもの事故予防と安全についてグループワークし発表する。グループワークの内容を記述する。</p>	<p>グループワークの内容を講義内容にふまえて配布用紙にまとめる。</p>
3	小児の看護過程	<p>講義：小児看護に必要な情報収集およびアセスメントについて、事例を活用しながら説明する。</p> <p>グループワーク：事例を用い自己学習した内容および情報シートをもとにグループ内で討議し情報の整理をする。討議した内容を記述する。次に、整理した情報をもとに、グループ内で討議しながら、アセスメント（関連図作成）する。</p>	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E ラーニングの2事例を各自で読み、自己学習シートを用いて用語を調べ学習する（調べる過程で出た分からない用語も学習する）。 ・ 情報シートA・Bを各自で記載する。 ・ 肺炎と先天性心疾患のEラーニングの課題を自己学習する。 ・ <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例のEラーニング課題を自己採点し復習する。 ・ 自己学習シートを追記し、再学習する。
4	<p>1. 小児看護に必要な情報収集</p> <p>2. アセスメント（関連図作成）（田中）</p>		
5	<p>プレパレーション（田中）</p>	<p>講義：プリパレーションの概念・基本について説明する。</p> <p>グループワーク：事例をもとに、検査を・処置を受ける子どもと家族の最善の利益を守るための方法（プレパレーション）を考え発表する。</p>	<p>事前学習</p> <p>子どもの発達段階と小児看護学「検査・処置をうける子どもと家族の看護」を復習する。</p> <p>事後学習</p> <p>グループワークの内容をまとめる（授業内レポート）。</p>
6	赤ちゃん先生（子どもの日常生活の援助・子どもと家族とのコミュニケーション）（吉川）	<p>グループワーク：事前学習してきた赤ちゃん先生の発達段階・日常生活援助について、グループ内で協議する。</p> <p>演習：0～3歳の子どもと母親と実際に関わることによって、コミュニケーションや生活援助技術を学ぶ。</p>	<p>事前学習</p> <p>赤ちゃん先生の発達段階・日常生活援助について調べ、配布用紙に記載する（第1、2回目の講義で使用した用紙と同じ）。</p> <p>事後学習</p> <p>赤ちゃん先生との関わりを通しての学びを記述する。</p>
7			
8	小児の看護過程	<p>グループワーク：第3、4回目の講義に引き続き、事例を用いグループ内で討議しながら、アセスメント（関連図作成）し、看護問題を抽出する。アセスメント内容と看護問題を各グループから発表しディスカッションする。</p>	<p>事前学習</p> <p>情報シートA/B・自己学習シートを見直し、前回までの復習を行う。</p> <p>また、事例の疾患の関連図に関する図書を借り読んでおく。</p>
9	<p>1. 統合アセスメント</p> <p>2. 看護問題の抽出（田中）</p>		

I. 科目情報

科目名（日本語）	小児看護学演習 II			単位	1単位
科目名（英語）	Practicum in Pediatric Nursing II			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年次	開講時期	後期～前期		
担当教員	田中美樹 吉川未桜				
授業概要	事例をもとに子どもの発達段階や状況をアセスメントした上で、優先順位をふまえた看護技術の演習を行う。さらに、子どもの権利を尊重した看護について理解を深めることができる。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	基礎看護技術など既習の知識や看護技術 小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習Ⅰで学んだ小児看護と看護技術				
テキスト	各回の講義内で別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	① 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版 ② 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学②小児の疾患と看護 メディカ出版 ③ 小児看護学概論・小児看護学・小児看護学演習Ⅰの配布資料				
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、子どもの成長発達および状況を考慮した看護技術を教授する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	授業中・後に直接相談を受け付けますが、メールでも対応します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	既習の知識・文献を活用し、事前課題を記述することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	事例の子どもと家族の健康レベルに応じアセスメントに基づき、行動目標・計画を記述できる。
		(DP 4)	グループメンバーの意見を尊重した議論を行うことができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	子どもの看護技術について根拠を探求しながら実践できる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	・アセスメントに基づき、子どもの発達段階や状況にあった看護技術が実施できる。 ・倫理的配慮を意識し、実際の場面をイメージしながら演習することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
事例をもとに子どもの病態や発達段階および家族の状況などをアセスメントした上で、個別性を考慮した行動目標・計画を立案し、優先順位をふまえた看護技術の実践を行う。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
事例をもとに子どもの病態や発達段階をアセスメントしたうえで、日々の行動目標・計画を立案し、看護技術の実践を行う。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
既習の知識・文献を活用し事前課題を十分に勉強して演習に臨み、主体的かつ実際の場面をイメージしながら、小児の看護技術が実践できる。また、事例の子どもとの病態や発達段階および家族の状況などを十分にアセスメントしたうえで、個別性を考			

慮した日々の行動目標・計画の立案ができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
既習の知識・文献を活用し事前課題を勉強して演習に臨み、実際の場面をイメージしながら、小児の看護技術が実践できる。また、事例の子どもとの病態や発達段階を十分にアセスメントしたうえで、個別性を考慮した日々の行動目標・計画の立案ができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
事前課題を勉強して演習に臨み、実際の場面をイメージしながら小児の看護技術が実施できる。また、事例の子どもとの病態や発達段階をアセスメントしたうえで、日々の行動目標・計画の立案ができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
事前課題を勉強して演習に臨み、小児の看護技術に取り組むことができる。また、事例の子どもとの病態や発達段階をアセスメントしたうえで、日々の行動目標・計画の立案ができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
事前課題を行っていない。事例の子どもとの病態や発達段階をアセスメントができず、看護技術を実施できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		25	5	5		65	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		25	5			30
思考・判断・表現	(DP3)					5	5
	(DP4)			5			5
関心・意欲・態度	(DP5)					10	10
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					50	50
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	コースガイダンス 子どもの安全管理 (田中)	講義： 1. 小児看護学演習Ⅱに関するコースガイダンス 2. 子どもの事故・安全管理について ディスカッション：日常生活や小児医療・看護の場面における子どもの安全管理について動画(事例)などを用い学生同士ディスカッションを行う。	事前学習 1. 子どもの権利条約を読む。 2. Eラーニング(検査・処置に必要な小児看護技術)内の課題について教科書などで学習を用いて学習する。 3. 子どもの成長発達について復習する。 4. 小児看護学演習Ⅰの2事例を復習する。
2	医療現場における子どもの権利・倫理的配慮 (外部講師)	講義： 1. 子どもの権利について 2. 病院で治療を受ける子どもの倫理	事後学習

		<p>的問題や配慮について、動画や実際に起こった事例を用い説明する。</p> <p>ディスカッション：小児医療・看護の倫理的課題について動画（事例）などを用い学生同士ディスカッションを行う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児医療・看護の場面における子どもの安全管理について考察する（授業内レポート）。 2. Eラーニング課題を自己採点し、演習内容と照らし合わせて復習する。 3. 事例の行動目標・計画をまとめる（授業内レポート）。 4. 演習内で行った技術の練習を行う。 5. 各自小テスト・技術テスト行う。
3	<p>子どもの言語発達と絵本の読み聞かせ（外部講師）</p>	<p>講義：子どもの言葉・認知発達をふまえ、発達段階にあった絵本の選択や、環境調整および読み聞かせの方法について、学生と意見交換をしながら講義する。</p> <p>演習：子どもに理解できる自己紹介や読み聞かせの実践を行う。</p>	
4	<p>小児看護学実習における毎日の行動目標・計画立案の演習（田中）</p>	<p>講義：子どもの発達段階・状況および看護上の問題にそった日々の行動目標・計画の立案について、事例を提示しながら講義する。</p> <p>グループワーク：講義内容をもとに事例の行動目標・計画をグループ内でディスカッションしながら記述し発表する。</p>	
5	<p>小児看護技術①（田中・吉川） 酸素投与・吸入・吸引</p>	<p>講義：小児の酸素投与、吸入・吸引（固定・カテの選択・挿入長さ・吸引圧・時間などの）を動画（事例）やモデル人形などを用い説明する。</p> <p>演習：説明内容にそって各グループで看護技術を実践する。</p>	
6	<p>小児看護技術②（田中・吉川） 輸液管理・採血・採尿</p>	<p>講義：小児の輸液管理、採血および固定方法、採尿方法を動画（事例）やモデル人形などを用い説明する。</p> <p>演習：説明内容にそって各グループで看護技術を実践する。</p>	
7	<p>小児看護技術③（田中・吉川） 栄養・経口与薬</p>	<p>講義：小児の栄養（授乳・離乳食・経管栄養など）、経口与薬を動画（事例）やモデル人形などを用い説明する。</p> <p>演習：説明内容にそって各グループで看護技術を実践する。</p>	
8	<p>小児看護技術④（田中・吉川） ベッド柵・子どもの固定・坐薬・浣腸・殿部浴</p>	<p>講義：小児の安全管理のひとつであるベッド柵の使用方法、検査時等の子どもの固定方法、坐薬・浣腸・殿部浴を動画（事例）やモデル人形などを用い説明する。</p> <p>演習：説明内容にそって各グループで看護技術を実践する。</p>	
備考	<p>履修の順番が変更になることもある。</p>		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習				○	○		○											
体験学習／調査学習						○		○	○	○	○							
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○			○											
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	小児看護学実習		単位	2単位	
科目名（英語）	Clinical Nursing Practicum in Pediatric Nursing		授業コード		
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3～4年次	開講時期	後期～前期		
担当教員	田中美樹 吉川未桜				
授業概要	あらゆる健康レベルの子どもと家族を総合的に理解し、日常生活や状況に応じて、子どもと家族を尊重した看護を実践できる能力を養う。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生体機能看護学や基礎看護技術など既習の知識、技術および学習態度を身に付け実習に臨む。さらに、小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ看護・看護技術が必要となる。				
テキスト	① 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版				
参考図書・教材等	② 中野綾美他；ナーシンググラフィカ小児看護学②小児の疾患と看護 メディカ出版 ③ 小児看護学概論・小児看護学・小児看護学演習Ⅰ・Ⅱの配布資料				
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、あらゆる健康レベルの子どもと家族への看護について教授する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	実習中に直接相談を受け付けますが、メールでも対応します。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	・子どもの成長発達を理解し、それらに影響を与える諸因子を多角的に理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	・子どもと家族を観察・アセスメントし、子どもの家族に適した看護実践につなげることができる。 ・健康障害、医療行為が子ども・家族におよぼす影響について述べるることができる。
		(DP4)	・受け持ち患児の看護展開について、グループメンバーの意見を尊重した議論を行うことができる。 ・小児看護学実習を通して子どもの権利を尊重した看護について考え討議することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	・子どもと家族が尊重され安寧に生活できるために、主体的な行動をとることができる。
		(DP6)	・あらゆる健康レベルの子どもと家族の健康増進のための予防啓発、健診、ホームケアについて探求できる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	・子どもを取り巻く危険因子をとらえ、安全確保が適切に実践できる。 ・健康障害をもつ子どもと家族を個別的に理解し、根拠に基づいた看護実践ができる。 ・子どもの成長発達における個人差を理解し、子どもの権利を尊重した看護実践ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。さらに、退院後の子どもと家族の日常生活や状況に応じた生活指導を考え実践できる。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。	
成績評価の基準	
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。	
主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からごくわずかな助言・指導があれば実習要項の実習目標を達成できる。既習の知識や技術を用いて、あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。さらに、退院後の子どもと家族の日常生活や状況に応じた生活指導を考え実践できる。	
A：80～89 履修目標を達成している。	
必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の実習目標を達成できる。既習の知識や技術を用いて、あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。さらに、退院後の子どもと家族の日常生活や状況に応じた生活指導を考え実践できる。	
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。	
教員や実習指導者に助言・指導を受けながら、実習要項の実習目標を達成できる。既習の知識や技術を用いて、あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。	
C：60～69 到達目標を達成している。	
常に教員や実習指導者に助言・指導を受けながら、実習要項の実習目標を達成できる。既習の知識や技術を用いて、あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。	
不可：～59 到達目標を達成できていない。	
子どもと家族を理解しておらず、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	20		30	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		20	5			25
思考・判断・表現	(DP3)		15	10			25
	(DP4)			5		5	10
関心・意欲・態度	(DP5)		5			5	10
	(DP6)		5				5
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			5		20	25
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）

I. 科目情報

科目名（日本語）	女性看護学概論		単位	1 単位	
科目名（英語）	Introduction to Women's Health nursing		授業コード		
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年	開講時期	前期		
担当教員	石村美由紀・吉田静				
授業概要	1. 女性の健康支援に必要な主要概念を理解し、女性とその家族のライフサイクルを通じた健康支援を学ぶ。 2. 生活している包括的な人間としての女性とその家族に行うホリスティックケアの必要性を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	女性身体の構造と人体の機能に関する知識				
テキスト	①森恵美『母性看護学 [1] 母性看護学概論』、医学書院、2018 ②森恵美『母性看護学 [2] 母性看護学各論』、医学書院、2018 ③末岡浩『成人看護学 [9] 女性生殖器』、医学書院、2019				
参考図書・教材等	①ミシェル・オダン『プライマル・ヘルス』、メディカ出版、1995 （図書、女性看護学助手室で貸出可） ②キャサリン・エリソン『なぜ女は出産するとかしこくなるか 女性脳と母性脳の科学』、ソフトバンクパブリッシング株式会社出版、2005				
実務経験を生かした授業	教員は周産期施設での臨床経験と小中学校での性教育実践を生かした授業を行う。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	質問及びその回答は、講義中およびレスポンスカードで行う。また、学習に関する相談がある場合は、メールで受付、個別に対応する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	ホリスティックな視点から生活する人間を理解している。女性の健康を支援するために必要な主要概念と知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象が抱えている健康課題の本質を多角的視点から思考・判断できる。人間が本来持っている潜在的な力を高めるための適切なケアを考えることができる。
		(DP 4)	自己の意見を論理的に述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	女性の健康の諸課題を探究することができる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
女性看護学の基盤となる概念、女性やその家族の健康力を高めるケア、ホルモンとその働き、関連する法規と母子保健施策、次世代の健康づくりの必要性、ライフサイクルにおける女性の健康課題とケアが理解でき			

<p>る。自主的学修により、人間の自然回復力を高めるセルフケア、健康支援の基盤となるパラダイムやモデルについて探求する姿勢が身についている。</p>	
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>
<p>女性看護学の基盤となる概念、女性やその家族の健康力を高めるケアの必要性、ホルモンとその働き、関連する法規と母子保健施策、次世代の健康づくりの必要性、ライフサイクルにおける女性の健康課題とケアが理解できる。（定期試験正解率 60%以上、小テスト正解率 80%以上 1 回、レポート課題を作成し、期限までに提出）</p>	
<p>成績評価の基準</p>	
<p>S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。</p>	
<p>女性看護学の基盤となる概念、女性やその家族の健康力を高めるケア、ホルモンとその働き、関連する法規と母子保健施策、次世代の健康づくりの必要性、ライフサイクルにおける女性の健康課題とケアが充分理解できており、定期試験正解率 90%以上、小テスト正解率 80% 3 回、100%2 回以上、と、評価基準を優れた成績でクリアしている。</p>	
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>	
<p>女性看護学の基盤となる概念、女性やその家族の健康力を高めるケア、ホルモンとその働き、関連する法規と母子保健施策、次世代の健康づくりの必要性、ライフサイクルにおける女性の健康課題とケアが理解できる。自主的学修により、人間の自然回復力を高めるセルフケア、健康支援の基盤となるパラダイムやモデルについて探求する姿勢が身についている。 (定期試験正解率 80%以上、小テスト正解率 80%以上 2 回、レポート課題を作成し、期限までに提出)</p>	
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p>	
<p>女性看護学の基盤となる概念、女性やその家族の健康力を高めるケアの必要性、ホルモンとその働き、関連する法規と母子保健施策、次世代の健康づくりの必要性、ライフサイクルにおける女性の健康課題とケアが理解できる。 (定期試験正解率 70%以上、小テスト正解率 80%以上 1 回、レポート課題を作成し、期限までに提出)</p>	
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p>	
<p>女性看護学の基盤となる概念、女性やその家族の健康力を高めるケアの必要性、ホルモンとその働き、関連する法規と母子保健施策、次世代の健康づくりの必要性、ライフサイクルにおける女性の健康課題とケアが理解できる。 (定期試験正解率 60%以上、小テスト正解率 80%以上 1 回、レポート課題を作成し、期限までに提出)</p>	
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。 定期試験正解率 60%未満、レポート期限が守れない</p>	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	5	5				100
知識・理解	(DP 1)						
	(DP 2)	70	5				75
思考・判断・表現	(DP 3)	20					20
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 5)						
	(DP 6)		5				5
技能	(DP 7)						
	(DP 8)						

	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	Women's Health 女性の健康理解に必要な概念 (石村美由紀) 4/10(金)3限	初回講義であるため、講義の進め方、講義中の約束事項と諸注意についてのオリエンテーションを行う。講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、女性看護学で用いる主要概念についてである。(DP2)	事前学習:テキスト①の第1章母性看護の基盤となる概念(2~52p)、第3章(124~144p)を読み、主要概念についてまとめる。(DP2) 事後学習:(DP2)女性の健康理解に必要な概念をまとめ、覚える。
2	Women's Health 女性の健康における課題 (石村美由紀) 4/17(金)3限	講義開始時に小テスト①を実施する。小テストの内容は前回講義した主要概念についてである。(DP2) 講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、飲酒・喫煙・暴力他についてである。飲酒・喫煙に関しては、母子に及ぼす影響について重点的に講義し、暴力に関しては、性暴力を規制する法律に触れながら女性の健康における課題を考える内容とする。	事前学習:1回の講義で提示した概念について自分の言葉で説明できるように学習しておく。(DP3・4) 事後学習:テキスト①の第6章リプロダクティブヘルスケア(250~315p)を読み、女性の健康課題と対策についてレポートを作成する。(DP6)
3	女性の健康と法・統計 (吉田静) 4/24(金)3限	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、関連法規(母子保健法、児童福祉法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護法、母体保護法、戸籍法、死産の届出に関する規定など)と行政施策に関連する母子保健統計についてである。(DP2)	事前学習:テキスト①の第2章(54~96p)、付録の関係法規の抄録(323~338p)を読む。(DP2) 事後学習:女性看護に関する法律と施策についてまとめる。(DP2)
4	女性のライフサイクルと健康Ⅰ 思春期①:思春期の発達過程と性の健康 (石村美由紀) 5/1(金)3限	講義開始時に小テスト②を実施する。小テストの内容は生体機能看護学Ⅰで既習の女性生殖器の解剖図についてである。(DP2) 講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、思春期の定義、デズモンド・モリスの親密さの12段階、男女の二次性徴、性ホルモンの働き、生殖機能発育の特徴、思春期の発	事前学習:テキスト①の第3章A(97~124p)、第5章B(185~204p)、テキスト③の第2章、女性生殖器の構造を読み、女性生殖器の形態と機能についてまとめる。小テストの対策(DP2) 事後学習:女子学生はPMSメモリーに2ヵ月間の基礎体温を測定し、記録する。男子学生は提示された課題レポートの資料を収集する。(DP6)

		達に影響を及ぼす疾患等についてである。(DP2)	
5	女性のライフサイクルと健康Ⅰ 思春期②:月経のしくみとコントロール (石村美由紀) 5/15(金)3限	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、月経に関する用語、月経のしくみとホルモン、基礎体温のパターンと健康状態、帯下と健康、月経随伴症状とセルフケア、月経の異常とケア、思春期の性を取巻く環境と課題等についてである。(DP2)	事後学習:女子学生はPMSメモリーに2ヵ月間の基礎体温を測定し、記録する。男子学生は提示された課題レポートを作成する。(DP6)
6	女性のライフサイクルと健康Ⅱ 成熟期①:女性にとっての出産と助産の技(吉田静) 5/22(金)3限	講義開始時に小テスト③を実施する。小テストの内容は思春期②で学習したホルモンについてである。(DP2) 講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、様々な出産施設の特徴、わが国の出産・子育ての現状、妊娠出産により得られる能力、女性脳と母性脳のちがい、母と子の絆、出産環境の変化、出産における2つのパラダイムとモデル、助産の技などである。これらを講義する過程において、結婚・妊娠継続の選択、出産場所の選択、出産費用、子育て、男女役割等である。自身の考えを述べ、自身の考えと他者の意見を参考に、自身の考えを深める双方向対話型授業を行う。(DP2)(DP3・4)	事前学習:3回、4回の配布資料を参考に、月経に関連するホルモンについてまとめ、説明できるようにする。小テストの対策。(DP2) 事後学習:女子学生はPMSメモリーに2ヵ月間の基礎体温を記録し、自己の月経に関する自己評価とセルフケアについてレポートを作成し、提出する。男子学生は提示された課題レポートを作成する。男女共にレポートは指定された期限までに提出する。(DP6)
7	女性のライフサイクルと健康Ⅱ 成熟期②:障がいを持つ児と児を亡くした親へのケア (吉田静) 5/29(金)3限	講義開始時に小テスト④を実施する。小テストの内容は思春期②で学習した月経の機序についてである。(DP2) 講義前半は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、悲しみ(悲嘆)の経過、障がいを持つ子と家族の看護、社会的支援の種類と具体例、周産期死亡の原因、悲しみを抱く家族へのケア、グリーフケアの実際等である。講義後半ではDVDを視聴し、講義での学びと子どもを亡くした親の声を聴き、看護者としての在り方を考える。(DP2)(DP3・4)	事前学習:女性のライフサイクルと健康Ⅰで配布した資料を参考に、月経の機序を説明できるようにする。テキスト①の第4章(178p)を読む。第6章「人工妊娠中絶と看護」(278-282p)を読む。小テストの対策(月経の機序)(DP2) 事後学習:講義とDVD視聴を通して看護者として考えたことをレポート(A4用紙1枚)にまとめ、期限までにeラーニングを通して提出する。(DP3・4)

8	女性のライフサイクルと健康Ⅱ 成熟期③：女性特有の疾患と不妊、更年期 (石村美由紀) 6/5 (金) 3限	講義開始時に小テスト⑤を実施する。小テストの内容は本日予定されている更年期の定義、症状についてである。(DP2) 講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、成熟期女性特有の疾患の中でも特に不妊症について講義する。また国家試験対策問題を多く取り入れ、問題を解きながら理解を深める講義とする。(DP2) (DP3・4) 講義終了時に小テスト⑤を実施する。小テストの内容は成熟期③で学習した更年期についてである。(DP2)	事前学習：テキスト②の第2章出生前からのリプロダクティブヘルスケア(12~57p)を読み、Cの不妊治療と看護についてまとめる。更年期の定義・症状について予習しておく(小テストは更年期について) (DP2) 事後学習：授業で解いた国家試験対策問題を再度解答し、理解を深める。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし													
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習		○			○										
体験学習/調査学習		○			○										
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク		○			○										
その他()															
内容															

I. 科目情報

科目名（日本語）	女性看護学	単位	2 単位
科目名（英語）	Women's Health Nursing	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格
標準履修年次	2 年	開講時期	後期
担当教員	石村美由紀 科目担当者：吉田静・佐藤繭子・道園亜希・未定		
授業概要	妊産褥婦および新生児を、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの視点から理解し、エビデンスに基づいたケアを学ぶ。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	女性看護学概論を履修していること。		
テキスト	①森恵美『母性看護学 [1] 母性看護学概論』、医学書院、2018 ②森恵美『母性看護学 [2] 母性看護学各論』、医学書院、2018 ③末岡浩『成人看護学 [9] 女性生殖器』、医学書院、2019 ④石村由利子編『母性看護技術第2版』 医学書院、2016 ⑤女性看護学概論で使用した書籍および配布資料		
参考図書・教材等	①ミシェル・オダン『プライマル・ヘルス』、メディカ出版、1995 (女性看護学助手室で貸出可) ②医療情報科学研究所『病気が見える vol.10 産科』、メディックメディア、2009 ③『母乳育児スタンダード』第2版、医学書院、2015		
実務経験を生かした授業	周産期での臨床経験を持つ教員が授業を担当する。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問及びその回答は、講義中およびレスポンスカードで行う。また、学習に関する相談がある場合は、メールで受付、個別に対応する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	妊産褥婦、新生児の健康を支援するために必要な看護の基礎的な知識を理解している。
	思考・判断・表現	(DP 3)	妊産褥婦、新生児に対して適切な看護を選択できる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	女性の健康に関心を持ち、小テストや学習課題ノート作成にも意欲的に取り組むことができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を考えることができる。(定期試験正解率 80%以上、小テスト正解率 80%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する)			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなどの視点から理解し、母子の健康を支援するための知識と看護を考えることができる。(定期試験正解率 60%以上、小テスト正解率			

60%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する)
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を十分に理解している。（定期試験正解率 90%以上、小テスト正解率 90%以上、完成度の高い学習課題ノートを作成し、期限までに提出する）
A：80～89 履修目標を達成している。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を考えることができる。（定期試験正解率 80%以上、小テスト正解率 80%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する）
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を考えることができる。（定期試験正解率 70%以上、小テスト正解率 70%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する）
C：60～69 到達目標を達成している。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなどの視点から理解し、母子の健康を支援するための知識と看護を考えることができる。（定期試験正解率 60%以上、小テスト正解率 60%以上、学習課題ノートを作成し、期限までに提出する）
不可：～59 到達目標を達成できていない。
定期試験正解率 60%未満、小テスト正解率 60%未満、学習課題ノートが期限までに提出できない

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	小テスト	学習課題ノート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	85	5	10				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	75	5	5			80
思考・判断・表現	(DP3)	15					15
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)		5				5
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回）	【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）

1	妊娠の理解と看護 1 (道園亜希)	講義開始時に小テスト①を実施する。小テストの内容は女性生殖器の解剖である。 初回講義であるため、講義の進め方、講義中の約束事項と諸注意、女性看護学 学習課題についてのオリエンテーションを行う。講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、妊娠のメカニズム、妊婦の身体の変化、胎児の発育・発達について講義する。	事前学習：テキスト②の第 2 章妊娠期における看護：A 妊娠期の身体的特性、B 妊娠期の心理・社会的特性を読み、母性看護の基盤となる概念、第 3 章を読む。(DP2) 事後学習：テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（妊娠期）についてまとめ、学習課題ノートを作成する。(DP2,3,5)
2	妊娠の理解と看護 2 (道園亜希)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、妊婦の健康診査、妊娠各期の妊婦の理解と看護について講義する。	事前学習：テキスト②の第 2 章妊娠期における看護：C 妊婦と胎児のアセスメント、D 妊婦と家族の看護を読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（妊娠期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)
3	妊娠の理解と看護 3 (道園亜希)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、妊娠期の母体、胎児の異常について講義する。 講義終了前に小テスト②を実施する。小テストの内容は「妊娠の理解と看護 1～3」講義した内容についてである。	事前学習：テキスト②の第 6 章妊娠の異常と看護を読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（妊娠期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)
4	産婦の理解と看護 1 (分娩の経過とメカニズム) (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、分娩の経過とメカニズムである。 分娩の 3 要素、分娩の前兆、分娩経過、胎児の産道通過機転などを詳細に講義する。 DVD 視聴を通じ、分娩期の理解の促進を図る。	事前学習：テキスト②の第 4 章分娩期における看護：を読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)
5	産婦の理解と看護 2 (胎児心拍数モニタリングの理解) (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、前回の授業内容の理解を深めるための復習時間を設けた後、胎児心拍数モニタリングの理解の講義を進める。	事前学習：テキスト②の第 4 章分娩期における看護と、テキスト④の第 2 章産婦のケアを読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学

			習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)
6	産婦の理解と看護 3 (分娩各期の産婦の理解と看護) (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、前回の授業内容の理解を深めるための復習時間を設けた後、分娩各期の産婦の理解と看護を講義する。	事前学習：テキスト②の第 4 章分娩期における看護と、テキスト④の第 2 章産婦のケアを読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題 (分娩期) についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。
7	産婦の理解と看護 4 (分娩期の異常①) (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、分娩期の異常である。 講義終了前に小テスト③を実施する。小テストの内容は「産婦の理解と看護 1～4」講義した内容についてである。	事前学習：テキスト②の第 4 章分娩期における看護とテキスト④の第 2 章産婦のケアを読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題 (分娩期) についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)
8	産婦の理解と看護 5 (分娩期の異常②) 誘導分娩・帝王切開術 (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、分娩期の異常である。 講義終了前に小テスト③を実施する。小テストの内容は「産婦の理解と看護 1～4」講義した内容についてである。	事前学習：テキスト②の第 4 章分娩期における看護とテキスト④の第 2 章産婦のケアを読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題 (分娩期) についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)
9	褥婦の理解と看護 1 (産褥経過とメカニズム、褥婦の看護、母乳育児支援) (吉田静)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、産褥経過とメカニズム、褥婦の退行性変化、進行性変化を中心に褥婦のアセスメント、セルフケア支援について講義する。	事前学習：テキスト②の第 6 章産褥期における看護：A 産褥経過①産褥期の身体的変化、B 褥婦のアセスメント①～②、C 褥婦と家族の看護①～③を読む。(DP2,3) 事後学習：テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題 (産褥期) についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5)
10	褥婦の理解と看護 2 (愛着形成、親性発達、母子相互作用他) (吉田静)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、産褥の心理・社会的変化、愛着形成、親性発達、母子相互作用、入院中から施設退院後までの育児支援について講義する。	事前学習：テキスト②の第 6 章産褥期における看護：A 産褥経過②産褥期の心理・社会的変化、C 褥婦と家族の看護④、D 施設退院後の看護①～②を読む。(DP2,3) 事後学習：テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題 (産褥期) についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5)
11	褥婦の理解と看護 3 (産褥期の異常)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容	事前学習：テキスト②の第 7 章産褥の異常と看護を読む。(DP2,3)

グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容	DVD、モデル人形などを利用し、理解を深める。 授業の前に学習課題ノートを作成し、授業中は知識の定着のため、学生同士で問題を出し合うなど、予習復習を定着させる。														

I. 科目情報

科目名（日本語）	女性看護学演習 I			単位	2 単位
科目名（英語）	Practicum in Women's Health nursing I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3 年	開講時期	前期		
担当教員	石村美由紀・吉田静・佐藤繭子・道園亜希・未定				
授業概要	1. 女性とその家族を対象にライフサイクルを通じた教育やケアを実践するために必要な技術を学ぶ。 2. 妊産褥婦および新生児に必要なケアの実践に向けて事例を用いた情報分析とアセスメントを行い、看護過程を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	女性看護学概論、女性看護学で学んだ知識全般				
テキスト	①女性看護学概論、女性看護学で使用した書籍および配布資料 ②石村由利子編『母性看護技術第2版』医学書院、2016 ③村田千代子『Baby エステ』、権歌書房、2008				
参考図書・教材等	①太田操編『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第3版』医歯薬出版株式会社、2017 ②佐世正勝他『ウェルネスからみた母性看護過程』第3版、医学書院、2016				
実務経験を生かした授業	周産期での臨床経験を持つ教員が授業を担当する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	技術演習やグループワークを主とした演習であるため、疑問点をすべて解決できるよう、演習の場で質問に答える。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、ホリスティックケアモデルでアセスメントできる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	事例を通してホリスティックケアモデルで看護過程の展開ができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	技術習得のために、主体的な行動をとることができる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	妊産褥婦および新生児のケアに必要な基本的技術ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>女性とその家族を対象にライフサイクルを通じた教育やケアを実践するために必要な技術を学ぶ。技術演習は、演習の目的内容を理解し、主体的に演習する姿勢がみられ、事例妊産褥婦および新生児の状況に適した看護技術を安全で適切な手順（方法）により提供できる。看護技術は資料を見ずに、的確に実施することができる。</p> <p>妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、事例を用いた情報分析とアセスメントを行い、ホリスティックケアモデルで看護過程の展開ができ、期日までにレポート提出ができる。</p> <p>（講義内での質問に対して正解率 8 割、妊産褥婦・新生児のケアの練習に率先して参加できる、看護計画の立案が時間内にできる）</p>			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
<p>技術演習は、演習の目的内容を理解し、まじめに演習に取り組み、事例妊産褥婦および新生児のアセスメントやケアに必要な基本的技術の目的と手順（方法）が理解できている。</p> <p>マタニティサイクルにある妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、事例について看護過程の展開を行い、期日までにレポート提出ができる。</p>	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
<p>演習の目的内容を理解し、積極的に演習する姿勢がみられ、事例妊産褥婦および新生児の状況に適した看護技術を安全で適切な手順（方法）により提供できる。技術力は9割以上の完成度であり、臨機応変な状況にも対応でき、実習にて実施が可能であるほど。</p> <p>妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、時間を要せず、事例についてホリスティックケアモデルで看護過程の展開ができる。</p>	
A：80～89	履修目標を達成している。
<p>女性とその家族を対象にライフサイクルを通じた教育やケアを実践するために必要な技術を学ぶ。技術演習は、演習の目的内容を理解し、主体的に演習する姿勢がみられ、事例妊産褥婦および新生児の状況に適した看護技術を安全で適切な手順（方法）により提供できる。看護技術は資料を見ずに、的確に実施することができる。</p> <p>妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、事例を用いた情報分析とアセスメントを行い、ホリスティックケアモデルで看護過程の展開ができ、期日までにレポート提出ができる。</p> <p>（講義内での質問に対して正解率8割、妊産褥婦・新生児のケアの練習に率先して参加できる、看護計画の立案が時間内にできる）</p>	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
<p>女性とその家族を対象にライフサイクルを通じた教育やケアを実践するために必要な技術を学ぶ。技術演習は、演習の目的内容を理解し、主体的に演習する姿勢がみられ、事例妊産褥婦および新生児の状況に適した看護技術を安全で適切な手順（方法）により提供できる。看護技術は資料を見ながら、実施することができる。妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、事例を用いた情報分析とアセスメントを行い、ホリスティックケアモデルで看護過程の展開ができ、期日までにレポート提出ができる。</p> <p>（講義内での質問に対して正解率7割、妊産褥婦・新生児のケアの練習に主体的に参加できる、看護計画の立案が時間内にできる）</p>	
C：60～69	到達目標を達成している。
<p>技術演習は、演習の目的内容を理解し、まじめに演習に取り組み、事例妊産褥婦および新生児のアセスメントやケアに必要な基本的技術の目的と手順（方法）が理解できている。</p> <p>マタニティサイクルにある妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、事例について看護過程の展開を行い、期日までにレポート提出ができる。</p>	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
<p>授業態度が著しく悪く、女性とその家族を対象にライフサイクルを通じた教育やケアを実践するために必要な技術を理解するに至らない。事例について看護過程の展開ができず、期日までにレポート提出ができない。</p>	

III. 成績評価の方法

評価指標	技術テスト	授業内レポート	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	演習態度	合計
総合評価割合	20	60				20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		30				30
思考・判断・表現	(DP3)		30				30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)					20	20
	(DP6)						

技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)	20					20
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	オリエンテーション 看護過程の展開 (基礎的内容) ①妊娠期の情報整理、情報分析 (石村、吉田、佐藤、道園、未定)	演習の進め方、演習中の約束事項と諸注意、課題についてオリエンテーションを行う。 講義は配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、看護過程の展開における基本的内容と、マタニティサイクルにおける看護過程の特徴についてである。 看護過程の展開に必要な事例(ペーパーペイシエント)、ワークシート、チェックリストなどを配布し、説明する。 演習では、事例の妊娠期に関する情報分析を行う。	事前学習：学習課題ノートを見直し、不足している項目について追記する。(DP2) 事後学習：事例の分娩期、産褥期、新生児期の情報を整理する。(DP2)
2			
3	看護過程の展開 ①産褥期、新生児期の情報整理、情報分析 (石村、吉田、佐藤、道園、未定)	事例の産褥期、新生児期について情報分析を行う。	事前学習：事例の分娩期・産褥期・新生児期の情報について整理する。(DP2) 事後学習：事例の産褥期・新生児期の情報分析を整理する。(DP2)
4			
5	看護過程の展開 ②関連図、看護診断、目標の立案 ③看護計画の立案 (石村、吉田、佐藤、道園、未定)	講義は、配布するパワーポイントの資料に沿って進める。 演習前半は事例について産褥期・新生児を中心に関連図を作成する。 後半は、事例についてウェルネス看護診断にもとづいた看護診断、目標、看護計画を立案する。	事前学習：初回講義で配布した資料を読む。 事後学習：事例について関連図、看護診断、看護目標、看護計画を立案する。(DP3)
6			
7	看護過程の展開 ④看護計画の立案 (石村、吉田、佐藤、道園、未定)	事例に関する看護過程の展開(レポート)を作成し、提出する。	事前学習：妊娠期、分娩期、産褥期に関するワークシートを作成する。(DP10) テキスト②の第1章妊婦のケア、第3章褥婦のケアを読む。(DP2) 事後学習：学習課題ノートを見直し、不足している項目について追記する。(DP2)
8	妊婦・産婦・褥婦のアセスメントと看護技術 (石村、吉田、佐藤、道園、未定)	講義は、配布するパワーポイントの資料に沿って進める。講義内容前半は妊婦ケアと産婦ケアについて講義する。女性看護技術として重要なレオポルド触診法・子宮底・腹囲測定・胎児心音の聴診方法や分娩各期の看護や産痛緩和について講義する。後半は、褥婦のアセスメントと産褥復古支援	

I. 科目情報

科目名（日本語）	女性看護学演習Ⅱ		単位	1単位
科目名（英語）	Practicum in Women's Health nursing Ⅱ		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	3年	開講時期	後期	
担当教員	石村美由紀・安河内静子・吉田静・佐藤繭子・道園亜希・未定			
授業概要	1. 女性看護学演習Ⅰで習得した技術をさらに洗練させ、論理的根拠に基づき実施する。 2. 事象の意味をホリスティックケアモデル、リプロダクティブヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの概念に基づき探求する姿勢を身につける。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習Ⅰで学んだ女性の身体の構造及び生理的变化、新生児の身体の構造及び生理的变化に関する知識と必要なケア方法の技能			
テキスト	①女性看護学概論、女性看護学、女性看護学演習Ⅰで使用した書籍および配布資料 ②石村由利子編『母性看護技術第2版』 医学書院、2016			
参考図書・教材等	女性看護学実習要項・実習記録用紙、女性看護学の講義で作成した課題ノート 【貸出図書】（女性看護学助手室にて貸出） ①新生児の臨床検査 基準値 デクショナリー ②すぐ使える！入院中から退院までの母乳育児支援 ③産科スタッフのための新生児学 ④これでナットク！母乳育児 ⑤新生児の症状別フィジカルアセスメント ⑥保健指導でそのまま使えるQ&A ⑦周産期救急 そのときどうする！？ ⑧臨床助産技術ベーシック&ステップアップテキスト ⑨ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 ⑩写真で分かる助産技術 ⑪母性看護実践の基本 母性看護学① ⑫ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 ⑬根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画			
実務経験を生かした授業	教員は周産期施設での臨床経験を生かした授業を行う		授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	実習直前の演習であるため、疑問点をすべて解決できるよう、演習の場で質問に答える。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	妊産褥婦および新生児の生理的变化を、ホリスティックケアモデルでアセスメントできる。
	思考・判断・表現	(DP3)	事例を通して看護過程を展開することができる。
		(DP4)	妊産褥婦および新生児に備わった生理的な力を観察し、プライマル・ヘルスの視点から論述できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	技術習得のために、主体的な行動をとることができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	事例に応じて必要なケアを選択し、確実に実施することができる。

履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。						
<p>女性看護学演習Ⅰで習得した技術をさらに洗練させ、論理的根拠に基づき実施ができることを目指す。また事象の意味をホリスティックケアモデル、リプロダクティブヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの概念に基づき探求する姿勢を身につける。</p> <p>講義日までに沐浴の事前練習を積極的に行える、参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な沐浴を実施できる、新生児の観察及び計測を参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な技術によって行うことができる妊婦/産婦/褥婦のケアを参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な技術によって行うことができる、看護計画の作成に主体的に参加し、意見交換が積極的に行える。（講義開始までに5回以上の沐浴練習、講義内での質問（新生児のアセスメント等）に対して正解率8割、妊産褥婦のケアの相互練習に率先して参加できる看護計画の立案が時間内にできる、他のグループに質問が2回以上できる）</p>							
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>						
<p>講義日までに沐浴の事前練習を主体的に行える、参考文献（手順）を見ずに沐浴を実施できる、新生児の観察及び計測を参考文献（手順）を見ずに行うことができる、妊婦/産婦/褥婦のケアを参考文献（手順）を見ずに行うことができる、看護計画の作成に参加でき、他グループの発表を聞いて意見が聞ける。（講義開始までに5回以上の沐浴練習、講義内での質問（新生児のアセスメント等）に対して正解率6割、妊産褥婦のケアの相互練習に参加できる、看護計画の立案が時間内にでき、他のグループに質問や意見が1回はできる）</p>							
成績評価の基準							
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。							
<p>事前学習が充分であり、妊産褥婦・新生児の特徴をしっかりと理解できており、ほとんどの質問に的確に回答することができる。看護技術力は洗練され、論理的根拠に基づき実施ができています。</p> <p>提示された事例の看護過程を決められた時間内に展開することができ、内容も優れたものである。また多様な状況に柔軟に対応し、臨床判断能力が非常に優れていると判断できる。演習における積極性が申し分ない。</p>							
A：80～89 履修目標を達成している。							
<p>女性看護学演習Ⅰで習得した技術をさらに洗練させ、論理的根拠に基づき実施ができることを目指す。また事象の意味をホリスティックケアモデル、リプロダクティブヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの概念に基づき探求する姿勢を身につける。</p> <p>講義日までに沐浴の事前練習を積極的に行える、参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な沐浴を実施できる、新生児の観察及び計測を参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な技術によって行うことができる妊婦/産婦/褥婦のケアを参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な技術によって行うことができる、看護計画の作成に主体的に参加し、意見交換が積極的に行える。（講義開始までに5回以上の沐浴練習、講義内での質問（新生児のアセスメント等）に対して正解率8割、妊産褥婦のケアの相互練習に率先して参加できる看護計画の立案が時間内にできる、他のグループに質問が2回以上できる）</p>							
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。							
<p>講義日までに沐浴の事前練習を主体的に行える、参考文献（手順）を見ずに沐浴を実施できる、新生児の観察及び計測を参考文献（手順）を見ずに行うことができる、妊婦/産婦/褥婦のケアを参考文献（手順）を見ずに行うことができる、看護計画の作成に参加でき、他グループの発表を聞いて意見が聞ける。（講義開始までに5回以上の沐浴練習、講義内での質問（新生児のアセスメント等）に対して正解率7割、妊産褥婦のケアの相互練習に接虚構的に参加できる、看護計画の立案が時間内にでき、他のグループに質問や意見が1回はできる）</p>							
C：60～69 到達目標を達成している。							
<p>講義日までに沐浴の事前練習を主体的に行える、参考文献（手順）を見ずに沐浴を実施できる、新生児の観察及び計測を参考文献（手順）を見ずに行うことができる、妊婦/産婦/褥婦のケアを参考文献（手順）を見ずに行うことができる、看護計画の作成に参加でき、他グループの発表を聞いて意見が聞ける。（講義開始までに5回以上の沐浴練習、講義内での質問（新生児のアセスメント等）に対して正解率6割、妊産褥婦のケアの相互練習に参加できる、看護計画の立案が時間内にでき、他のグループに質問や意見が1回はできる）</p>							
不可：～59 到達目標を達成できていない。							
<p>沐浴の事前練習を一度も行わずに授業に参加する。事前学習を行わず、女性看護学演習Ⅰの復習も行っておらず、授業終了時まで、安全な看護技術を身につけるに至らなかった場合。</p>							

III. 成績評価の方法

評価指標	技術	授業内 レポート	授業外レポ ート・宿題	発表	ポートフォ リオ	態度	合計
------	----	-------------	----------------	----	-------------	----	----

総合評価割合		40			30		30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)				5		10	15
思考・判断・表現	(DP3)				5			5
	(DP4)				5		10	15
関心・意欲・態度	(DP5)	20			5		5	30
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)	20			10		5	35
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	1. 妊婦のアセスメントと看護技術 (子宮底長、腹囲測定、胎児心拍測定、レオポルド触診法等) 2. 産婦の看護技術 産痛緩和(圧迫、呼吸、体位等) 3. 新生児のアセスメントと看護技術(沐浴、児の計測等) 4. 褥婦のアセスメントと看護技術 (子宮復古状態・悪露の観察・授乳支援) (石村、安河内、吉田、佐藤、道園、未定)	演習 各種シミュレーターを用いて、手技の確認及び、練習を行う。 新生児の看護については、事例を提示し、それに基づいたアセスメントを発表する。 (DP: 2,4,5,10)	事前学習:女性看護学で作成した課題ノートに女性看護学演習Iで学んだ事項を追記載し、学習しておく。各講義の資料も復習しておく。演習開始までに沐浴の自己練習を行っておく。
2			事後学習:作成した課題ノートに本講義での学びを追記する。 充分でなかった技術は、実習までに自己練習を行い、教員のチェックを受ける。不足していた知識に関しても、しっかりと復習しておく。
3			事前学習:事例の分娩期・産褥期・新生児期の情報について整理する。(DP2)
4			事後学習:事例の産褥期・新生児期の情報分析を整理する。(DP2)

5	看護課程の展開 (石村、吉田、佐藤、道園、未定)		事前学習：女性看護学演習Ⅰを復習し、看護過程展開の準備をしておく。
6			事後学習：看護過程の展開に必要な知識、提示された事例に関する知識など、必要な知識は、必ず教科書などで復習をした上で、課題ノートに追記する。
7			事前学習：女性看護学演習Ⅰを復習し、看護過程展開の準備をしておく。
8	看護過程のまとめ (石村、吉田、佐藤、道園、未定)	演習 作成した看護計画について発表し、意見交換を行う。 (DP：2,3,4)	事前学習：女性看護学演習Ⅰを復習し、看護過程の展開がスムーズに行える状態にしておく。 事後学習：意見交換の内容を含めて、各自必要な看護過程を追加しておく
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
体験学習／調査学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	女性看護学実習		単位	2 単位
科目名（英語）	Practical Training in Women's Health nursing		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	3 年～4 年次	開講時期	3 年次後期～4 年次前期	
担当教員	石村美由紀、安河内静子、吉田静、佐藤繭子、道園亜希、未定			
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開することで、適切な看護を実践する能力を培う。 2. 生命の神秘・尊厳を考えることができる。 3. 退院後の生活、家族関係など、対象者を多角的に理解することができる。 4. ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとプライマル・ヘルスの概念に基づき考察できる。 5. 受け持ち看護、カンファレンス運営などを通して、コミュニケーション能力を培う。 5. 多職種との協働・連携を学ぶ。 			
履修条件/授業内容を理解するために必要な知識・技能等	女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ女性の身体の構造及び生理的变化、新生児の身体の構造及び生理的变化に関する知識と必要なケア方法の技能			
テキスト	女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習ⅠⅡで使用した書籍および配布資料			
参考図書 ・教材等	<p>【貸出図書】（女性看護学助手室にて貸出）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新生児の臨床検査 基準値 ディクショナリー ②すぐ使える！入院中から退院までの母乳育児支援 ③産科スタッフのための新生児学 ④これでナットク！母乳育児 ⑤新生児の症状別フィジカルアセスメント ⑥保健指導でそのまま使える Q & A ⑦周産期救急 そのときどうする！？ ⑧臨床助産技術ベーシック&ステップアップテキスト ⑨ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 ⑩写真で分かる助産技術 ⑪母性看護実践の基本 母性看護学① ⑫ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 ⑬根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画 			
実務経験を生かした授業	教員および臨床指導者は周産期施設での臨床経験を活かした教育を行う。		授業中の撮影	無
学習相談 ・助言体制	質問及びその回答は実習中に行う。また、学習に関する相談がある場合は個別に対応する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとプライマル・ヘルスの概念を重視し、母子の看護に必要な情報収集、アセスメント、看護計画の立案、実施、評価について説明できる。
		(DP 5)	実習に積極的に取り組み、受け持ち母子に寄り添い、母子のニーズに基づいた看護を実践できる。

		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	受け持ち母子の看護過程を展開し、適切な看護を実践することができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開する。その際には、フィジカルアセスメント力を発揮し、立案した適切な看護計画に沿って、看護実践できる。</p> <p>病院実習において、分娩に立ち会う機会を得たり、妊産褥婦・新生児とかわる中で、生命の神秘・尊厳を考えることができ、それを実習記録上に記載することができる。また退院後の生活、家族関係など、対象者を多角的に理解することにも努める。</p> <p>実習では、一貫してホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとプライマル・ヘルスの概念に基づき考察する。受け持ち看護、カンファレンス運営などを通して、コミュニケーション能力を培い、さらに多職種との協働・連携を学び、医療における看護職の役割を理解する。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
<p>受け持ちの妊産褥婦・新生児とコミュニケーションをとることができる。カルテの情報や直接得た情報からアセスメントができ、アドバイスを得ながら、看護過程が展開できる。参考文献(手順)を見ずに、安全に妊産褥婦・新生児のケアができる。積極的に実習を行い、対象者を理解しようと努める姿勢がある。カンファレンスで1回以上は発言する</p>			
成績評価の基準			
<p>S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。</p> <p>参考図書による事前学習が充分であり、妊産褥婦・新生児の特徴をしっかりと理解できている。実際に看護過程を展開する際に、多様な状況に柔軟に対応し、臨床判断能力が非常に優れている。リーダーシップ力、コミュニケーション力も優れ、実習における積極性が申し分ない。</p>			
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p> <p>妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開する。その際には、フィジカルアセスメント力を発揮し、立案した適切な看護計画に沿って、看護実践できる。</p> <p>病院実習において、分娩に立ち会う機会を得たり、妊産褥婦・新生児とかわる中で、生命の神秘・尊厳を考えることができ、それを実習記録上に記載することができる。また退院後の生活、家族関係など、対象者を多角的に理解することにも努める。実習では、一貫してホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとプライマル・ヘルスの概念に基づき考察する姿勢がある。積極的に受け持ち対象者や実習教育者、教員とコミュニケーションをとり、カンファレンス運営においても積極性がみられる。さらに多職種との協働・連携を学び、医療における看護職の役割について考えを述べるができる。</p>			
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p> <p>妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開する。その際には、フィジカルアセスメント力を発揮し、立案した適切な看護計画に沿って、看護実践できるが、かなりのアドバイスが必要である。</p> <p>病院実習において、分娩に立ち会う機会を得たり、妊産褥婦・新生児とかわる中で、生命の神秘・尊厳を考えることができるが実習記録には反映されない。また退院後の生活、家族関係など、対象者を多角的に理解することにも努める。実習では、一貫してホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツとプライマル・ヘルスの概念に基づき考察することができない。受け持ち対象者や実習教育者、教員とコミュニケーションが不足気味だか、努力はしている。多職種との協働・連携を学び、医療における看護職の役割について考えることはできるが、考えを述べることはできない。</p>			
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p> <p>受け持ちの妊産褥婦・新生児とコミュニケーションをとることができる。カルテの情報や直接得た情報からアセスメントができ、アドバイスを得ながら、看護過程が展開できる。参考文献(手順)を見ずに、安全に妊産褥婦・新生児のケアができる。積極的に実習を行い、対象者を理解しようと努める姿勢がある。しかし受け持ち対象者や実習教育者、教員とコミュニケーションが不足気味で若干の支援が必要である、カンファレンスで1回以上は発言する</p>			
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。</p> <p>安全に妊産褥婦・新生児のケアができない。</p>			

III. 成績評価の方法

評価指標		実習記録	看護過程 レポート	カンファ レンス	発表	ポートフォ リオ	態度	合計
総合評価割合		30	20	10			40	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)	20	10	5			20	55
関心・意欲・態度	(DP5)	5	10	5				20
	(DP6)	5						5
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)						20	20
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	【実習方法】		
2	(DP:4,5,6,10)		
3	(石村、安河内、吉田、佐藤、道園、未定)		
4			
5	1. 12~14名を5~7名のグループに編成し、病院において2週間実習する。		
6	2. 施設に1名の教員を配置する。また実習が円滑に行われるようスーパーバイザーを置く。		
7	3. 各実習施設の実習教育者の指導を受けながら実習する。		
8	4. 病院実習では妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開しケアを行う。		
9	*実習方法の詳細は実習要項で提示する。		
10	(1週目:受持ち妊産褥婦・新生児の看護過程の展開)		
11	学生2名で1人の対象者を受け持ち、情報収集を行い、アセスメント、看護診断(可能な限りウエルネス型を併用する)、看護計画の立案・実施・評価の看護過程を展開する。		
12	(2週目:機能別看護実習)		
13	看護過程展開実習を終了した学生は、それぞれ個別に未経験の項目や、学生自身が学びたい項目につ		
14	いて経験する実習 (実習施設によって経験できる内容が異なるためその都度、確認、許可を得た上で実施する)		
15	妊娠期のケア 妊婦健診時の測定、血圧・腹囲・子宮底長測定 カルテ、妊婦健診結果から妊娠経過及び胎児の発育状態についてのアセスメント レオポルド触診法、NSTモニター装着 外来での妊婦ケア(妊婦健診、エコー検査、保健指導など)の見学・実施		

	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">分娩期のケア</div> <p>分娩監視装置の装着 分娩の立ち会い（分娩第1期～の経過に寄り添い、産痛緩和や分娩進行のためのケア、分娩後の清拭、分娩第4期の観察 帝王切開術前後のケアの見学・実施 出生直後の新生児の初期処置・計測など</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">産褥期のケア</div> <p>褥婦の退行性変化・進行性変化の観察 カルテなどからの情報収集 搾乳/授乳状況の確認 新生児の観察、沐浴実施 など</p>
備考	

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																		
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
体験学習／調査学習				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他（ ）																				
内容				女性看護学実習では、病院での2週間の実習を通して、看護実践能力を培う。また日々行うグループディスカッション（カンファレンス）で、コミュニケーション能力・ディスカッション能力を培う。学内日を設け、振り返り・考察を充分に行い、知識・技術を定着させる。																

I. 科目情報

科目名（日本語）	在宅看護学概論		単位	1
科目名（英語）	Introduction to Home Care Nursing		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	2年	開講時期	前期	
担当教員	吉田恭子、猪狩崇			
授業概要	在宅で生活する療養者及び家族をホリスティックにとらえ、地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能及び仕組み等、在宅看護の基礎を学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト	臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版、3400円			
参考図書・教材等	配布資料			
実務経験を生かした授業	臨床経験5年以上の経験豊富な教員が講義を担当する。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。もしくは、オフィスアワーで回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	在宅看護に対する社会的要請、在宅看護の機能と看護の役割を説明できる。 在宅看護の対象者の特徴を説明できる。 在宅看護に関わる保健医療福祉制度の現状と課題を説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について十分に理解し、自己の考えを交えて他者にわかりやすく説明できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について十分に理解し、自己の考えを交えて他者にわかりやすく説明することができる(定期試験、レポートは90%以上得点す			

る)。
A：80～89 履修目標を達成している。 在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について理解し、他者にわかりやすく説明することができる(定期試験、レポートは80%以上得点する)。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について理解し、他者にわかりやすく説明することができる(定期試験、レポートは70%以上得点する)。
C：60～69 到達目標を達成している。 在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について理解し、他者に説明できる(定期試験、レポートは60%以上得点する)。
不可：～59 到達目標を達成できていない。 在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について理解できず、他者に説明することができない(定期試験、レポートは60%以下の得点である)。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合								
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)	60	10	30				100
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	在宅看護の変遷と歴史的背景、基本理念 (吉田)	講義のオリエンテーションを実施する。在宅看護活動の社会背景から、こんにちの在宅看護への社会的要請、そして、今後の展望をふまえ、在宅看護で活用される理念を講義する。	事前学習：テキスト p12～24、32～35、41～51 を読んでくる。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP2)
2	在宅看護の目的と特性 (吉田、外部講師)	病棟看護との比較から在宅看護の対象の特性、看護の目的について講義する。	事前学習：テキスト p24～31 を読み、ワーク：在宅看護の目的、療養者の特徴について学習する。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP2)
3	ケアマネジメント (猪狩、吉田)	ケアマネジメントの意義とプロセスを講義する。 ケアプランと予防ケアプランの共通性と違いについて講義する。	事前学習：テキスト p95～107 を読んで在宅看護におけるケアマネジメントの概要をまとめてくる。(DP2) 事後学習：配布資料の模擬事例の健康

		地域ケア会議について実例を交えて講義する。	課題に関する解決策を説明し、提出する。(DP2)
4	在宅ケアにおける倫理と利用者保護 (吉田)	在宅療養者の権利を守る法制度とその限界を講義する。在宅で活用できる権利擁護や成年後見制度について理解し、実践に生かすことができるよう、紙上事例により在宅特有の倫理的課題の解決に向けた取り組みをグループ学習で体験する。	事前学習：テキスト p36～39 を読み、ワーク：倫理について学習する。また、認知症の特徴についてまとめてくる。(DP2) 事後学習：授業で紹介した紙上事例の課題をまとめる。(DP2)
5	在宅ケアにおける倫理と課題解決の取り組み (吉田)	在宅特有の倫理的課題の解決策を持ち寄りグループで検討し、かわり方を決定する。 1～5回までの授業の理解度を確認するために小テストを行う。	事前学習：テキスト p153～159 を読んでくる。前回の授業で紹介した映像資料の課題をまとめてくる。(DP2) 事後学習：ディスカッションを踏まえた意見を述べ、提出する。(DP2)
6	在宅ケアの現状と課題 (吉田、外部講師)	入院から退院および退院後に至る療養者の生活支援を講義する。田川地区の医療を例に住民の健康を守る上での課題の抽出方法について講義する。	事前学習：テキスト p88～94 を読み、ワーク：チームケアについて学習する。(DP2) 事後学習：出身地や所在地など関心のある地域の在宅医療資源とその課題を説明し、提出する。(DP2)
7	地域包括ケアシステムと法制度 (吉田)	地域包括ケアシステムについての概要と介護保険法、障害者総合支援法など在宅ケアを行う上で必要な法制度および社会資源、看護職の役割を講義する。	事前学習：テキスト p70～77、112～114、120～124、128～133、136～147 を読み、ワーク：保険制度について学習する。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP2)
8	療養の場の移行に伴う看護 (吉田)	退院支援の必要性や実際の展開から、チームアプローチの重要性および継続看護としての訪問看護の役割を講義する。	事前学習：テキスト p60～66、p77～87、p164～176、p186～191 を読み、ワーク：継続看護について学習する。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP2)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の授業で定期試験や小テストについて説明します。 ・事前学習は授業初日に配布します。事後学習は授業中に配布します。 ・事前学習は必ず取り組んで授業に出席してください。ワークの解答は授業中に行います。 ・事後学習のレポート提出期限は必ず守ってください。特別な事情がある場合は提出期限よりも前に申し出てください。 		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク		○		○	○													
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	在宅看護学		単位	2
科目名（英語）	Home Care Nursing		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	2年	開講時期	後期	
担当教員	吉田恭子、猪狩崇、平塚淳子			
授業概要	在宅で生活する療養者および家族をホリスティックにとらえ、地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組み等、在宅看護の基礎を学ぶ。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題等について学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	在宅看護学概論			
テキスト	①臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版、3400円 ②臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ在宅看護論②地域療養を支える技術 メディカ出版、2800円			
参考図書・教材等	配布資料			
実務経験を生かした授業	臨床経験5年以上の経験豊富な教員が講義を担当する。			授業中の撮影
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。もしくは、オフィスアワーで回答する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	在宅ケアの促進に向けた看護の役割を説明できる。 疾病や障害と共に在宅で療養生活をおくる対象者への適切な看護を説明できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	施設内看護と在宅看護との違いを明確にし、在宅療養を継続するうえで必要な看護の知識を活用することができる。
		(DP4)	在宅看護における訪問看護活動の実際を想起し説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	状態別看護において、療養生活上の課題に抽出し、在宅看護での具体的支援を説明できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解すること、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解すること、これらを自己の考えを交えて他者にわかりやすく説明できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解すること、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解すること、これらを他者に説明できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解し、他者にわかりやすく説明でき、自己の考えを述べることができる(定期試験、レポートは90%以上得点する)。さらに、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明でき、自己の考えを述べるができる(定期試験、レポートは90%以上得点する)。
A：80～89 履修目標を達成している。
在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは80%以上得点する)。さらに、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは80%以上得点する)。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは70%以上得点する)。さらに、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは70%以上得点する)。
C：60～69 到達目標を達成している。
在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて理解し、他者に説明できる(定期試験、レポートは60%以上得点する)。さらに、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について理解し、他者に説明できる(定期試験、レポートは60%以上得点する)。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるような看護師の役割と機能および仕組みについて他者に説明できない(定期試験、レポートは60%以上得点できない)。さらに、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について、他者に説明できない(定期試験、レポートは60%以上得点できない)。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70		30				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	50	10				60
思考・判断・表現	(DP3)	20					20
	(DP4)		10				10
関心・意欲・態度	(DP5)		10				10
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						

	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	在宅看護活動と運営、在宅看護に必要なアセスメント(吉田恭子)	講義のオリエンテーションを実施する。訪問看護活動の実際と訪問看護の運営について講義する。在宅における看護の焦点化とそれに必要なアセスメントについて講義する。	事前学習:テキスト①p42~133、在宅看護学概論で学習したことをまとめる。(DP2) 事後学習:確認問題を解く。(DP2)
2	在宅看護を必要とする療養者の栄養ケア(平塚淳子)	以下の内容について、講義を行う。 フレイル、サルコペニアの概念について 在宅療養者のための栄養アセスメント、目標設定、計画立案について 褥瘡管理について ブレーデンスケールを用いたアセスメントの実際について、事例を用いて説明する。 DESIGN-R、NPUAP分類については、訪問看護特別指示書を用いて説明する。 皮膚排泄ナースとの他職種連携について説明する。 (訪問看護師主導のケアと皮膚排泄ナースの指示で管理する点について)	事前学習:フレイル、サルコペニアの概念について調べてくる。 テキスト①P186~187、P218~212、P232~234、P210~212を読んでくる。 褥瘡のアセスメントスケール(ブレーデンスケール、DESIN-R、NPUAP分類)について、調べてくる。(DP2・3) 事後学習:国家試験問題と関連づけた確認問題を解く。(DP3)
3	医療依存度の高い療養者の看護(吉田恭子)	在宅における医療技術について人工呼吸器を使用する事例から、医療依存度の高い在宅療養者と家族、訪問看護の役割について講義する。	事前学習:テキスト①p226~227を読み、ワーク:医療依存度の高い療養者のケア、排泄ケアを学習する。(DP2・3) 事後学習:確認問題を解く。呼吸のフィジカルアセスメントについてまとめる。(DP3)
4	在宅人工呼吸療法を用いる療養者の看護(吉田恭子)	気管切開式人工呼吸、非侵襲性人工呼吸が必要な在宅療養者の特徴や看護について講義する。	事前学習:テキスト②p110~119、p125~127を読み、ワーク:人工呼吸療法について学習する。(DP2・3) 事後学習:確認問題を解く。(DP3)
5	在宅酸素療法を用いる療養者の看護(吉田恭子)	呼吸障害のある療養者が活用できる障害者支援等の法制度の理解とともに在宅生活を続けるためのケアについて講義する。	事前学習:テキスト②p119~125を読み、ワーク:酸素療法について学習する。(DP2・3) 事後学習:事例の看護計画(EP)をまとめ提出する。(DP4・5)
6	慢性疾患療養者の看護①(猪狩崇)	慢性疾患を有する療養者は長期にわたる療養生活を送るため、取り巻く環境の変化などの影響から健康課題が変化することについて講義する。	事前学習:テキスト①p210~219、p243~244、テキスト②p135~144を読む。 ワーク:2型糖尿病の病態関連図を書いてくる。(DP2) 事後学習:事例の看護について説明し、提出する。(DP4・5)
7	在宅ケアにおけるリハビリテーション(吉田恭子、外部講師)	機能回復のみではなく生活の質の向上を目指したリハビリテーションについて講義する。	事前学習:テキスト①p232~233、テキスト②p42~43、配布資料を読み、ワーク:移動、閉じこもりについて学習する。(DP2) 事後学習:確認問題を解く。(DP3)
8	慢性疾患療養者の看護②(猪狩崇)	難病などの医療技術が必要な事例	事前学習:テキスト①p136~142、147

	狩崇)	を通して訪問看護活用の理解について講義する。	～149を読み、難病対策、医療費助成、障害者福祉対策との関連を抑えてくる。(DP2) 事後学習：事例の看護について説明し、提出する。(DP4・5)
9	長期臥床療養者の看護(吉田恭子)	疾病の重度化による障害や加齢により臥床状態になることは否めず、医療ニーズが増す。重度化予防のための在宅における看護について講義する。	事前学習：テキスト①p232～233、テキスト②p78～82、p144～148を読み、ワーク：長期臥床について学習する。(DP2・3) 事後学習：確認問題を解く。(DP3)
10	精神疾患を有する療養者の看護(吉田恭子、外部講師)	精神障がい者が地域で生活続けるための法制度の理解と社会資源の活用、在宅看護の役割について講義する。	事前学習：テキスト①p143～147、p253～254を読み、ワーク：精神障がい者とその家族について学習する。(DP2・3) 事後学習：事例の看護について説明し、提出する。(DP4・5)
11	子どもと家族の看護(吉田恭子)	子どもの在宅療養を支える制度、在宅ケアの取り組みから、子ども本人、保護者や兄弟児を含むケア提供について講義する。	事前学習：脳性まひ、二分脊椎症、ダウン症(18トリソミー)、水頭症についてレポートにまとめる。テキスト①p201～204を読んでくる。(DP2) 事後学習：事例の看護を選択した理由を説明し、提出する。(DP4・5)
12	認知症療養者の看護(吉田恭子)	認知症であっても地域での暮らしを続けるための社会資源の特徴と役割、看護上の課題について講義する。	事前学習：テキスト①p251～252、テキスト②p26～33、p94～97、p181～184を読み、ワーク：認知症と支援について学習する。(DP2・3) 事後学習：事例の看護を選択した理由を説明し、提出する。(DP4・5)
13	がん治療中の療養者の看護(吉田恭子、外部講師)	訪問看護事例では終末期が多いことから、疼痛管理等の終末期ケアを講義する。また、外来看護では化学療法を続ける療養者の日常生活上の課題へのケアを講義する。	事前学習：テキスト①p221～223、テキスト②p98～101、p153～157、p187～190を読み、ワーク：がんの治療中の療養者と家族について学習する。(DP2・3) 事後学習：確認問題を解く。(DP3)
14	終末期にある療養者の看護(吉田恭子)	心不全や呼吸不全を中心に療養者と家族のケアを講義する。	事前学習：テキスト②p48～51を読み、ワーク：終末期の家族ケアについて学習する。(DP2・3) 事後学習：がんの終末期と老衰の終末期の相違点をまとめ提出する。(DP4・5)
15	在宅ケアにおけるリスクマネジメント(吉田恭子)	在宅特有のリスクが存在するため、そのリスクマネジメントについて講義する。また、減災の取り組みについて講義する。	事前学習：テキスト②p164～174、p45～47、配布資料を読む。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP3)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・初回の授業で定期試験や小テストについて説明します。 ・事前学習(ワーク)は、授業初日に配布し説明します。事後学習は授業中に配布します。 ・事前学習は必ず取り組んで授業に出席してください。ワークの解答は授業中に行います。 ・事後学習のレポート提出期限は必ず守ってください。特別な事情がある場合は提出期限よりも前に申し出てください。 		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	在宅看護学演習 I			単位	1
科目名（英語）	Clinical Practicum in Home Care Nursing I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	吉田恭子、猪狩崇、平塚淳子				
授業概要	在宅看護学における看護過程の特徴を理解するために、事例を用いて具体的な展開方法を習得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	人体の構造と機能、病態生理、関係法規、在宅看護学概論、在宅看護学				
テキスト	①臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支える技術 メディカ出版、3400円 ②臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版、2800円				
参考図書 ・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・正野逸子・本田彰子編著 関連図で理解する在宅看護過程 メヂカルフレンド社 ・マージョリー・ゴードン著 江川隆子監訳 ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 ・配布資料 				
実務経験を 生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が担当する。			授業中 の撮影	
学習相談 ・助言体制	メールで受け付け、回答する。もしくは、オフィスアワーで回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	ペーパーペイシェント(動画を含む)の療養生活上の課題を明確にし、看護計画が立案できる。
		(DP4)	在宅看護における看護過程について自己の学習課題を説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	法的根拠に基づき、効果的な社会資源の活用を提案できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
障害による生活への影響について身体機能の変化を踏まえた結果から、看護上の課題を明らかにし、個別性を考慮し、かつ家庭において達成可能な目標設定および多様な社会資源を活用した看護計画の立案ができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
アセスメント、看護上の課題の明確化、目標設定および看護計画の立案ができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
障害による生活への影響について身体機能の変化を踏まえた結果から、看護上の課題を明らかにし、個別性を考慮し、かつ家庭において達成可能な目標設定および多様な社会資源を活用した看護計画の立案ができる。すべての過程において主体的な学修を行うことができる。			

A：80～89	履修目標を達成している。
障害による生活への影響について身体機能の変化を踏まえた結果から、看護上の課題を明らかにし、個別性を考慮し、かつ家庭において達成可能な目標設定および多様な社会資源を活用した看護計画の立案ができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
障害による生活への影響について身体機能の変化を踏まえた結果から、看護上の課題を明らかにし、目標設定および看護計画の立案ができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
アセスメント、看護上の課題の明確化、目標設定および看護計画の立案ができる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
アセスメント、看護上の課題の明確化、目標設定および看護計画の立案ができない。	

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		40			10	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							
思考・判断・表現	(DP3)	25		20				45
	(DP4)			10			10	20
関心・意欲・態度	(DP5)	25		10				35
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	オリエンテーション アセスメントについて 紙上および映像による事例について（吉田）	1.講義と演習 在宅ケア領域における実践の特徴と看護過程について講義する。アセスメントの視点を振り返る。	事前学習： 1. テキスト①p17～23、テキスト②p80～84を読んでくる。（DP3） 事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人で情報を分類する。（DP3・4）
2	身体的側面のアセスメント （吉田、猪狩、平塚）	1.演習 グループを作り、事前学習を用いて、対象の病態生理を確認する。	事前学習： 1. 以下の項目について、他領域で学習した内容を活用してよいので、実習で用いるつもりで整理してくる。動脈硬化・糖尿病・脳血管障害の関係、ペースメーカーの自己管理(指導)（DP4）

			事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人で病態関連図を仕上げる。(DP3・4)
3	身体的側面のアセスメント (猪狩、吉田、平塚)	1. 講義と演習 病態生理について再度確認する。事前学習を用いて、グループ内で協議し身体的側面のアセスメントを行う。	事前学習： 1. 以下の項目について、他領域で学習した内容を活用してよいので、実習で用いるつもりで整理してくる。加齢変化、慢性期の看護、脳梗塞後遺症の看護、失語症患者の看護 (DP4) 事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人で情報を分類する。(DP3・4)
4	身体的側面のアセスメント (吉田、猪狩、平塚)	1. 演習 病態生理や加齢変化を踏まえて身体的側面のアセスメントをする。	事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人でアセスメントを行う。(DP3・4)
5	住環境のアセスメント (吉田、猪狩、平塚)	1. 演習 住環境(自宅外を含む)が及ぼす身体への影響をアセスメントする。	事前学習： 事例の自宅の間取りを書いてくる。(DP3) 事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人でアセスメントを行う。(DP3・4)
6	社会的側面のアセスメント (吉田、猪狩、平塚)	1. 講義と演習 事例を取り巻く環境を整理するためにエコマップの活用について確認する。また、事前学習を用いて、その他の社会的側面をアセスメントする。	事前学習： 1. 介護保険法について、他領域で学習した内容を活用してよいので、実習で用いるつもりで整理してくる。(DP4) 社会資源に関する配布資料を読んでくる。(DP5) 事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人でアセスメントを行う。(DP3・4)
7	心理的側面のアセスメント (吉田、猪狩、平塚)	1. 演習 事前学習を用いて心理的側面をアセスメントする。	事前学習： 1. 発達課題(家族の発達課題を含む)について、他領域で学習した内容を活用してよいので、実習で用いるつもりで整理してくる。(DP4) 事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人でアセスメントを行う。(DP3・4)
8	関連図の作成 (吉田、猪狩、平塚)	1. 演習 関連図によりアセスメントを再度整理する。	事前課題： これまでのアセスメントを用いて、関連図を作成する。(DP3・4) 事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人

I. 科目情報

科目名（日本語）	在宅看護学演習 II			単位	1
科目名（英語）	Clinical Practicum in Home Care Nursing II			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家受験資格		
標準履修年次	3	開講時期	後期		
担当教員	吉田恭子、猪狩崇、平塚淳子				
授業概要	在宅で生活する療養者及びその家族の生活や健康課題に対し、援助するための技術や方法について理解するとともに、それらを実践する能力を習得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、人体の構造と機能、病態生理				
テキスト	①臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版、3400円 ②臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②地域療養を支える技術 メディカ出版 2800円、または 河原加代子ほか 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院				
参考図書・教材等	基礎看護学、成人看護学、老年看護学で使用した看護技術やフィジカルアセスメントの資料				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が担当する。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。もしくは、オフィスアワーで回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	対象のニーズに応じた地域の社会資源を説明できる。
		(DP4)	訪問看護の場面を考え、対象者との信頼関係の構築に向けての意図的な行動を説明できる。 在宅看護学実習における自己の学習課題を説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	基礎的な看護技術の反復練習を行い、在宅における安全な看護技術を提供できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	在宅で療養生活を送る対象者（家族および重要他者を含む）の健康課題をホリスティックな視点で理解し、家庭にある物品を経済性や安全性を考慮したうえで工夫し実践することができる。また、実践の振り返りを理論を用いて、わかりやすく説明できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	対象者を理解し、在宅において安全安楽な看護技術を提供できる。		
成績評価の基準	S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
	在宅で療養生活を送る対象者（家族および重要他者を含む）の健康課題をホリスティックな視点で理解し、家庭にある物品を経済性や安全性を考慮したうえで工夫し実践することができる。また、実践の振り返りを理論を用いて、		

わかりやすく説明できる。すべての過程において主体的な学修を行うことができる。
A：80～89 履修目標を達成している。
在宅で療養生活を送る対象者（家族および重要他者を含む）の健康課題を身体的側面・社会的側面・心理的側面を統合して理解し、家庭にある物品を経済性や安全性を考慮したうえで工夫し実践することができる。また、実践の振り返りを理論を用いて、説明できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
在宅で療養生活を送る対象者（家族および重要他者を含む）の健康課題を身体的側面・社会的側面・心理的側面の一部を統合して理解し、家庭にある物品を経済性や安全性を考慮したうえで工夫し実践することができる。また、実践の振り返りを理論を用いて、説明できる。
C：60～69 到達目標を達成している。
在宅で療養生活を送る対象者（家族および重要他者を含む）の健康課題を身体的側面・社会的側面・心理的側面を個々に理解し、家庭にある物品を経済性や安全性を考慮したうえで工夫し実践することができる。また、実践の振り返りを理論を用いて、説明できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
在宅で療養生活を送る対象者（家族および重要他者を含む）の健康課題が理解できず、家庭にある物品を経済性や安全性を考慮したうえで工夫し実践することができない。また、実践の振り返りを理論を用いて、説明することができない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		10	30	20		40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	5	10	10		10	35
	(DP4)	5	10	10		25	50
関心・意欲・態度	(DP5)		10			5	15
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	演習オリエンテーション （吉田、平塚） 在宅における情報収集 （吉田）	1. 講義 演習オリエンテーションを行い、演習の進め方、確認テスト（看護技術と筆記）について説明する。	事前学習 1. 実習に向けた準備として次の項目についてノートを作成する。他領域で学習したノートを用いてよいが、演習や実習中に使いやすく整理する。ポジショニング、褥瘡ケアと予防ケア、便秘ケアと摘便、吸引、清拭・部分浴、在宅
2	看護計画立案および共有 （吉田） 演習計画立案および共有 （吉田）	実習に臨むための準備として、訪問時のマナーや介護保険法および障害者総合支援法によるケアマネ	

		<p>ジメントとケアプランを再度確認する。</p> <p>2～3人程度で在宅における情報収集の特徴を体験する。</p> <p>2.演習</p> <p>看護計画を立案し、6～7人程度のグループをつくりグループ内で共有する。その後、ケース別の演習計画を立案する。</p>	<p>酸素療法、在宅人工呼吸療法、経腸栄養法、フィジカルアセスメント (DP 4・5)</p> <p>2.ワーク：変化のあった事項に関するアセスメント、B：関連図を学習する。(DP 4)</p>
3 4 5	<p>看護技術（立案した直接的な技術項目）</p> <p>（平塚、吉田、猪狩）</p>	<p>1.演習</p> <p>6～7人または3～4人程度のグループをつくり、看護技術を練習し、改善点を共有する。福祉用具を活用しながら体位を整える技術、更衣を行う。在宅ケア領域では物品の取扱いが病院とは異なることを踏まえ、モデルを用いて吸引を行う。</p>	<p>事後学習</p> <p>できなかった看護技術を復習する。(DP 5)</p>
6 7	<p>看護技術（情緒的支援に関する項目）</p> <p>（吉田、猪狩、平塚）</p>	<p>1.講義</p> <p>他職種連携による会議の意義や目的について講義する。</p> <p>2.演習</p> <p>4～6人のグループで他職種の役割と対象のニーズを協議し、最善策を検討する。役割ごとの支援についても検討する。</p>	<p>事前学習</p> <p>1.テキスト①p101～129を読み、まとめてくる。(DP 3)</p> <p>2.ワーク：サービスの役割を学習する。(DP 3・4)</p> <p>3.障害者総合支援法その他関係法規について、次の項目をまとめなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害や疾病のある子どもの医療提供に関する法律、保育所および放課後デイサービスのような通いの場に関する根拠法とその特徴(事業概要、提供サービス、対象年齢)について ・障害者の医療提供に関する法律について (DP 3) <p>事後学習</p> <p>事例の状況に応じた対人関係を構築するために気を付けることについてまとめる。(DP 4)</p>
8	<p>確認テスト(看護技術、筆記)</p> <p>（吉田、猪狩、平塚）</p>	<p>1.テスト</p> <p>身体援助に関する看護技術の習得を確認する。筆記は在宅ケアを行うために必要な看護技術や関係法規に関する知識について問う。</p> <p>2.演習</p>	<p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク：対象の時間の使い方を学習する。(DP 4・5) ・確認テストで間違ったところを復習する。(DP 3・4)

	実習の目標を設定する。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニフォーム、髪形は実習と同じ準備をする。 ・演習はワークを用いて行うので、当日、提出する。 ・事前学習のなかで特に看護技術は他科目で用いたノートを活用してください。新たに作成する必要はありません。 ・確認テスト（看護技術、筆記）を行います、事前に練習をする場合の教室利用は申し出てください。

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○							○								
体験学習／調査学習					○	○	○	○	○	○									
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）				○															
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	在宅看護学実習			単位	2
科目名（英語）	Practicum in Home Care Nursing			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験		
標準履修年次	3・4年	開講時期	通年		
担当教員	吉田恭子、猪狩崇、平塚淳子				
授業概要	在宅で生活する療養者及び家族の健康課題をホリスティックにとらえ、看護過程を展開しながら、在宅療養における在宅看護の機能・役割及びその特性を理解する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	・臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ・臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②地域療養を支える技術 メディカ出版、または正野逸子編集 在宅看護技術 メヂカルフレンド社、または 河原加代子ほか 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院				
参考図書・教材等	成人看護学、老年看護学、小児看護学で用いたテキスト				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が担当する。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制	実習中に受け付ける。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	在宅看護の対象者のニーズや生活の特徴を捉え、療養生活上の課題を説明できる。 対象者の療養生活上の課題に対する看護計画の立案・実施と評価ができる。
		(DP4)	訪問事例への看護技術について、的確に記載することができる。 訪問事例への看護場面から学んだ在宅看護における自己の学習課題を説明できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	訪問事例と積極的に関わり、対象者と意思の疎通を図ることができる。
		(DP6)	保健医療福祉サービスの一員として、多職種との連携協働の必要性や看護の役割を説明できる。
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	継続看護における課題と社会資源の活用を説明できる。 訪問看護事業の機能と役割を説明できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
主体的な学修を行い、教員や実習指導者からのわずかな助言や指導があれば実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても十分に理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明し、自己の課題をすることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

<p>常時、教員や実習指導者から助言や指導を受け実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明することができる。</p>
<p>成績評価の基準</p>
<p>S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。</p>
<p>教員や実習指導者からのわずかな助言や指導があれば実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても十分に理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明し、自己の課題を明らかにすることができる。</p>
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p>
<p>教員や実習指導者からのわずかな助言や指導があれば実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても一部を理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明し、自己の課題を明らかにすることができる。</p>
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p>
<p>教員や実習指導者からの助言や指導があれば実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても一部を理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明し、自己の課題を明らかにすることができる。</p>
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p>
<p>常時、教員や実習指導者から助言や指導を受け実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明することができる。</p>
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。</p>
<p>常時、教員や実習指導者から助言や指導を受けても実習目標を達成すること、既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うこと、他職種連携において看護の役割を説明することができない。</p>

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		20		30	100
知識・理解	(DP1)	20				10	30
	(DP2)	10					10
思考・判断・表現	(DP3)	10				20	30
	(DP4)			10			10
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)		10		10		20
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	<p>詳細は「在宅看護学実習要項」に示す。</p> <p>1.実習施設：訪問看護ステーション、医療機関が行う訪問看護</p> <p>2.実習方法：上記の1施設につき学生2～4名が実習する。受持ち事例は1例、その他に訪問事例が数例あり、毎日、看護師に同行して、見学および看護実践を行う。担当教員は数名の学生を受け持ち指導する。 (吉田、猪狩、平塚)</p>	<p>臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、行動目標および計画を発表し、助言を得る。 ・特に行動計画は実習指導者に相談する。 ・対象者へのケアは、実習指導者の指導の下、実習を行う。 ・実習記録は実習指導者と教員へ提出し、指導を受ける。 <p>学内日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの共有や面接を行う。 <p>スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目：現地オリエンテーション、情報収集、同行訪問 ・2日目：同行訪問、情報収集（これ以降は同じ） ・第1木・金曜日：関連図の検討会 ・第2木曜日：看護計画発表、最終カンファレンス ・第2金曜日：学内にて学びの共有を行う 	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考	・動物等のアレルギーがある学生はお知らせください、実習施設に受持ち事例や訪問事例の調整を依頼します。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテックスアレルギーがある学生は申し出てください、アレルギーフリーの物品を準備しています。 ・実習施設の事情により直前に実習施設が変更される場合があります、その場合は早目に大学メールにて連絡します。
--	---

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	チーム医療論	単位	1
科目名（英語）	Team medical care theory	授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	2年	開講時期	前期
担当教員	尾形由起子・江上千代美 福田和美、古庄夏香 廣瀬理絵 小出昭太郎		
授業概要	超高齢社会の到来、医療の高度化・IT科に伴い、様々な課題を抱える現代の医療現場において、質の高いサポートを実現するためには、患者や対象者に対して、様々な専門職が連携して治療やケアにあたり、チーム医療における看護師の役割と今後の可能性について理解する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし。		
テキスト	各回の担当教員から別途資料を配布する。		
参考図書・教材等	1. チーム医療論, 鷹野和美編著, 医歯薬出版株式会社 2003 2. チーム医療とは何か, 日本看護協会出版会 2012		
実務経験を生かした授業	看護職としての実務経験を活かしのこれまでの実務経験で直面し同職種・多職種との連携・組織協働の必要性と活動事例を説明する。さらに、その実際に活動を行っている実践者との共同活動を含めた授業の組み立てを行う。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制	質問は授業終了後にも受け付けますが、メールでも対応します。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	医療機関における課題解決能力を高めるための連携・協働活動の意義と協働活動のための看護師の役割について理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	医療機関（施設）の組織構造や特徴、組織間の関係性に関わる概念について学ぶとともに、各専門職間におけるチームとして活動することの意義とチームにおける看護師のメンバーシップ・リーダーシップについて論じることができる。
		(DP4)	グループ討議の結果をまとめてチームのあり方について発表できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	医療現場のなかの課題解決の必要性について説明できる。
		(DP6)	専門分野の知識技術を用いて医療現場の課題解決に取り組もうとする。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
様々な課題を抱える現代の医療現場において、質の高いサポートを実現するためには、患者や対象者に対して、様々な専門職が連携して治療やケアにあたり、チーム内における看護師の役割を理解したうえで、今後のチームのそれぞれの役割をどのように発揮するかについて自身の見解を示すことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
様々な課題を抱える現代の医療現場において、質の高いサポートを実現するためには、患者や対象者に対して、様々な専門職が連携して治療やケアにあたり、チーム医療における看護師の役割について説明できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
医療現場で直面している課題を客観的・多角的視点から分析し、看護職としてチームにおける対処方略を提案できる。さらに、チームにおける活動の意義とチームにおける看護師のメンバーシップ・リーダーシップについて説明することができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

組織内における多職種に求められる役割について理解し、医療現場のなかの課題解決の必要性について説明することができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

医療機関内における多職種の役割や機能を踏まえ、看護職として求められる役割について自己の見解を示すことができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

患者にとって必要なチームのあり様とチーム医療における看護職がかかわる組織のなかでの活動内容とその活動について意味づけできる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

チーム医療の看護実践活動について理解できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	40	10		100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		50				50
思考・判断・表現	(DP3)			20	10		30
	(DP4)			10			10
関心・意欲・態度	(DP5)			10			10
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	1. ガイダンス（尾形） 2. チーム医療とは何か。 3. チームをつくるための組織におけるアセスメントするとは。	1. 講義 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 地域包括ケアシステムの構築においてチーム医療がなぜ必要であるのか、看護職としてシステム構築のために必要な看護技術について講義する。また、組織における連携における基礎知識についての理解を深める。さらに、事例を用いて具体的な看護展開のイメージをもたせ、今後の看護のあり様について検討する。	事前学習 ・ケアシステムにおける講読する（DP2） 事後学習 ・本日の講義課題についてレポートする（DP2）
2	我が国の保健・医療・福祉システムについて諸外国との比較－チーム医療における多職種間関係－（小出）	1. 講義 本日の授業概要および評価方法に	事後学習 ・本日の講義課題についてレポート

		<p>ついてガイダンスする。</p> <p>2. 講義</p> <p>保健・医療・福祉における各職種の役割は固定的なものではない。各職種の役割は国や時代によって異なり、ゆえに職種間の連携のありかたも固定的なものではない。この国や時代による差異には社会的な背景がある。以上のことなどを講義する。</p>	<p>する (DP2)</p>
3	<p>チーム医療の実際 (1)</p> <p>(福田和美)</p>	<p>1. 講義</p> <p>・患者の療養生活をサポートする様々な医療チームについての説明を行う。</p> <p>・栄養サポートチームの活動についての説明を行う。(栄養サポートを受ける患者の特徴、チームメンバーと各職種の役割、活動の実際など)</p> <p>2. グループワーク</p> <p>事例を基に患者を取り巻く職種の視点からチームでのケアについてディスカッションを行い、チームにおける看護師の役割について検討し、発表する。</p>	<p>事前学習</p> <p>・教科書等で栄養サポートチームについて学習しておく。(DP2)</p> <p>事後学習</p> <p>・本日の講義のテーマに関する課題レポート (DP2,3)</p>
4	<p>チーム医療の実際 (2)</p>	<p>1. 講義</p> <p>医療に携わるさまざまな職種の専門性を知り、対象者の治療、生活の質向上のために必要なチーム医療のあり方について考える (DP2)。</p> <p>2. グループワーク</p> <p>事例をもとに、チーム医療の中で看護師として誰にどのような連携をとるとよいか報告・連絡・相談の視点で検討する (DP2・4)。</p>	<p>事前学習</p> <p>医療に携わる職種と専門性について調べ、レポートする (DP2)</p>
5	<p>チーム医療の実際 (3) (古庄)</p>	<p>1. 講義</p> <p>緩和ケアの対象者とその特徴、そこで活躍する職種とその役割について説明する。また、緩和ケアにおけるチーム医療について説明する。(DP3)</p> <p>2. グループワーク</p> <p>緩和ケアにおける医療連携での看護師の役割についてグループで討議し、学びを発表する (DP2・4)</p>	<p>事前学習</p> <p>緩和ケアの病棟の特徴、緩和ケア病棟入院する患者の特徴に関する文献を購読する (DP2)</p> <p>事後学習</p> <p>・本日の講義課題についてレポートする (DP2・3)</p>
6	<p>チーム医療の倫理 (廣瀬)</p> <p>1. チーム医療の倫理性</p> <p>2. 倫理的効用を高めるチーム体制</p> <p>3. チーム医療と4分割表</p>	<p>1. 講義</p> <p>多職種の専門医療職が関わる「チーム医療」という形態について、医療倫理の観点から概説する。</p>	<p>事前学習</p> <p>・医療者の職業倫理について調べる。(DP2)</p> <p>事後学習</p> <p>・本日の講義課題についてレポート</p>

		2. グループワーク 事例を用いて医療チームの在り方を医療倫理の面から捉え、ディスカッションを行い、看護職として求められる役割について検討する。(DP2・4)	する (DP2)
7	病院内外のチーム医療について ゲストティーチャー	1. 講義 入院中の患者さんの退院支援に向けての多職種の専門医療職で行っている「チーム医療」についての実際について説明する。 3. 事例提供 チームで実際に行っている事例展開を踏まえ、ディスカッションを行い、看護職としての役割について検討する。(DP2・4)	事前学習 ・これまでのレポートを整理しておく。(DP2) 事後学習 ・本日の講義課題についてレポートする (DP2)
8	効果的なチームアプローチの具体的方法	1. 講義 (15分) チーム医療の事例検討した内容をもとに、多職種の役割について学ぶ。 2. グループワーク (75分) ①医療現場で直面している課題を客観的に出しあう (20分) ②看護職としてチームにおける対処方略を提案する (20分) (D3) ③チームにおける活動の意義とチームにおける看護師のメンバーシップについて意見交換する。さらに、リーダーシップについて、必要なリーダー像を話し合う。(10分) ・発表 (25分)	事前学習 ・ケアシステムにおける講読する (DP2) 事後学習 ・本日の講義課題についてレポートする (DP2)
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○							○							
その他 ()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	国際看護学		単位	1単位	
科目名（英語）	International Nursing		授業コード		
必修・選択	選択	関連資格			
標準履修年次	2年	開講時期	後期		
担当教員	石田智恵美				
授業概要	グローバル化している現代は、海外に出かけなくても、日常生活の中で国際的な視野を必要とされる場面が多い。国際看護論では、世界の健康問題と看護の現状およびその課題について学び、看護実践を行う際に必要となる国際的な視野を養う。将来海外で看護を実践したいという学生のためだけでなく、日本の中での看護実践に役立つ考え方や見方ができる能力を身に付ける。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等	適宜配布する。				
実務経験を生かした授業	海外で緊急救援・復興支援の活動経験および、外国人への研修経験のある教員が授業を担当する。			授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	※授業時間外の質問には、原則メールで対応する。emishida@fukuoka-pu.ac.jp または、アポイントメントをとり来室してください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	国際的な視野を持ち、人間とその生活を多角的に理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	国際看護の目的を理解し、日本のみならず世界の人々の健康の現状と課題について理解することができる。
		(DP4)	国際協力を求められる考え方を育み、自己の考えを表現することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
世界の人々の健康の現状について理解し、看護職者の役割と実践について考えることができる。 災害時における健康問題とその課題および、看護師の役割を理解できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
世界の人々の健康の現状について理解し、看護職者の実践を理解できる。 災害時における健康問題とその課題および、看護師の役割について考えることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

世界の人々の健康の現状と課題について理解し、国内外での看護職者の果たすべき役割と実践について自己の考えを述べることができる。

災害時における健康問題とその課題に対する看護師の役割について自己の考えを述べるができる。

A：80～89 履修目標を達成している。

世界の人々の健康の現状と課題について理解し、看護職者の役割について考えることができる。

災害時における健康問題とその課題および、看護師の役割について考えることができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

世界の人々の健康の現状と課題を知り、看護職者の役割について考えることができる。

災害時における健康問題とその課題および、看護師の役割について考えることができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

世界の人々の健康の現状と課題について理解し、看護職者の実践を理解できる。

災害時における健康問題と看護師の役割について考えることができる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

世界の人々の健康問題について理解できない。また、看護師の役割について考えることができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50				50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10			10	20
思考・判断・表現	(DP3)		20			10	30
	(DP4)		20			30	50
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	グローバリゼーションの概念	○コースオリエンテーション ○グローバリゼーションの考え方 ○世界がもし100人の村だったら ○世界の健康問題 発問・応答の系列で進める。	事後学習：日本の健康問題とその要因、世界の健康問題とその要因について比較し、整理する。(DP1)、(DP3) *事後学習90分
2	グローバリゼーションの影響 グローバルヘルス	○国際社会の中の看護 ○看護のグローバル化と国際看護学 ○国際看護学の考え方 ○看護のグローバリゼーション	事前学習：グローバル化の意味について調べておく。(DP1)、(DP3) 事後学習：グローバル化と看護について整理する。(DP1)、(DP3)

		スライドと資料を基に、講義形式を進める。1回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	*事前学習 60分 事後学習 60分
3	開発と健康	<ul style="list-style-type: none"> ○開発途上国とその要因 ○貧困が引き起こす不健康 ○健康水準を示す指標 ○社会的・文化的要因と健康問題 ○女性の教育向上と保健指標 ○リプロダクティブ・ヘルス ○自然災害と開発 スライドと資料を基に、講義形式を進める。2回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事前学習：開発途上国の健康問題について調べておく。(DP1)、(DP3) 事後学習：開発途上国の健康問題と改善策について整理する。また、自然災害と健康問題について整理する。(DP1)、(DP3) *事前学習 60分 事後学習 60分
4	国際医療・看護と災害害	<ul style="list-style-type: none"> ○災害に関わる基礎知識 ○災害の定義 ○災害医療/看護の考え方 ○Disaster cycle ○Triage スライドと資料を基に、講義形式を進める。3回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事前学習：国内で起こった災害の現状と課題について調べておく。(DP1)、(DP3) 事後学習：災害の定義と考え方、トリアージについて整理する。(DP1)、(DP3) *事前学習 60分 事後学習 60分
5	国際協力のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ○国際協力の種類 スライドと資料を基に、講義形式を進める。4回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事前学習：世界で活躍する医療チームについて調べておく。(DP1)、(DP3) 事後学習：国際協力の種類と概要について整理する。(DP1)、(DP3) *事前学習 60分 事後学習 60分
6	保健医療の国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人の研修受け入れと教育 スライドと資料を基に、講義形式を進める。5回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事後学習：さまざまな国の教育システムや価値観を理解し、教育や看護との関係を整理する。(DP1)、(DP3) *事前学習 60分 事後学習 60分
7	国際看護の実践 1	<ul style="list-style-type: none"> ○海外における看護実践 パキスタンにおける看護活動と教育 スライドと資料を基に、講義形式を進める。6回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事後学習：海外における看護活動で配慮すべき点や気づきをまとめる。(DP1)、(DP3)、(DP4) *事後学習 90分
8	国際看護の実践 2	<ul style="list-style-type: none"> ○海外における看護実践 インドネシアにおける復興支援活動と看護 スライドと資料を基に、講義形式を進める。7回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事後学習：海外における看護活動で配慮すべき点や気づきをまとめる。(DP1)、(DP3)、(DP4) *事後学習 90分
備考	最終課題レポート作成：グローバル社会における看護師の役割について/災害時における看護師の役割について 7.25 時間 ・焦点を絞りテーマをつける ・表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する。		

・提出期限および方法は授業の中で説明する。

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	○															
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	医療安全			単位	1
科目名（英語）	Medical safety			授業コード	講義
必修・選択	必須	関連資格	看護師		
標準履修年次	2	開講時期	前期		
担当教員	江上千代美 尾形由起子 村田和子 田中美樹 安永薫梨 淵野由夏				
授業概要	医療内容の複雑、高度化、社会構造の変化、国際化等により、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。とくに、社会的に注目されている医療事故に対しては、適切なリスクマネジメントが求められている。本講義では看護における医療安全にかかわる知識を習得し、医療の安全を確保することが患者および医療従事者の両者にとって重要であることについて学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 著者 川村 治子				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業					授業中の 撮影
学習相談 ・助言体制	授業初日に通知する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	医療安全の考え方を理解し、さまざまな医療、看護場面で発生しやすい事故について危険とその要因を予測するとともに事故防止策について考えることができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	看護学生として臨地実習における医療安全について思考し、根拠に基づき判断し、適切に表現できる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	医療安全の考え方を理解し、さまざまな医療、看護場面で発生しやすい事故について危険とその要因を予測するとともに多角的な視点から事故防止策について考えることができる。また、臨地実習における医療安全について思考し、根拠に基づき判断し、適切に表現できる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	医療安全の考え方を理解し、医療、看護場面で発生しやすい事故について危険とその要因を予測するとともに、事故防止策について考えることができる。また、臨地実習における医療安全について思考し、根拠に基づき判断し、適切に表現できる。		
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	医療安全の考え方を理解し、さまざまな医療、看護場面で発生しやすい事故について危険とその要因を予測するとともに多角的な視点から事故防止策について考えることができるだけでなく、医療事故防止の対策を情報収集し、解決策について考えられている。また、臨地実習における医療安全について思考し、根拠に基づき判断し、適切に表現できる。
A：80～89	履修目標を達成している。
	医療安全の考え方を理解し、さまざまな医療、看護場面で発生しやすい事故について危険とその要因を予測するとともに多角的な視点から事故防止策について考えることができる。また、臨地実習における医療安全について思考し、根拠に基づき判断し、適切に表現できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	医療安全の考え方を理解し、さまざまな医療、看護場面で発生しやすい事故について危険とその要因を予測するとともに事故防止策について考えることができる。また、臨地実習における医療安全について思考し、根拠に基づき判断し、適切に表現できる。
C：60～69	到達目標を達成している。
	医療安全の考え方を理解し、さまざまな医療、看護場面で発生しやすい事故について危険とその要因を予測するとともに事故防止策について考えることができる。また、臨地実習における医療安全について思考判断し、適切に表現できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	医療安全の考え方は理解しているが事故の危険因子とその防止策について考えることができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	70%		10%			80%
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)			20%			20%
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1 江上	医療安全とは 看護師の法的責任と医療安全	講義とグループ・ディスカッションを用いて授業をすすめる。	事前課題： 「医療事故の事例を2つあげ、何が原因と考えられるか」レポートA4する。
2 江上	組織的な医療安全への取り組み	講義とグループ・ディスカッションを用いて授業をすすめる。	

3 村田	看護事故のメカニズムと看護事故防止（リスクマネジメント）の考え方	講義とグループ・ディスカッションを用いて授業をすすめる。	事前課題： 「施設や病院が取り組んでいる医療安全対策についてまとめる」
4 田中	看護における医療事故と安全対策（小児）ヒヤリ・ハット、医療事故の事例分析1	講義とグループ・ディスカッションを用いて授業をすすめる。	事前課題： 「子どもの医療事故について取り上げ、何が原因と考えられるか」
5 安永	看護における医療事故と安全対策（障害）ヒヤリ・ハット、医療事故の事例分析2	講義とグループ・ディスカッションを用いて授業をすすめる。	事前課題： 「障害のある人の医療事故について取り上げ、何が原因と考えられるか」
6 尾形	看護における医療事故と安全対策（在宅および地域）ヒヤリ・ハット、医療事故の事例分析3	講義とグループ・ディスカッションを用いて授業をすすめる。	事前課題： 「地域や在宅の場面での医療事故について取り上げ、何が原因と考えられるか」
7 江上	医療安全： リスク感性を身につける	アクティブ・ラーニング 医療安全教育シミュレーションについてさまざまな危険な看護場面をどうすると安全に保たれるか代案策をグループで考え、発表する。	事前課題： e-learning にアップされている医療安全教育シミュレーションを確認しておく。
8 淵野	看護学生の実習と安全	講義とグループ・ディスカッションを用いて授業をすすめる。	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし								
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8
発見学習／問題解決学習										
体験学習／調査学習										
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）										
内容										

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護管理論			単位	1 単位
科目名（英語）	Nursing Management			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	4 年	開講時期	後期		
担当教員	石田智恵美				
授業概要	看護管理は、看護師が対象者(患者)に提供するケアのマネジメントを核として、それを包含した看護サービス全体のマネジメント、さらに制度・政策との関連を含めた概念である。本授業では、看護の提供および患者の安全確保のために必要な、看護マネジメントの基礎的知識を獲得する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	系統看護学講座看護統合と実践 [1] 看護管理 医学書院				
参考図書・教材等	看護管理学習テキスト看護管理概説 日本看護協会出版会 看護管理学習テキスト看護管理基本資料集 日本看護協会出版会				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無
学習相談・助言体制	e-mail でアポイントを取ってください。石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	患者の安全性を確保するための、安全管理の基本的な知識および技術を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	看護の提供者として看護管理に対する自己の考えを構築することができる。
		(DP 4)	市場サービスの特性を理解し看護サービスの質向上に活用できる
	関心・意欲・態度	(DP 5)	医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みを考察できる。
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点を理解し、運営に必要な知識および技術について述べることができる。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みおよび看護サービスの質向上への方策について考察することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点および、運営に必要な知識および技術について理解する。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みおよび看護サービスの質向上への課題について考えることができる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点を理解し、運営に必要な知識および技術について述べることができる。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みを考察し、看護サービスの質向上への方策を提案することができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点および、運営に必要な知識および技術について理解する。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みおよび看護サービスの質向上への課題および方策について述べることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点および、運営に必要な知識および技術について理解する。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みおよび看護サービスの質向上への課題について述べることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点および、運営に必要な知識および技術について理解する。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みおよび看護サービスの質向上への課題について考えることができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点および、運営に必要な知識および技術について理解できない。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みおよび看護サービスの質向上への課題について考えることができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30					100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	25	10				35
思考・判断・表現	(DP3)	10	10				20
	(DP4)	25					25
関心・意欲・態度	(DP5)	10	10				20
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	看護管理の意義	○看護管理の定義 ○看護ケアのマネジメント ○看護職の機能のマネジメント スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。	事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4)、(DP3) 看護管理の必要性および看護管理が取り扱う範囲について整理する。(DP4)、(DP3) *事前学習：60分 事後学習：100分
2	看護ケアのマネジメント1	○安全管理 ○DVDの視聴 DVDのヒヤリ・ハット場面から、看護技術を振り返る。1回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP2) 事後学習：看護場面で起こりやすい自己について、実習場を振り返りながら整理する。(DP2) *事前学習：60分 事後学習：100分

3	看護ケアのマネジメント 2	<ul style="list-style-type: none"> ○医療事故と医療過誤 ○法的責任 <p>2 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。</p>	<p>事前学習： テキストの第 2 章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP2)</p> <p>事後学習：医療事故と法的責任について、国家試験の過去問の該当箇所を解き、理解を深める。(DP2)</p> <p>* 事前学習：60 分 事後学習：100 分</p>
4	看護サービスのマネジメント 1	<ul style="list-style-type: none"> ○看護組織 ○教育（人材育成） ○労働環境 ○設備管理 <p>3 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。</p>	<p>事前学習： テキストの第 4 章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4)、(DP5)</p> <p>事後学習：講義内容を整理し、該当する国家試験関連問題を解き理解を深める。(DP4)、(DP5)</p> <p>* 事前学習：60 分 事後学習：100 分</p>
5	看護サービスのマネジメント 2	<ul style="list-style-type: none"> ○情報のマネジメント ○リスクマネジメント ○評価 <p>4 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。</p>	<p>事前学習： テキストの第 4 章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4)、(DP5)</p> <p>事後学習：講義内容を整理し、該当する国家試験関連問題を解き理解を深める。(DP4)、(DP5)</p> <p>* 事前学習：60 分 事後学習：100 分</p>
6	組織行動 1	<ul style="list-style-type: none"> ○組織行動学の目的 ○多国籍組織 ○文化の違い ○組織の中の個人 <p>5 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。</p>	<p>事前学習： テキストの第 5 章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4)</p> <p>事後学習：組織の中での人の行動について整理する。(DP4)</p> <p>* 事前学習：60 分 事後学習：100 分</p>
7	組織行動 2	<ul style="list-style-type: none"> ○組織の中の集団 <p>6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。</p>	<p>事前学習：テキストの第 5 章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4)</p> <p>事後学習：看護職者の集団と効果的な組織運営について整理する。(DP4)</p> <p>* 事前学習：60 分 事後学習：100 分</p>
8	関連法規	<ul style="list-style-type: none"> ○健康の概念 ○看護の概念 ○人権、患者の権利と倫理 ○看護業務管理 <p>6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。</p>	<p>事前学習： テキストの第 5 章および関連資料を読み、疑問点などをまとめておく。(DP2)、(DP4)</p> <p>事後学習：関連法規について、国家試験関連問題を解き理解を深める。(DP2)、(DP4)</p> <p>* 事前学習：60 分 事後学習：100 分</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○		○	○	○	○		○								
体験学習／調査学習																			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																			
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護教育学			単位	1単位
科目名（英語）	Nursing Education			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	石田智恵美 清水夏子				
授業概要	これまで受けてきた教育を通して、教育とは何かについて考える。また、看護領域における教育について、歴史・思想・制度・目的・方法などを学び、看護教育に関する現状と課題、将来の展望について考察する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	テキスト：グレッグ美鈴・池西悦子編集 看護教育学 南江堂				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無
学習相談 ・助言体制	※授業時間外の質問には原則メールで対応する。 石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp 清水：shimizu@fukuoka-pu.ac.jp または、アポイントメントをとって来てください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	教育の位置付けと考え方を理解することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	看護教育学を教育の視点で考察することができる。
		(DP4)	看護教育の現状と課題について述べるすることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 看護教育と学習の必要性を理解し、自己の学習方法の課題を明らかにすることができる。 看護教育の現状から課題を明らかにし、今後の展望を明らかにすることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 看護教育と学習の必要性を理解する。 看護教育の現状から課題を考察することができる。		
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 看護教育と学習の必要性を理解し、自己の学習方法の課題とその方略を述べるすることができる。 看護教育の現状から課題を明らかにし、今後の展望を提案することができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

看護教育と学習の必要性を理解し、自己の学習方法の課題と方略を考察することができる。 看護教育の現状から課題を考察することができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
看護教育と学習の必要性を理解し、自己の学習方法の課題を明らかにすることができる。 看護教育の現状から課題を考察することができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
看護教育と学習の必要性を理解する。 看護教育の現状から課題を考察することができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。
看護教育と学習の必要性を理解することができない。 看護教育の現状から課題を考察することができない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10				10
思考・判断・表現	(DP3)		20			25	45
	(DP4)		20			25	45
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1	看護教育学とは (石田・清水)	○教育はなぜ必要か ○教育における看護教育・看護教育学について発問・応答の系列で進める。	事後学習：教育の必要性および看護教育の必要性について整理する。(DP2) *事後学習 60分
2	看護専門職としての看護 看護教育の目的 -大学卒業者に期待される役割- (石田・清水)	○看護の専門性と看護実践 ○専門職とは ○看護師養成の歴史的背景 ○学士課程における人材育成 1回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。(DP3) 事後学習：卒業時の到達目標をイメージする。(DP3) *事前学習 60分 事後学習 60分
3	看護教育制度と教育課程 (石田・清水)	○明治・大正・昭和(戦時期)にお	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑

		<p>る看護教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戦後の制度改革 ○看護基礎教育の学校教育化 ○教育課程と評価 <p>2 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。</p>	<p>問点などをまとめておく。(DP3)</p> <p>事後学習：現在の教育課程の成立を歴史的な背景で整理する。(DP3)</p> <p>* 事前学習 60分 事後学習 60分</p>
4	<p>学習理論と学習方法 1 (石田・清水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習とは(行動主義・認知科学との比較) ○機械の学習と人間の学習 ○熟達者になるには <p>3 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。</p>	<p>事前学習：自己の今までの学習方法について振り返る。(DP2)</p> <p>事後学習：学習の意味と、実践者に求められる学習を比較し、理解する。(DP2)</p> <p>* 事前学習 60分 事後学習 60分</p>
5	<p>学習理論と学習方法 2 (石田・清水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習/教授モデル ○学習の順序性とストラテジー ○学習の系統性を重視するストラテジー ○学習者中心主義のストラテジー <p>4 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、義形式で進める。</p>	<p>事前学習：自己の今までの学習方法とそのメリット・デメリットについて考える。(DP2)</p> <p>事後学習：知識の種類によって最適な学習方法が異なることを理解し、己の学習方法を再考する。(DP2)</p> <p>* 事前学習 60分 事後学習 60分</p>
6	<p>授業形態と教授方略 (石田・清水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○看護基礎教育の組み立て ○活用できる知識とは ○問題解決の種類 ○知識の分類 ○学習者の知識構造 ○知識の構造化 <p>5 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、義形式で進める。</p>	<p>事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。(DP2)</p> <p>事後学習：看護基礎教育の中での知識の獲得について理解し、己の学習方法を再考する。(DP2)</p> <p>* 事前学習 60分 事後学習 60分</p>
7	<p>教育評価 (石田・清水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教育評価とは ○評価の目的 ○信頼性と妥当性 ○絶対評価と相対評価 ○看護教育における評価 <p>6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、義形式で進める。</p>	<p>事前学習：テキストの該当箇所を読み、問点などをまとめておく。(DP3)</p> <p>事後学習：自己の講義・演習・実習の評価に活用する。(DP3)</p> <p>* 事前学習 60分 事後学習 60分</p>
8	<p>看護継続教育 看護教育の課題と展望 (石田・清水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○継続教育の必要性 ○卒後教育の制度 ○臨床における看護教育 ○継続教育とクリニカルラダー 	<p>事前学習：テキストの該当箇所を読み、問点などをまとめておく。(DP4)</p> <p>事後学習：卒業後のキャリアアップのイメージをつける。(DP4)</p> <p>* 事前学習 60分 事後学習 60分</p>

		7 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、義形式を進める。	
備考	最終課題レポート作成：看護教育の課題と展望 8.5 時間 ・焦点を絞りテーマをつける ・表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する。 ・提出期限および方法は授業の中で説明する。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし	○															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護実践論			単位	1単位
科目名（英語）	Theory of Nursing Practice			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	国家試験受験資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	石田智恵美 清水夏子				
授業概要	3年次の実習への導入として、実習中に起こり得る出来事をシミュレーションし、未来を予測した問題解決を実践する。また、個人ワークに基づいたグループワークを行うことで、自らの判断基準を広げる。その方法として、ポートフォリオを活用したプロジェクト学習・ワークシートを活用した演習を行う。看護実践の一貫としてCPR（心肺蘇生法）を演習する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	特になし				
参考図書 ・教材等	必要に応じて配布、紹介する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	有
学習相談 ・助言体制	※授業時間外の質問には原則メールで対応する。 石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp 清水：shimizu@fukuoka-pu.ac.jp または、アポイントメントをとって来てください。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	CPRに関する基礎的な知識を獲得することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	基礎看護技術を活用して、事例課題を解決することができる。 タスクマネジメントを通して、看護の優先度を考察することができる。
		(DP4)	グループワークの発表を通して、考えを適切に説明する方法を理解することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	CPRの演習を通して実生活に活用する方法を理解する。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
CPRに関する基礎的な知識・技術について確認することができる。 事例課題の解決に向けて基礎看護技術を活用する方法を理解できる。 タスクマネジメントを通して看護の優先度について考察することができる。 グループワークを通して自己の考えを明確化できる。			
CPRに関する基礎的な知識・技術について確認することができる。 事例課題の解決に向けて基礎看護技術を活用する方法を理解できる。 タスクマネジメントを通して看護の優先度について考察することができる。 グループワークを通して自己の考えを明確化できる。			

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 CPRに関する基礎的な知識・技術を用いて適切に実施することができる。 基礎看護技術に関する知識を活用して事例課題を解決することができ、実践することができる。 タスクマネジメントを通して看護の優先度を決定し、実践することができる。 グループワークの発表を通して自己の考えを適切に説明することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 CPRに関する基礎的な知識・技術を用いて実施することができる。 事例課題の解決に向けて基礎看護技術を活用する方法を理解し実践することができる。 タスクマネジメントを通して看護の優先度について考察することができる。 グループワークを通して自己の考えを明確化し、説明できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 CPRに関する基礎的な知識・技術について確認することができる。 事例課題の解決に向けて基礎看護技術を活用する方法を理解し実践することができる。 タスクマネジメントを通して看護の優先度について考察することができる。 グループワークを通して自己の考えを明確化できる。
C：60～69	到達目標を達成している。 CPRに関する基礎的な知識・技術について確認することができる。 事例課題の解決に向けて基礎看護技術を活用する方法を理解できる。 タスクマネジメントを通して看護の優先度について考察することができる。 グループワークを通して自己の考えを明確化できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 CPRに関する基礎的な知識・技術について知る。 事例課題の解決に向けて基礎看護技術を活用する方法を知る。 タスクマネジメントを通して看護の優先度の必要性がわかる。 自己の考えを明確化できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20		30		50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)					10	10
思考・判断・表現	(DP3)	5		10		20	35
	(DP4)	15		20		10	45
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					10	10
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習	
			【1単位授業 1回平均】160分（8回）	45分（15回）
			【2単位授業 1回平均】180分（15回）	45分（30回：通年）
			90分（30回：半期2コマ連続）	

1	コースオリエンテーション (石田 清水) 実習を乗り切るアイデア集を作ろう (石田 清水)	○本日のスケジュールについて ○実習を乗り切るためのテーマ決定 ○模造紙にテーマに沿ってアイデアを作成 ○各グループ発表 ○意見交換 グループワーク・全体発表で進める。	事後学習： 実習を乗り切るアイデア集を基に各論実習に向けて準備を行う。(DP3)、(DP4) *事後学習 90分
2			
3		○Vital signs ・体温と体温測定に関する知識と技術 ・血圧と血圧測定に関する知識と技術 スライドを参考にしながら、ワークシートの問いに対して、個人ワーク・グループワークを通して解決策を提案し、全体発表で共有する。	事後学習：Vital signs の知識と技術について整理し、実習で活用できるように準備をする。(DP3)、(DP4) *事後学習 45分
4		○皮膚の機能と関連する看護技術 ・皮膚の機能 ・皮膚の機能を保つ援助技術(清拭足浴) スライドを参考にしながら、ワークシートの問いに対して、個人ワーク・グループワークを通して解決策を提案し、全体発表で共有する。	事後学習：皮膚の機能と関連する看護技術の知識と技術について整理し、実習で活用できるように準備をする。(DP3)、(DP4) *事後学習 45分
5		○呼吸に関する援助技術 ・呼吸・循環系 ・酸素が細胞に運ばれるプロセス ・呼吸が障害される場合 ・呼吸を楽にするために スライドを参考にしながら、ワークシートの問いに対して、個人ワーク・グループワークを通して解決策を提案し、全体発表で共有する。	事後学習：呼吸・循環系に関連する看護技術の知識と技術について整理し、実習で活用できるように準備をする。(DP3)、(DP4) *事後学習 45分
6		○タスクマネジメントとは ○看護場面のシミュレーションを通して多重課題の優先度を決定する ワークシートの問いに対して、個人ワーク・グループワークを通して解決策を提案し、全体発表で共有する。	事後学習：多重課題へのマネジメントを通して、自己の優先度の判断基準を明確にする。また、グループワークによる気づきをまとめる。(DP3)、(DP4) *事後学習 45分
7		○BLS の基礎知識 ○BLC の手順 ○演習/練習問題	事後学習：BLS に関する知識と演習を振り返り、日常生活の中で遭遇した際に使える知識とする。(DP2)、(DP10) *事後学習 90分
8		スライドと資料により BLS の基礎知識をと手順を理解したのち、4～6人のグループでシミュレータを使って BLS の演習を行う。練習問題で知識の確認を行う。	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																	
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習				○	○	○	○	○	○										
体験学習／調査学習										○	○								
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○										
その他（ ）																			
内容																			

I. 科目情報

科目名（日本語）	教師論（看護学部）			単位	2単位
科目名（英語）	Introduction to Teaching			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭免許資格		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	石田智恵美				
授業概要	こどもを理解することを通して、望ましい教師-児童・生徒の関係、教師に求められる資質、教師としての成長について理解を深める。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	苫野一徳著、教育の力、講談社現代新書 刈谷剛彦著、学力と階層、朝日文庫 中脇初枝著、きみはいい子、ポプラ社				
参考図書 ・教材等					
実務経験を 生かした授業				授業中 の撮影	無
学習相談 ・助言体制	※授業時間外の質問には、原則メールで対応する。emishida@fukuoka-pu.ac.jp または、アポイントメントをとり来室すること。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について考察することができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を明らかにすることができる。 こどもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性を理解することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について理解できる。 自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を明らかにすることができる。 こどもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性を述べるることができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
到達目標	養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について理解できる。 自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を考察することができる。 こどもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性がわかる。		

成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について自己の考えを述べることができる 自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を述べるができる。 子どもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性を述べるができる。
A：80～89	履修目標を達成している。 養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について考察できる。 自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を明らかにすることができる。 子どもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性がわかる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について考察できる。 自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を考察することができる。 子どもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性がわかる。
C：60～69	到達目標を達成している。 養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について理解できる。 自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を考察することができる。 子どもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性がわかる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。 養護教諭の役割、教育に対する考え方や期待される教師像について理解できない。 自己の課題を考察することができない。 子どもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性について理解できない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20		40		40	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	10		20		20	50
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)	10		20		20	50
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	私の教師像 教育に対する考え方	○自己紹介（養護教諭コースを選んだ理由・教師観）	事前学習：教育に対する考え方および教師像について考えをまとめておく。（DP5）

		○教育に対する考え方 について発問・応答の系列で進める。	事後学習：自己の教育に対する考え方について整理する。(DP5) *事前学習 90分 事後学習 90分
2	教員養成制度と教育職員免許法	○教員養成制度 ○教育職員免許法 1 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：教育職員の免許法について調べ学習をしておく。(DP3) 事後学習：教員養成制度と教育職員免許法について整理する。(DP3) *事前学習 90分 事後学習 90分
3	児童・生徒および家族を含めた教員としての関わり①	○子どもと大人 2 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料を基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習：子どもと大人の資料を読んでおく。(DP5) 事後学習：子どもと大人の違い、子どもの概念について整理する。(DP5) *事前学習 90分 事後学習 90分
4	児童・生徒および家族を含めた教員としての関わり②	○子どもと大人 3 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料を基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習：子どもと大人の資料を読んでおく。(DP5) 事後学習：子どもと大人の違い、子どもの概念について整理する。(DP5) *事前学習 90分 事後学習 90分
5	学校教育の目的と教職の位置付け	○自由の相互承認の原理 ○平等と競争・多様化の重要性 4 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、担当者の資料を基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習：テキスト「教育の力」序章を読んでおく。(DP3) 事後学習：学校教育の目的と教職の位置付けを整理する。(DP3) *事前学習 90分 事後学習 90分
6	学校教育の目的と教職の位置付け	○学力の概念 ○学力格差 5 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、担当者の資料を基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習：テキスト「教育の力」第1章を読んでおく。(DP3) 事後学習：学校教育の目的と教職の位置付けを整理する(DP3) *事前学習 90分 事後学習 90分。
7	専門家とその連携および専門職としての課題解決(チーム学校運営)	○学びの個別化 ○学びの協働化 6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、担当者の資料およびテキストを基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習：テキスト「教育の力」第2章を読んでおく。(DP3) 事後学習：学習者の成長を育む教育の連携について整理する。(DP3) *事前学習 90分 事後学習 90分
8	学校教育の目的と教職の位置付け	○学力評価 ○高等教育の問題 6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、担当者の資料およびテキストを基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習：テキスト「教育の力」第5章を読んでおく。(DP3)、(DP5) 事後学習：講義内容を整理し、教員に求められる資質を整理し、自己の課題を考察する。(DP3)、(DP5) *事前学習 90分 事後学習 90分
9	教員としての資質と継続教育	○教師の資質とは ○これからの社会と教員に求められる資質能力 8 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、担当者の資料およびテキストを基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習：テキスト「教育の力」第7章を読んでおく。(DP3)、(DP5) 事後学習：講義内容を整理し、教員に求められる資質を整理し、自己の課題を考察する。(DP3)、(DP5) *事前学習 90分 事後学習 90分
10	教育を取り巻く社会と学校運営とのつながり	○学力と階層 ○義務教育の機会が平等か 9 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、担当者の資料およびテキストを基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習：テキスト「学力と階層」第1・2章を読んでおく。(DP3) 事後学習：社会と学校運営における課題について整理する。(DP3) *事前学習 90分 事後学習 90分

11	学校教育制度と教職の役割について：歴史的な視点で考察する	○教育改革 ○学制 ○教育課程 10 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライド・資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習：テキスト「学力と階層」の第3・4章を読んでおく。(DP3) 事後学習：学校教育制度の歴史と意義および教職の役割を整理する。(DP3) *事前学習 90分 事後学習 90分
12	教育を取り巻く社会と学校運営とのつながり	○学歴社会から学習資本主義社会へ 11 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、担当者の資料およびテキストを基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習： テキスト「学力と階層」第5章を読んでおく。(DP3) 事後学習： 社会と学校運営における課題について整理する。(DP3) *事前学習 90分 事後学習 90分
13	児童・生徒および家族を含めた教員としての関わり③	○学校教育 ○家庭教育 ○社会教育 12 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習： テキスト「きみはいい子」のを読んでおく。(DP5) 事後学習： 教員の関わりかたについて考察する。(DP5) *事前学習 90分 事後学習 90分
14	児童・生徒および家族を含めた教員としての関わり④	○学校教育 ○家庭教育 ○社会教育 13 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、ディスカッション形式で進める。	事前学習： テキスト「きみはいい子」を読んでおく。(DP5) 事後学習： 教員の関わりかたについて考察する。(DP5) *事前学習 90分 事後学習 90分
15	私の教師観と課題	○初回の自己の教師観との比較 ディスカッション形式で進める。	事前学習： 自己の教師観をまとめておく。(DP5) *事前学習 90分
備考	最終課題レポート作成：私の教育観 (第15回目の事後学習90分を含む) ・焦点を絞りテーマをつける ・表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する ・提出期限および方法は授業の中で説明する。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	看護情報学	単位	1tann
科目名（英語）	Nursing Informatics	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	2年次	開講時期	後期
担当教員	増満 誠		
授業概要	「看護情報学とはコンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせることによって看護についてのデータ、情報、知識の処理と管理を行い、臨床看護と看護ケアの提供を支援するものである」という定義を踏まえ、看護における情報について、情報を得ること、その捉え、活用方法を演習（CST：コミュニケーション感性トレーニング）を通して体系的に学ぶ。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	PC操作の基本的技術。		
テキスト	なし		
参考図書・教材等	授業時に適宜紹介する。		
実務経験を生かした授業	名古屋大学医学部附属病院集中治療室電子カルテ化プロジェクトメンバー	授業中の撮影	有
学習相談・助言体制	授業は受講者のレディネスや授業進行に伴う理解度、個々人の到達目標に合わせ集団又は個別に演習を進めていきます。相談がある場合は、授業終了直後かメールでの対応、または直接研究室を訪ねてください。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	看護における情報について、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。
		(DP4)	適切なデータや情報を活用し自己の意見を述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	看護におけるあらゆる現象を的確に捉えることや活用する方法を主体的に探求することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	あらゆる看護にまつわる情報の中から適切な情報を取捨選択し活用することができる。
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。そしてそれらのデータや情報を活用し自己の意見を述べるができる。さらには、看護におけるあらゆる現象を的確に捉えることや活用する方法を主体的に探求することができる。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
到達目標	看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。		
成績評価の基準			

S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。そしてそれらのデータや情報を活用し自己の意見を述べるができる。さらには、看護におけるあらゆる現象を的確に捉えることや活用する方法を主体的に探求することができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。そしてそれらのデータや情報を活用し自己の意見を述べることができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考え、自己の考えを述べるができる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味を考え、述べるができる	
不可：～59	到達目標を達成できていない。
看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができず、その現象や意味を考え、十分に述べるができない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		35	15	30	10	10	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)	20	5	10			35
	(DP4)	5	5	10		10	30
関心・意欲・態度	(DP5)	5	5				10
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)		5	10	10		25
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	看護情報学とは（増満 誠）	看護情報学の定義と本授業における定義について	事前学習：看護情報学をなぜ学ぶのかについて、実習での経験を踏まえて考えをまとめてくる。（20分） 事後学習：看護に情報を役立てるためには、どのような知識・技術が必要なのか考えをまとめる。（25分）

2	情報を得るとは①：CST①5感の活用（増満 誠）	情報について、再考し、なかでも情報を得る五感について演習（体験）を交えて理解を深めていく。	事前学習：五感についてそれぞれの受容体と機能について調べてくる。（25分） 事後学習：意識して五感を磨くために必要な要素を振り返る。（20分）
3	情報を得るとは②：CST②コミュニケーション（増満 誠）	得られた情報をコミュニケーションの場でどのように表現していくのか演習を交えて理解を深めていく。	事前学習：コミュニケーションにおける大切な要素について調べてくる。（20分） 事後学習：伝える・伝わる表現力を身に付けるために必要な要素を振り返る。（25分）
4	情報を得るとは③：CST③コミュニケーションエラー（増満 誠）	情報のやり取りであるコミュニケーションの場面でその媒体となるものを操作することによって、いかにエラーが発生してしまうのか演習（体験）を交えて理解を深めていく。	
5	情報を捉える枠組み①：CST④フレームワーク（増満 誠）	情報をとらえたり認知したりする枠組みについて演習（体験）を交えて理解を深めていく。	事前学習：情報をとらえる枠組みをいくつか選択し事前にまとめてくる。（25分） 事後学習：事前学習や演習で扱った種々の枠組みの特徴についてまとめておく。（20分）
6	情報を捉える枠組み②：CST⑤自動思考・価値討論（増満 誠）	情報における自身の認知の枠組み（自動思考）他者との価値観の相違について討論し、自動思考や価値の多様性について理解を深めていく。	事前学習：自動思考とは何か調べてくる。（20分） 事後学習：価値討論における自身の特徴を振り返り自己分析を行う。（25分）
7	看護における統計の基礎と実際（増満 誠）	看護において頻用される統計の基礎について、情報の視点から演習を交えて理解を深めていく。	事前学習：既修の統計用語について復習しまとめてくる。（25分） 事後学習：演習で行った統計方法について再度類似問題を検索し計算しておく。（20分）
8	情報を活用する方法①：CST⑥プレゼンテーション（増満 誠）	得られた情報や伝えたい情報をいかにパフォーマンスしていくかについて、プレゼンテーションの技術とともに演習を交えてその技術を習得していく。	事前学習：プレゼンテーションスキルに大切な要素について調べてくる。（20分） 事後学習：演習で得たスキルを周りの人に表現し、その評価をもらう。（25分）

9	情報を活用する方法②：CST ⑦情報と言葉（増満 誠）	情報の伝達において、言葉の選択と使用がどのような影響を与えるかについて、また情報リテラシーとともに演習を交えて理解を深めていく。	事前学習：日常に使われる言葉と医療現場で使われる言葉において、異なる意味で使われる言葉を調べてくる。(15分) 事後学習：情報リテラシーとして必要な要素について自分の考えをまとめる(レポート)。(30分)
10	看護情報学の実際①：電子カルテ/標準看護計画（増満 誠）	医療現場における電子カルテや標準看護計画の現状とその功罪について考える。	事前学習：電子カルテの定義について調べてくる。(20分) 事後学習：任意の5つの病院を抽出し、ホームページ上から、電子カルテや標準看護計画の使用状況をまとめる。(25分)
11	看護情報学の実際②:eラーニング（増満 誠）	医療・看護情報に関するeラーニングのコンテンツについて演習を交えてその概要を知り、今後の活用方法を習得していく	事前学習：公開されている医療職向けのeラーニングにはどのようなものがあるか検索する。(20分) 事後学習：自分の興味のある看護・医療テーマのeラーニングを検索し体験できるものを体験する。(25分)
12	看護情報学の実際③：ホームページ（増満 誠）	医療・看護情報がどのように一般市民に対してホームページで公開されているのかについて演習を交えてその実際を知る。	事前学習：ホームページで公開されている医療・看護情報において興味のあるテーマを一つ選び、複数のホームページからそのテーマについての公開方法や公開内容について比較検討を行う。(30分) 事後学習：ホームページ作成における必要な要素をまとめる。(15分)
13	これからの看護情報学（グループワーク①）（増満 誠）	演習を通して学び考えてきたことを踏まえてPBLの手法を用いて、グループでテーマを設定しグループワークを行い、最終回の発表につなげる。	事前学習：これまでの学びの中から取り組みたいテーマを考えてくる。(30分) 事後学習：プレゼンテーションの方法を再考し、最高のパフォーマンスができるよう準備を行う。(15分)
14	これからの看護情報学（グループワーク②）（増満 誠）		

15	これからの看護情報学（発表会）（増満 誠）	設定したテーマについてプレゼンテーションを行うとともに、ピアレビューを行う。	<p>事前学習：プレゼンテーションの方法を再考し、最高のパフォーマンスができるよう準備を行う。（15分）</p> <p>事後学習：ピアレビューで得られた評価から自己評価を行う。（30分）</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																○	○
体験学習／調査学習				○	○	○	○		○						○	○	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（プレゼンテーション）										○							○
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	キャリア像確立講義 I	単位	1
科目名（英語）	Career Design for Nursing I	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	1年、2年次	開講時期	後期
担当教員	松浦賢長・原田直樹・吉田恭子・増満誠		
授業概要	本授業は、多様な価値を理解し共有する学生を養成し、「しなやか使命感」を有する看護職者の育成を目指し、九州・沖縄の8つの看護系大学と5つの専門機関（ステークホルダー）が連携しビデオオンデマンドシステム（VOD）による講義を展開する。「しなやか使命感」の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるため、看護の第一線で活躍する看護専門職者が講師となり、さまざまな分野での経験を教授していく。看護の分野も多岐にわたっており、将来の理想の看護師像を広い視野を持って描くことを目的とする。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業	医療機関に勤務する者が、その実務経験をもとに、各専門領域における看護師としてのキャリアについて講義する。	授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	講義内容の質問や疑問は、担当者に直接問い合わせるかメールによる相談を受け付ける。事前学習および事後学習に関することは、メールによる相談を受け付ける。（吉田恭子：k-yoshida@fukuoka-pu.ac.jp） VODに関することは、メールによる相談を受け付ける。（増満誠：masumitsu@fukuoka-pu.ac.jp）		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	キャリアについての諸問題や課題について論理的に筋道を立てて考えることができる。
		(DP4)	他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を養い、理想の看護師像を描くことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を十分に知ることができる。</p> <p>キャリアについての諸問題や課題について論理的に筋道を立てて考えることができる。</p> <p>他者の考えや意見を踏まえ、他者にわかりやすく自己の意見を述べることができる。</p> <p>キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる。</p>			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。 キャリアについての諸問題や課題について考えることができる。 他者の考えや意見を踏まえ、他者に自己の意見を述べることができる。 キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を養い、理想の看護師像を描くことができる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	各回の問題や課題を理解し、主体的に学修することができる。キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を十分に知り、論理的に筋道を立てるとともに、他者の考えや意見を踏まえ、他者にわかりやすく自己の意見を述べるができる。また、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる(レポートは90%以上得点する)。
A：80～89	履修目標を達成している。
	各回の問題や課題を理解し、キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を十分に知り、他者の考えや意見を踏まえ、論理的に筋道を立てるとともに、自己の意見を述べるができる。また、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる(レポートは80%以上得点する)。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	各回の問題や課題を理解し、キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知り、他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べるができる。また、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる(レポートは70%以上得点する)。
C：60～69	到達目標を達成している。
	各回の問題や課題を理解し、キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知り、他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べるができる。また、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる(レポートは60%以上得点する)。
不可：～59	到達目標を達成できていない。
	各回の問題や課題を理解することができず、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけることができない(レポートは60%以上得点できない)。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50				50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10			10	20
思考・判断・表現	(DP3)		10			10	20
	(DP4)		10			10	20
関心・意欲・態度	(DP5)		20			20	40
	(DP6)						

技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	「しなやか使命感」を身につけるために「ガイダンス」（福岡県立大学：松浦賢長）	VODにより講義を行う。	事後学習 専門看護師、認定看護師の役割についてまとめる。（DP2）
2	精神保健看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～（福岡病院：青本さとみ）	VODにより講義を行う。	事前学習 精神科リエゾンについて調べなさい。（DP2・3） 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。（DP2・3・4・5）
3	がん看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～（国立がん研究センター東病院：佐々木千幸）	VODにより講義を行う。	事前学習 わが国におけるがん患者の年次推移を調べなさい。（DP2・3） 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。（DP2・3・4・5）
4	地域・在宅における「しなやか使命感」～スペシャリストから～（古賀総合病院地域医療連携室副室長：長内さゆり）	VODにより講義を行う。	事前学習 地域および在宅ケアにかかわる看護職者を調べなさい。（DP2・3） 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。（DP2・3・4・5）
5	救急看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～（日本赤十字九州国際看護大学：清末定美）	VODにより講義を行う。	事前学習 一次救命、二次救命、三次救命の役割、機能を調べなさい。（DP2・3） 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。（DP2・3・4・5）
6	看護管理・行政・スペシャリスト（システム）における「しなやか使命感」～スペシャリストから～（国際医療福祉大学級九州地区生涯学習センター副センター長：神坂登世子）	VODにより講義を行う。	事前学習 看護基準7:1を満たす条件について調べなさい。（DP2・3） 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。（DP2・3・4・5）

7	国際看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (国立国際医療研究センター病院看護部長：木村弘江)	VOD により講義を行う。	事前学習 わが国を訪れる、または在住する外国人の年次推移を調べなさい。(DP2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP2・3・4・5)
8	災害看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (兵庫県災害医療センター看護部長：足立久美子、看護師長：津田雅美)	VOD により講義を行う。	事前学習 DMAT の役割や機能、構成員について調べなさい。(DP2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP2・3・4・5)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考	終了課題：「あなたの考えるしなやか使命感とは何か。講義内容を踏まえて述べなさい。」(レポート)		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	キャリア像確立講義Ⅱ	単位	1
科目名（英語）	Career Design for Nursing I	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	
標準履修年次	3・4年	開講時期	後期
担当教員	松浦賢長・原田直樹・吉田恭子・増満誠		
授業概要	本授業は、多様な価値を理解し共有する学生を養成し、「しなやか使命感」を有する看護職者育成のために、九州・沖縄の8つの看護系大学と5つの専門機関（ステークホルダー）が連携協力し、ビデオオンデマンドシステム（VOD）による講義を展開する。「しなやか使命感」の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるため、看護職者として活躍する連携大学の卒業生より講話を看護の聞き、学生の時期に身につけておきたい専門職者の特性や能力、看護職者として就職した際の悩みや困難感についての講義を通し、より実際の看護師像を描くことを目的とする。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書 ・教材等			
実務経験を生かした授業	医療機関に勤務する者が、その実務経験をもとに、各専門領域における看護師としてのキャリアについて講義する。	授業中の撮影	
学習相談 ・助言体制	講義内容の質問や疑問は、担当者に直接問い合わせるかメールによる相談を受け付ける。事前学習および事後学習に関することは、メールによる相談を受け付ける。（吉田恭子：k-yoshida@fukuoka-pu.ac.jp） VODに関することは、メールによる相談を受け付ける。（増満誠：masumitsu@fukuoka-pu.ac.jp）		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	キャリアについての諸問題や課題について論理的に筋道を立てて考えることができる。
		(DP4)	他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	興味関心を持ったキャリア像について主体的に探究することができ、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につける素地を養い、より実際の看護師像を描くことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を十分に知ることができる。</p> <p>キャリアについての諸問題や課題について論理的に筋道を立てて考えることができる。</p> <p>他者の考えや意見を踏まえ、他者にわかりやすく自己の意見を述べることができる。</p> <p>キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身に</p>			

つけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる。	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
<p>キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。</p> <p>キャリアについての諸問題や課題について考えることができる。</p> <p>他者の考えや意見を踏まえ、他者に自己の意見を述べることができる。</p> <p>キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を養い、理想の看護師像を描くことができる。</p>	
成績評価の基準	
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。	
各回の問題や課題を理解し、主体的に学修することができる。キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を十分に知り、論理的に筋道を立てるとともに、他者の考えや意見を踏まえ、他者にわかりやすく自己の意見を述べるができる。また、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる(レポートは90%以上得点する)。	
A：80～89 履修目標を達成している。	
各回の問題や課題を理解し、キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を十分に知り、他者の考えや意見を踏まえ、論理的に筋道を立てるとともに、自己の意見を述べるができる。また、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる(レポートは80%以上得点する)。	
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。	
各回の問題や課題を理解し、キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知り、他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べるができる。また、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる(レポートは70%以上得点する)。	
C：60～69 到達目標を達成している。	
各回の問題や課題を理解し、キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知り、他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べるができる。また、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる(レポートは60%以上得点する)。	
不可：～59 到達目標を達成できていない。	
各回の問題や課題を理解することができず、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけることができない(レポートは60%以上得点できない)。	

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50				50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10			10	20
思考・判断・表現	(DP3)		10			10	20
	(DP4)		10			10	20
関心・意欲・態度	(DP5)		20			20	40

	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	「しなやか使命感」を身につけるために「ガイダンス」 (福岡県立大学: 松浦賢長)	VOD により講義を行う。	事前学習 目指す看護師像についてまとめなさい。
2	離島看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (沖縄県病院事業局: 知念久美子、座間味診療所: 富山鈴華)	VOD により講義を行う。	事前学習 日本ルーラルナース学会などから興味のある論文を一つ読みなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。
3	地域・在宅看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (伊江村: 照屋光希)	VOD により講義を行う。	事前学習 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。
4	プレ CNS および CNS における「しなやか使命感」～卒業生から～ (浦添総合病院: 伊藤智美)	VOD により講義を行う。	事前学習 CNS の役割と機能を調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。
5	救急看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (横浜労災病院: 佐伯昌美)	VOD により講義を行う。	事前学習 地域救命救急センターの機能について調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。
6	海外での看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (日本赤十字九州国際看護大学: 宇都宮真由子、独立行政法人国際協力機構: 橋爪亜希)	VOD により講義を行う。	事前学習 看護職者が JICA において、どのように活動しているか調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。

7	国際看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (国立国際医療研究センター：高波真司・内田早苗)	VODにより講義を行う。	事前学習 わが国を訪れる、または在住する外国人の年次推移および疾病の特徴を調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。
8	災害看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (兵庫県災害医療センター：津田雅美)	VODにより講義を行う。	事前学習 高度救命救急センターの機能について調べなさい。また、地域救命救急センターとの相違について調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考	終了課題：「あなたの考えるしなやか使命感とは何か。講義内容を踏まえて述べなさい。」(レポート)		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	統合実習			単位	2単位
科目名（英語）	Integrated Clinical Practicum			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		
標準履修年次	4年	開講時期	通年		
担当教員	石田智恵美 看護学部全教員				
授業概要	既習の知識・技術を統合し、臨床現場に即した実践能力や問題解決能力を養う。また看護を科学的に探究することを通して、看護への関心と意欲を高め、自己の看護観を深める。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	これまでの講義・演習・実習で獲得した知識および技術を活用する。				
テキスト					
参考図書・教材等	各担当教員が提示する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無
学習相談・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	既習の知識・技術を確認することができる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断できる。 看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考ができる。
		(DP4)	適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を見出すことができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスを学び活用できる。 既習の基礎的看護能力を統合した看護実践ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<p>対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断する必要性がわかり実施できる。</p> <p>看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考の必要性がわかり実施できる。</p> <p>適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できる。</p> <p>看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を見出すことができる。</p> <p>複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスがわかる。</p> <p>既習の基礎的看護能力を統合した看護実践の必要性がわかり実施できる。</p>			
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>		
対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断する必要性がわかる。			

<p>看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考の必要性がわかり一部実施できる。</p> <p>適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できる。</p> <p>看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を見出すことができる。</p> <p>複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスがわかる。</p> <p>既習の基礎的看護能力を統合した看護実践の必要性がわかり一部実施できる。</p>
<p>成績評価の基準</p>
<p>S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。</p> <p>対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断できる。</p> <p>看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考ができる。</p> <p>適切な看護を提供するために多職種と協働・連携することができる。</p> <p>看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を明確にすることができる。</p> <p>複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践することができる。</p> <p>既習の基礎的看護能力を統合した看護実践ができる。</p>
<p>A：80～89 履修目標を達成している。</p> <p>対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断する必要性がわかり実施できる。</p> <p>看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考の必要性がわかり実施できる。</p> <p>適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できる。</p> <p>看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を明確にすることができる。</p> <p>複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスがわかり一部実施できる。</p> <p>既習の基礎的看護能力を統合した看護実践の必要性がわかり一部実施できる。</p>
<p>B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。</p> <p>対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断する必要性がわかり一部実施できる。</p> <p>看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考の必要性がわかり一部実施できる。</p> <p>適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できる。</p> <p>看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を明確にすることができる。</p> <p>複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスがわかる。</p> <p>既習の基礎的看護能力を統合した看護実践の必要性がわかり一部実施できる。</p>
<p>C：60～69 到達目標を達成している。</p> <p>対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断する必要性がわかる。</p> <p>看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考の必要性がわかり一部実施できる。</p> <p>適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できる。</p> <p>看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を見出すことができる。</p> <p>複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスがわかる。</p> <p>既習の基礎的看護能力を統合した看護実践の必要性がわかり一部実施できる。</p>
<p>不可：～59 到達目標を達成できていない。</p> <p>対象の健康問題について多角的な視点で思考できない。</p> <p>看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考ができない。</p> <p>適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できない。</p> <p>看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を見出すことができない。</p> <p>複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアをについて考えることができない。</p> <p>既習の基礎的看護能力を統合した看護実践の必要性がわかる。</p>

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			70				30	100
知識・理解	(DP1)		5				5	10
	(DP2)		5				5	10
思考・判断・表現	(DP3)		25					25
	(DP4)		5				5	10
関心・意欲・態度	(DP5)		10					10
	(DP6)		10					10
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		10				15	25
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方
	<p>詳細については、統合実習要項を参照</p> <p>1) 実習時期・期間 ・原則として7月から8月の10日間</p> <p>2) 実習時間 ・原則として8時30分～16時30分</p> <p>3) 実習方法 ・既習の学習から自己の課題を明らかにし、さらに深めるために必要と考える実習領域を、「領域別実習概要」から選択する。 ・実習計画は主体的に立案し、教員及び実習指導者、または関連部署の他職種の方々と調整をはかりながら、対象者への看護提供を展開するとともに医療現場への理解を深める。 ・実習終了後、「統合実習のまとめ(レポート)」を作成する。 ・事前学習、記録などについては、担当教員の指示によるものとする。</p> <p>4) 実習場所 ・病院、介護保健施設、訪問看護ステーション等</p>	<p>概要は次のとおり。各実習場所により異なる。</p> <p>< 1 週目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設オリエンテーション、病棟オリエンテーション ・受け持ち患者選定（2人以上を受け持つ） ・シャドウイング実習：看護師の業務や管理者についてシャドウイングを行う ・受け持ち患者の情報収集を行い、一日の看護計画立案と調整、ケアの実施 ・関連部署や他職種とのカンファレンスへの参加など ・中間カンファレンス（患者の今後の予測を含めた看護計画の修正） <p>2 週目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集、一日の看護計画立案と調整、ケアの実施 ・関連部署や他職種とのカンファレンスへの参加など ・最終カンファレンス（自己の学び、課題の発表） ・実習のまとめ ・実習記録の提出
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり		なし	
----	--	----	--

講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習															
体験学習／調査学習															
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク															
その他（ ）															
内容															

I. 科目情報

科目名（日本語）	専門看護学ゼミ	単位	2単位
科目名（英語）	Nursing Seminar	授業コード	演習
必修・選択	必修	関連資格	
標準履修年次	3年次	開講時期	通年
担当教員	科目責任者：教務副部長 科目担当者：全教員		
授業概要	これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について探究する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養うと共に、研究を進めていく上で必要な基礎知識を習得する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし		
テキスト	各担当の教員が提示する。		
参考図書・教材等	各担当の教員が提示する。		
実務経験を生かした授業		授業中の撮影	
学習相談・助言体制	各担当の教員が提示するため、授業開始時に担当教員と確認する。		

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	学術研究の基本を理解し、論文を批判的に読むことができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	看護上の現象や諸問題について、論理的に筋道を立てて考えることができる。
		(DP4)	他者の考えや意見を踏まえ、論点となる議論について自己の意見を述べるができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	課題探求の過程を通して、倫理的態度を身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
学術研究の基本を理解し、論文を批判的に読むことができ、看護上の現象や諸問題について、論理的に筋道を立てて考えることができる。看護に関する疑問や問題点について主体的に探究する過程を通して論理的思考や倫理的態度を養うと共に、研究を進めていく上で必要な基礎知識を修得できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学術研究の基本を理解し、論文を批判的に読むことができ、看護上の現象や諸問題について考えることができる。看護に関する疑問や問題点について探究する過程を通して研究を進めていく上で必要な基礎知識を修得できる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

学術研究の基本を理解し、論文を批判的に読むことができ、看護上の現象や諸問題について、論理的に筋道を立てて考えることができる。また、他者の考えや意見を踏まえ、論点となる議論について自己の意見を述べることができる。授業をとおして、課題探求の過程を通して、倫理的態度を身につけることができる。

A：80～89 履修目標を達成している。

学術研究の基本を理解し、論文を批判的に読むことができ、看護上の現象や諸問題について、論理的に筋道を立てて考えることができる。また、他者の考えや意見を踏まえ、論点となる議論について自己の意見を述べることができる。授業をとおして、課題探求の過程を通して、倫理的態度を身につけることができる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

学術研究の基本を理解し、論文を読むことができ、看護上の現象や諸問題について、筋道を立てて考えることができる。また、他者の考えや意見を踏まえ、論点となる議論について自己の意見を述べることができる。授業をとおして、課題探求の過程を通して、倫理的態度を身につけることができる。

C：60～69 到達目標を達成している。

学術研究の基本を理解し、論文を読むことができ、看護上の現象や諸問題について考えることができる。また、他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べることができる。授業をとおして、課題探求の過程を通して、倫理的態度を身につけることができる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

学術研究の基本を理解し、論文を読むことができるものの、看護上の現象や諸問題について考えることができない、自己の意見がない、倫理的態度が身につけていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70		30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		30	10			40
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		10	10			20
関心・意欲・態度	(DP5)		20	10			30
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			10			10
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1～2回	専門看護ゼミ	オリエンテーション	
3～4回	看護を深めるための学術論文	学術論文の構成についてグループワークをとおして理解する。	事前・事後学習 第4回の授業「興味・関心のあるテーマ」について絞る。所定用紙に興味を持った背景について記載する(270分)。
5～6回	学術論文の種類	看護分野における論文の種類	

7～8回	興味・関心のあるテーマ	各人の興味関心のあるテーマをもちより発表し検討する。	事後学習 「興味・関心のあるテーマ」 授業で検討した内容を反映させる（90分）。
9～10回	文献検索の実際1	図書館にて、医学中央雑誌、CiNii、OPACなど和文献の検索方法について理解する。	事前学習 第8回～14回の準備 「興味・関心のあるテーマ」 について和文献および洋文献をもとに検索し、関心ある論文を読む。
11～12回	文献検索の実際2	図書館にて、PubMed、MEDLINE、CINAHLなど洋文献の検索方法について理解する。	
13～14回	興味・関心のあるテーマの文献検索とKey Word	和文献、洋文献をもとにテーマに関する文献検索をする。	
15～28回	看護の文献の講読	文献をもとに講読しながら理解を深める。	事前学習 文献を事前に読んでおく。
29～30回	テーマに関するまとめ	調べた文献をもとに、研究計画書を作成し、グループで討議する。	「興味・関心のあるテーマについて研究計画書を作成する」 についてレポートにて提出する。
備考	全教員が担当するので、詳しくは各教員から説明がある。担当教員のもとでグループおよび個別形式などによる指導を受ける。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	卒業研究		単位	2単位
科目名（英語）	Graduation Research		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格		
標準履修年次	4年次	開講時期	通年	
担当教員	科目責任者：教務副部長 科目担当者：全教員			
授業概要	これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について探求する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養う。疑問や興味、関心を持った看護上の現象や問題点について、自ら探求し、その結果から自らの考え方を導き出し、論文としてまとめる。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	看護研究、専門看護学ゼミを履修していることが望ましい。			
テキスト	各担当の教員が提示する。			
参考図書・教材等	各担当の教員が提示する。			
実務経験を生かした授業				授業中の撮影
学習相談・助言体制	各担当の教員が提示するため、授業開始時に担当教員と確認する。			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	論文の構成を理解している。 研究成果をわかりやすくまとめ、適切な文章が記載できている。 研究を行ううえで、必要な倫理的配慮を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	論文の論旨を組み立て、看護の現象や問題点について適切に表現されている。
	関心・意欲・態度	(DP5)	見出した課題を主体的に探究することができている。 自らが立てた計画に基づいて研究活動ができている。 研究活動を通して、研究を行う上で必要な態度を身につけている。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	研究を論理的に説明し、質問者と議論できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
興味関心を持った看護上の現象や問題を取り上げ、背景・目的・方法・結果・考察について論文の論旨を組み立てて、文献を用いた根拠に基づく考えから研究課題を見出すことができている。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
興味関心を持った看護上の現象や問題を取り上げ、背景・目的・方法・結果・考察について論文の論旨を組み立て、まとめることができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

興味関心を持った看護上の現象や問題を取り上げ、医学中央雑誌等の検索サイトを活用した文献検索の結果から背景・目的・方法・結果・考察について論理的に論旨を組み立てることができる。さらに、データについて多くの文献を用いた根拠に基づく深い考察から発展的な考えを導き出すことができる。これらのプロセスをわかりやすく記述できるとともに、他者に説明でき、質問者と議論できる。

A：80～89 履修目標を達成している。

興味関心を持った看護上の現象や問題を取り上げ、医学中央雑誌等の検索サイトを活用した文献検索の結果から背景・目的・方法・結果・考察について論理的に論旨を組み立てることができる。さらに、データについて文献を用いた根拠に基づく深い考察から自分の考えを導き出すことができる。これらのプロセスをわかりやすく記述できるとともに、他者に説明できる。

B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。

興味関心を持った看護上の現象や問題を取り上げ、医学中央雑誌等の検索サイトを活用した文献検索の結果から背景・目的・方法・結果・考察について論理的に論旨を組み立てることができる。さらに、データについて文献を用いた根拠に基づく考察から自分の考えを導き出すことができる。これらのプロセスを記述できるとともに、他者に説明できる。

C：60～69 到達目標を達成している。

興味関心を持った看護上の現象や問題を取り上げ、医学中央雑誌等の検索サイトを活用した文献検索の結果から背景・目的・方法・結果・考察について論文の論旨を組み立てることができ、自分の考えを記述できるとともに、他者に説明できる。

不可：～59 到達目標を達成できていない。

論文を記述できない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70		30			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		30	10			40
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)		10	10			20
関心・意欲・態度	(DP5)		20	10			30
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			10			10
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回：通年) 90分(30回：半期2コマ連続)
1～26回	1 研究 ・研究背景 ・研究目的 ・方法	基本的にグループワークとする。 卒業論文のテーマに関連した文献(引用文献、参考文献)を熟読したものをもとに、研究の背景、得られ	卒業論文のテーマに関連した文献(引用文献、参考文献)を熟読し、文献リストを作成する。

	対象者 データ収集と分析 ・結果 ・考察と結論 2 論文作成 3 発表準備	た結果、看護への意義および必要性等について、各人が理解する。グループワークの際には自分の考えたことを意見として、参加者にわかりやすくのべることができるようにする。	個人の段階にあわせ、論文を作成する。
27~30回	4 卒業研究成果発表	卒業研究について、発表する。また、質疑応答をグループ間で行い、根拠をもって自らの考えを述べる。	発表に向けての資料を作成する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他（ ）																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護学 I			単位	2 単位
科目名（英語）	Public Health Nursing I			授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子				
授業概要	公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を学ぶ。 生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	生体機能看護学 I・II、病態看護学 I・II を修得していることが望ましい。				
テキスト	尾形由起子他編、『地域包括ケアをすすめる 公衆衛生看護学 演習・実習』 クオリティケア、2019、3,080 円 井伊久美子他編、『新版第 3 版 2018 年版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会 2013、4,536 円				
参考図書・教材等	国民衛生の動向（最新版）				
実務経験を生かした授業	実務経験を有する教員が講義を行う。 ゲストティーチャーを招く。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に論ずることができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を学ぶ。 ・生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に学ぶ。 			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした保健師の看護活動の特徴や活動方法、内容を理解することが出来る。公衆衛生看護が予防的視点で展開されている事を理解できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。 ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティの特徴やニーズが理解できる。 ・公衆衛生看護活動の基本的理念に基づき対象を理解し、ライフステージ、健康課題、活動の場などの異なる視点を持って多角的に活動が展開されていることを理解することができる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。 ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティの特徴やニーズを把握する必要性が理解できる。 ・公衆衛生看護活動の基本的理念に基づき対象を理解し、ライフステージ、健康課題、活動の場などの異なる視点で活動が展開されていることを理解することができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。 ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティにはそれぞれ特徴がありニーズが異なることを理解できる。 ・予防的視点で活動する公衆衛生看護活動の必要性が理解できる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
・公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした保健師の看護活動の特徴や活動方法、内容を理解することが出来る。 ・公衆衛生看護が予防的視点で展開されている事を理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20				20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	60					60
思考・判断・表現	(DP3)		20			20	40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	授業への出席、授業態度を評価に含む。						

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】 160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】 180 分 (15 回) 45 分 (30 回: 通年) 90 分 (30 回: 半期 2 コマ連続)
1	公衆衛生看護学の基盤となる概念(尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 1) 保健師の仕事のミッション 2) 公衆衛生看護とは 3) ライフステージの健康問題 4) 社会システムのなかの保健活動 5) 保健師の活動の特徴 6) 地域で求められる人材像 2. バズセッション (保健師について知りたいこと)	事前学習 テキスト保健師業務要覧を読む。 事後学習 パワーポイント資料を読んで復習する。 事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	公衆衛生看護の歴史「時代を読む」(山下) 1) 福岡県立大学看護学部の変遷 ・県立養成所から大学へ ・時代背景と看護職養成機関の役割 2) 保健師の身分制度 ・保健師規則と保助看法 3) 健康問題の変遷と保健師の活動の特徴 ・戦前～戦後～昭和～平成	1. 講義 福岡県立看護専門学校から引き継いだ歴史的資料の紹介し、現在は過去の歴史の上に立っており、学生各自がその流れの中にいることを確認する。 戦前からの健康課題と保健師の活動の変遷は、イメージしやすいように DVD(公衆衛生看護の歴史)を視聴する。 パワーポイントで要点をまとめる。	事前学習 学内の真島智茂像を確認し、記載された文章を読んでくる。 事後学習 ①配布資料を読む ②学内にある福岡県立専門学校関連の資料を探して読む ③パワーポイント資料を読んで復習する。 事後学習①60分②60分③90分
3	ライフサイクルから見た健康課題とニーズの把握「地域を見る」(尾形)	1. 講義 1) 公衆衛生看護活動の目的および活動サイクル 2) 公衆衛生看護過程 3) 地域看護における看護理論 4) 保健統計から見える課題抽出 5) 人々の健康状態、生活様態を把握し、健康課題を抽出する方法	事前学習 テキスト保健師業務要覧 p 92- p 108 を読む 事後学習 ①講義内容を復習する。 ・コミュニティーアズパートナーモデル ・看護過程の展開 ・保健統計から見える健康課題 事前学習①30分 事後学習①120分
4	公衆衛生看護活動と母子保健①(手島)	1. 講義 ライフステージや核家族の発達段階と健康課題について理解する。 育児をめぐる社会情勢の変化について理解する。 母子保健の歴史や子育て支援施策について学ぶ。 子ども虐待対応の枠組みや虐待防止対策のこれまでの取り組みと今後の対応について知る	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 258- p 273 を読む。 事後学習 ② 配布資料を読む ②パワーポイント資料を読んで復習する。(DP2) 事前学習①60分 事後学習①60分②60分
5	公衆衛生看護活動と母子保健②(小野・ゲストティーチャー)	1. 講義 母子保健事業と保健師の役割について学ぶ。 青年期～周産期、子育て期の母親及び胎児期から乳幼児期の母子の健康づくりや虐待予防、子育て支援について学習する。	事前学習 ①テキスト保健師業務用覧を読む。 事後学習 ①配布資料を読んで復習する。(DP2) 事前学習 120 分 事後学習 120 分
6	公衆衛生看護活動と成人保健(小野)	1. 講義 成人期の人々の生活状況や生活の背景、健康状態から成人期の健康問題と健康課題について学ぶ。 その上で、健康課題に対する施策や事業、個人、集団地域を対象とした公衆衛生看護活動を学ぶ。	事前学習 ・テキスト保健師業務要覧 p312-p319 を読む 事後学習 ①成人期の主要な死亡原因、有病率、有訴者割合等の健康状態を理解する上で有用な統計情報について国民衛生の

			<p>動向で確認し配布資料にまとめる。</p> <p>②授業で配布した資料を読み、成人期の人の健康状態と一緒に生活をする家族に与える影響を考える。(DP2)</p> <p>事前学習①45分 事後学習①60分②60分</p>
7	公衆衛生看護活動と高齢者保健(尾形)	<p>1. 講義</p> <p>1) 高齢期(エリクソンの視点で)</p> <p>2) 我が国の高齢者施策の変遷</p> <p>3) 高齢者保健福祉活動の目指すところ</p> <p>4) 虚弱高齢者事例より寝たきり予防について</p> <p>5) 健康レベルの変更に伴う医療・ケアの連続</p> <p>6) 保健福祉行政の役割。機能</p> <p>7) 地域における高齢者保健活動について</p>	<p>事前学習</p> <p>①テキスト保健師業務要覧 p 297- p 311 を読む</p> <p>事後学習</p> <p>国民衛生の動向で、高齢者の健康状態に関する保健統計を確認し、考えられる健康課題を考える。</p> <p>事前学習①60分 事後課題①120分</p>
8	公衆衛生看護活動と感染症対策(小野)	<p>1. 講義</p> <p>我が国の感染症の動向と社会的背景及び感染症に関連した健康問題、健康課題を学ぶ。その上で、健康課題に対する施策や事業、個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護活動を学ぶ。</p>	<p>事前学習</p> <p>①テキスト保健師業務要覧 p 328- p 343 を読む (DP2)</p> <p>事後学習</p> <p>①自分が住んでいる自治体で行われている感染症対策について調べて学習する。(DP2)</p> <p>事前学習①60分 事後学習①120分</p>
9	公衆衛生看護活動と難病看護(山下)	我が国における難病の概念とその歴史を理解し、難病患者の生活や心情を学ぶ。また、難病患者を支える制度と個人・家族・集団・地域を対象とした難病患者を支える保健師の活動について学ぶ。	<p>事後学習</p> <p>①配布資料を読み復習する。</p> <p>②難病の病態と治療、看護、患者を支える制度について調べまとめる。</p> <p>事後学習①120分</p>
10	公衆衛生看護活動と精神保健(手島)	<p>1. 講義</p> <p>ライフステージと精神保健福祉の対象を理解する。</p> <p>精神保健の歴史や動向を理解する</p> <p>精神障がい者(統合失調症)とその家族への理解と看護活動を知る。</p>	<p>事前学習</p> <p>①テキスト保健師業務要覧 p 288- p 296、を読む</p> <p>事後学習</p> <p>①配布資料を読む</p> <p>②提示した厚生労働省のサイトをインターネットで見る。</p> <p>③パワーポイントの資料を読んで復習する。(DP2)</p> <p>事前学習①60分 事後学習①30分②30分③60分</p>
11	公衆衛生看護活動と災害看護(山下)	<p>1. 講義</p> <p>最初に写真や図表で災害による被害がイメージする。</p> <p>災害時の支援体験を交えて講義し、被災者の生活状況や健康問題が理解できるようにする。</p> <p>支援活動の講義では、被災者側と支援者側の両方の立場で考えると共に、看護師として被災地の保健師と連携することを考えるようにする。</p>	<p>事前学習</p> <p>①災害支援に関する新聞記事を読んでくる。</p> <p>事後学習</p> <p>①配布資料を読む</p> <p>②災害関連の文献をインターネットや図書館で検索し読む。</p> <p>③パワーポイントの資料を読んで復習する。</p> <p>事前学習①30分 事後学習①30分②120分③90分</p>
12	公衆衛生看護活動と産業保健(ゲストティーチャー)	<p>1. 産業分野における保健師の活動について学ぶ</p> <p>アサヒビール株式会社博多工場の概要や組織、健康管理の対象について知る。</p> <p>産業看護活動の背景と特徴について、法的根拠や労働衛生の3管理、業務上疾病や作業関連疾患など学</p>	<p>事前学習</p> <p>①産業保健に関する新聞や雑誌の記事を読んでくる。</p> <p>事後学習</p> <p>①配布資料を読む</p> <p>②パワーポイントの資料を読んで復習する。</p> <p>③産業保健における保健師活動の文献</p>

		ぶ。 産業看護活動の実際について、健康診断や健康重点施策、対象者の特徴が分かる。 個別アプローチの特徴や方法について事例を通して学ぶ。 健康増進活動について事例を通して学ぶ。	を探して読む。活動の概要と考察をA4、1枚程度にまとめて提出する。 (DP2) 事前学習 30分 事後学習①30分②30分③120分
13	ヘルスプロモーションを基盤とした公衆衛生看護活動の展開①個別から集団(山下) 1)ヘルスプロモーションの理念と公衆衛生看護活動の特徴 2)グループの特徴と種類 3)保健師のグループ支援 4)グループ支援の事例	1. 講義 身近な事例でグループ活動とその意義をイメージする。保健師だけでなくすべての看護職がグループと関わる可能性があることを確認する。 基本知識を押さえた後、事例を用いて個別支援からグループ活動、地域活動への発展するプロセスを確認し、保健師のグループ支援活動がイメージできるようにする。	事後学習 ①配布資料とパワーポイントの資料を読んで復習する。 ②テキストの該当部分を読んで復習する 事後学習①60分②60分
14	ヘルスプロモーションを基盤とした公衆衛生看護活動の展開②集団から組織(ゲストティーチャー)	地域における高齢者保健活動の展開を講義する。地域で先駆的な活動を行っているホームホスピスの活動を通して、地域で生活することを支えること、その組織化と地域とのつながりの作り方を学ぶ。 また、法的な基盤や財政基盤を学ぶ。	事前学習 ①たんがくのホームページを見ておく。 ②テキスト保健師業務要覧 p 297- p 311を読む。 事後学習 ①配布資料を読む。 事前学習①30分②60分 事後学習①90分
15	公衆衛生看護の展開方法のまとめ(尾形)	1. 講義 1)公衆衛生看護のミッション(復習) 2)地域における看護の3つのレベルと対象 3)ジョンスノーのケーススタディ 4)個別支援と集団及び地域全体の支援の連動 5)構造的に健康問題を捉える方法 6)健康課題解決のための施策化	事後学習 ①配布資料、パワーポイントの資料を読んで復習する。 事後学習 90分
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習								○										
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク						○												
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護学 II		単位	2 単位	
科目名（英語）	Public Health Nursing II		授業コード		
必修・選択	選択	関連資格	保健師関連する国家試験受験資格		
標準履修年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子				
授業概要	PDCA サイクルに基づく公衆衛生看護活動の展開プロセスについて学ぶ。公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握、ニーズに基づく地域の保健活動の目標設定、活動計画の立案、評価について学ぶ。また、対象別の支援方法と保健事業実施計画の企画立案、評価方法を学び、施策化・事業レベルの展開プロセスについても理解する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護アセスメント論 I を修得していること				
テキスト	尾形由起子他編、『地域包括ケアをすすめる 公衆衛生看護学 演習・実習』、クオリティケア、2019、3,080 円 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2020 年版 総論』 日本看護協会出版会、2020、5,170 円 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2020 年版 各論 1』 日本看護協会出版会、2020、5,390 円				
参考図書・教材等	佐伯和子他編、「公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術」、「公衆衛生看護学テキスト 3 公衆衛生看護活動」、医歯薬出版株式会社、2014				
実務経験を生かした授業	実務経験を有する教員が講義を行う。 ゲストティーチャーを招く。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握とアセスメントの方法及び展開方法が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	地区診断の視点、対象別の支援方法、保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して試行・判断し、自らの考えをまとめることができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。 ・ PDCA サイクルに基づく公衆衛生看護活動の展開プロセスについて学ぶ。 ・ 公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握、ニーズに基づく地域の保健活動の目標設定、活動計画の立案、評価について学ぶ。また、対象別の支援方法と保健事業実施計画の企画立案、評価方法を学び、施策化・事業レベルの展開プロセスについても理解する。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 ・ 対象別の公衆衛生看護活動において、対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開が行われている事が理解できる。 ・ 事例についての地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈および対象別の支援方法、保健活動の目標設		

定、実施計画の立案、評価方法について理解できる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 対象別の公衆衛生看護活動における、PDCA（対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価）を理解し説明することができる。 ・事例を通して地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈を行い、対象者の健康ニーズを把握することができる。 ・対象別の支援方法保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して試行・判断し、自らの考えをまとめる事ができる。
A：80～89 履修目標を達成している。 対象別の公衆衛生看護活動における、PDCA（対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価）を理解することができる。 ・事例を通して地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈を行い、対象者の健康ニーズを考える事ができる。 ・対象別の支援方法保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して理解できる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 事例についての公衆衛生看護活動のPDCA（対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価）を理解することができる。 ・事例についての地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈、対象者の健康ニーズを考える事ができる。 ・事例についての保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について理解できる。
C：60～69 到達目標を達成している。 対象別の公衆衛生看護活動において、対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開が行われている事が理解できる。 ・事例についての地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈および対象別の支援方法、保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について理解できる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10		10		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	60	5	10		20	65
思考・判断・表現	(DP3)		5	10		20	35
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	公衆衛生看護活動における健康課題の捉え方、法的根拠と施策体系(尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 1) 公衆衛生看護活動の健康課題の	事後学習 ①配布資料を読んで復習する (公衆衛生看護学概論医学書院 第6章など)

		捉え方 2) 法的根拠と施策体系 3) 地区活動における健康課題の捉え方（アセスメント、関連要因、優先順位）。	②関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。（DP2） 事後学習①30分②90分③60分
2	地区活動計画の企画立案と評価(山下) 1)地区活動の基本と対象の捉え方 (1)地区活動の基本理念 (2)対象集団の捉え方 2)地区活動計画づくり (1)地区活動計画 (2)地区活動の目標設定と評価の視点	1. 講義 テキストを参照し、地区活動の基本的な考え方、対象の捉え方を確認する。 配布資料（地域診断演習）を用い、演習を入れながら、地域診断に基づく保健活動計画の立案過程を学習する。	事前学習 ①テキスト（最新公衆衛生看護学 総論 第2章）の該当部分を読む。 事後学習 ①配布資料を読んで復習する ②関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。（DP2） 事前学習①30分 事後学習①60分②60分③60分
3	保健事業の企画立案、実施、評価と保健師の役割(山下) 1)保健事業の体系 1次予防～3次予防 2)保健事業の目標設定 3)保健事業の企画 4)保健事業の実施 5)保健事業の評価 6)事例と保健師の役割	1. 演習 読んできた保健事業の概要を紹介し、1次予防から3次予防に分類し、事業の関連や位置づけを考える。 2. 講義 保健事業の企画立案、主な事業の特徴、評価の視点を確認する。 最後に、事例を用いて事業の展開と保健師の役割を確認する。	事前学習 ①保健事業の企画実施評価の過程が記述された文献を探し読んでくる。 事後学習 ①配布資料を読んで復習する ②関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。（DP2） 事前学習①90分 事後学習①30分②30分③60分
4	地区活動の展開と保健師の役割(小野) 地区活動の展開の実際	1. 講義 保健活動のPDCAサイクルに基づく事業展開を市町村が実施する事業の事例を通して学ぶ。	事前学習 ①保健師活動の展開に関する資料を読んでくる。 事後学習 ①配布資料を読んで復習する。 ②関連する国家試験の過去問題を解く。（DP2） 事前学習①60分 事後学習①30分②90分
5	母子保健福祉活動の企画立案評価①(小野)	1. 講義 母子保健分野に関する社会背景や保健統計をもとに健康課題を考察し、法的根拠に基づき妊娠期(胎児期)から出産後(乳幼児期)にかけての個人、集団、地域を対象に行われる継続した母子保健活動の展開を学ぶ。	事前学習 ①母子保健活動の展開事例についての資料を読んでおく。 ②実際に市町村で実施されている母子保健事業について各自資料を準備する。 事後学習 ①関連する国家試験の過去問題を解く。（DP2） 事前学習①60分②90分 事後学習①30分
6	母子保健福祉活動の企画立案評価②(小野)	1. 講義 自治体で実施されている母子保健事業について対象となる人々のライフサイクルや健康状態を考慮した事業体系について学ぶ。 2. ディスカッション 母子保健事業および保健師活動について予防的観点で整理し、継続支援の観点で事業の関連を検討する。	事後学習 ①グループ討議で行った予防的視点での保健事業の体系的整理を参考に、公衆衛生看護学実習Ⅱの実習先(市町村)実施されている母子保健事業について、整理する。②関連する国家試験の過去問題を解く。（DP2） 事後学習①120分②60分
7	成人保健活動の企画立案評価①(手島) 生活習慣病	1. 講義 成人保健の動向と成人保健に関する健康課題を考察し、法的根拠に基づいてどのような健康づくり活動が実施されているかを学ぶ。また、成人保健対策における個人・	事前学習 ①テキスト（各論1）第1章Ⅱ1,2(p87-138)を読む ②特定健診特定保健指導の資料を読む。 事後学習

		集団・地域を対象とした公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。	①配布資料を読んで復習する。 ②関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2) 事後学習①60分②60分 事後学習①45分②60分
8	成人保健活動の企画立案評価②(ゲストティーチャー) 産業保健	1. 講義・討論 成人期を対象とした、特定健診・特定保健指導の事例をもとに保健師の活動展開について学ぶ。	事後学習 ①配布資料を読み復習する。 ②公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動Ⅰ第1章2)生活習慣病予防を読む ③関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2) 事後学習①45分②45分③60分
9	高齢者保健福祉活動の企画立案評価①(尾形)	講義 我が国の高齢者保健福祉分野の社会的背景と高齢者を支える制度の法的根拠と概要を理解し、高齢者の抱える課題とその問題に取り組む保健事業の展開を学ぶ。	事前学習 ①公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動Ⅰ p42-59を読む ②関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2) 事前学習①60分②90分
10	高齢者保健福祉活動の企画立案評価②(尾形)	討論 地域包括ケアシステム構築のための保健事業の展開事例と、住民と協働で行う保健事業の展開事例を用いて、保健事業の展開について学ぶ。	事後学習 ①配布資料を読む。 ②関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2) 事後学習①60分②90分
11	感染症を対象とした保健活動の企画立案評価(小野・ゲストティーチャー)	1. 講義 我が国の感染症の動向と感染症に関する健康課題を考察し、法的根拠に基づいてどのような感染症対策が実施されているかを学ぶ。また、感染症対策における個人・集団・地域を対象とした公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。 2. ディスカッション	事後学習 ①配布資料を読む。 ②公衆衛生看護学実習Ⅱの実習先市町村で行われている感染症対策及び予防接種について対象者、目的、方法などを調べる。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2) 事後学習①60分②100分③60分
12	精神保健福祉活動の企画立案評価(山下)	講義 精神障がい者の社会復帰に関わる社会背景と課題を理解し、公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。 関係機関との連携、社会資源の創出等地域ケアシステム構築の取り組み事例について学ぶ。	事後学習 ①配布資料を読み復習する。(DP2) ②関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。 事後学習①30分②30分③60分
13	難病保健福祉活動の企画立案評価(山下)	講義 難病対策の社会背景及び施策の概要を理解し、難病患者と家族の抱える問題と課題解決にむけた保健事業について理解する。 保健所の難病対策事業と地域ケアシステム構築の取り組みについて学ぶ。	事前課題 最新公衆衛生看護学Ⅱ各論1 p230-p262を読む。 事後課題 事例についてまとめる。 (DP2,DP3) 事前学習 90分 事後学習 90分
14	行政における公衆衛生看護活動の展開(ゲストティーチャー・山下) 福岡県の保健医療福祉行政施策と保健師に期待する役割	講義 福岡県保健医療福祉介護部の医監をゲストティーチャーとして招き、福岡県の保健医療福祉行政施策と保健師に期待する役割について講義していただく。 県レベルの行政施策と都道府県保健師の役割について考える。	事前学習 ①インターネットで、福岡県健康増進計画及び地域保健医療計画を見て、概要を理解に努める。 事後学習 ①配布資料の振り返り及び福岡県ホームページをインターネットで見る。 ②レポート作成 福岡県の保健師であったらどのような活動をしたかと考えたか。 (DP2,DP3) 事前学習①100分 事後学習①30分②90分

15	まとめ(尾形)	<p>1. 講義</p> <p>1) 住民のセルフケア能力を高め、コミュニティエンパワメントを促進するとは</p> <p>2) 保健師のベストプラクティスから理念的コアとは</p> <p>3) 予防や生活などの視点、主体性の尊重や対等性の重視などの姿勢、協働方法</p> <p>4) 社会的弱者への関心などの価値が整理</p> <p>5) 保健師の機能として個、集団、地域を連動させる活動と自ら支援を求めない対象へのアプローチなどの公共性について</p> <p>2. ディスカッション</p> <p>ライフステージ別（母子、壮年期、高齢者）の活動と健康障害別（精神、難病、感染症）の活動、保健事業の企画立案評価についての学習を通して、公衆衛生看護活動の特徴対する学びについて。</p>	<p>事後学習</p> <p>①配布資料を読んで復習する。</p> <p>②関連する国家試験の過去問題を解く。</p> <p>(DP2)</p> <p>事後学習 ①60分②90分</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習						○						○						
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク							○						○	○	○	○		○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護学Ⅲ		単位	1単位
科目名（英語）	Public Health Nursing III		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	
標準履修年次	4年	開講時期	後期	
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香 小野順子			
授業概要	公衆衛生看護活動における健康課題の把握や課題解決の基本となる理論や科学的根拠を確認し、臨地実習の体験と文献から健康課題を把握する調査方法や課題解決方法を検討するための研究方法について学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護学実習Ⅰを修得していること			
テキスト	尾形由起子他編、『地域包括ケアをすすめる 公衆衛生看護学 演習・実習』 クオリティケア、2019、3,080円 井伊久美子他編、『新版第4版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会、2019、4,840円 浅原きよみ他編、『公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論』、医歯薬出版株式会社、2014、3,024円 佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2018年版 総論』 日本看護協会出版会、2018、4,968円			
参考図書・教材等	D.F.ポーリット&C.T.ベック著 看護研究原理と方法第2版 医学書院 9,500円（税抜） 南裕子編 看護における研究第2版 日本看護協会出版 2,800円（税抜）			
実務経験を生かした授業	実務に基づく研究経験のある教員が授業を行う			授業中の撮影
学習相談・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	地域保健活動の質の向上や知識体系の構築のための研究方法について理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスについて論ずることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
公衆衛生看護活動における健康課題の把握や課題解決の基本となる理論や科学的根拠を確認し、臨地実習の体験と文献から健康課題を把握する調査方法や課題解決方法を検討するための研究方法について学ぶ。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、地域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、教員の助言・指導を得ながら研究計画を作成することができる。
成績評価の基準
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、地域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、計画的に研究計画を立案し実施することができる。 保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスや方法について理解できる。
A：80～89 履修目標を達成している。
公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、地域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、教員の助言を得ながら計画的に研究計画を立案し実施することができる。 保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスや方法を知ることができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、地域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、教員の助言・指導を得ながら研究計画を立案・実施することができる。 保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスや方法を知ることができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、地域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、教員の助言・指導を得ながら研究計画を作成することができる。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		20		60		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		10			10	20
思考・判断・表現	(DP3)		10	60		10	80
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	公衆衛生看護実践に不可欠な「研究力」(尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 1) 看護実践に役に立つよい研究とは・・・ 2) 看護研究に取り組むにあたって 3) 質的研究と量的研究 4) 質的研究(お勧め著書と文献) 5) 研究で得られること	事前学習 ①テキスト④第4章を読む。 事前学習 ①30分
2	公衆衛生看護における研究倫理(山下) 1)医療と倫理の歴史的背景 2)研究者の行動規範 3)研究的行動を導くための基礎的知識 4)研究の不正行為	1. 講義 最初に、なぜ公衆衛生看護活動とその研究において「倫理」が必要なのか考える。 パワーポイントと配布資料を用いて、医療における歴史的背景を振り返ると共に、保健師が遭遇する倫理的場面を織り交ぜて講義をする。	事前学習 ①実習や日常生活の中で、自分が遭遇した倫理的な葛藤場面を考えてくる。 事後学習 ①配布資料を読む。 事前学習①30分 事後学習①90分
3	公衆衛生看護研究健康課題の抽出(尾形・山下・小野)	1. 講義 公衆衛生看護学研究的計画方法について学ぶ。 2. ディスカッション 学生は、事前課題でまとめた内容を発表し、研究動機、研究目的、研究方法の妥当性について教員から助言を得る。	事前学習：公衆衛生看護学分野における健康課題に関して興味のある分野を選択し、関連する文献をまとめた内容から研究背景、研究動機、研究目的を考えA4資料1～2枚にまとめ提出する。(DP3) 事後学習：討議した内容や得られた助言を受けて研究計画を修正し提出する。(DP3) 事前学習 180分 事後学習 120分
4	公衆衛生看護研究研究目的の検討(尾形・山下・小野)	1. 講義 健康課題に関する社会的背景、顕在化している健康問題の動向、先行研究結果を踏まえた研究目的の設定方法について学ぶ。 2. ディスカッション 学生が読んできた文献から、研究背景や研究動向について考える。また、研究によって対象集団の健康状態や生活状況にどのような影響(成果)を与えているのかについて意見交換を行いどのような目的で研究を行うか考える。	事前学習：興味のある健康課題に関連する社会的背景、健康問題の動向、残された課題について考え、まとめ提出する。(DP2,3) 事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。 事前学習 150分 事後学習 60分
5	公衆衛生看護研究研究方法の検討(尾形・山下・小野)	1. 講義 健康課題解決に資する公衆衛生看護学研究的を実施する為にどのような研究方法があるのかを学ぶ。また、それらの研究方法から得られる成果について学ぶ。 2. ディスカッション 学生が興味のあるテーマについて、目的に応じた研究の方法について検討する。	事前学習 興味のある健康課題に関する先行研究についての研究方法、分析方法、結果の解釈、残されている課題をまとめ提出する。(DP2,3) 事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。(DP2,3) 事前学習 150分 事後学習 60分
6	公衆衛生看護研究研究計画の検討(尾形・山下・小野)	1. 講義 各々の学生が興味のある健康課題に対して、選択した研究方法に従って、どのように研究を進めていくかについて学ぶ。 2. ディスカッション	事前学習 各自の研究テーマについて研究方法、分析方法を考えてまとめ提出する(DP2,3) 事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。(DP2,3)

		学生が興味のあるテーマについて研究方法に応じた研究の進め方を検討する。	事前学習 150 分 事後学習 60 分
7	公衆衛生看護研究 研究結果の解釈 (尾形・山下・小野)	1. 講義 各々の学生が実施している公衆衛生看護学研究について、どのように結果を解釈し、体系的にまとめていくかについて学ぶ。 2. 学生が興味のあるテーマについて結果の解釈や結果の整理方法について検討する。	事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。(DP2,3) 事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。(DP2,3) 事前学習 120 分 事後学習 60 分
8	公衆衛生看護研究 研究成果の発表 (全員)	1. 講義 公衆衛生看護学研究について得られた結果の発表方法や研究成果を社会に還元していく必要性について学ぶ。 2. ディスカッション 研究成果について、発表・報告するためにどのような方法でまとめていくかを検討する。	事前学習 各自の研究課題についてまとめ提出する。(DP3) 事前学習 180 分
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク			○	○	○	○	○	○								
その他()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護技術論 I			単位	2 単位
科目名（英語）	Skills Development for Public Health Nursing I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目担当責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・（中村美穂子）				
授業概要	乳幼児虐待や生活習慣病等のハイリスク者の特徴を理解し、対象の把握方法、個人・家族への支援方法を学ぶ。 家庭訪問及び保健指導・健康相談の基本的な支援技術を習得するため、ペーパーペイシエントを用いた事例検討とロールプレイを行う。健康課題に影響する環境要因を捉えて潜在的な健康課題を顕在化し予防的に働きかけ、健康弱者の代弁者となって権利を擁護する保健師の支援方法について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護アセスメント論 I までの学習内容である、個別支援における対象者の生活及び生活環境を含めたアセスメントに関する知識と技術を習得している必要がある。				
テキスト	① 尾形由起子他編、『地域包括ケアをすすめる 公衆衛生看護学 演習・実習』、クオリティケア、2019、3,080 円 ② 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2020 年版 総論』、日本看護協会出版会、2020、5,170 円 ③ 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2020 年版 各論 1』 日本看護協会出版会、2020、5,390 円 ④ 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2020 年版 各論 2』 日本看護協会出版会、2020、4,070 円 ⑤ 岩本里織他編、『公衆衛生看護活動論技術演習第 2 版』、クオリティケア、2018、3,520 円				
参考図書・教材等	①村嶋幸代他著、『最新保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術』、メヂカルフレンド社、2011 ②長江弘子・柳澤尚代著、『こう書けばわかる！保健師記録』、医学書院、2004				
実務経験を生かした授業	実務経験を有する教員が講義を行う。 ゲストティーチャーを招く。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	地域における個別支援対象者と援助の特徴を理解するとともに、支援対象者のアセスメント、支援計画の立案、評価の方法を理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	個人・家族の生活様式や生活環境との関連でとらえた潜在的な健康課題を抽出し、家庭訪問および保健指導の援助計画を立案し、発表し討議することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	健康課題を抱える個人・家族の事例についてアセスメントし、家庭訪問による援助計画を立案し、実施、評価できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
・乳幼児虐待や生活習慣病等のハイリスク者の特徴を理解し、対象の把握方法、個人・家族への支援方法を学ぶ。 ・家庭訪問及び保健指導・健康相談の基本的な支援技術を習得するため、ペーパーペイシエントを用いた事例検討とロールプレイを行う。健康課題に影響する環境要因を捉えて潜在的な健康課題を顕在化し予防的に働きかけ、健康弱者の代弁者となって権利を擁護する保健師の支援方法について学ぶ。			

到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	・対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを理解した上で、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態をアセスメント、健康課題の明確化、支援計画の立案、及び支援の実施について教員の指導助言を受けて理解できる。 ・対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策および目的・目標に沿った活動評価、次の支援策検討について、教員の指導・助言を受けて理解できる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。 ・対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを理解した上で、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態のアセスメント、健康課題の明確化、支援計画の立案、支援を実施し、評価計画に基づく評価を実施できる。 ・対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策を考えて計画・実施し、目的・目標に沿った活動評価と次の支援策が討できる。
A：80～89	履修目標を達成している。 ・対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを学び、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態のアセスメント、健康課題の明確化、支援計画の立案、支援を実施し、評価計画に基づく評価を実施できる。 ・対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策を考えて計画し、目的・目標に沿った活動評価と次の支援策の検討を実施できる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 ・対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを学び、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態のアセスメント、健康課題の明確化、支援計画を立案する必要性が理解できる。 ・対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策を考える必要性を理解し、目的・目標に沿った活動評価と次の支援策を考える事ができる。
C：60～69	到達目標を達成している。 ・対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを理解した上で、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態をアセスメント、健康課題の明確化、支援計画の立案、及び支援の実施について教員の指導助言を受けて理解できる。 対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策および目的・目標に沿った活動評価、次の支援策検討について、教員の指導・助言を受けて理解できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	20				50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	30	10				40
思考・判断・表現	(DP3)		10			20	30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					30	30
備考							

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年）

			90分(30回:半期2コマ連続)
1	公衆衛生看護における個別支援 (尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする 2. 講義:公衆衛生看護活動における、個別支援の目的と意義、方法・対象・技術などを学ぶ。 1) 保健師が行う家庭訪問の特徴 2) 家庭訪問や保健指導の根拠となる法律 3) 保健施策や事業につながる訪問 4) 家庭訪問による援助(看護過程) 5) 優先順位の判断の視点	事前学習 ①テキストの家庭訪問に関する部分を読んでおく。最新公衆衛生看護学総論第3章I~II 事前学習 ①60分
2	公衆衛生看護における個別支援の看護過程(小野)	1. 講義 保健師が行う個別支援の方法と看護過程の展開を学ぶ(講義)	事前学習 ①テキストの個別支援、家庭訪問に関する部分を読んでおく。最新公衆衛生看護学総論第3章III 事前学習 60分
3	成人期の個別保健指導 特定健診・特定保健指導について(小野)	1. 講義 特定健診・保健指導に関する目的・方法、内容等を学ぶ。(講義)	事前学習 ①糖代謝、脂質代謝を理解するために必要な教材や資料を集める。 ②糖代謝、脂質代謝のメカニズムについて理解した内容を整理し、配布した様式にまとめる。 事前学習①90分②120分
4	成人期の健康問題 メタボリックシンドロームにつながる糖尿病や脂質異常の病態生理を学ぶ(尾形・山下・小野・手島・中村)	1. グループワーク メタボリックシンドロームの病態整理、糖代謝異常の病態整理について事前学習で作成した資料や教科書等を用いて検討する。 2. 発表 グループワークで検討した内容をまとめ、糖代謝、脂質代謝、及びメタボリックシンドロームが体の中でどのような変化が起きているかについて発表する。	事前学習 ①メタボリックシンドロームの病態について資料を検索し学んでくる。 事前学習①60分
5			事後学習 ①糖代謝、脂質代謝のメカニズムについてグループワークの内容を反映させ修正し様式に記載し提出する。 事後学習①60分
6	支援に活かす理論と支援技術(小野)	1. 講義 個別支援において行動変容を促す為に用いられる理論や支援技術について学ぶ。	事前学習 ①テキストの該当部分を読んでおく。最新公衆衛生看護学総論第3章III-3 事前学習 ①30分
7	成人期を対象とした個別支援 特定保健指導事例(尾形・山下・小野・手島・中村)	1. 講義 特定健診受診者の事例紹介を行う。 2. グループワーク 対象理解に必要な知識や情報を整理する。	事前学習 ①特定健診特定保健指導対象者の健康状態をアセスメントする為に必要な基礎知識、情報を得るために必要な資料や教材、教科書を準備する。②事例の健康状態について、特定健診の結果、成人期の発達課題、生活状況(食事、運動、休養)、生活背景などを含めてアセスメントし健康課題を抽出し様式にまとめる。 事前学習①90分 ②150分 事後学習 ①グループワークの内容を反映させ事例のアセスメントを修正し、様式に記載する。 事後学習①60分
8	成人期を対象とした個別支援 特定保健指導事例の対象理解	1. グループワーク 事後学習で準備した、対象者のア	事前学習 ①事例の健康状態をアセスメントした

	とアセスメント、健康課題の明確化（尾形・山下・小野・手島・中村）	セスメントに必要な資料を用いて対象者の健康状態をアセスメントし、健康課題を抽出する。 2. 発表 グループワークで検討した対象者の健康状態のアセスメント、健康課題発表する。	内容を復習し健康課題を抽出して様式にまとめる。 事前学習 ①90分
9			事後学習 事例のアセスメント及び健康課題について、グループワーク、ディスカッションの内容を反映させて修正し様式にまとめ提出する。 事後学習①60分
10	成人期を対象とした個別支援特定保健指導計画（尾形・山下・小野・手島・中村）	1. グループワーク 対象事例の特定保健指導計画を作成する。	事前学習 ①配布資料を復習し、特定保健指導における対象者が自ら選択し行動変容につなげる支援方法について考える。 事前学習①120分 事後学習 ①グループワーク、ディスカッションの内容を反映し、対象事例の特定保健指導計画を作成し提出する。 事後学習①120分
11	成人期を対象とした個別支援特定保健指導計画に基づく	1. ロールプレイ 作成した特定保健指導計画に基づき学生同士で実施する。	
12	支援の実際（尾形・山下・小野・手島・中村）	2. デモンストレーション 教員が特定保健指導のデモンストレーションを実施し、特定保健指導における支援技術を学ぶ。	事後学習 学生同士で実施したロールプレイ、教員のデモストを通して学んだ個別支援技術について指定の様式にまとめ提出する。 事後学習 90分
13	高齢者の家庭訪問について（尾形・山下・小野・手島・中村）	1. 講義 家庭訪問対象者の対象理解に必要な視点と情報収集のポイントについて学ぶ。 2. ディスカッション 実際の家庭訪問対象者を対象理解についてディスカッションを行う。	事後学習：高齢者の健康状態の把握と対象理解に必要な情報収集の項目と方法を整理し、まとめる。 事後学習 60分
14	高齢者の家庭訪問対象理解（尾形・山下・小野・手島・中村）	1. グループワーク 家庭訪問対象者について情報収集した内容を共有し構造的に整理する。その後、健康状態をアセスメントし健康課題を抽出する。また、家庭訪問による支援計画を立案する。	事後学習：ふれあい交流に参加し情報収集した内容を整理し、記録様式に記載する。 事前学習 120分 事後学習：グループワークで検討した内容を反映し、家庭訪問による支援計画を修正する。 事後学習 120分
15	高齢者の家庭訪問支援計画立案・デモスト（尾形・山下・小野・手島・中村）	1. グループワーク 家庭訪問支援計画をもとに学生同士でデモンストレーションを行い、家庭訪問での支援方法・技術を確認する。	事後学習：家庭訪問における支援技術を学生同士で確認する。 事後学習 100分
16	高齢者の家庭訪問実施（尾形・山下・小野・手島・中村）	1. 家庭訪問の実施 家庭訪問支援計画を元に高齢者の家庭訪問を実施する。	事後学習：家庭訪問で得た情報や対象者から伺った話を整理し訪問記録に記載する。 事後学習 180分
17 18	高齢者の家庭訪問家庭訪問の評価（尾形・山下・小野・手島・中村）	1. グループワーク 家庭訪問時の状況や伺った話の内容を情報共有、構造的整理を行い、対象理解を深める。また訪問計画を評価し、再アセスメント、今後の支援計画を立案する。（グループワーク）	事後学習：家庭訪問の評価、再アセスメント、今後の支援計画を記録に記載する。 事後学習 90分
19 20	高齢者の家庭訪問家庭訪問事例の発表（尾形・山下・小野・手島・中村）	1. 発表・ディスカッション 訪問前の対象理解、家庭訪問時の状況、訪問後の対象理解について発表し、ディスカッションする。	事後学習：ディスカッションの内容を反映させ、対象のアセスメント、今後の支援計画を修正する。 事後学習 60分

21 22	成高齢者の家庭訪問 家庭訪問評価の発表 (尾形・山下・小野・手島・中村)	1. 発表、ディスカッション 訪問時の状況、訪問計画及び評価 計画をもとに自分たちが行った訪 問を評価し発表する。	事前学習：ディスカッションの内容を 踏まえ訪問の評価を行い記録に記載す る。 事前学習 90分
23	母子の個別支援について (小野)	1. 講義 母子保健事業の体系と継続支援、 アプローチ方法について学ぶ。 事例をもとに母子の健康状態をア セスメントとする為に必要な知識 と情報、情報収集の方法を学ぶ。	事後学習：乳幼児の発達発育について 資料や教材を準備し、配布された様式 にまとめる。 事後学習 120分
24 25	母子の個別支援 個別支援事例のアセスメント (小野・ゲストティーチャー)	1. 発表 対象事例のアセスメントを発表す る。	事前学習 事業での配布資料、準備した教材を参 考に事例のアセスメントを行い、記録 にまとめ提出する。 事前学習 150分 事後学習 ディスカッションの内容を反映させア セスメントを修正する。 事後学習 60分
26	母子の個別支援 事例の支援計画 (尾形・山下・小野・手島・中村)	1. グループワーク 対象事例のアセスメントに基づ き、支援計画を立案する。	事前学習：事例のアセスメントをもと に支援計画を立案し記録にまとめ提出 する。 事前学習 150分 事後学習：事例の訪問計画を修正しし 記録に記載し、提出する。 事後学習 60分
27 28	母子の家庭訪問における支援 計画と技術 (ゲストティーチャー・尾 形・山下・小野・手島・中村)	1. 発表 対象事例の支援計画を発表する。 2. 講義 母子のアセスメントに必要な情報 収集の方法と技術を学ぶ。	事後学習：母子の個別支援について学 んだことをまとめて提出する。 事後学習 60分
29 30	個別支援に活かすコミュニケ ーション技術 アサーショントレーニング (ゲストティーチャー・尾 形・山下・小野・手島・中村)	1. 個別支援に必要なコミュニケ ーション技術を学ぶ。	
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習				○									○	○				
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
その他()																		
内容																		
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習				○														○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護技術論II		単位	2単位
科目名（英語）	Skills Development for Public Health Nursing II		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	
標準履修年次	4年次	開講時期	前期	
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・（中村美穂子）			
授業概要	公衆衛生看護活動における健康教育の意義とその基盤となる理論について理解し、地域住民が健康課題を主体的に解決することを目的とした支援技術を習得する。 行動科学や学習理論に基づいた集団に対する支援方法を学び、実習と連動させた演習で健康教育の企画立案、実施、評価のプロセスを体験する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護アセスメント論Iを修得していること			
テキスト	尾形由起子・山下清香編『地域包括ケアを進める公衆衛生看護学 演習・実習』クオリティケア 2019、3080円 日本健康教育士養成機構著、『新しい健康教育』、保健同人社、2011、3,078円 佐伯和子（編）「公衆衛生看護技術」医歯薬出版株式会社 2014、4,320円			
参考図書・教材等	参考文献：標美奈子他著、『標準保健師講座1公衆衛生看護学概論』、医学書院、2015			
実務経験を生かした授業	行政保健師の実務経験のある教員が授業を行う。		授業中の撮影	有
学習相談・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	公衆衛生看護活動におけるターゲット集団とその援助の特徴を理解するとともに、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価の方法を理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	地域住民が健康課題を主体的に解決することを目的とした集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づく支援方法を検討し、発表し討議できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	地域住民自身が主体的に行動変容を起こす為の支援方法を検討し、健康教育を企画・実施・評価できる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生看護活動における健康教育の意義とその基盤となる理論について理解し、地域住民が健康課題を主体的に解決することを目的とした支援技術を習得する。 行動科学や学習理論に基づいた集団に対する支援方法を学び、実習と連動させた演習で健康教育の企画立案、実施、評価のプロセスを体験する。 			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
<ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決することを目的とする支援の特徴を理解し、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価について教員の説明を理解することができる。 集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づき作成された健康教育の企画書をもとに健康教育を実施でき評価方法について理解できる。 			

成績評価の基準	
S : 90~100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
S 評価レベル	公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決することを目的とする支援の特徴を理解し、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価を実施することができる。集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づく支援方法を検討し、メンバーと協同して積極的に健康教育を企画・実施・評価できる。
A : 80~89	履修目標を達成している。
A 評価レベル	公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決する事を目的とする支援の特徴を考慮した、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価計画を立案方法が理解できる。集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づく支援方法を理解し、グループメンバーと協同し、教員の助言を受けながら健康教育を企画・実施・評価できる。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
B 評価レベル	公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決する事を目的とする支援の特徴を考慮した、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価計画を立案方法が理解できる。集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づき作成された健康教育の企画書をもとに健康教育を実施・評価できる。
C : 60~69	到達目標を達成している。
C 評価レベル	公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決することを目的とする支援の特徴を理解し、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価について教員の説明を理解することができる。集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づき作成された健康教育の企画書をもとに健康教育を実施でき評価方法について理解できる。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30		20			50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	30		10		10	50
思考・判断・表現	(DP3)			10		20	30
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)					20	20
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	地域の健康課題解決を目指した集団へのアプローチ（尾形）	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてのガイダンス 2. 講義 地域の健康課題解決を目指した集団支援の概要 1) 集団支援技術とは	

		<p>2) 健康教育とは (定義, 理論)</p> <p>3) 「個人が求める健康」 ミクロな健康と「社会 (国家) が求める健康」 マクロな健康</p> <p>4) 健康教育のテーマや対象の設定</p> <p>5) 健康教育の目的, 目標設定 (地域診断をもとにした健康課題解決)</p>	
2	<p>集団支援 (グループ支援と地区組織活動) (山下)</p>	<p>1. 講義</p> <p>集団支援の目的と方法及び保健師活動について</p>	
3	<p>地域で活動する自主グループ活動の支援 1</p> <p>インタビューガイド作成 (小野)</p>	<p>1. オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習の進め方 ・ インタビューの目的・方法 ・ インタビューを行う組織の概要 <p>2. グループワーク</p> <p>インタビューの内容を検討し、インタビューガイドを作成する。</p>	<p>事後学習: (事後学習 120 分)</p> <p>グループワークを反映したインタビューガイドを作成し、担当教員へ提出する (DP2)</p>
4	<p>地域で活動する自主グループ活動の支援 2</p> <p>(外部講師)</p>	<p>1. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田川市の概要と健康課題 ・ 地域の健康課題解決を目指した地区組織活動支援 ・ 田川市で活動する地区組織 <p>地域住民の力、保健師として必要な支援</p>	<p>事後学習 (事後学習 60 分②60 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 配付資料を読む ② 田川市のホームページをインターネットで統計情報などを確認する。
5 6	<p>地域で活動する自主グループ活動の支援 3</p> <p>(尾形・山下・小野・手島・中村)</p>	<p>1. 学外演習・</p> <p>地域で活動するグループや地区組織メンバーへのインタビュー</p>	<p>事後学習: (事後学習 150 分)</p> <p>インタビューの内容をふりかえり、ディスカッションを行う。</p>
7 8	<p>地区組織活動の実践事例紹介 (尾形・山下・小野・手島・中村)・外部講師)</p>	<p>1. 発表・ディスカッション</p> <p>地区組織で活動するメンバーへのインタビュー内容について発表し、保健師が地域の自主グループ活動支援や地区組織活動を行う目的や意義についてディスカッションする。</p> <p>また、地域の自主活動グループや地区組織の活動が地域の健康課題解決に対してどのような役割を果たしているかについて考える。</p> <p>2. 実践事例紹介</p>	<p>事前課題: 発表資料を作成する (事前学習 180 分)</p> <p>1. インタビューについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> グループの概要 (どのような組織が分かるようにまとめる) <input type="checkbox"/> 取り組みの目標 (何を目指しているのか、問題意識も含める) <input type="checkbox"/> 活動の経緯 (動機・きっかけも含めて時系列で分かるように整理する) <input type="checkbox"/> 保健師との関わり <p>2. インタビューを実施して考えたこと (DP2) (事後学習 150 分)</p> <p>事後学習: 講師とのディスカッションをふまえて、以下について考察した内容を A4 用紙 1 枚以内 (600 字程度) で作成し提出する。</p> <p>< 考察内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自主グループの活動の経緯、目的、活動内容 <input type="checkbox"/> 集団や組織を支援することの意義について <input type="checkbox"/> 保健師としてどう関わりたいか、どう関わるのか (DP2)
9	<p>健康教育の意義と目的、事例 (尾形)</p>	<p>1. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康教育に関する定義や法的根拠、目的、目標の設定、ニーズ把握の方法 <p>ヘルスリテラシーに基づく、情報を見極める視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的学習や住民の理解に基づいて「健康」を考える発想 ・ 公衆衛生看護技術として保健師 	<p>事後学習 (事後学習①60 分 60 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ② 配付資料を読み、復習する。 ② テキスト「公衆衛生看護技術」第 3 章 1 を読む。

		が行う健康教育	
10	健康教育で用いられる理論 (手島)	1. 講義 ・健康教育で用いられる理論 KAPモデル、レヴィン3段階理論、 プリシード・プロシードモデル ・健康教育計画立案の際の理論活用	事前学習（事前学習 60分事後学習 60分） テキスト『新しい健康教育』、p48-p54を読む。 事後学習 配布資料を読む。
11	健康教育の企画と展開 (小野)	1. 講義 ・健康教育実施における基本的な考え方 ・健康課題解決に向けた健康教育の企画、立案、評価方法 ・健康教育の対象理解、ニーズアセスメント、健康課題の抽出（潜在的課題、顕在的課題）、目標設定、評価計画	事前学習（事前学習 60分事後学習 120分） テキストの健康教育に関する項目を事前に読んでおく。 事後学習 ふれあい交流で実施する健康教育について健康教育の企画書の地域の健康課題の部分を作成する。
12	高齢者の地域活動の場における健康教育 (手島)	1.オリエンテーション 地域において、地区ごとに実施されている高齢者の交流の場への参加と健康教育の実施について	事後学習（事後学習 60分） 配付資料を読み、復習する
13	ふれあい交流オリエンテーション (外部講師)	1.講義 ふれあい交流の概要と各地区の特徴について	事後学習（事後学習 120分） 配付資料を読み、復習する 関連する文献や資料をインターネット等探して読み、ファイルする。
14	ふれあい交流参加事前学習 (尾形・山下・小野・手島・中村)	1.グループワーク 健康教育の情報収集の項目及び方法について検討する 加齢変化のメカニズムを確認する 各自発表し、ふれあい交流参加者の加齢変化について考察する	事前学習（事前学習 90分事後学習 120分） 高齢者の加齢変化による関連図について、調べてきた資料をもとに、作成する（DP3）
15 16	学外演習：ふれあい交流 (尾形・山下・小野・手島・中村)	1.学外演習:ふれあい交流に参加する 挨拶・コミュニケーション 健康教育の情報収集（対象者・地域・会場等）、テーマの調整を行う 家庭訪問対象者に挨拶する 情報収集をおこなう ・訪問のアポイントメントをとる ・訪問場所等確認をする	事前学習（事前学習 60分事後学習 90分） 地区の周辺環境や訪問対象者の自宅周辺の環境について地図等で調べる（DP10） 演習先の交通手段や行き方について調べる 事後学習 ふれあい交流参加時に把握した地域の情報をまとめる。
17	健康教育の企画① ：地域の健康課題の把握とテーマ設定 (尾形・山下・小野・手島・中村)	1.グループワーク ・地域特性と対象者の実態から健康課題を把握し健康教育テーマを設定 ・テーマに関する情報（医学的情報・生活や保健指導に関する情報等）を収集し、健康問題の基礎知識を確認 ・健康問題発生のメカニズム、関連要因を確認 ・健康問題の予防のための保健行動、行動変容のための支援を検討する	事後学習（事前学習 120分事後学習 90分） 健康教育を実施する地域の健康課題について、グループワークの内容を反映し、計画書を作成し、担当教員へ提出する。 計画書について、ディスカッションを行い、修正する。 （DP3,DP10）
18	健康教育の企画② ：健康ニーズを踏まえた目標設定 (尾形・山下・小野・手島・中村)	1.グループワーク ・健康ニーズを踏まえ、健康教育の必要性を検討する ・疾病や障害予防のために、どのような保健行動をとることができるようになるかとよいか検討する ・健康教育の最終目的と今回の健康教育の到達目標を検討する	事後学習（事前学習 120分事後学習 90分） 健康教育の目標について、グループワークの内容を反映し、計画書を作成し、担当教員へ提出する。 計画書について、ディスカッションを行い、修正する。 （DP3,DP10）

／ディベート ／グループ・ワーク																
その他（ ）																
内容																

あり	○	なし																
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習				○										○	○			
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	組織協働活動論			単位	2単位
科目名（英語）	Topic in Organizational Collaboration			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	4年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子				
授業概要	保健師が行う他職種・他機関との合意形成や協働しながら継続的・組織的に健康課題を解決する方法、協働活動を開発、改善、管理する活動方法について学ぶ。 地域を構成する組織・機関や制度、仕組みを構造的にとらえ、地域の課題解決能力を高めるための連携・協働活動の意義と必要性について理解する。また、行政施策への住民参加、地域組織化活動の意義を理解し、住民との協働活動についても学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱを履修しておくことが望ましい。				
テキスト	各回の担当教員から別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	新保健学講座4 公衆衛生看護活動論2				
実務経験を生かした授業	看護職としての実務経験を活かしのこれまでの実務経験で直面し同職種・多職種との連携・組織協働の必要性と活動事例を説明する。さらに、その実際に活動を行っている実践者との共同活動を含めた授業の組み立てを行う。			授業中の撮影	有
学習相談・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	コミュニティの課題解決能力を高めるための連携・協働活動の意義と協働活動のための保健師の役割について理解する。
	思考・判断・表現	(DP3)	コミュニティを構成する組織や機関の構造と特徴、組織間の関係性に関わる概念について学ぶとともに、行政施策への住民参加、地域組織化活動の意義と保健師の支援方法に論じることができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
看護職がかかわる組織とそのなかで活動する多職種の連携・協働について理解し、患者、地域住民がその連携・協働活動により課題解決につながる理解をする。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
S評価レベル	地域包括ケアシステム構築において、社会が直面している課題を客観的・多角的視点から分析し対処方略を提案できる。さらに、保健師として求められ協働的支援について考察することができる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
A評価レベル	組織におけるマネジメントの原則やそれぞれの組織内における多職種に求められる役割について理解し、保健師との協働方法について考察することができる。		

	また、多職種役割や機能を踏まえ、看護職として求められる役割について自己の見解を示すことができる。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
B 評価レベル	各組織で活動する多職種役割や機能について理解し、社会の中で直面する課題を客観的視点から分析し、講師が述べる対処方略を追随し表現することができる。
C : 60~69	到達目標を達成している。
C 評価レベル	看護職がかかわる組織とそのなかで活動する多職種の連携・協働について理解し、患者、地域住民がその連携・協働活動により課題解決につながる理解をする。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				40	30	30		100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)			40				40
思考・判断・表現	(DP3)				30	30		60
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回 : 通年) 90 分 (30 回 : 半期 2 コマ連続)
1	公衆衛生看護活動における連携・協働とは (尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 地包括ケアシステムの構築がなぜ必要であるのか、看護職としてシステム構築のために、必要な基礎的知識を講義する。また、組織における連携協働についての理解を深めるために、事例を用いて、具体的な活動イメージをもたせ、今後の看護のあり様について検討する。検討した内容をもとに、多職種役割について学ぶ。	事前学習 (事前学習 60 分 事後学習 60 分) ② 100 分 公衆衛生看護学テキスト 3 公衆衛生看護活動 I p126- p144 を講読する (DP2) 事後学習 ① 本日の講義課題についてレポートする ② 関連する国家試験問題を解く (DP2)
2	協働のプロセスと理論 (山下)	1. ディスカッション 公衆衛生看護学実習 I の体験の中で「協働」「連携」と考える場面を確認し、具体的な活動や状況をイメージする。 2. 講義 パワーポイントとテキスト等を用いて、協働の基盤となる理論と活動プロセス、技術にの基本的知識を学び、実	事前学習 (事前学習 60 分 事後学習 30 分) ② 100 分 ・公衆衛生看護学実習 I の体験の中で「協働」「連携」と考える場面をレポートにまとめる (DP2)。 事後学習 ① 該当部分のテキスト (公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術 p 120- p 131)、配布資料を読んで復習する

		実践現場での具体的活動と結びつける。	②関連する国家試験問題を解く (DP2)
3	退院支援における連携方法 (小野、ゲストティーチャー：専門看護師)	1. 講義 地域包括ケアシステムにおける急性期病院の役割等について学ぶ。また、実際の事例をもとに、退院調整システムの中で病態理解・アセスメントの上に立ち、対象者の意思決定を支える看護職の役割・専門性について学ぶ。さらに、急性期病院における退院支援の中での他職種・他機関との協働のあり方について検討する。	事前学習 (事前学習 60 分事後学習 150 分) ②100 分) 該当部分のテキスト (金川克子編「最新保健学講座 4 公衆衛生看護活動論 2」第 5 章在宅看護 p.246-315.) を読む。 事後学習 ①講義・ディスカッションを受けて 地域包括ケアシステム構築における保健師の役割についてレポートを作成する。 ②関連の国試問題を解く
4	退院支援における連携方法 (小野、ゲストティーチャー：医療ソーシャルワーカー)	1. 講義 地域包括ケアシステムにおける急性期病院の退院支援、多職種協働について、ソーシャルワーカーの視点から講義する。支援の中で生じるジレンマや課題から、ソーシャルアクションを通じて多職種と協働しながら次の対象者の暮らしやすさへ繋がるシステム構築のプロセスについて学ぶ。	事前学習 (事前学習 60 分事後学習 150 分) 公衆衛生看護学テキスト 3 公衆衛生看護活動 I p126-162 を講読する。 事後学習 講義・ディスカッションを受けて 地域包括ケアシステム構築における保健師の役割についてレポートを作成する。
5	退院支援における連携方法 (小野、ゲストティーチャー：専門看護師、医療ソーシャルワーカー)	1. ディスカッション 講義を受け、これまでの講義・演習、実習体験も踏まえ、保健師として急性期病院における看護・福祉職との協働のあり方について検討する。	事後学習 (事後学習 100 分) ① 関連する国家試験問題を解く
6 7	小規模多機能施設の多職種との連携 (手島、ゲストティーチャー：保健師)	1. 講義 地域包括ケアシステム構築において地域で先進的に取り組むホームホスピスについて、住民のニーズに即したサービスをつくり提供する必要性、地域住民や関係機関との連携の必要性とその方法、職種間の連携の必要性とその方法を具体的に学ぶ。また、背景として財政的枠組み、行政の枠組みを講義する。これらにより地域包括ケアシステム構築において先駆的な役割を果たす保健師の役割について学ぶ。	事前学習 (事前学習 60 分事後学習 150 分) ② 100 分) 該当部分のテキスト (金川克子編「最新保健学講座 4 公衆衛生看護活動論 2」第 5 章在宅看護 p.246-315.) を読む。 事後学習 ①講義・ディスカッションを受けて 地域包括ケアシステム構築における保健師の役割についてレポートを作成する。 ③ 関連する国家試験問題を解く
8	看護間の連携 (山下、ゲストティーチャー：訪問看護師)	1. 講義 訪問看護師をゲストティーチャーとして招き、田川地域の訪問看護ステーション連絡協議会、田川市支え合い体制づくりの活動経過と訪問看護師の活動、保健所保健師から紹介され支援が始まった事例について語ってもらう。 これらの活動の事例から、訪問看護ステーション同士の協働、訪問看護師と田川市保健師との協働、訪問看護師と保健所保健師と協働について学ぶ。	事前学習 (事前学習 60 分事後学習 150 分) 訪問看護ステーションの機能と役割、訪問看護師の機能と役割について、在宅看護学のテキストで学習する (DP2) 日本看護協会出版会「家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第 3 版」第 2 章在宅看護システムと活動の現状 p.62-82. 在宅看護概論で購入している。(新 4 年生) 新 3 年生からは教科書が変更となっている。(「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」 p38-91.) 事後学習 講義・ディスカッションを受けて 地域包括ケアシステム構築における保健師の役割についてレポートを作成する。
9	多職種連携による地域ケアシステムの構築の実際 (尾形、ゲストティーチャー：市保健師)	市の地域包括ケアシステムに携わる保健師を招き、田川地域の多職種の力量形成について、さらには、地域住民の主体性をうながすための田川市支え合い体制づくりの活動経過について、プロセスを示し、保健師の専門性を元にした支援方法について語ってもらう。田川市の活動の事例から、多職種の協働、保健所保健師と保健師	事前学習 (事前学習 60 分事後学習 150 分) 公衆衛生看護学テキスト 3 公衆衛生看護活動 I p126- p144 を講読する 事後学習 講義・ディスカッションを受けて 地域包括ケアシステム構築における保健師の役割についてレポートを作成する。

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護アセスメント論 I			単位	1 単位
科目名（英語）	Assessment in Public Health Nursing I			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	3 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・(未定)・(中村美穂子)				
授業概要	公衆衛生看護活動の活動展開の基盤となる地域のアセスメント方法を学ぶ。コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いたコミュニティを把握するために必要な情報の収集方法と、人々の健康課題を把握するためのアセスメント方法を学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	看護学部専門基礎科目及び専門科目の中の必須科目のうち3年前期までに開講された科目の単位を修得していること。				
テキスト	①尾形由起子・山下清香編『地域包括ケアを進める公衆衛生看護学 演習・実習』クオリティケア 2019、3080 円 ②佐伯和子編著『地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた』医歯薬出版株式会社 2007、2,592 円 ③エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳『コミュニティ・アズ・パートナーー地域看護の理論と実際ー』医学書院 2007、4101 円 ④佐伯和子編他『公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術』医歯薬出版株式会社 2014、4,320 円				
参考図書・教材等	①厚生労働統計協会著『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 ②井伊久美子他編『新版第3版保健師業務要覧』日本看護協会出版会 2013 ③井伊久美子他『住民の主体的組織活動の展開 地域保健活動のめざすもの』医学書院 1996 適宜提示				
実務経験を生かした授業	保健師として実務経験を有する教員が、地域を対象とした公衆衛生看護アセスメントについて教授する。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方を理解する。
	思考・判断・表現	(DP 3)	コミュニティに関する情報を収集して特長を捉え、人々の生活のあり方や社会環境を背景とした顕在的、潜在的な健康課題について考察することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	・公衆衛生看護活動の活動展開の基盤となる地域のアセスメント方法を学ぶ。 ・コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いたコミュニティを把握するために必要な情報の収集方法と、人々の健康課題を把握するためのアセスメント方法を学ぶ。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。		

	履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。 ・インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握することができる。 ・複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の実態、人々の生活のありようや社会環境を捉え、それらが地域の健康課題と関連していることを理解することができる。
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
	<p>S 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。</p> <p>インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題と関連付けて理解できる。</p> <p>複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて顕在的、潜在的な健康課題を把握することができる。</p>
A：80～89	履修目標を達成している。
	<p>A 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。</p> <p>インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題との関連を考慮することができる。</p> <p>複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて顕在的、潜在的な健康課題を検討することができる。</p>
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
	<p>B 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。</p> <p>インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題と関連付けて考える必要性が理解できる。</p> <p>複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて健康課題を検討することができる。</p>
C：60～69	到達目標を達成している。
	<p>C 評価レベル 公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。</p> <p>インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握することができる。</p> <p>複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の実態、人々の生活のありようや社会環境を捉え、それらが地域の健康課題と関連していることを理解することができる。</p>
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	40			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)		30	20			50
思考・判断・表現	(DP3)		30	20			50
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						

	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	公衆衛生看護活動における健康課題の把握とアセスメント(尾形)	1. 講義 公衆衛生看護の目的とアセスメントの必要性について理解する。 1) 病気のトラジャクトリー(実習事例をもとにディスカッション) 2) 高齢化の進展及び多死社会に向けた課題解決方法 3) 在宅療養の課題 4) 地域を看護するとは	事前学習 テキスト「コミュニティーアズパートナー」9章を読む。 事後学習 コミュニティーアズパートナーモデルを使い、地域の情報収集を行い健康課題を抽出する。 (DP2, 3)
2	地域の生活者のアセスメント(小野)	講義 ・生活者のアセスメントに必要な情報とアセスメント方法について理解する。 【からだの状況・生活(食事・身体活動・休養)・取り巻く環境】	
3	生活者の実態をとらえる視点(食事)(小野)	演習 ・地域の食生活改善推進員と調理実習を行い、健康的なバランスの良い食事を理解する。 ・自分の食生活を振り返り、地域で暮らす人々にとっての食事の意義を考察する。	事前学習(30分) ・食生活改善推進員について調べる。 事後学習(60分) ・地域で暮らす人々にとっての食事の意義についてレポートを作成する。
4 5	地域の高齢者の健康課題の把握(1)介護負担の理解(尾形・山下・小野・手島・(中村)) 1)文献学習 2)介護負担と関連要因	1. グループワーク ・2グループに分かれ、先行研究から介護負担の構成要素と関連要因を学ぶ。 ・文献要約を紹介し、介護の実態と介護負担についてディスカッションする。 ・介護者の特徴、被介護者の特徴、負担を軽減する要因、増強する要因等を付箋に記載し、グループピングし、関連図を作成する。 ・グループ毎に発表する。	事前学習(180分) ・介護負担に関する配布文献および自分で検索した文献3本を読み要約を作成する。 (DP2, 3) 事後学習(30分) ・テキストの介護負担に関する部分を読む。
6 7	地域の高齢者の健康課題の把握(2)(家庭訪問によるインタビュー)(尾形・山下・小野・手島・(中村)) 1)個別からみた地域の健康課題把握の進め方 2)福智町の概要 3)訪問対象者の概要	講義 ・個別事例から地域の健康課題を把握する方法の考え方 ・介護者インタビューを通じた地域の健康課題把握 ・インタビューの実施手順 ・訪問対象者が生活する地域概要 演習 ・訪問対象である介護者と被介護者の概要を理解し、訪問計画を立案する。 ・訪問カバン貸出	事前学習(30分) ・テキストの該当部分を読んでくる。 事後学習(90分) ・家庭訪問対象の介護者及び被介護者の基礎疾患の概要と看護について学習する。 ・訪問計画を立案する。

8	<p>地域の高齢者の健康課題の把握(3)(訪問インタビューの準備)(尾形・山下・小野・手島・(中村))</p> <p>1)訪問インタビュー計画作成 2)ロールプレイ 3)訪問計画修正</p>	<p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人一組で家庭訪問計画を立案し、家庭訪問の留意事項、介護経験を聞き取りのポイント等について指導を受ける。 ・計画を基にロールプレイを行い、指導を受けて計画を修正する。 ・訪問先までの経路を確認する。 	<p>事前学習(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問計画の立案 <p>事後学習(90分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問計画の修正 ・訪問経路の確認 ・インタビュー準備
9	<p>地域の高齢者の健康課題の把握(4)(訪問インタビューの実施)(尾形・山下・小野・手島・(中村))</p> <p>1)家庭訪問予定の確認 2)訪問インタビュー実施 ・在宅介護の経験プロセスを聞き取る 3)事後報告・記録整理</p>	<p>学外演習</p> <p>1)訪問準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前日に訪問対象者に電話をして、約束の時間場所等を確認する。 <p>2)訪問インタビューの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護経験者の自宅を訪問し、介護経験のプロセスを聞き取る。 <p>3)事後報告・記録記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問終了後、教員に訪問時の状況を報告し、記録を整理する。 	<p>事前学習(60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問の事前学習 ・訪問計画書の作成 ・ロールプレイ <p>事後学習(90分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問記録作成(DP2, 3)
10	<p>地域の高齢者の健康課題の把握(5)(訪問インタビュー結果からの実態把握)(尾形・山下・小野・手島・(中村))</p> <p>1)インタビューでわかった在宅介護の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコマップ ・住宅の見取り図 ・介護者の1日の生活 <p>2)在宅介護の介護体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護経過 <p>3)介護負担の現状について</p>	<p>演習</p> <p>1)インタビューから得られた情報を記録に整理して報告し、結果からわかる在宅介護の実態を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコマップ、住宅の見取り図、介護者の1日の生活状況、生活史等を記載して介護者の状況を可視化し、把握する。 ・介護経過から、被介護者の状況、介護者の状況、気持ち、支援状況のプロセスを把握し、介護者の体験を理解し、介護負担について考察する。 	<p>事前学習(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問記録の整理 <p>事後学習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問事例発表の準備 記録整理 在宅介護の実態についての考察 介護負担と関連要因についての考察
11 12	<p>地域の高齢者の健康課題の把握(6)(訪問調査結果の考察)(尾形・山下・小野・手島・(中村))</p> <p>1)訪問インタビューで把握した在宅介護の実態 2)在宅介護の実態、介護負担と関連要因について</p>	<p>演習</p> <p>個別訪問記録を用いて伺ってきた介護経験を発表し共有する。</p> <p>1)訪問インタビュー結果の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護者：概要、健康状態、1日の生活、家族状況、生活環境 ・被介護者：概要、健康状態、介護状況、サービス利用、介護経過 <p>介護者の介護前後の生活状況と被介護者、周囲の支援等に対する思いについて報告する。</p> <p>2)在宅介護の実態について考察したこと、介護負担と関連要因についてディスカッションする。</p>	<p>事前学習(30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護記録の整理と発表準備 <p>事後学習(60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問一覧及び要約の作成(DP2, 3)
13	<p>地域の高齢者の健康課題の分析(複数事例から在宅介護の実態を把握する)(尾形・山下・小野・手島・(中村))</p> <p>1)地域の在宅介護の実態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被介護者の状況 ・介護者家族の状況 ・介護者の健康状態 ・介護者の生活状況 ・介護状況 ・介護に対する思い 	<p>グループワーク</p> <p>2グループに分かれ、訪問事例の情報を項目別に記入して各項目の要約を作成し、概要を把握する。</p>	<p>事後学習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様式に従って各事例の情報を記入して要約し、概要を把握する。 ・発表の準備 <p>個別のインタビュー記録と複数事例の概要から、以下の3点を介護者の立場に立って考えてくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護者1日の生活からわかること ②介護経過からわかること ③介護者の健康状態の変化からわかること

14 15	<p>地域の高齢者の健康課題の分析（複数事例から在宅介護の実態を把握する） （尾形・山下・小野・手島・（中村））</p> <p>1)介護者の1日の生活状況と課題 2)介護経過と課題 3)介護者の健康課題 4)まとめ</p>	<p>1. 発表・グループワーク 各グループでわかったことを発表する。 1)介護者の1日の生活からわかること 2)介護経過からわかること 3)介護者の健康状態の変化からわかること</p> <p>2. グループワーク ・グループで介護者にはどのような負担を抱えているのか、どのような健康課題があるのか検討し、発表する。</p>	<p>事前準備（30分） ・各事例の介護経過と介護者の1日の生活をホワイトボードに記載しておく。</p> <p>事後学習（90分） ・レポート作成 「介護経過と介護者の健康課題について」 介護者の健康問題と健康問題が生じる生活状況、取り巻く環境との関連を考察する。 （DP2, 3）</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習			○						○							
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護アセスメント論II			単位	2
科目名（英語）	Assessment in Public Health Nursing II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	4年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・（未定）・（中村美穂子）				
授業概要	公衆衛生看護活動の展開につながる地域のアセスメント技術を習得するため、実習先の地域の情報を収集しアセスメントを行い、抽出した健康課題をもとに必要な活動を検討する。把握した地域の特徴と健康課題を資料化して意見交換を行い、プレゼンテーション技術や討議の進め方について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護アセスメント論Iを修得していること				
テキスト	①尾形由起子・山下清香編『地域包括ケアを進める公衆衛生看護学 演習・実習』クオリティケア 2019、3080円 ②佐伯和子編著、地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた、医歯薬出版株式会社、2007、2,592円 ③エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳、コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー、医学書院、2007、4101円 ④佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円				
参考図書・教材等	厚生労働統計協会著、『国民衛生の動向』、厚生労働統計協会 適宜提示				
実務経験を生かした授業	保健師として実務経験を有する教員が、地域を対象とした公衆衛生看護アセスメントについて教授する。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	実習先の地域の情報を収集し、アセスメントし、健康課題を抽出し検討することができる。収集した地域の情報と健康課題を資料化し、発表し討議できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	統計データのほか、フィールドサーベイやインタビューなど現場に身をおいた体験をして積極的に地域の情報を収集できる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	・公衆衛生看護活動の展開につながる地域のアセスメント技術を習得するため、実習先の地域の情報を収集しアセスメントを行い、抽出した健康課題をもとに必要な活動を検討する。 ・把握した地域の特徴と健康課題を資料化して意見交換を行い、プレゼンテーション技術や討議の進め方について学ぶ。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
	・訪問インタビューで把握した健康問題を関係者に報告し、課題解決について検討できる。		

・地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して地域の特徴をと地域の健康課題を検討できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
S 評価レベル：	訪問インタビューで把握した健康問題の構造を把握して関係者に報告し、課題解決の方策を提言できる。 地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の健康課題を抽出することができる。
A：80～89	履修目標を達成している。
A 評価レベル	訪問インタビューで把握した健康問題の構造を理解して関係者に報告し、課題解決の方策を検討できる。 地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の特性を把握し、地域の健康課題を検討することができる。
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
B 評価レベル	訪問インタビューで把握した健康問題の構造を検討して関係者に報告し、課題解決について検討できる。 地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の特性を理解し健康課題を検討することができる。
C：60～69	到達目標を達成している。
C 評価レベル：	訪問インタビューで把握した健康問題を関係者に報告し、課題解決について検討できる。 地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して地域の特徴をと地域の健康課題を検討できる。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	40			100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		20	20			40
	(DP4)		20	20			40
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			20			20
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）

1	地域の高齢者の健康課題の構造化（尾形・山下・小野・手島・（中村））	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. プレゼンテーション ・訪問インタビューで把握した介護者の実態と健康問題、その背景について、レポートの概要を発表する。 3. グループディスカッション ・介護者の健康問題が生じる背景と要因を確認し、必要な支援について考える。 4. グループワーク ・報告会の企画の概要について説明を受ける。 ・グループに分かれ、介護者に伝えたいメッセージ、発表内容と媒体を検討する。	事前学習（30分） ・公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ最終レポートの発表準備を行う。 事後学習（240分） ・グループ毎に発表内容と媒体を検討する。 ・報告会の発表内容の検討、媒体作成、シナリオの検討
2			
3	1)在宅介護者の健康課題のアセスメント ・介護者の健康問題と健康問題が生じる生活状況、取り巻く環境との関連について 2)健康課題の構造化 ①介護経過と健康課題 ②介護者の1日の生活と健康課題 ③健康問題の発生と介護に伴う生活状況の関連 ④介護負担と介護者を取り巻く環境・支援の関連 3)報告会の企画の概要 ・報告会のねらいと企画 ・役割分担と準備	①対象者の概要 介護者の生活、介護経過 ②介護者の健康問題 ③在宅介護者への支援	
4	地域の高齢者の健康課題の構造化②（尾形・山下・小野・手島・（中村））	1. プレゼンテーション ・グループで考えた介護者に伝えたいメッセージを発表し、共有する。 2. グループワーク ・媒体を検討し作成する。 ・シナリオ案を作成する。 ・適宜教員の助言を受ける。	事後学習（事後学習・360分） ・媒体作成・シナリオ作成（グループワーク）（DP3,4）
5			
6	1)媒体作成 2)シナリオ作成		
7	地域の高齢者の健康課題の共有①（報告会準備）（尾形・山下・小野・手島・（中村））	1. グループワーク ・グループで媒体及びシナリオを作成する。 2. デモンストレーション ・全体でデモンストレーションを行う。 ・適宜、教員の助言を受ける。	事後学習（事後学習・270分） ・媒体作成・シナリオ作成（グループワーク）・デモンストレーション（DP3,4）
8	1)媒体作成 2)シナリオ作成 3)デモンストレーション		
9	地域の高齢者の健康課題の共有②（報告会の実施）（尾形・山下・小野・手島・（中村））	1. 報告会準備 ・訪問インタビュー対象者に連絡し、報告会にお誘いする。 ・会場設営、必要物品の準備等 2. 報告会（学外演習） ・訪問インタビューで把握した在宅介護の実態と健康課題を報告する。 ・出席者に発表に対する感想や意見を伺い、在宅介護の実態と課題を共有し理解を深める。 ・出席者と共に介護者の抱える課題解決のために必要なことを一緒に考える。	事後学習 ・レポート作成 「訪問インタビュー及び報告会で学んだこと」 地域の在宅介護者の健康課題、地域の健康課題の把握とアセスメントについて考察する。 （DP3, 4, 5）
10	1. 報告会準備 2. 報告会実施		
11	地域の高齢者の健康課題の共有③（評価）（尾形・山下・小野・手島・（中村）） 1. 報告会の振り返り ・地域の健康課題の共有 ・新たにわかった地域の実態 ・報告会の意義 ・今後、必要な活動	1. グループディスカッション ・報告会を振り返り、在宅介護の課題解決のために、今後どのようなことが必要か考える。 ①参加者と課題共有できたか ②新たにわかった地域の実態（当事者・支援等） ③参加者（当事者・関係機関・関係職種）にとっての意義	
12	健康課題抽出のためのデータ収集・分析：人口動態・人口静態（尾形・山下・小野）	1. 講義 1)保健師活動における健康課題抽出の必要性とアセスメントのプロセスについて講義する。	事前学習（事前学習30分事後学習①30分②120分） 地域看護アセスメントガイド 1基本

	<p>1)地域診断のためのアセスメントプロセス</p> <p>2)ガイダンス</p> <p>3)人口動態統計、人口静態統計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口動態統計、人口静態統計の情報 ・情報収集方法 ・情報整理の仕方 	<p>2)ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールと演習の進め方について説明する。 <p>①データ収集</p> <p>②データ入力と加工 (表・グラフ作成)</p> <p>③データの読み取り、考察</p> <p>④地区踏査</p> <p>⑤発表について</p> <p>2. 演習：人口動態統計、人口静態統計</p> <p>* 実習グループに分かれて演習を行う。</p> <p>1)人口動態・人口静態のデータ収集、入力と加工一連の作業について手順を追って実技演習を行う。</p> <p>2)データの読みとり・考察</p> <p>範囲や人口規模の異なる地域間でのデータ比較や経年変化、関連する情報(データ)を合わせた考察の手順を経験する。</p> <p>3)表やグラフへの加工</p> <p>データ加工の目的や意図を意識して資料としての体裁を整える実技演習を行う。</p>	<p>編を読む。</p> <p>事後学習</p> <p>①資料を読む。</p> <p>②公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域の人口動態・人口静態についてワークシートに沿ってデータ収集し、図表を作成する。その傾向を読み取る。(DP3, 4, 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成したワークシートをeラーニングで提出する。
13	<p>健康課題抽出のためのデータ収集・分析：人口動態・人口静態(尾形・山下・小野・手島・中村)</p> <p>演習</p> <p>1)データ収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口動態統計情報 ・家族世帯の情報 <p>2)人口動態・人口静態読み取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値、率、割合 ・地域間比較 ・推移の比較 <p>3)データの加工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表、グラフの作成 	<p>1. 演習</p> <p>1)各グループから提出された人口動態・人口静態のデータを集約した結果を提示しながら、加工の仕方、データの読み取り方の実際を説明する。</p> <p>2)各地域のデータから特徴を読み取り解釈し、データの読み方や解釈を説明し、地域の特徴を確認する。</p>	<p>事後学習(90分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域の人口動態・人口静態についてワークシートに沿ってデータ収集し、図表を作成する。その傾向を読み取る。(DP3, 4, 5)
14	<p>健康課題抽出のためのデータ分析・判断：人口動態・人口静態(山下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口動態統計、人口静態統計からみた地域の特徴 ・数値、率、割合 ・地域間比較 ・推移の比較 ・表、グラフの作成 	<p>1. 演習(健康指標)</p> <p>1)健康指標、収集方法、整理の仕方について講義する。</p> <p>2)実習グループに分かれ、死亡統計を中心に健康指標のデータの収集方法を確認し、必要なデータ収集を行う。</p> <p>3)データを加工、分析し読み取る。</p> <p>4)各データからわかる地域の特徴についてグループで検討する。</p>	<p>事後学習(180分)</p> <p>公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域の健康指標(死亡統計、母子健康指標)についてワークシートに沿ってデータ収集し、図表を作成する。その傾向を読み取る。(DP3, 5)</p>
15 16	<p>健康課題抽出のためのデータ収集(健康指標)</p> <p>(尾形・山下・小野・手島・中村)</p> <p>1)データ収集(健康指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死亡数(総数・死因別) ・死因別死亡割合 ・粗死亡率 ・年齢調整死亡率 ・標準化死亡比 ・母子保健健康指標 	<p>1. 演習</p> <p>1)各グループから提出された健康指標のデータを集約した結果を提示しながら、加工の仕方、データの読み取り方の実際を説明する。</p> <p>2)各地域のデータから特徴を読み取り解釈し、データの読み方や解釈を説明し、地域の特性を確認する。</p>	<p>事後学習(90分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域の人口動態・人口静態についてワークシートに沿ってデータ収集し、図表を作成する。その傾向を読み取る。(DP3, 4, 5)
17	<p>健康課題抽出のためのデータ分析・判断(健康指標)</p> <p>(小野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康指標情報からみた地域の特徴 ・数値、率、割合 ・地域間比較 ・推移の比較 ・表、グラフの作成 	<p>1. 演習(サブシステム)</p> <p>1)サブシステムのデータの収集方法を確認する。</p> <p>自治体ホームページ等を活用して、質的データも収集する。</p> <p>2)グループに分かれ必要なデータ収集を行い、各データの特徴につ</p>	<p>事後学習(事後学習180分)</p> <p>公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域のサブシステムについてデータを収集し、まとめる。(DP3, 4, 5)</p>
18 19	<p>健康課題抽出のためのデータ収集・分析(サブシステム)</p> <p>(尾形・山下・小野・手島・中村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ収集(サブシステム) ・経済指標(生活保護率、財 		

	<p>政力指数等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業（産業別従事者等） ・保健医療福祉関係情報（介護保険認定率、医療費等） ・教育 	<p>いてグループで検討する。</p>	
20 21 22	<p>地区踏査（学外演習） （尾形・山下・小野・手島・中村）</p> <p>1)地区踏査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意義 ・5感を使って地域を知る <p>2)データ収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的環境 ・交通機関 ・行政 ・住民の意識 	<p>1. 事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区踏査の目的、調査項目、データ収集方法、交通機関等を検討し、適宜教員の助言を受けながら計画を作成する。 <p>2. 地区踏査（学外演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習地に身を置き5感を使い住民の生活の場の情報を収集する。 ・生活者の視点で地域を歩き、地域の住民から話を伺う。 ・実習先の市町村、保健所等の指導者に挨拶し、実習の打ち合わせをすると共に情報を収集する。 <p>3. 情報整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区踏査の結果について内容をまとめ、分析・検討する。 ・地域概況を示す地図を作成する。 	<p>事前学習（事前学習 90 分事後学習 180 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等を活用して地域の地図や情報を収集し、地区踏査の計画を作成する <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・把握した情報を整理する
23	<p>健康課題抽出のためのデータ分析・判断（サブシステム） （山下・小野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブシステム情報からみた地域の特徴 ・数値、率、割合 ・地域間比較 ・推移の比較 ・表、グラフの作成 ・地区踏査からわかった地域の特徴 	<p>1. 演習</p> <p>1)各グループから提出されたサブシステムのデータを集約した結果を提示しながら、加工の仕方、データの読み取り方の実際を説明する。</p> <p>2)各地域のデータから特徴を読み取り解釈し、データの読み方や解釈を説明し、地域の特性を確認する。</p> <p>3)地区踏査の結果を報告する</p>	<p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報整理
24 25	<p>地域の健康課題の抽出（中間討議）（尾形・山下・小野・手島・中村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性の把握 ・健康問題の検討 ・健康課題の検討 	<p>1. グループワーク</p> <p>1)地域看護診断のプロセスを確認する。</p> <p>2)これまで収集し分類した情報全体を読み取る。</p> <p>3)顕在化している健康問題、潜在的な健康問題を検討する。</p> <p>4)高齢者、母子、成人各期の住民の生活を考え、地域の特徴を検討する。</p> <p>5)コアの情報とサブシステムの情報を関連付けて、健康問題の背景を考える。</p> <p>2. 発表準備をする。</p> <p>資料作成、発表シナリオ作成</p>	<p>事前学習（事前学習 90 分事後学習 90 分）</p> <p>グループワークができるようにこれまで収集した情報を整理しておく。</p> <p>事後学習</p> <p>発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料作成 ・発表シナリオ作成（DP 3, 4, 5）
26 27	<p>地域の健康課題の検討①（尾形・山下・小野・手島・中村）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴の把握 	<p>1. 発表</p> <p>グループ毎に地域の概要と特徴を発表する。</p> <p>情報の読み取り、解釈、地域ごとの相違等についてディスカッションする。</p> <p>2. 発表準備</p> <p>ディスカッションを踏まえ、地域の健康課題を再検討する。</p> <p>資料作成、発表シナリオ作成</p>	<p>事後学習（事前学習 90 分事後学習 90 分）</p> <p>発表準備</p> <p>事後学習</p> <p>発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料作成 ・発表シナリオ作成
28 29 30	<p>地域の健康課題の検討②：発表・討議（尾形・山下・小野・手島・中村）</p>	<p>1. 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に地域の健康課題を発表する。 	<p>事後学習（事前学習 90 分事後学習 180 分）</p> <p>地域診断のための情報収集と分析、</p>

<ul style="list-style-type: none"> 健康課題の抽出 地域診断のまとめ 		<p>地域特性を踏まえ、健康問題と背景や生活環境の関連についてディスカッションする。 健康課題の構造について考える。</p> <p>2. まとめ 地域診断プロセスと考え方をまとめる。</p> <p>3. 実習に向けての準備 公衆衛生看護学実習Ⅰに向けて、グループ毎に資料の追加修正、実習テーマに関する情報収集について確認する。</p>	<p>健康課題の抽出の過程を振り返り、ディスカッションを踏まえて資料の追加修正をする。 (DP 3, 4, 5)</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習										○	○				○	○	○	○
体験学習／調査学習												○	○		○	○	○	○
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○	○	○	○	○	○					○				
その他()																		
内容																		

あり	○	なし																		
講義回数				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
発見学習／問題解決学習				○							○									
体験学習／調査学習				○	○			○	○	○	○									
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク						○	○					○	○	○	○	○	○	○		
その他()																				
内容																				

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護管理論			単位	2単位
科目名（英語）	Public Health Nursing Administration			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	4年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子				
授業概要	公衆衛生看護活動におけるマネジメントの考え方と意義について理解し、行政の保健師の役割と管理活動について学ぶ。 行政組織の予算管理、人事管理、事業管理の実際、地域ケアシステムの構築とケアサービスの質の管理、政策決定及び施策化への関わり、災害等健康危機管理における行政の活動について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱを履修しておくことが望ましい。				
テキスト	尾形由起子他編、『地域包括ケアをすすめる 公衆衛生看護学 演習・実習』 クオリティケア、2019、3,080円 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2018年版 各論2』 日本看護協会出版会、2018、4,968円 佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320円 各回の担当教員からの配布資料				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業	科目担当教員が行政保健師としての実務経験を基に、実践に必要な公衆衛生看護管理の知識・技術を精選し、理解しやすいように授業計画を組み立てた。 各担当教員が行政保健師としての経験を基に、講義を行う他、市町村及び県庁、産業保健の現場の保健師をゲストティーチャーとして招き、実践活動について講義してもらう。			授業中の撮影	○
学習相談 ・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	公衆衛生看護管理、地域ケアシステム、地域における健康危機管理の基本的知識が理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	地域ケアシステム及び地域の健康危機管理における課題を明らかにし、必要な対策を立案できる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	地域の健康危機管理における保健師の役割を理解し、活動の在り方を探究することができる。
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
	・公衆衛生看護活動におけるマネジメントの考え方と意義について理解し、行政の保健師の役割と管理活動について学ぶ。 ・行政組織の予算管理、人事管理、事業管理の実際、地域ケアシステムの構築とケアサービスの質の管理、政策決定及び施策化への関わり、災害等健康危機管理における行政の活動について学ぶ。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		

・公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師の活動の基本知識と実習体験と関連づけて理解し、課題の把握と改善の必要性が理解できる。	
成績評価の基準	
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。
公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師活動の基本知識を用いて実習体験から現状と課題を捉え、効果的な改善策を提案できる。	
A：80～89	履修目標を達成している。
公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師の活動の基本知識を用いて実習体験から現状と課題を捉え、改善策を検討することができる。	
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師の活動の基本知識と実習体験と関連づけて理解し、課題の把握と改善策の考え方が理解できる。	
C：60～69	到達目標を達成している。
公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師の活動の基本知識と実習体験と関連づけて理解し、課題の把握と改善の必要性が理解できる。	
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	20		20	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)							20
思考・判断・表現	(DP3)			40	10		20	60
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)				10			20
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考		その他については、ディスカッションでの発言、参加度を考慮する。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1 単位授業 1 回平均】160 分（8 回） 45 分（15 回） 【2 単位授業 1 回平均】180 分（15 回） 45 分（30 回：通年） 90 分（30 回：半期 2 コマ連続）
1	公衆衛生管理の定義および機能 公衆衛生看護管理の 8 つの概念（尾形）	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 公衆衛生看護管理機能の必要性、公衆衛生看護管理の実践者、公衆衛生看護の管理の機能について理解する。 1) 看護管理はシステム（インプット、プロセス、アウトプット） 2) 保健師に求められる看護管理（8 つの機能） 3) 看護管理機能の前提条件 4) 8 つの機能について、一つ一つ説明	事前学習（60 分） ①テキスト（各論 2 第 3 章 II）を読む。 事後学習（①60 分、②60 分） ①配布資料を基に復習する。 ②国家試験の過去問題を解く。

		5) 前提となる「公共性」の理念 6) リーダーシップ論 (S L 理論, 他)	
2	保健師が行う施策化とは何か 健康施策形成過程 (山下)	1. 講義 パワーポイント及び資料を基に、保健師が行う施策化の基本的な知識、として、公共政策の概念、構成要素、健康政策形成過程について学ぶ。 保健師の施策化の活動を理解するため、文献や事例から公衆衛生看護活動における施策化のプロセスを学ぶ。	事前学習 (60分) 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術 (p132-141) を読む。 事後学習 (①60分、②60分、③60分、④90分) ①該当部分のテキスト、配布資料を読んで復習する (DP2) ②実習先の保健計画を読む。 ③国家試験の過去問題を解く。 ④保健師活動に関する法制度を調べる。
3	事業・業務管理 (小野)	1. 講義 保健師が行う事例管理を含む事業・業務管理について、地域住民の生活実態をとらえ、統計データや事業実績を含めて健康課題を抽出し、健康課題に対する保健事業を実施し、事業評価を行う一連の保健事業の展開 (PDCA) について学ぶ。 2. ディスカッション 公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱで学んだ資料を基に具体事例について理解する。	事前学習 (60分) 公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱで学んだ保健事業の展開についての実習記録を復習し説明できるよう準備し印刷して持参する。 実習記録を印刷して持参する。 事後学習 (①60分、②60分) ①該当部分のテキスト、配布資料を読んで復習する (DP2) ②国家試験の過去問題を解く。
4	組織運営管理 (山下)	1. 講義 組織運営管理と情報管理の基本的知識について、パワーポイント等を基に学ぶ。 実習先の組織図等を基に、具体事例について理解する。	事前学習 事後学習 (①30分、②60分) ①該当部分のテキスト (各論2第3章Ⅱ) の該当部分、配布資料を読んで復習する (DP2) ②国家試験の過去問題を解く。
5	国レベル・県レベルにおける看護政策の形成 (山下、ゲストティーチャー：県庁保健師)	1. 講義 県庁の管理的立場にある保健師をゲストティーチャーとして招き、福岡県の保健師が関わる行政施策の形成と実施過程について講義してもらう。	事前学習 (①30分、②60分) ①公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習先の地域診断資料を振り返る。 ②福岡県健康増進計画、福岡県地域保健医療計画を読んでくる。 事後学習 (90分) ・レポート
6	行政の予算・予算管理 (手島)	1. 講義 予算管理と予算編成の基本知識について、パワーポイント等を基に学ぶ。 実践事例の文献から具体例を理解する。	事前学習 (30分) 福岡県や公衆衛生看護学実習ⅠⅡの実習施設の予算資料を読む。 事後学習 (60分) 配布資料を読んで復習する。(DP2)
7	プレゼンテーションの方法 (小野)	1. 講義 プレゼンテーションの基本的知識について、パワーポイント等を基に学ぶ。 事例を基にプレゼンテーションの方法を具体的に理解する。	事後学習 (60分) 配布資料を読んで復習する (DP2)
8	地域診断から保健計画作成までのプロセスをみた地域ケアの質保証 (山下他)	1. ディスカッション 地域ケアの質の保証を考える。	事前学習 (①90分、②60分) ①公衆衛生看護学実習Ⅰ又はⅡの実習記録 (地域ケアシステム及び保健計画策定、保健事業の概要等) を準備し、内容を振り返る。 ②実習先の保健計画を読んでくる。 事後学習 (①90分、②90分、③180分④60分) ①地域ケアシステム構築に関する該当部分、配布資料を読んで復習する。
9		2. 講義 保健計画策定の基礎的知識について、パワーポイント及び資料を基に学ぶ。	
10		3. グループワーク ①実習記録を基に、地域ケアシステム構築を振り返る。 ②実習記録を基に、保健計画につ	

		いて振り返る。 4. 発表・ディスカッション グループ毎に発表し、質疑応答、意見交換を行う。 5. まとめ 発表内容から各グループの特長を確認し、地域診断から計画策定プロセスのポイントをまとめる。	②保健計画策定に関するテキストの該当部分、配布資料を読んで復習する。(DP2) ③国家試験の過去問題を解く。 ④レポート
11 12	健康危機管理の体制整備と保健活動(山下)	1. 講義 災害各期の保健師の活動について、パワーポイント等を基に学ぶ。 2. ディスカッション 実習で学んだ災害時の保健所及び保健師の活動について発表し、実習体験と結びつける。 3. 演習 演習資料を基に、災害時の保健師のマネジメントを検討する。	事前学習(①30分、②60分) ①テキスト(各論2第3章I)を読む。 ②公衆衛生看護学実習I又はIIの実習記録(災害対策)を準備し、内容を振り返る。 事後学習(①60分、②120分) ①配布資料、災害時マニュアルを読み、復習する。 ②国家試験の過去問題を解く。
13 14	地域ケアシステムの構築に向けた保健師活動(尾形・小野)	1. 講義 保健師活動のPDCAサイクルに関する基本的知識について、資料を基に学習する。 2. グループワーク 地域ケアシステム構築に向けた保健師活動について、実習体験を基にグループワークを行う。 3. 発表・ディスカッション グループ毎に発表し、質疑応答、意見交換を行う。 4. まとめ 発表内容を基にグループの特長を確認し、保健師活動についてまとめる。	事前学習(60分) 公衆衛生看護学実習Iの実習記録(公衆衛生看護活動の展開)を準備し、内容を振り返る。 事後学習(①30分、②270分) ①配布資料を基に復習する。 ②国家試験の過去問題を解く。
15	管理的ポストが担う公衆衛生看護管理 人材育成・人事管理・組織運営管理(山下、ゲストティーチャー：産業保健師)	1. 講義 産業保健分野で管理的ポストにある保健師をゲストティーチャーとして招き、産業保健師の活動、人材育成、人事管理、組織運営管理について講義を受ける。	事前学習(60分) テキスト(各論II第1章II)を読み、産業保健の基礎知識、産業保健師の活動概要について復習する。 事後学習(①60分、②120分、③60分) ①配布資料を基に復習する。 ②国家試験の過去問題を解く。 ③レポート
備考	*外部講師の都合等により、順序が入れ替わる場合があります。		

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																		
体験学習/調査学習																		
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク						○					○	○	○	○	○	○		
その他()																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護学実習Ⅰ		単位	1 単位
科目名（英語）	Clinical Practicum in Public Health Nursing Ⅰ		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	
標準履修年次	4 年	開講時期	前期	
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：尾形由起子、山下清香、小野順子、手島聖子、 (中村美穂子)			
授業概要	公衆衛生看護活動の対象である地域と保健師の活動の実際を学び、行政における保健師の役割と活動方法について理解する。 保健所で実習を行い、主に保健師の活動に参加する。地域の保健医療福祉関連情報を収集して健康課題を検討し、個別支援の対象者に関する情報収集とアセスメント、支援計画を検討する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等				
テキスト 参考図書・教材等	①尾形由起子他編、『地域包括ケアをすすめる 公衆衛生看護学 演習・実習』 クオリティケア、2019、3,080 円 ②井伊久美子他編『新版第 3 版保健師業務要覧』日本看護協会出版会 2013、4,536 円 ③麻原きよみ他編『公衆衛生看護学テキスト 1 公衆衛生看護学原論』医歯薬出版株式会社、2014、3,024 円 ④佐伯和子他編『公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術』医歯薬出版株式会社 2014、4,320 円 ⑤宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 総論』日本看護協会出版会 2016、4,968 円 ⑥宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 総論』日本看護協会出版会 2016、4,968 円 ⑦宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論 2』日本看護協会出版会 2016、3,888 円 ⑧日本健康教育士養成機構著『新しい健康教育』保健同人社 2011、3,078 円 ⑨岩本里織他編「公衆衛生看護活動論技術演習第 2 版」クオリティケア 2013、3,456 円 ⑩佐伯和子編著地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた医歯薬出版株式会社 2007、2,592 円 ⑪エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー医学書院 2007、4101 円			
実務経験を生かした授業	公衆衛生看護実務経験がある教員が臨地の指導者と協働で実習計画を作成し、指導する。		授業中の撮影	○
学習相談・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域の健康課題解決における保健所の保健活動の企画実施評価について理解し、意義と必要性について考察できる。
		(DP 4)	現場の指導者や関係者、住民との意見交換を行い、自己の考えを述べるができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	地域の健康課題解決の方策を、現場関係者や実習生、教員と協力して検討することができる。
		(DP 6)	地域の健康課題解決における保健所保健師の役割について理解できる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	保健所にある統計資料、保健活動から得られる情報を収集・整理し、地域の健康課題を抽出することができる。

履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。
<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護活動の対象である地域と保健師の活動の実際を学び、行政における保健師の役割と活動方法について理解する。 ・主に保健所で実習を行い、主に保健師の活動に参加する。地域の保健医療福祉関連情報を収集して健康課題を検討し、個別支援の対象者に関する情報収集とアセスメント、支援計画を検討する。 	
到達目標	<p>授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。</p> <p>履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。</p>
<p>地域の特徴と健康課題を把握するために、個人・家族及び地域の情報を収集・整理することができる。保健活動と保健師の役割を理解できる。臨地の関係者の助言を得て地域の健康課題解決について検討することができる。</p>	
成績評価の基準	
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。	
<p>地域診断に必要な情報を収集・整理し、個人・家族と地域の情報を関連つけて地域の健康課題を抽出し、健康課題解決のための保健活動の必要性、活動方法と保健師の役割を理解しわかりやすく説明できる。実習を通して抽出した健康課題について臨地の関係者と解決方法を検討し、提案することができる。</p>	
A：80～89 履修目標を達成している。	
<p>地域診断に必要な情報を収集・整理して地域の特徴と健康課題を把握し、健康課題解決のための保健活動の必要性、活動方法と保健師の役割を説明できる。地域の健康課題について臨地の関係者と解決方法を検討することができる。</p>	
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。	
<p>地域診断に必要な情報を収集・整理して地域特徴と健康課題を理解し、保健活動の目的と方法、保健師の役割を理解し、述べることができる。地域の健康課題について臨地の関係者と検討することができる。</p>	
C：60～69 到達目標を達成している。	
<p>地域の特徴と健康課題を把握するために、個人・家族及び地域の情報を収集・整理することができる。保健活動と保健師の役割を理解できる。臨地の関係者の助言を得て地域の健康課題解決について検討することができる。</p>	
不可：～59 到達目標を達成できていない。	

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	20		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		10	5		5	20
	(DP4)		5	5		5	15
関心・意欲・態度	(DP5)			5		5	10
	(DP6)		5	5		5	15
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)			40			40
備考	* その他：カンファレンスでの発言、実習参加態度						

IV. 授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方
	<p>詳細については、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ要項参照</p> <p>1. 実習先 県保健所または政令市</p> <p>2. 実習期間 5日間 令和2年9月7日～9月11日 (北九州市：8月24日～8月26日)</p> <p>3. 実習時間 8時30分～17時15分（原則）</p> <p>4. 実習内容 ①地域診断 ②個別支援と集団支援 ③健康危機管理 ④施策化 ⑤地域ケアシステム構築 ⑥公衆衛生看護の専門性</p> <p>5. 実習方法 1施設2～3名で実習する 実習期間終了後、学内報告会を行う。</p> <p>(尾形由起子、山下清香、小野順子、手島聖子、中村美穂子)</p>	<p>1. 事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学Ⅱで実習先の健康課題を検討し、実習テーマに関する情報収集と地域特性の把握に努める。また、地区踏査時に実習先の指導者に挨拶し、可能な範囲で実習テーマと実習計画の打ち合わせをする。 ・公衆衛生看護学Ⅱの学習を基に、根拠法令や評価指標等実習時に活用する情報を収集し、保健師ノート作成に努める。 ・保健所または政令市の保健活動に関する文献及び実習テーマに関する文献を読み、実習先の役割や機能の理解に努める。県保健所で開催される事前オリエンテーションに参加する。 <p>2. 臨地実習（40時間）</p> <p>（1）実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①初日にオリエンテーションを受け、学生の実習目標を発表し、実習の進め方を臨地の指導者と確認する。 ②臨地の実習指導者の指示に従い実習計画に沿って実習する。積極的に保健活動に参加し、情報を収集し、実践現場の活動を理解する。 ③日々のカンファレンスで体験からの学びを発表し、指導者から助言を受ける。記録用紙を活用して日々の実習体験を考察し、指導者と教員からの助言を得て学びを深める。 ④最終日のカンファレンスでは、テーマに関する健康課題と実習を通じた学びをまとめて発表し、指導者から助言を得て考察を深める。 <p>（2）学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> ①住民等へのインタビューや社会資源の見学を通して地域の情報収集を行い、地域の特徴や課題を把握する。保健事業記録、家庭訪問や相談の記録等を閲覧して情報を整理し、テーマに関する地域の実態と健康課題を把握する。 事前に把握した情報と実習全体を通して把握した情報を併せ、最終日にテーマに関する健康課題を発表する。 ②保健師の家庭訪問に同行し、個別支援の実態を学ぶ。保健事業や保健活動に参加し、企画立案・実施・評価の実態と施策体系の中の位置づけを理解する。 ③保健師の災害支援活動、健康危機管理体制について説明を受け、現状を理解する。 ④保健事業の説明を受け、保健施策体系を理解する。 ⑤地域ケアシステム構築の活動について説明を受け、システム構築のプロセスと保健師の役割を理解する。 ⑥保健師の現任教育について説明を受け、保健師の現任教育システムと質の向上の必要性を理解する。 ⑦その他、保健事業や保健活動に参加し、保健活動の実態を理解する。 <p>3. 事後学習（5時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学内報告会 <ul style="list-style-type: none"> ・実習での学びをまとめ、パワーポイントで発表し、他のグループと学びを共有する。 ②レポート <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通じた学びを記録用紙に整理し、レポートを作成して提出する。
備考		

V. アクティブ・ラーニング

※全回アクティブ・ラーニングを実施する。

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	公衆衛生看護学実習 II			単位	4 単位
科目名（英語）	Clinical Practicum in Public Health Nursing II			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格		
標準履修年次	4 年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：尾形由起子、山下清香、小野順子、手島聖子、中村美穂子				
授業概要	公衆衛生看護学実習Ⅰをもとに抽出した健康課題を踏まえ、保健所管轄区域内の市町村を中心に実習を行う。 公衆衛生看護活動における基本的な支援技術を習得するため、保健事業の企画・立案、実施、評価の過程に参画するとともに、継続した家庭訪問又は保健指導を行う。個人・家族と集団や組織への支援を連動させた公衆衛生看護活動の実際について学ぶ。また、保健福祉医療システムの構築における関係機関や他職種との連携や、保健医療福祉計画策定における保健師の施策へのかかわり、住民組織への関わりなどの実際についても学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護学実習Ⅰ及び総合実習の単位を修得していることが望ましい。				
テキスト 参考図書・教材等	①尾形由起子他編、『地域包括ケアをすすめる 公衆衛生看護学 演習・実習』 クオリティケア、2019、3,080 円 ②井伊久美子他編『新版第 3 版保健師業務要覧』日本看護協会出版会 2013、4,536 円 ③浅原きよみ他編『公衆衛生看護学テキスト 1 公衆衛生看護学原論』医歯薬出版株式会社 2014、3,024 円 ④佐伯和子他編『公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術』医歯薬出版株式会社 2014、4,320 円 ⑤宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論 1』日本看護協会出版会 2016、4,968 円 ⑥宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論 2』日本看護協会出版会 2016、4,968 円 ⑦宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論 2』日本看護協会出版会 2016、3,888 円 ⑧日本健康教育士養成機構著『新しい健康教育』保健同人社 2011、3,078 円 ⑨岩本里織他編「公衆衛生看護活動論技術演習第 2 版」クオリティケア 2013、3,456 円 ⑩佐伯和子編著「地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた」医歯薬出版株式会社 2007、2,592 円 ⑪エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳「コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー」医学書院 2007、4101 円				
実務経験を生かした授業	公衆衛生看護実務経験がある教員が臨地の指導者と協働で実習計画を作成し、指導する。			授業中の撮影	○
学習相談・助言体制					

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域の健康課題解決における市町村の保健活動の企画実施評価の過程を理解し、意義と必要性、課題について考察できる。
		(DP 4)	現場の指導者や関係者、住民と意見交換を通して考察を深め、自己の意見を述べることができる。
	関心・意欲・態度	(DP 5)	現場関係者や実習生、教員と積極的に討議し、地域の健康課題解決の方策を検討することができる。
		(DP 6)	地域の健康課題解決における市町村保健師の役割について理解するとともに、課題と望ましいあり方について考察できる。
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	

		(DP9)	
		(DP10)	市町村の健康課題に関する情報を積極的に収集・整理し、顕在化した健康課題を抽出するとともに、潜在的な健康課題についても考察することができる 家庭訪問を実施し、継続した個別支援における看護過程の展開ができる 小集団を対象に、地域の健康課題解決をめざす健康教育を企画し、実施・評価ができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
公衆衛生看護学実習Ⅰで抽出した健康課題を踏まえ、保健所管轄区域内の市町村を中心に実習を行う。 公衆衛生看護活動における基本的な支援技術を習得するため、保健事業の企画・立案、実施、評価の過程に参画するとともに、継続した家庭訪問又は保健指導を行う。個人・家族と集団や組織への支援を連動させた公衆衛生看護活動の実際について学ぶ。また、保健福祉医療システムの構築における関係機関や他職種との連携や、保健医療福祉計画策定における保健師の施策へのかわり、住民組織への関わりなどの実際についても学ぶ。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
地域の情報を収集し顕在的・潜在的な健康課題を理解し、地域保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者の助言を得て健康課題の解決について検討することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
地域の情報を収集し整理して顕在的・潜在的な健康課題を抽出し、地域における課題解決のための保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者と健康課題の解決の方策を検討し提言できる。 個別の継続支援で看護過程を展開し、地域ケアシステムと関連付けて今後の支援方法を検討することができる。 地域の健康課題解決のために健康教育を企画し、小集団を対象に実施評価し今後の展開を提言できる。 市町村保健師の役割を理解し課題について考察し、望ましい在り方について考えを述べるすることができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			
地域の情報を収集し整理して顕在的・潜在的な健康課題を把握し、地域の健康課題解決のための保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者と健康課題の解決の方策を検討することができる。 個別の継続支援で看護過程が展開し、今後の支援方法を検討することができる。 地域の健康課題の解決のため健康教育を企画し、小集団を対象に実施評価し今後の展開を検討することができる。 市町村保健師の役割を理解し、課題について考察し、望ましい在り方を検討することができる。			
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。			
地域の情報を収集し顕在的・潜在的な健康課題を把握し、地域保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者と健康課題の解決を検討することができる。 個別の継続支援における看護過程が展開し、今後の支援について検討することができる。 地域の健康課題の解決のための健康教育を企画し、小集団を対象に実施評価し課題を検討できる。 市町村保健師の役割と課題を理解し、望ましい在り方について検討することができる。			
C：60～69 到達目標を達成している。			
地域の情報を収集し顕在的・潜在的な健康課題を理解し、地域保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者の助言を得て健康課題の解決について検討することができる。			
不可：～59 到達目標を達成できていない。			

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			60	20		20	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)						
思考・判断・表現	(DP3)		10	5		5	20

	(DP4)			10	5		5	20
関心・意欲・態度	(DP5)				5		5	10
	(DP6)				5		5	10
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)			40				40
備考	*その他：カンファレンスでの発言、実習参加態度							

IV. 授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方
	<p>詳細は、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ要項参照</p> <p>1. 実習習先 市町村または政令市</p> <p>2. 実習期間 20日間（うち2日程度帰校日） 令和2年9月28日～10月23日</p> <p>3. 実習時間 8時30分～17時15分 （原則8時間）</p> <p>4. 実習内容 ①地域診断 ②地区活動の展開 ③家庭訪問（継続訪問、同伴訪問） ④健康教育実施 ⑤健康相談 ⑥セルフケアグループの育成支援 ⑦地域組織活動との協働 ⑧健康危機管理 ⑨施策化 ⑩地域ケアシステムの構築 ⑪専門職としての自律</p> <p>5. 実習方法 1施設2～3名で実習する。 実習終了後、学内報告会、公衆衛生看護学実習ⅠとⅡの学びをまとめる実習発表会を行う。</p> <p>（尾形由起子、山下清香、小野順子、手島聖子、中村美穂子）</p>	<p>1. 実習準備 ・公衆衛生看護学アセスメント論Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰで実習先の情報収集と地域特性の把握、健康課題の検討に努める。また、地区踏査時に実習先の指導者に挨拶し、可能な範囲で実習計画と健康教育の打ち合わせをする。 ・健康教育のテーマに関する情報を収集し、企画書及びシナリオを作成する。</p> <p>2. 臨地実習（160時間） （1）実習の進め方 ①初日にオリエンテーションを受け、学生の実習目標を発表し、実習の進め方を臨地の指導者と確認する。 ②臨地の指導者の指示に従い実習計画に沿って実習する。積極的に保健活動に参加し、情報を収集し、実践現場の活動を理解する。見学だけでなく実施可能なことは、十分準備と打ち合わせをした上で実施させていただく。 ③日々のカンファレンスで体験からの学びを発表し、指導者から助言を受ける。実習記録の用紙を活用して日々の実習体験を考察し、指導者からの助言を得て学びを深める。 ④実習1,2週目は、事業説明や保健事業参加を通して、援助対象者と支援ニーズ、保健事業の必要性と展開過程、市町村の保健事業の特徴等の理解を中心に学習する。 可能であれば、健康教育を実施させていただく。 ⑤中間カンファレンスを行い、実習前半の体験からの学びを報告する。実習指導者及び教員からの助言を得て学びを確認し、後半の実習の学習課題を明確にする。 ⑥実習3,4週目は、保健事業の参加しながら、保健事業の体系、施策化の活動、地域ケアシステム構築の活動の理解に努め、地域の健康課題と関連づけて考察する。また活動における保健師の役割を理解する。必要時、実習指導者に資料閲覧や説明を依頼する。 ⑦最終カンファレンスでは、実習を通じた理解した健康課題、課題解決のための保健活動の体系、健康教育の実施、同行訪問等からの学びをまとめて発表し、指導者から助言を得て考察を深める。</p> <p>（2）学習活動 できるだけ保健事業に参加しながら、以下の内容を学習する。 （詳細は実習要項参照）。</p>

	<p>①地域診断</p> <p>②地区活動の展開</p> <p>③家庭訪問（継続訪問、同伴訪問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低 1 事例、家庭訪問に同行し、可能であれば継続訪問に同行する。訪問が困難な場合、健康教育や健康相談、健診等の事業と合わせて継続支援を学習する。 <p>④健康教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民を対象に、最低 1 回健康教育を実施する。事前に作成した企画書及びシナリオに対し指導者から助言を得て、デモンストレーションを実施する。2 週目までに実施することが望ましい。 <p>⑤健康相談</p> <p>⑥セルフケアグループの育成支援</p> <p>⑦地域組織活動との協働、</p> <p>⑧健康危機管理</p> <p>⑨施策化</p> <p>⑩地域ケアシステムの構築</p> <p>⑪専門職としての自律</p> <p>3. 事後学習（20 時間）</p> <p>①学内実習報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習での学びをまとめ、パワーポイントで発表し、他のグループと学びを共有する。 ・主な発表内容：地域の概要、健康課題、参加した保健事業、家庭訪問、健康教育、保健事業の体系、保健師活動の展開、保健師の役割等 <p>②実習発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地の実習指導者を招き、公衆衛生看護学実習ⅠとⅡを通した学びをまとめて発表し、実習指導者から助言を得る。 <p>②レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通した学びを記録用紙に整理し、レポートを作成して提出する。
備考	

V. アクティブ・ラーニング

※全回アクティブ・ラーニングを実施する。

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																		
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	家族看護学		単位	2単位
科目名（英語）	Family Nursing		授業コード	
必修・選択	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	
標準履修年次	3年次	開講時期	前期	
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：江上千代美・四戸智昭・山下清香・小野順子			
授業概要	健康問題や養育を必要とする人を抱えたとき、家族が相互にどのように影響するのかを理解し、家族成員が健康問題に対処する力を引き出し支援するために必要な家族看護学の基本的な理論と家族への援助方法について理解する。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	公衆衛生看護学Ⅰ，在宅看護学を履修しておくことが望ましい。			
テキスト	各回の担当教員から別途資料を配布する。			
参考図書・教材等	家族看護学-理論と実践 第4版：鈴木和子・渡辺裕子著、日本看護協会出版会、2012、3,456円			
実務経験を生かした授業	看護職としての実務経験を活かしのこれまでの実務経験で直面した家族に対する支援の必要性と活動事例を説明する。さらに、その実際に活動を行っている実践者との共同活動を含めた授業の組み立てを行う。	授業中の撮影	○	
学習相談・助言体制				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	「家族」の概念、「家族の健康」の概念を理解し、アセスメント方法と家族を対象とした看護過程を理解できる。
	思考・判断・表現	(DP3)	家族の看護に必要な情報を収集し、家族の全体像を形成しニーズを導き出し、援助方法を述べるができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
健康問題や養育を必要とする人を抱えたとき、家族が相互にどのように影響するのかを理解し、家族成員が健康問題に対処する力を引き出し支援するために必要な家族看護学の基本的な理論と家族への援助方法について理解する。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
看護職がかかわる患者とその家族に対し、患者本人のみならず家族単位の支援の重要性を理解し、その患者あるいは地域住民がその提案される看護により課題解決につながることを理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
社会が直面している家族の課題を客観的・多角的視点から分析し、対象となる患者の理解と同時に患者と家族、そして地域社会に対する方略を提案できる。さらに、対象となる家族の発達をふまえて看護職として求められる家族単位の支援について考察することができる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

母子、高齢者それぞれの課題解決において、家族単位の看護の必要性を理解し、家族単位の支援を多職種の中から看護の役割について理解し、社会の中で直面する課題を客観的視点から分析し、講義の中から述べられている対処方略について説明することができる。
B：70～79 到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
事例を踏まえ、提案されている家族に対する看護理論や各々の理論を看護の展開方法を学び、看護職に求められる家族単位の支援と何かについて考察することができる。
C：60～69 到達目標を達成している。
看護職がかかわる患者とその家族に対し、患者本人のみならず家族単位の支援の重要性を理解しその患者あるいは地域住民がその提案される看護により課題解決につながることを理解する。
不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60		40				100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	60					60
思考・判断・表現	(DP3)		40				40
	(DP4)						
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考	この科目は5名の教員がオムニバス形式で演習を行っていくため、具体的な進め方は各回の担当教員が行う。						

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	家族看護とは何か 家族をアセスメントするとは どういうことか（尾形）	1. 講義 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 地域で暮らす人々が自ら健康課題を解決しようとする時、看護職として患者本人のみならず家族を支援することの必要性とその基礎的知識を講義する。また、家族に対する支援を行う際に具体的な理論を使い、ある事例を通して看護活動イメージをもたせる。	事前学習（15分） ・家族単位の看護を展開するために必要な家族システムに関する資料を講読する。（DP2） 事後学習（90分） ・提案された事例の家族看護（渡辺式）のステップ1～4について指示された資料を用い、その看護展開についてレポートする。（DP2）
2	家族についての理論（山下）	1. 講義 家族看護アセスメントにおける家族像形成の意義と必要性、家族像をとらえるための基本的理論と活用方法について講義する。 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス理論を用いて、3事例	事後学習（90分） ・配布資料を参照し、テキスト該当部分（p76-101）を読む。（DP2）

		の家族像の把握を試みる。	
3	家族についての理論 (小野)	<p>1. 講義 看護において家族をみることの重要性及び、健康問題を抱える対象者とその家族を1つの援助対象としてとらえ、看護を展開する過程について講義する。</p> <p>2. 演習 テキストの事例を題材に実際に家族アセスメントを実施し支援計画を考える。</p>	<p>事後学習 (90分)</p> <p>・配布資料に沿って、テキストの事例の看護過程と自身が行った対象家族のアセスメント及び支援計画を振り返る。(DP2)</p>
4	母子の課題を抱えている家族のアセスメント (江上)	<p>1. 演習 小児期の子どもと母親の課題をもとに、小児期の家族のアセスメントの視点を学ぶ。また、「親になる」、「家族を育む」というために必要な親のレジリエンスを育む専門職者の支援について考える。演習はグループ・ディスカッションを含む。事前課題をもとにグループで行い、当日提示される討議の視点についてグループで考える。</p>	<p>事前学習 (90分)</p> <p>・日本における母子の課題を取り上げ、その課題を生み出す要因をパス図で示し、その説明をレポートA41枚にまとめる。(DP2)</p> <p>事後課題 (90分)</p> <p>・日本における課題解決に必要な支援について、事前学習で考えたパス図に追記し、レポート「課題解決に必要な専門職者の支援」をレポートする。(DP2)</p>
5	ひきこもりから見える家族の課題 (四戸)	<p>1. 講義 ひきこもりの当事者だけでなく、当事者を抱える家族について、当事者家族全体の課題を嗜癡行動学の視点から捉えることの重要性と、家族内の人間関係について共依存の視点から捉えることについて解説を行う。</p> <p>2. 演習 ひきこもりを抱えた家族のケースからどのような支援をすることが有効かについてワークシートにまとめる。</p>	<p>事前学習 (90分)</p> <p>厚生労働省や内閣府が示すひきこもりの定義や、家族支援についてインターネット情報を検索し、ノートにまとめる。(DP2)</p> <p>事後学習 (90分)</p> <p>授業の講義内容をノートにまとめる。またワークシートの課題について振り返る。</p>
6	家族看護過程 (山下)	<p>1. 講義 テキストの事例 (p101-111) を用いて、家族看護過程の展開 (情報収集⇒家族像形成⇒アセスメント⇒看護問題の明確化⇒計画立案⇒実施⇒評価) について講義する。テキストを用いて基本的な家族看護方法 (p136-157)、家族看護における看護者の役割と援助姿勢 (p167-172) の概略を講義する。</p>	<p>事前学習 (30分)</p> <p>・テキストの該当部分 (p101-111) を読む。(DP2)</p> <p>事後学習 (90分)</p> <p>・配布資料を参照し、テキストの該当部分 (p101-111、p136-157、160-172) を読む。(DP2)</p>
7	家族看護の展開の実際 (小野)	<p>1. 講義 在宅療養における家族看護の展開と実際について、「病院から在宅療養へつなぐための支援」、「療養者を在宅で介護する家族への支援」、「在宅療養における医療体制を整える支援」などを実際の事例を通して学ぶ。また、これらの支援を行う際に、看護職に求められる知識や技術、看護職の果たすべき役割を講義する。</p>	<p>事後学習 (90分)</p> <p>・講義を聞いて在宅療養を行う療養者・家族の健康状態のアセスメントやニーズアセスメント及び支援に必要な視点や技術について学んだ内容を振り返る。(DP4)</p>
8		<p>1. 講義 授業全体の振り返り・到達目標および評価の確認。</p> <p>2. ディスカッション</p>	<p>事前学習 (60分)</p> <p>・家族単位の看護を展開するために渡辺式家族アセスメントモデルにもとづいたレポートを作成する。(DP2)</p> <p>事後学習 (60分)</p>

	<p>家族看護を実践するための具 体的手法（尾形）</p>	<p>認知症高齢者の在宅療養に関する 家族支援について、渡辺式家族ア セスメントモデルを活用した事例 展開を事前課題で行う。 その事前課題を元に「渡辺式家族 アセスメントモデル」による家族 のアセスメントと援助ポイントの 明確化をバズセッションで行う。 家族への看護について、具体的な 理論に沿い、展開を行いながら看 護活動につなげる。</p>	<p>・課題事例の家族看護（渡辺式）のステ ップ1～4についてディスカッション で得られた看護展開を加筆修正し提出 する。（DP2）</p>
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし														
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク				○				○								
その他（ ）																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	養護概説			単位	2 単位
科目名（英語）	School Health Nursing			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭		
標準履修年次	2 年	開講時期	後期		
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子				
授業概要	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基礎について学ぶことを目標に講義・演習を行う。「保健室経営」「保健管理」「保健教育」「健康相談」「組織活動」「安全」の視点から養護教諭としての基礎的知識と技術を学び、その基礎となる価値観を醸成することを目的とする。さらに地域社会における学校保健の役割と養護教諭の職務および期待されている役割、子どもを取り巻く多様な健康問題とその支援方法について考える。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社				
参考図書 ・教材等					
実務経験を生かした授業	梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。				授業中の撮影
学習相談 ・助言体制	課題シートで受付、返却時にコメントを追加して回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	養護教諭の職務・役割について説明することができる。
		(DP 2)	保健管理・保健教育・健康相談・組織活動について説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
養護教諭の職務・役割について、とくに保健管理・保健教育・健康相談・組織活動について理解し、主体的な学習態度のもと保健室で行われる学校活動の実際についてまとめることができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
養護教諭の職務・役割について、とくに保健管理・保健教育・健康相談・組織活動について理解する（最終試験にて 60 点以上を得ること）。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C : 60～69	到達目標を達成している。
不可 : ～59	到達目標を達成できていない。

Ⅲ. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP1)	50						50
	(DP2)	50						50
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

Ⅳ. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分 (8回) 45分 (15回) 【2単位授業 1回平均】180分 (15回) 45分 (30回: 通年) 90分 (30回: 半期2コマ連続)
1	根拠に基づいた実践に向けて I (松浦)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
2	学習指導要領 I (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
3	根拠に基づいた実践に向けて II (松浦)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
4	学習指導要領 II (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
5	保健管理～健康診断 I～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
6	保健管理～健康診断 II～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
7	保健管理～健康診断 III～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
8	保健管理～健康観察の基礎～ (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
9	保健管理～健康相談 I～ (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
10	保健管理～疾病予防 I～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
11	保健管理～救急処置～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
12	保健管理～疾病予防 II～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。

	(梶原)		
13	保健管理～アレルギー対応の基礎～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
14	保健管理～健康相談Ⅱ～ (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
15	保健管理～学校環境衛生～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]については、授業中に提示する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																
体験学習／調査学習																
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																
その他 ()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	学校保健学	単位	1 単位
科目名（英語）	School Health	授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭
標準履修年次	3 年	開講時期	前期
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子		
授業概要	学校保健の歴史をふまえ、学校保健の意義、目的や教育システムにおける位置づけを理解させ、学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、関連職種との連携、学校看護の機能と養護教諭の役割、児童・生徒・教職員の健康管理のあり方等を教授する。また、学校保健の今日的課題を演習し、その解決に向けて、医療や地域保健との連携方法の実際を教授する。		
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等			
テキスト			
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社		
実務経験を生かした授業	原田は「精神疾患・発達障害」のコマを、梶原は「疾病・障害①」「疾病・障害②」「感染症」「救急処置」「学校環境衛生」のコマをそれぞれの実務経験（精神障害者支援団体運営、学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。	授業中の撮影	
学習相談・助言体制			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	学校保健の範囲とその内容が大まかに述べられる。
		(DP 2)	現代の子どもの発育発達の状態・健康状態・健康問題とその背景を具体的に述べられる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP 10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
学校保健の範囲と内容、現代の子どもの発育発達の状態・健康状態・健康問題とその背景を主体的な態度で学ぶこと、またはその課題解決について取り組むことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学校保健の範囲と内容、現代の子どもの発育発達の状態・健康状態・健康問題とその背景について理解できる（最終試験にて 60 点以上を得ること）。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP1)	50						50
	(DP2)	50						50
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業 1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	学校保健の法律・答申・学校保健計画（松浦）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
2	疾病・傷害① （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
3	疾病・傷害② （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
4	精神疾患・発達障害 （原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
5	感染症 （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
6	救急処置 （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
7	学校安全 （松浦・原田・梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
8	学校環境衛生 （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式） グループワーク	[事後学習]については、授業中に提示する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク					○	○		○	○		○							
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	教職実践演習（養護教諭）			単位	2
科目名（英語）	Practical Training for Teaching as a School Nurse			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭		
標準履修年次	4年	開講時期	後期		
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子				
授業概要	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の実際について学ぶことを目標に演習を行う。保健室経営、保健管理、保健教育、健康相談、組織活動等の視点から養護教諭として必要な知識と技術を学び、同時にそれらの基盤となる価値観を醸成することを目的とする。さらに地域社会における養護教諭の職務と期待されている役割等についても学び、広い視野で子どもを取り巻く今日的な課題を考え、演習を通し、これらの子どもたちとその家族、そして地域への援助ができるよう資質の向上を図る。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社				
実務経験を生かした授業	梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	課題シートで受付、返却時にコメントを追加して回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について述べることができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	学校における応急手当と救命処置ができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について理解し、学校における応急手当と救命処置を主体的に児童生徒・地域住民を対象にした実践ができること。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について理解すること（試験において60%以上の得点）、学校における応急手当と救命処置ができること。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			
A：80～89 履修目標を達成している。			

B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。
C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50					50	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)	50					50
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)					50	50
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業方法／進め方	事前・事後学習 【1単位授業1回平均】160分（8回） 45分（15回） 【2単位授業1回平均】180分（15回） 45分（30回：通年） 90分（30回：半期2コマ連続）
1	教師と使命感（松浦）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
2	社会性と対人関係能力（原田）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
3	これまでの学習の振り返り（履修カルテ）養護実習の振り返り－学校基本情報把握力（梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
4	養護実習の振り返り－子供の成長・発達の理解（梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
5	養護実習の振り返り－養護実践力「健康診断」（梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。
6	養護実習の振り返り－養護実践力「健康診断」（梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。

		事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	
7	養護実習の振り返り－養護実践力「応急処置」（梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
8	養護実習の振り返り－養護実践力「児童生徒の健康課題の把握」（梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
9	養護実習の振り返り－保健指導実践力（梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
10	子供理解と健康相談（原田）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
11	組織活動と学校内外との連携（松浦）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
12	日本スポーツ振興センター（松浦・原田・梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
13	保健室経営の実践例（松浦・原田・梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
14	養護教諭の資質能力のまとめ（松浦・原田・梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
15	学校保健の課題とその対応（松浦・原田・梶原）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	[事後学習]については、授業中に提示する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし																
講義回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
発見学習／問題解決学習																		
体験学習／調査学習																		
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
その他（ ）																		
内容																		

I. 科目情報

科目名（日本語）	養護実習事前事後指導			単位	1単位
科目名（英語）	Guidance for the Practicum in School Health Nursing			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭		
標準履修年次	4年	開講時期	前期		
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子				
授業概要	4年次の「養護実習」にあたっての事前指導と事後指導を行うものである。事前指導では、養護実習の意義と心構えについて講義し、観察参加の心構え、観察の仕方とポイント、観察の具体的内容、観察記録の書き方等を指導する。事後指導では、養護実習を終えた後、養護実習の内容と反省、意見などについて実習報告等の実習総括を行う。これにより、養護教諭としての専門的知識・技術・価値観を醸成する。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社 『学校保健実務必携（最新版）』第一法規				
実務経験を生かした授業	梶原は実務経験（学校保健室勤務）を生かした指導を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受付、返却時にコメントを追加して回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	教育活動の一環としての学校保健活動と養護教諭の役割について説明できる。
		(DP2)	
	思考・判断・表現	(DP3)	AEDを用いた心肺蘇生法の危機対応ができる。
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
教育活動の一環としての学校保健活動と養護教諭の役割について理解し、「AEDを用いた心肺蘇生法」の危機対応ができ、かつそれを他者に教えることができること。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
教育活動の一環としての学校保健活動と養護教諭の役割について理解し、児童生徒の生命を守る技術であるところの「AEDを用いた心肺蘇生法」の危機対応ができること。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

グループ・ワーク															
その他 ()															
内容															

I. 科目情報

科目名（日本語）	健康教育論			単位	2単位
科目名（英語）	Health Education			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭		
標準履修年次	3年	開講時期	前期		
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子				
授業概要	現代において、いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因は深刻化しつつある。これらの様々な課題に対応すべく、学校現場における養護教諭の日々の実践において、ヘルスプロモーションの理念に基づいた子どもの発育や発達への支援が求められており、それに必要な健康相談活動の理論及び方法について学ぶ。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社				
実務経験を生かした授業	梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	課題シートで受付、返却時にコメントを追加して回答する。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因を説明することができる。
		(DP2)	健康教育の理論や方法に関する知識を活用することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因を説明することができ、健康教育の理論や方法に関する知識を活用できる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因を説明することができ、健康教育の理論や方法に関する知識を理解する（最終試験にて60点以上を得ること）。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		

C：60～69	到達目標を達成している。
不可：～59	到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他 (事前・事後学習)	合計
総合評価割合		90					10	100
知識・理解	(DP1)	45					5	50
	(DP2)	45					5	50
思考・判断・表現	(DP3)							
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)							
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習 【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	健康診断 (法的根拠) (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
2	健康診断・事後措置 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
3	健康診断(視力検査事後指導)・事後措置・保健指導 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
4	健康診断(歯科健診事後指導)・事後措置・保健指導 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
5	健康診断 (虐待の視点) (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
6	アレルギー (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
7	健康観察 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
8	歯・口の健康 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
9	健康相談・健康観察	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。

	(梶原)	グループワーク	
10	保健指導 (枠組みの理解) (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式) グループワーク	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
11	子どもの健康課題 (松浦、原田、梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
12	子どもの健康課題 その2 (松浦、原田、梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
13	保健学習 (保健教育の手引き) (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
14	保健学習 (小学校学習指導要領解説) (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。
15	保健学習 (中学校学習指導要領解説) (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説 (講義形式)	[事後学習]については、授業中に提示する。
備考			

V. アクティブ・ラーニング

あり	○	なし															
講義回数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																	
体験学習/調査学習																	
グループ・ディスカッション /ディベート /グループ・ワーク				○	○	○		○	○	○	○						
その他 ()																	
内容																	

I. 科目情報

科目名（日本語）	養護実習			単位	4 単位
科目名（英語）	Practicum in School Health Nursing			授業コード	
必修・選択	選択	関連資格	養護教諭		
標準履修年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子				
授業概要	教育の場において養護教諭によって行われている保健教育及び保健管理等の実践を直接学び、児童生徒の心身の健康上の問題及び健康保持への指導・援助について理解する。そのために、学校教育全体の組織・運営を理解し、学校保健安全計画の作成及び実践に参加し、学校保健活動における養護教諭の役割と活動内容を4つの獲得能力の柱をもとに理解することを目的とする。				
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等					
テキスト					
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社 『学校保健実務必携（最新版）』第一法規				
実務経験を生かした授業	梶原は実務経験（学校保健室勤務）を生かした指導を行う。			授業中の撮影	
学習相談・助言体制	メールによる相談。				

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP1)	
		(DP2)	養護をつかさどるための知識を理解し、説明することができる。
	思考・判断・表現	(DP3)	
		(DP4)	学校の職員と相互に連携して、保健指導を実践することができる。
	関心・意欲・態度	(DP5)	
		(DP6)	
	技能	(DP7)	
		(DP8)	
		(DP9)	
		(DP10)	
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
養護をつかさどるための知識を理解した上で、学校の職員と相互に連携して保健指導を実践し、さらに実習校の児童生徒の健康課題解決について取り組むことができる。			
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
養護をつかさどるための知識を理解した上で、学校の職員と相互に連携して保健指導を実践することができる。			
成績評価の基準			
S：90～100	履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。		
A：80～89	履修目標を達成している。		
B：70～79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。		
C：60～69	到達目標を達成している。		

不可：～59 到達目標を達成できていない。

III. 成績評価の方法

評価指標	定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合						100	100
知識・理解	(DP1)						
	(DP2)					50	50
思考・判断・表現	(DP3)						
	(DP4)					50	50
関心・意欲・態度	(DP5)						
	(DP6)						
技能	(DP7)						
	(DP8)						
	(DP9)						
	(DP10)						
備考							

IV. 授業計画

週	実習内容 (担当教員)	事前・事後学習
		【1 単位授業 1 回平均】160 分 (8 回) 45 分 (15 回) 【2 単位授業 1 回平均】180 分 (15 回) 45 分 (30 回：通年) 90 分 (30 回：半期 2 コマ連続)
1 週目	実習校の概要と健康課題の把握 (松浦・原田・梶原)	・実習指導は校長及び校長が任命する担当教諭が行う。さらに、実習期間中に担当教官が実習先を訪問し実習指導・助言に当たる。 ・実習中は原則として毎日、養護活動等についての所感・考察等を実習日誌に記録し、実習指導者及び教員からの指導・助言を受け
2 週目	学校保健活動の実際と保健室経営の知識の再整理 (松浦・原田・梶原)	
3 週目	子供の健康課題に合わせた保健指導の企画 (松浦・原田・梶原)	
4 週目	保健指導の実施と自己評価・他者評価 (松浦・原田・梶原)	
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし															
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
発見学習/問題解決学習																
体験学習/調査学習																
グループ・ディスカッション / ディベート / グループ・ワーク																
その他 ()																
内容																

I. 科目情報

科目名（日本語）	東洋看護学演習		単位	1
科目名（英語）	Nursing Practicum in Oriental Medicine		授業コード	
必修・選択	選択	関連資格		
標準履修年次	3年次	開講時期	前期	
担当教員	城村 和宏			
授業概要	東洋医学の基礎から、鍼灸治療体験、M-Testを使った東洋医学的な視点で身体の観察方法、M-Testを応用した東洋医学のセルフケアの方法を、演習を通して学ぶ。			
履修条件／授業内容を理解するために必要な知識・技能等	特になし			
テキスト				
参考図書・教材等	参考文献： 向野義人 図解 M-Test 医歯薬出版（2012/03）			
実務経験を生かした授業	M-Test 指導者資格を持つ現役の鍼灸師が実際の臨床例を交え東洋医学的な身体の観察方法について講義する。	授業中の撮影		
学習相談・助言体制	メールで受付			

II. DP(ディプロマ・ポリシー)、履修目標及び到達目標

DP	知識・理解	(DP 1)	
		(DP 2)	東洋医学、M-Test の基本的な知識、概念を身につけることができる。
	思考・判断・表現	(DP 3)	東洋医学的な視点で身体を観察することができる。
		(DP 4)	
	関心・意欲・態度	(DP 5)	
		(DP 6)	
	技能	(DP 7)	
		(DP 8)	
		(DP 9)	
		(DP10)	M-Test の概念を応用したセルフケア方法を身につけることができる。
履修目標	授業で扱う内容及び、授業のねらいを示す目標です。		
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。 履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。		
東洋医学、M-Test の基本的な考え方を理解する。			
成績評価の基準			
S：90～100 履修目標だけでなく、授業で扱う内容以上の学修（自主的な学修）が認められる。			

	東洋医学の基礎知識、M-Test の考え方で身体を観察でき、症状に応じて適切な経絡、経穴を刺激できる。身体症状に応じてセルフケアの方法を立案できる。
A : 80~89	履修目標を達成している。 東洋医学の基礎知識、考え方で身体を観察でき、身体症状に応じてセルフケアの方法を立案できる。
B : 70~79	到達目標は十分に達成しているが、履修目標には届いていない。 東洋医学の基礎知識、M-Test の考え方で身体を観察できる。
C : 60~69	到達目標を達成している。 東洋医学、M-Test の考え方を理解している。
不可 : ~59	到達目標を達成できていない。 東洋医学、M-Test の考え方を理解していない。

III. 成績評価の方法

評価指標		定期試験	授業内レポート・小テスト	授業外レポート・宿題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40		30		30	100
知識・理解	(DP1)							
	(DP2)		20		10		10	40
思考・判断・表現	(DP3)		10		10		10	30
	(DP4)							
関心・意欲・態度	(DP5)							
	(DP6)							
技能	(DP7)							
	(DP8)							
	(DP9)							
	(DP10)		10		10		10	30
備考								

IV. 授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業方法/進め方	事前・事後学習
			【1単位授業 1回平均】160分(8回) 45分(15回) 【2単位授業 1回平均】180分(15回) 45分(30回:通年) 90分(30回:半期2コマ連続)
1	ガイダンス 鍼灸治療体験		
2	M-Test 概論 東洋医学基礎	演習と講義を交え実技を中心におこなう。	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			グループ課題
10	セルフケア演習		

11		
12		
13		
14		
15		
備考		

V. アクティブ・ラーニング

あり	なし																
講義回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
発見学習／問題解決学習																	
体験学習／調査学習																	
グループ・ディスカッション ／ディベート ／グループ・ワーク																	
その他（ ）																	
内容																	